

杉並区地域エネルギービジョン(案)

資料編



杉並区

平成 25 年 4 月



## 目次

1. 杉並区の地域特性	資 - 1
2. 杉並区の省エネルギーの取組み	資 - 29
3. 区民、事業者アンケート	資 - 37
4. 区民意見交換会	資 - 143
5. 区民アイデア募集	資 - 159
6. パブリックコメント	資 - 167
7. 地域エネルギービジョン懇談会	資 - 168
8. 地域エネルギービジョン検討委員会	資 - 171

# 1 杉並区の地域特性

ここでは、杉並区の自然特性（位置・地勢、気候や土地利用状況） 社会特性（人口・世帯数、事業所の状況、自動車保有台数や鉄道の利用状況、ごみ収集量やエネルギー消費量） 再生可能エネルギーの賦存量と利用可能量について明らかにします。

## (1) 自然特性 位置・地勢

杉並区は、東京23区の西端に位置し、東は中野区・渋谷区、西は三鷹市・武蔵野市、南は世田谷区、北は練馬区と接し、一般に「城西地区」と呼ばれる区域に属しています。東西は7,508m、南北は7,159mあり、面積は34.02km<sup>2</sup>と23区中 8 番目の広さがあります。

地形はおおむね方形で、武蔵野台地上にある緩やかな地形ですが、東部から西部にかけて少しずつ高くなっており、標高の最高地点は善福寺3丁目25番・34番付近で54.3m、最低地点は和田1丁目22・23・29・31番付近で28.6mとなっています。

武蔵野台地の表面は、「関東ローム層」から成っており、ローム層の下には、古多摩川が運んできた武蔵野れき層が堆積し、れき層からの湧水が、妙正寺川、善福寺川、神田川の三河川をつくり、区内を流れています。

### < 杉並区の位置と河川 >



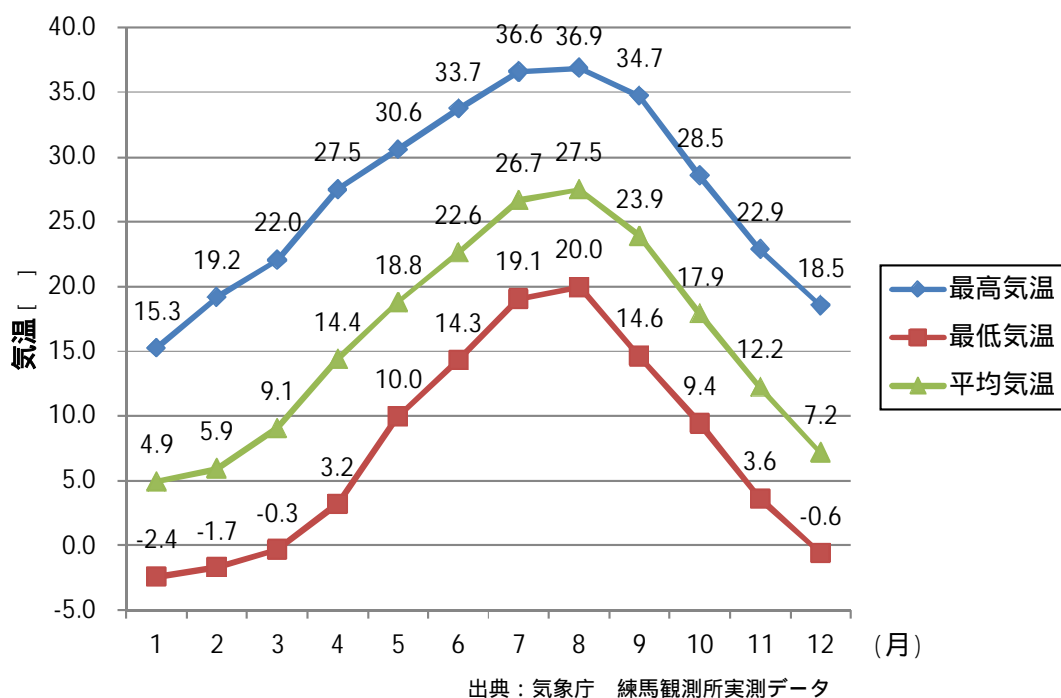
# 気候

## 1) 月別平均気温、降水量の推移

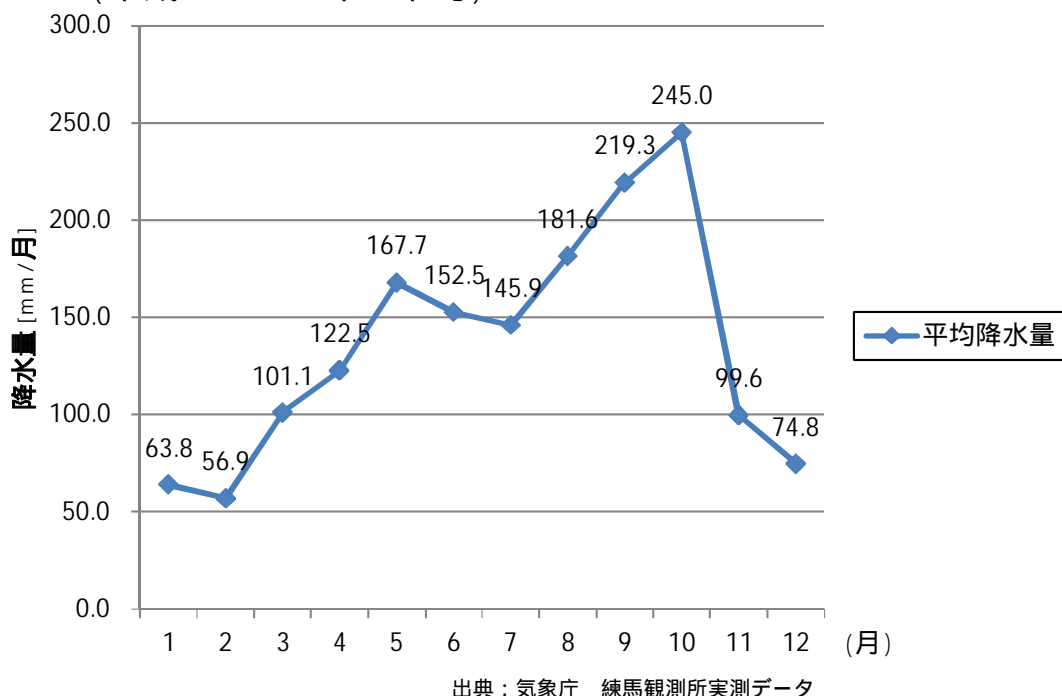
平成12年から23年までの年間平均気温は15.9 で、最高気温は8月の36.9 が最も高く、最低気温は1月の-2.4 が最も低くなっています。

一方、平成12年から23年までの年間平均降水量は1,631mmで、月別の降水量は、10月が最も多く、次いで9月が多くなっています。

< 月別平均気温 >  
(平成 12 年 ~ 23 年の平均)



< 月別平均降水量 >  
(平成 12 ~ 23 年の平均)

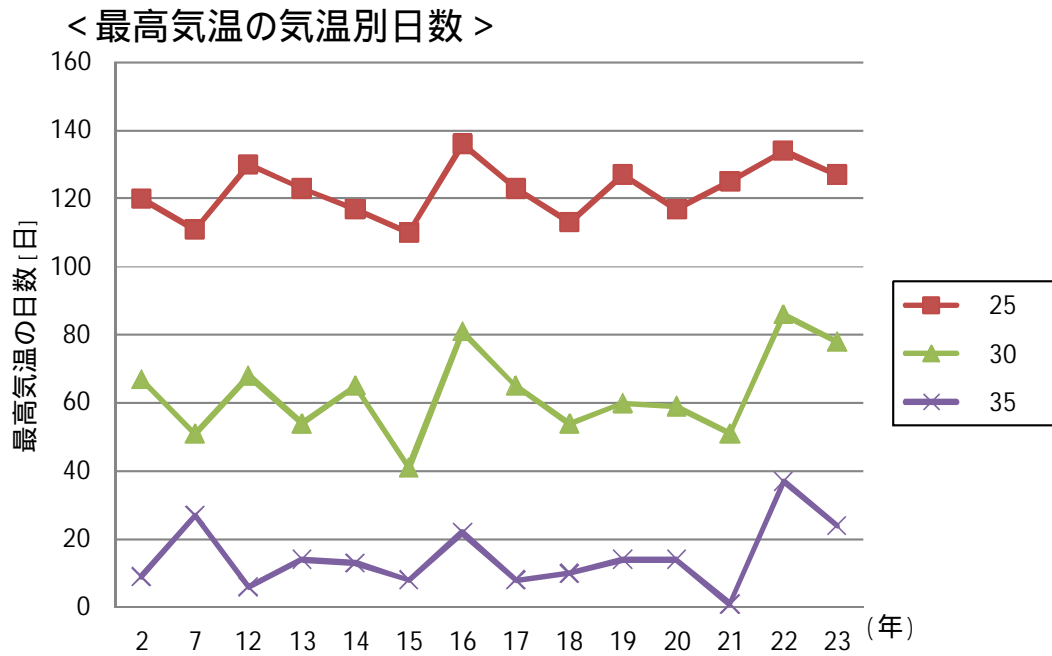


## 2) 最高気温、最低気温の気温別日数の推移

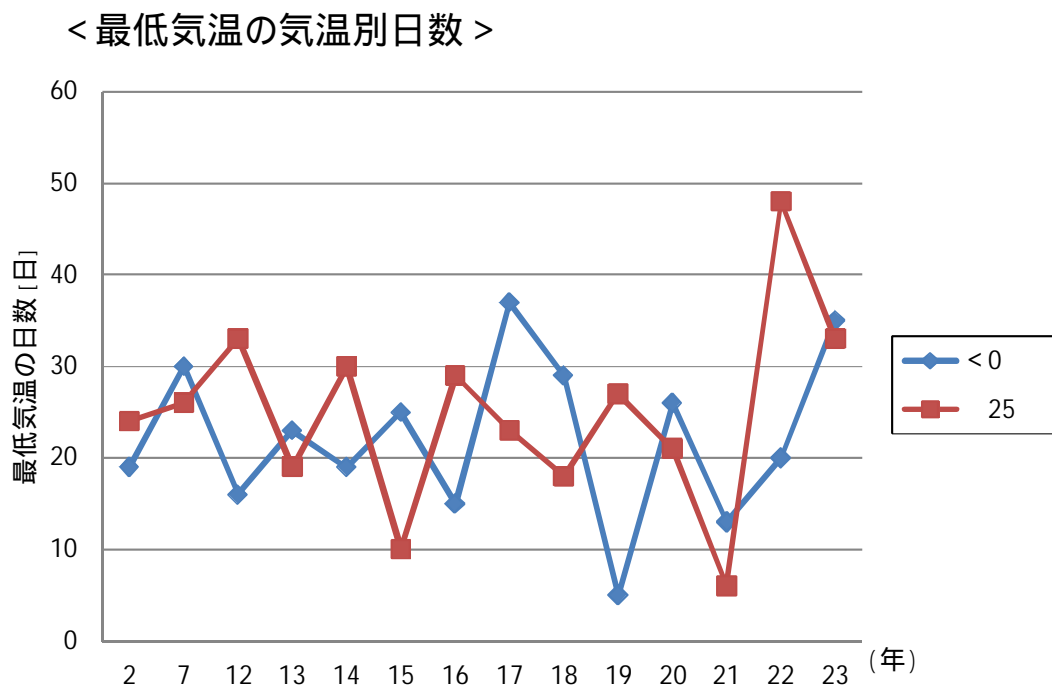
平成12年から23年までの最高気温の気温別の平均日数は、25 以上が124日、30 以上が64日、35 以上が14日です。25 以上は平成16年、30、35 以上は平成22年が最も多くなっています。

一方、平成12年から23年までの最低気温の気温別の平均日数は、0 以下が22日、25 以上が25日です。0 以下は平成17年、25 以上は平成22年が最も多くなっています。

平成22年以降、最高気温30、35 以上、最低気温25 以上の日数が増加しています。



出典：気象庁 練馬観測所実測データ

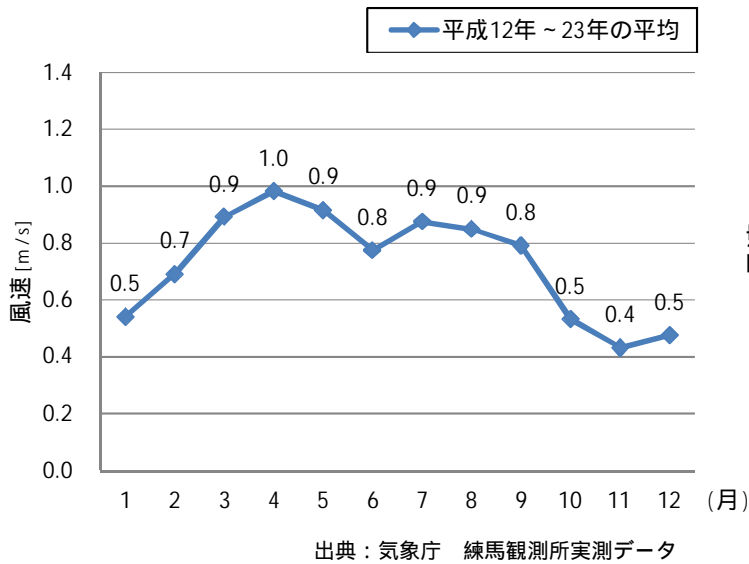


出典：気象庁 練馬観測所実測データ

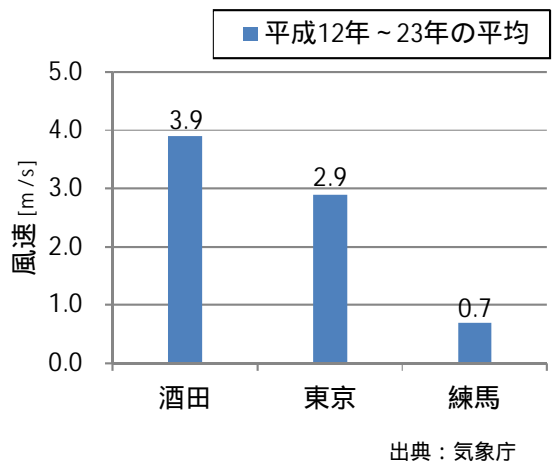
### 3) 月別平均風力

過去12年間の年間平均風速の平均は0.7m/sです。春秋期にやや風速が大きくなる傾向があります。平成23年の年間平均風速は0.7m/sで、風力発電の盛んな山形県酒田市の3.9m/sと比較すると3.2m/s少なくなっています。

< 月別平均風速 >  
(平成 12 ~ 23 年の平均)



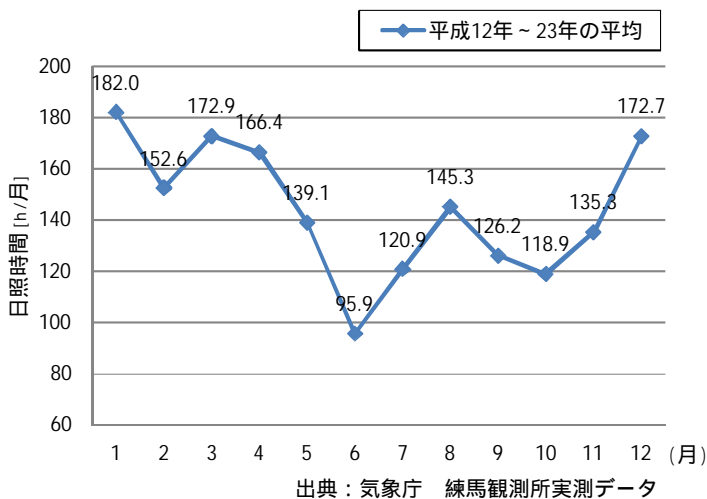
< 酒田、東京、練馬の年間平均風速 >



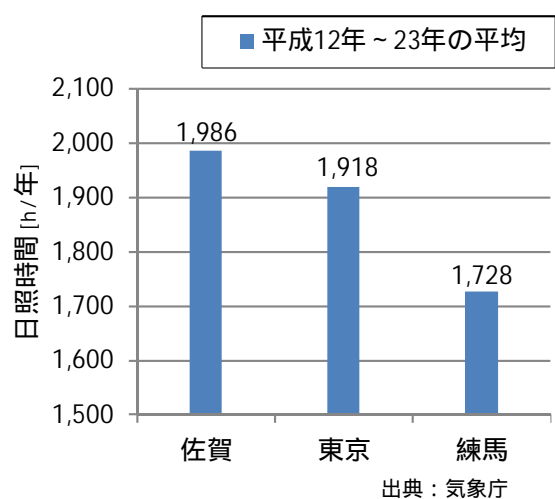
### 4) 月別平均日照時間

過去12年間の年間平均日照時間の平均は144時間です。雨の多い梅雨と秋期は日照時間が短く、晴天の多い冬期は長くなります。過去12年間の年間日照時間の平均は、1,728時間です。我が国で最も太陽光発電機器の普及している佐賀県の同時期の平均1,986時間と比較して258時間短くなっています。

< 月別平均日照時間 >  
(平成 12 ~ 23 年の平均)



< 佐賀、東京、練馬の年間日照時間 >  
(平成 12 ~ 23 年の平均)

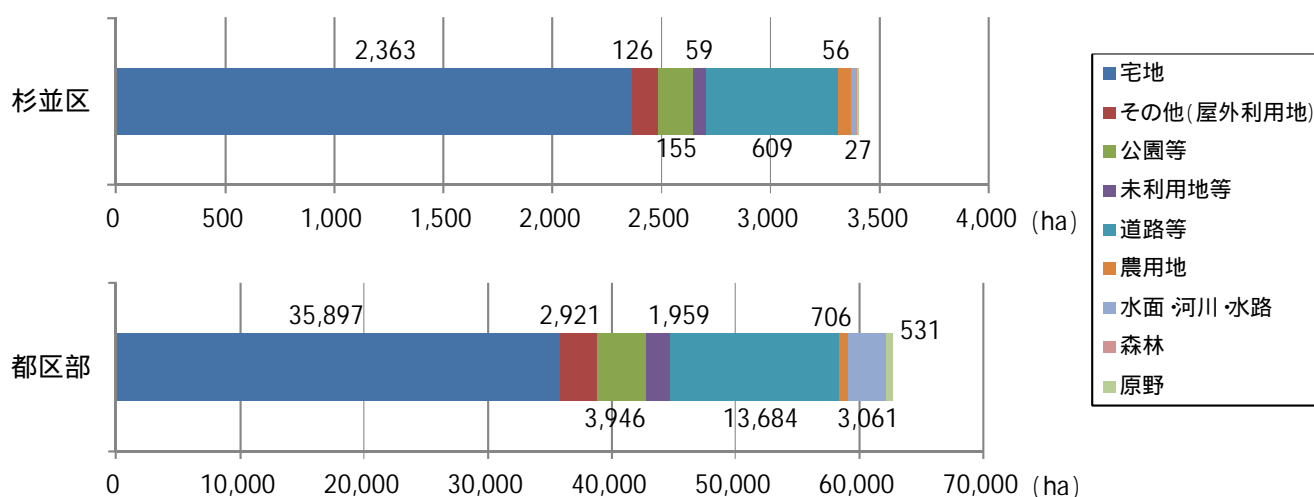


## 土地利用

### 1) 土地利用状況(面積と構成)

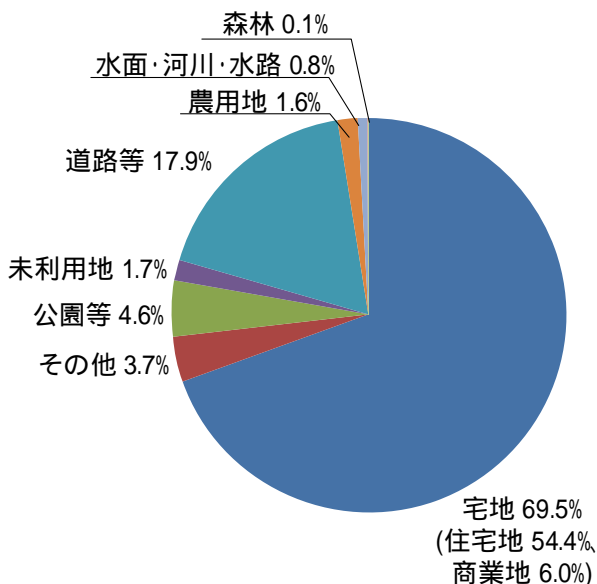
都区部の57.2%を宅地（建物の建っている土地）が占めるのに対し、杉並区は69.5%を宅地が占めています。宅地のうち住宅地の比率は、都区部58.2%（全体の33.3%）に対し、杉並区78.3%（全体の54.4%）と都区部の中でも高い比率となっており、住宅都市としての性格を現しています。また、宅地のうち商業地の比率は、都区部が16.4%（全体の9.4%）に対し、杉並区は8.6%（全体の6.0%）と都区部の中でも低い比率ですが、駅周辺や幹線道路沿いに集積しており、生活拠点となっています。

#### < 杉並区と都区部の土地利用面積 > (平成 18 年)



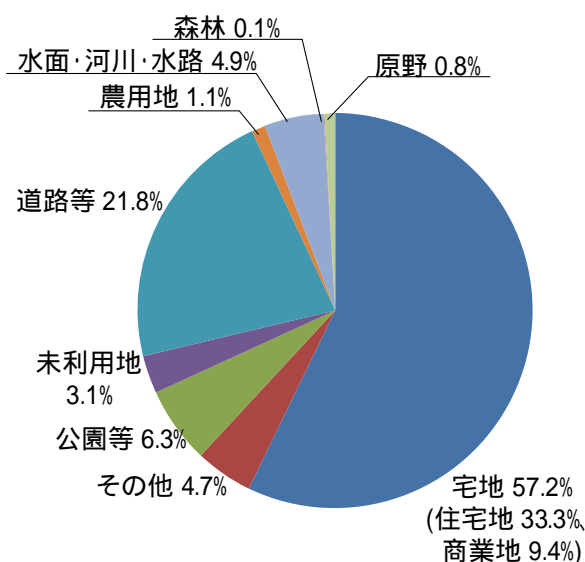
出典：東京都 東京の土地利用 平成18年

#### < 杉並区の土地利用比率 > (平成 18 年)



出典：東京都 東京の土地利用 平成18年

#### < 都区部の土地利用比率 > (平成 18 年)



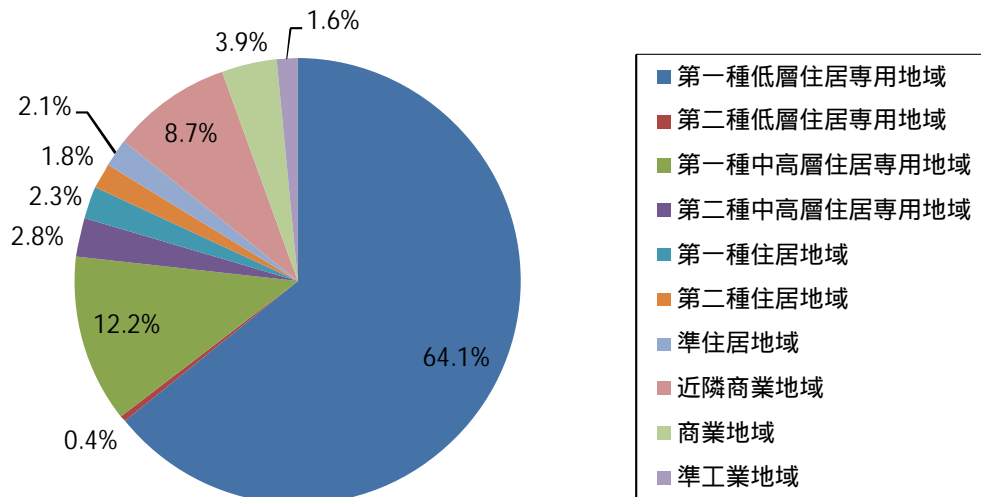
出典：東京都 東京の土地利用 平成18年



## 2) 用途地域別土地利用状況(道路、河川、公園等の宅地以外を含む)

区全体の64.1%にあたる21,822km<sup>2</sup>を第一種低層住居専用地域が占め、その他の住居地域を含めると全体の85.8%を住宅地域が占めています。近隣商業地域と商業地域を合わせた商業地域は12.6%、準工業地域は1.6%を占めています。

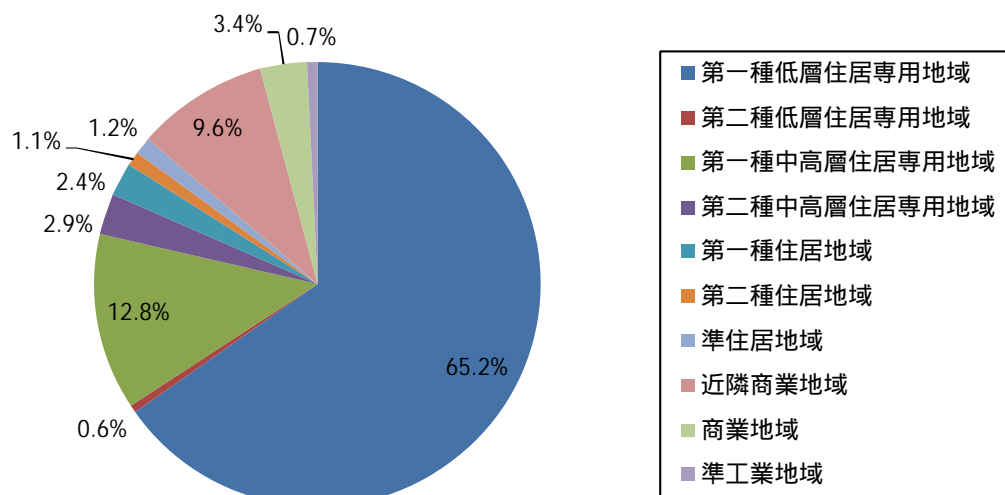
< 杉並区の用途地域別土地利用比率 > (平成 23 年度)



## 3) 用途地域別建物棟数

第一種低層住居専用地域の建物棟数は65.2%にあたる75,577棟で、第一種中高層住居専用地域は12.8%にあたる14,871棟で、住宅地域における建物棟数は多くなっています。

< 杉並区の用途地域別建物棟数比率 > (平成 23 年度)

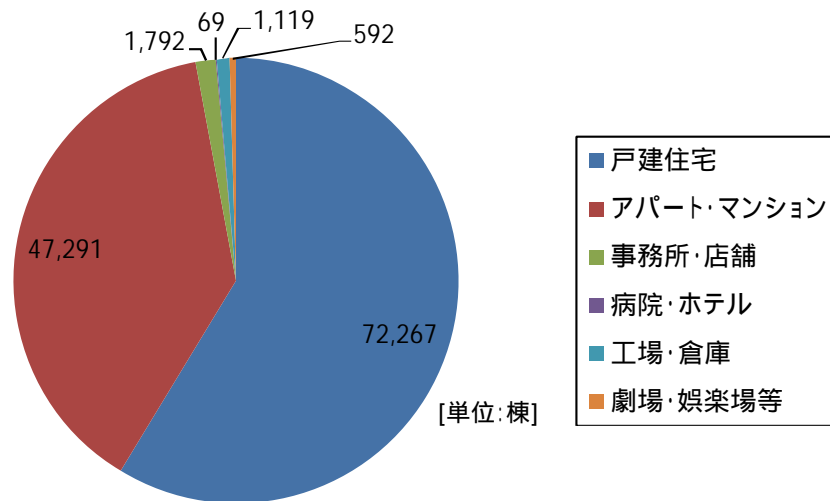


#### 4) 種別建物棟数

区内の建物の59%にあたる72,267棟が戸建住宅で、アパート・マンションが38%にあたる47,291棟です。事務所・店舗、工場等の棟数は3%となっています。

今後、太陽光発電や太陽熱利用を推進する上で、アパート・マンションを含めた住宅への導入促進策を検討する必要があります。

##### < 杉並区の種別建物棟数 > (平成 23 年度)

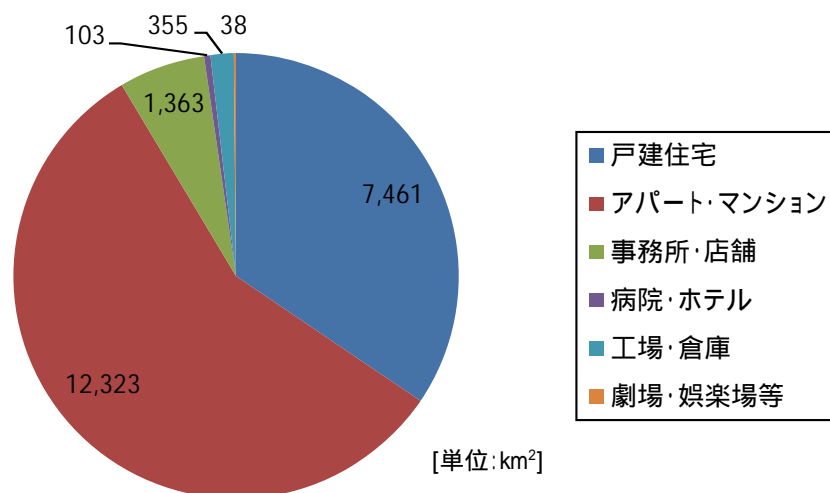


出典：東京都統計年鑑

#### 5) 種別建物の延べ床面積

種別建物の延べ床面積は、アパート・マンションが57%にあたる12,323km<sup>2</sup>で、戸建住宅が34%にあたる7,461 km<sup>2</sup>ですが、建物棟数で3%未満であった事務所・店舗の延べ床面積が6%にあたる1,363 km<sup>2</sup>を占めています。

##### < 杉並区の種別建物の延べ床面積(平成 23 年度) >



## 6) 河川流量

平成22年11月策定の東京都の「荒川水系神田川流域河川整備計画」によれば、区内を流れる妙正寺川、善福寺川、神田川の三河川の平常時の水量は、都内の他の河川と比較してかなり少ないとされています。

また、区内の三河川には、現在、水利権が設定されていないことから、河川による小水力発電を実施する場合は、河川管理者である東京都と協議が必要です。

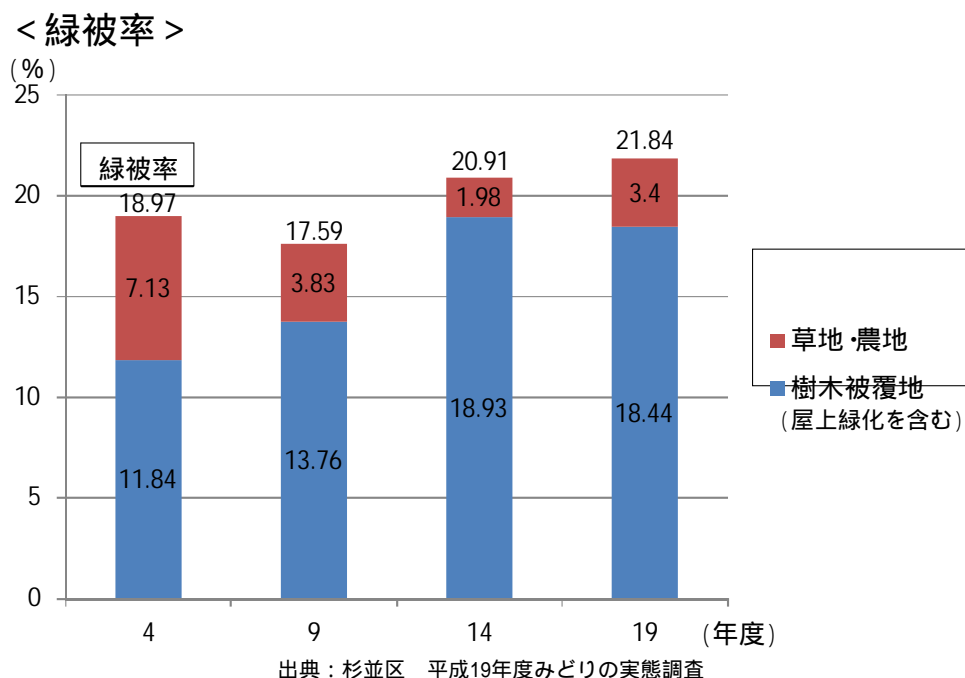
### < 杉並区の河川と河川流量 >

河川名	計測地点	河川流量	
		m <sup>3</sup> /s	mm/日
妙正寺川	三谷橋	0.046	0.4
善福寺川	定塚橋	0.36	1.8
神田川	和田見橋	0.85	2.5

## 7) 緑被率の推移

平成9年度まで減少傾向であった緑被率は、「杉並区みどりの基本計画（平成11年）」において、平成30年度を目標年次として緑被率20%を目標に掲げ、公園整備や校庭緑化、生垣の助成に取り組んできた結果、平成14年度には増加に転じ、平成19年度には目標値を上回る21.84%という成果をあげました。しかし、相続等により、屋敷林や農地など、面としてまとまったみどりは減少しており、みどり豊かな環境にやさしいまちを創るために、現状のみどりを守り、さらに創出していくことが重要です。

「杉並区みどりの基本計画（平成22年改訂版）」では、平成44年度を目標年次として緑被率25%を目標に掲げています。



(2) 社会特性

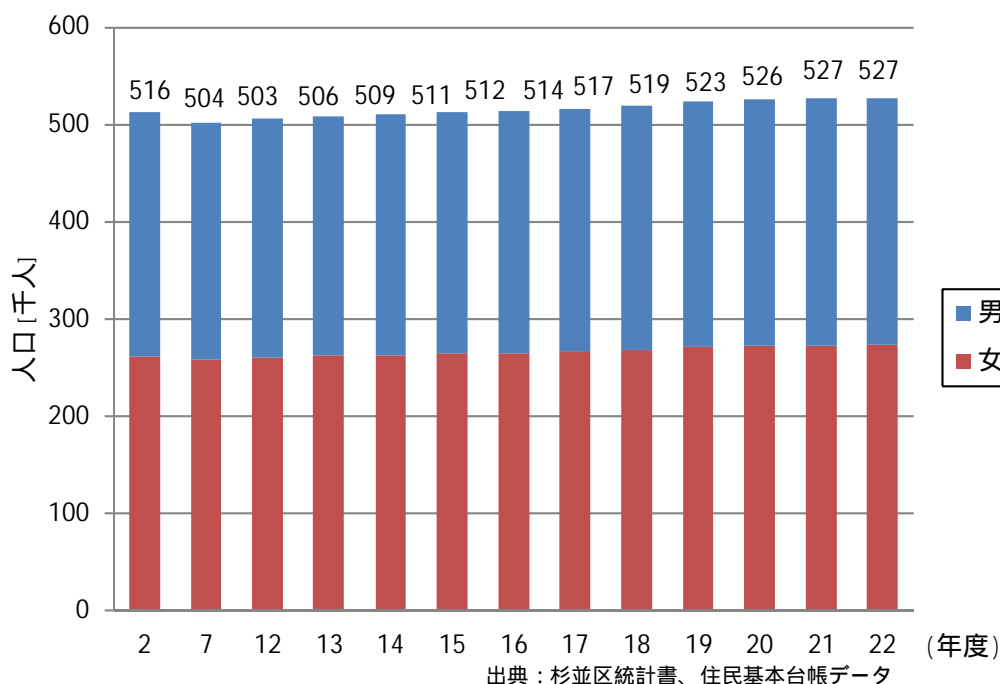
人口・世帯数

1) 人口、世帯数、世帯人口の推移

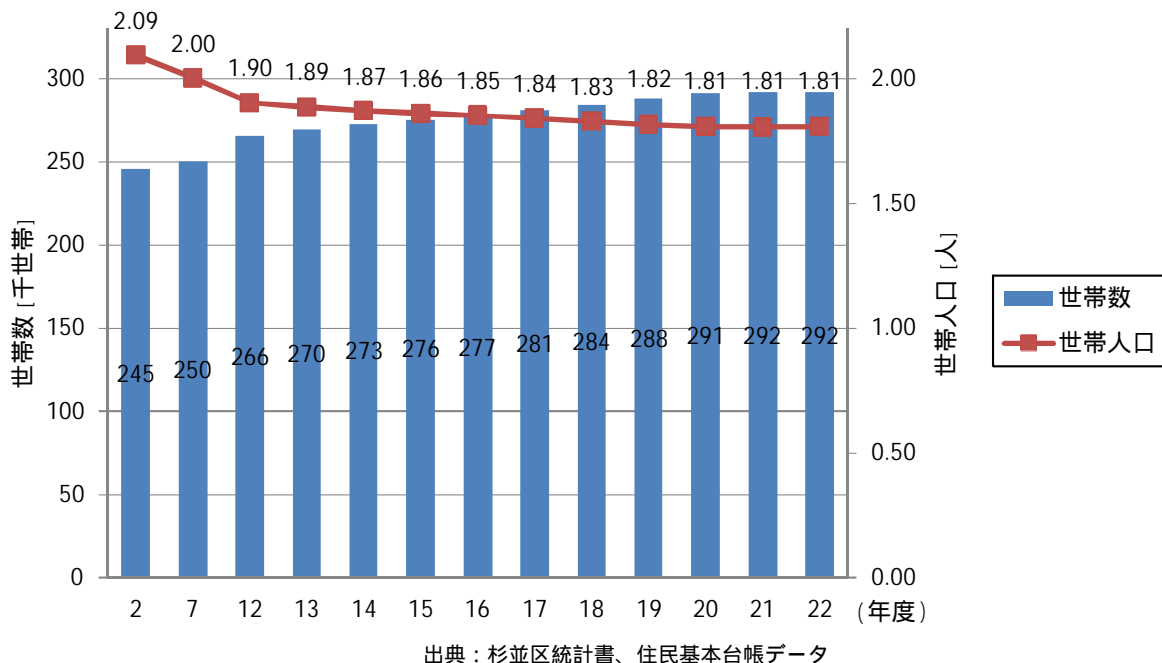
人口は、都市化の進行により急速に増加した昭和50年をピークに減少傾向でしたが、平成9年以後微増し、平成23年1月1日現在、男253,754人、女273,379人、合計527,133人となっています。

一方、世帯数は年々増加し、平成23年1月1日現在、291,564世帯です。これに伴い、平均世帯人口は減少し1.8人となっており、核家族や単身世帯の増加が進んでいます。

< 杉並区の人口 >



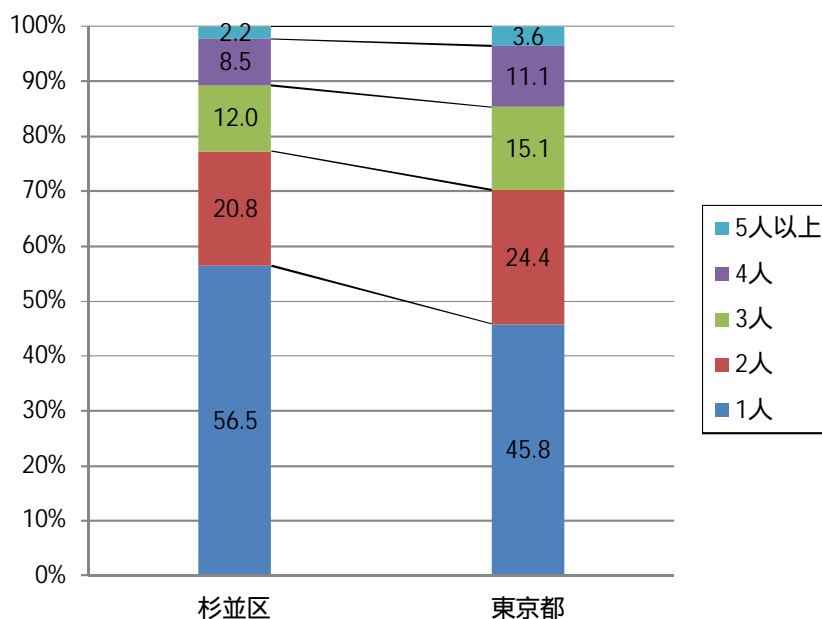
< 世帯数と平均世帯人口 >



## 2) 世帯別人口構成の比較

平成22年度の世帯別人口別の内訳をみると、杉並区では単身世帯が56.5%と半数以上を占めており、2人世帯、3人世帯を併せると89.3%と9割近くが単身、核家族世帯で、東京都と比較すると非常に高い割合となっています。

### < 世帯別人口構成 >

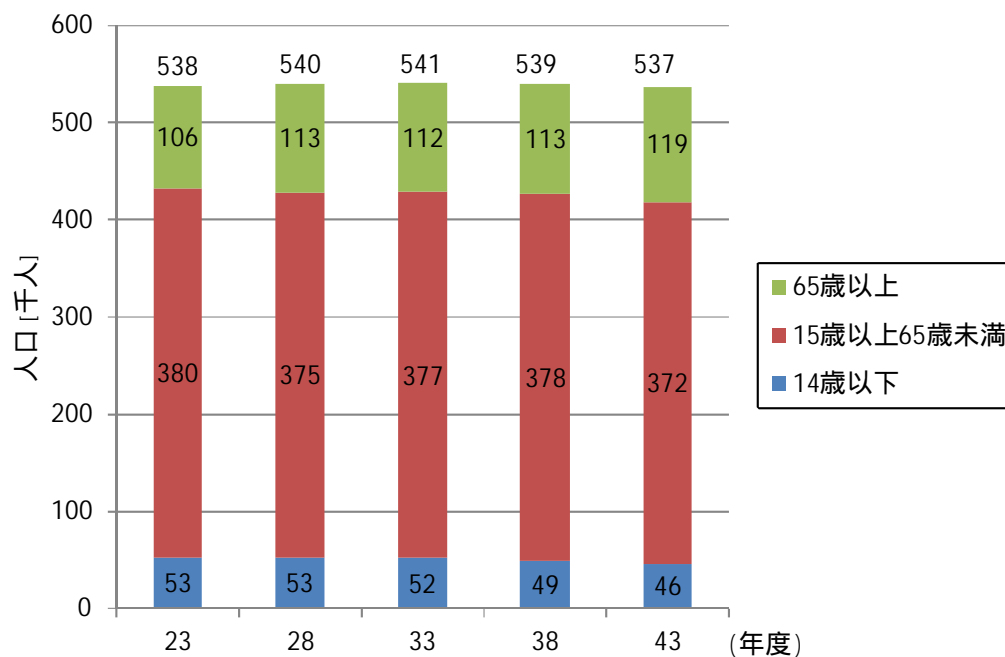


出典：東京都統計年鑑、国勢調査データ 平成22年

## 3) 人口の将来予測

総人口は、平成23年度以降少しずつ増加しますが、平成33年度より微減に転じるとみられます。20年後の平成43年度の推計値は、1,289人の減少でほぼ横ばいですが、内訳をみると、65歳以上は12,861人増加するのに対し、15歳以上65歳未満は7,769人、14歳以下は6,381人減少するとみられます。

### < 将来人口推計 >

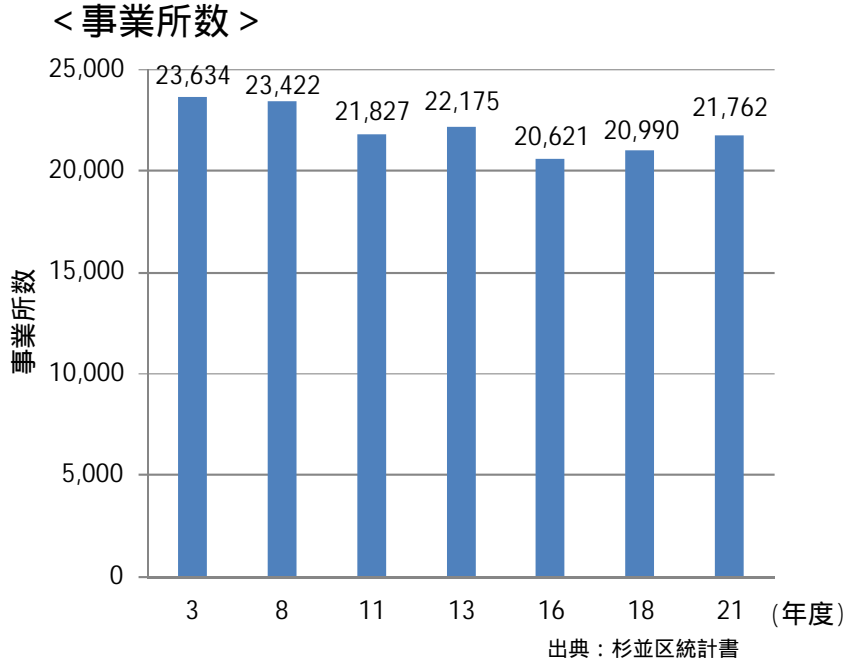


出典：杉並区行政経営懇談会資料「杉並区の将来人口推計について」

## 事業所の状況

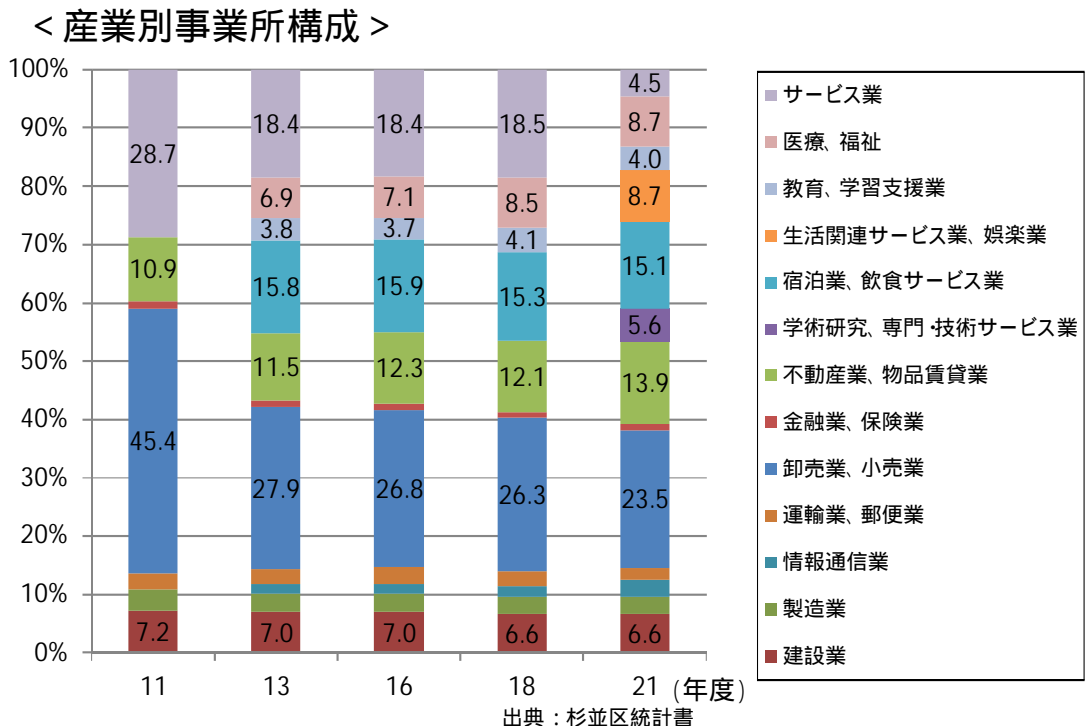
### 1) 事業所数の推移

事業所数は、近年減少傾向にあり、平成3年度から平成21年度までの18年間に約1割程度減少しています。平成21年度の事業所数は、21,762社です。



### 2) 産業別事業所構成

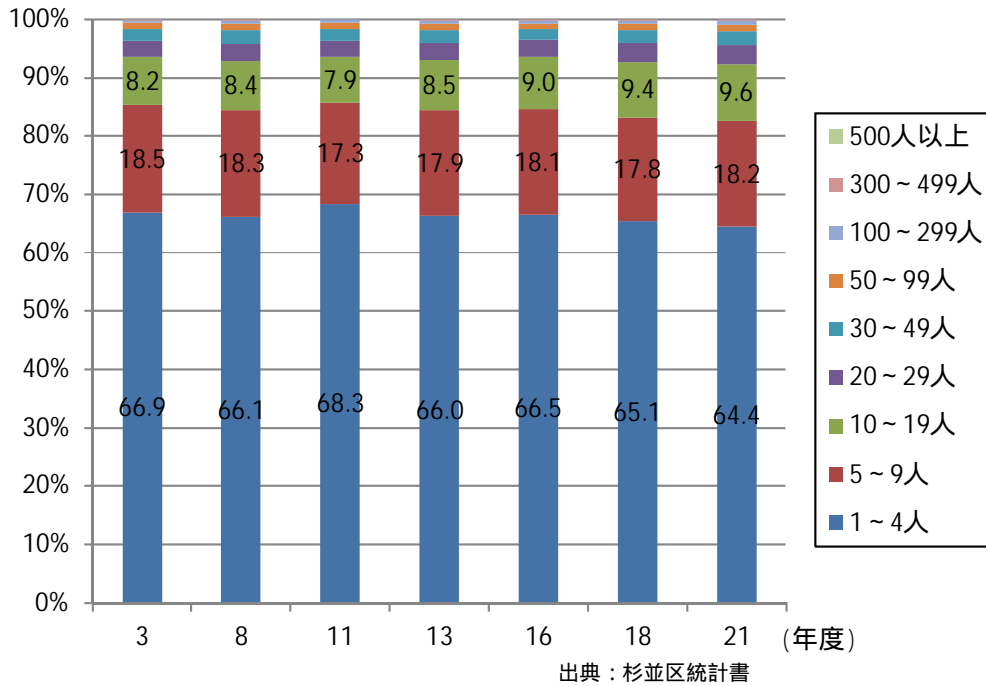
平成21年度の産業別事業所の内訳をみると、最も比率が高いのは「卸売業、小売業」が23.5%で、次いで「宿泊業・飲食サービス業」が15.1%、「不動産業、物品賃貸業」が13.9%となっています。平成11年度に半数近くを占めていた「卸売業、小売業」は減少傾向ですが、「生活関連サービス業、娯楽業」や「学術研究、専門・技術サービス業」などの割合が増えています。



### 3) 従業者規模別構成

従業者数別の事業所数の比率は、1～4人の事業所の割合が6割以上を占め、5～9人を併せた10人未満の事業所が8割以上を占めており、従業者規模別構成に大きな変動はありません。

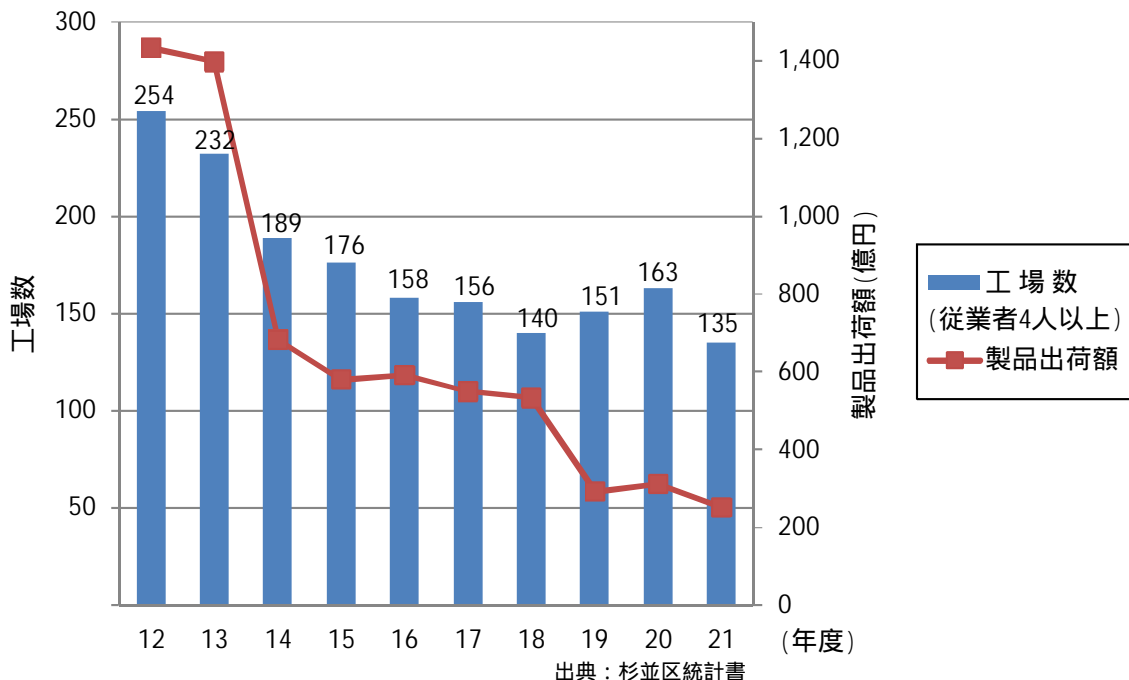
< 従業者規模別構成 >



### 4) 工場数の推移及び製品出荷額の推移

工場数は減少傾向にあり、平成12年度から平成21年度までの9年間で半数近く減少しています。工場数の減少に伴い、製品出荷額も大幅に減少し、平成12年度と比較して約8割減少しています。

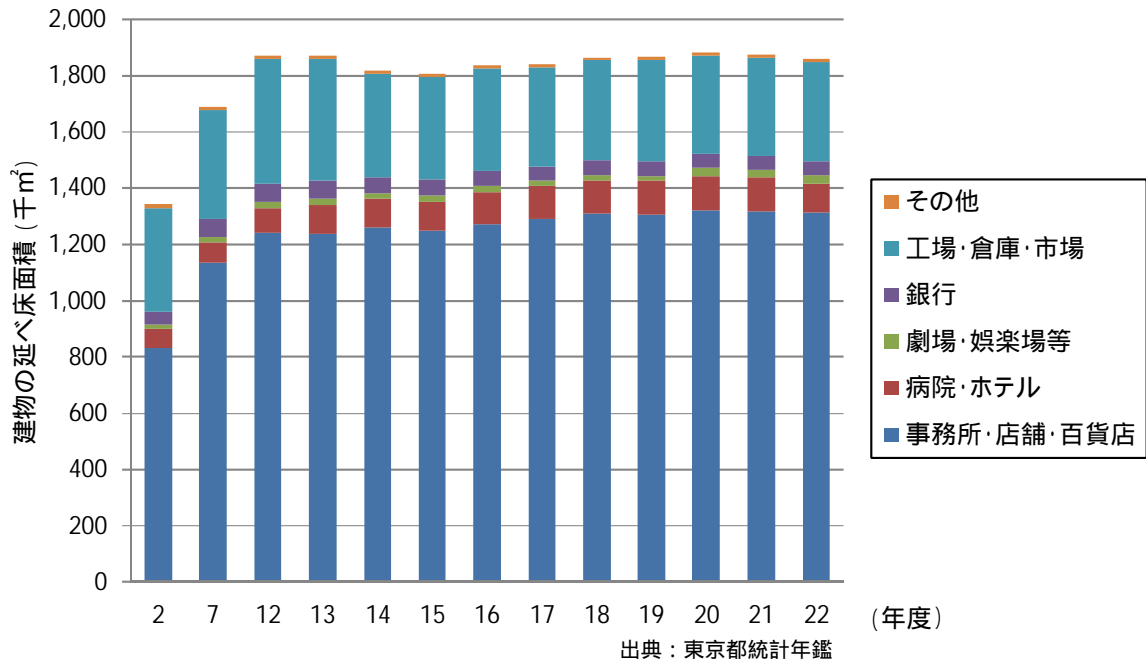
< 従業者規模別構成 >



## 5) 事業系延べ床面積の推移

事業系延べ床面積は平成12年度まで増加傾向でしたが、平成12年度以後は横ばいの状態が続いています。内訳をみると、「事務所・店舗・百貨店」が約7割と大半を占めています。

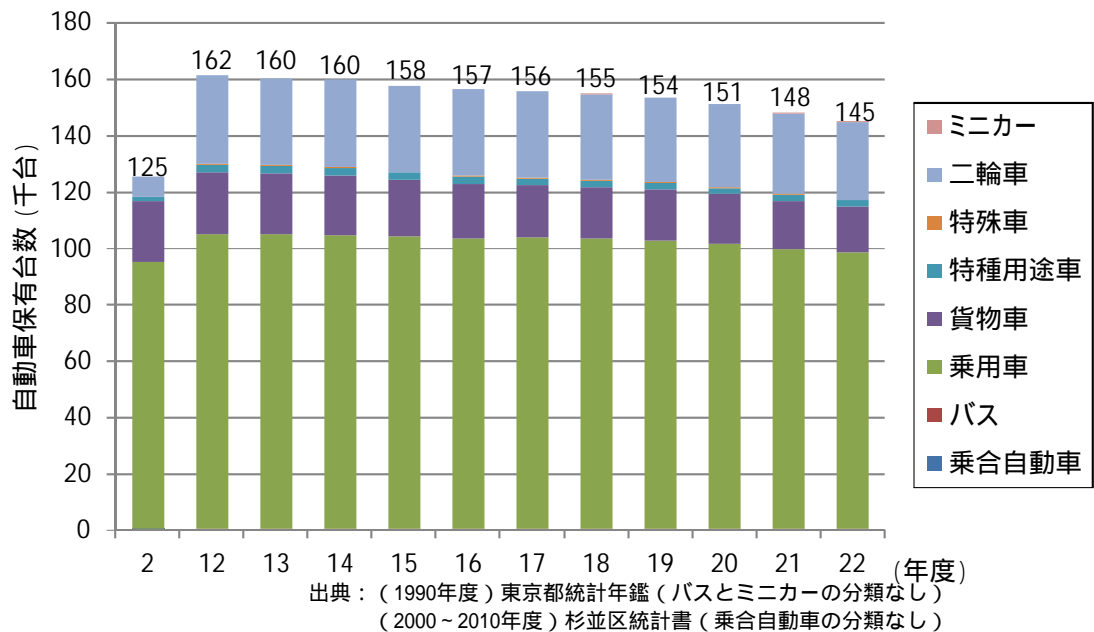
### < 事業系延べ床面積 >



## 自動車種別保有状況推移

平成12年度以後の自動車保有台数は、減少傾向にあります。平成22年12月31日現在の総数は、145,085台となっています。内訳をみると、バスとミニカー以外の保有台数が減少しています。一世帯当たりの乗用車保有台数も減少傾向にあり、平成22年度には約0.3台/世帯となっています。世帯別人口の減少や環境意識の向上に伴い、乗用車の保有が減り、公共交通機関の利用への移行傾向がみられます。

### < 自動車種別保有台数 >



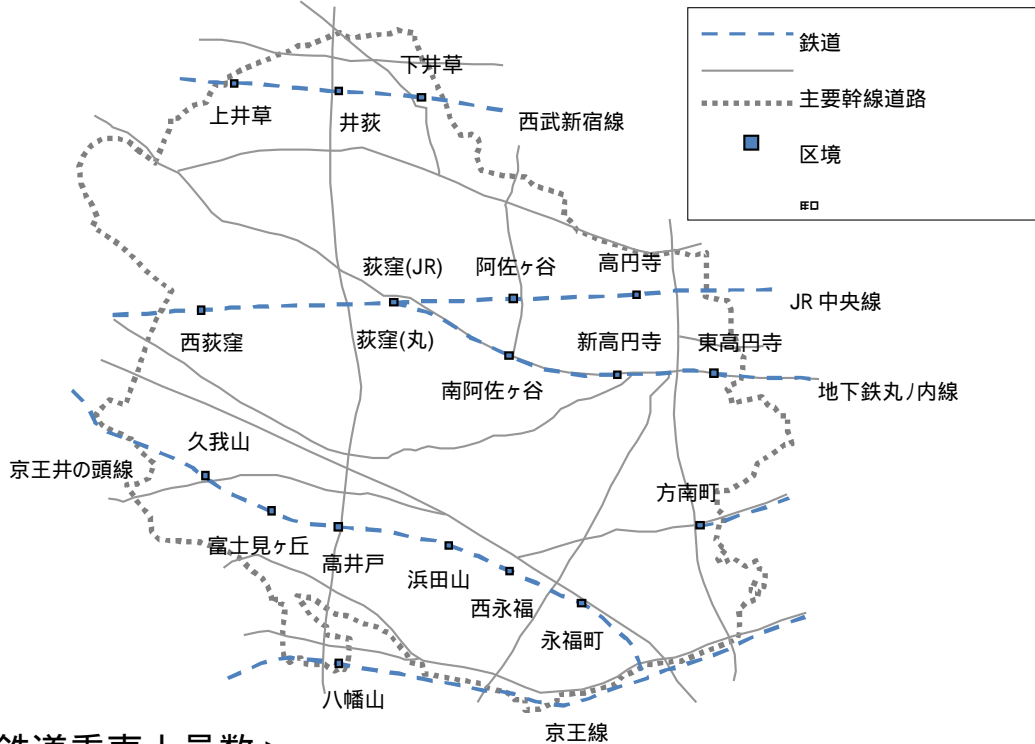


## 鉄道利用状況

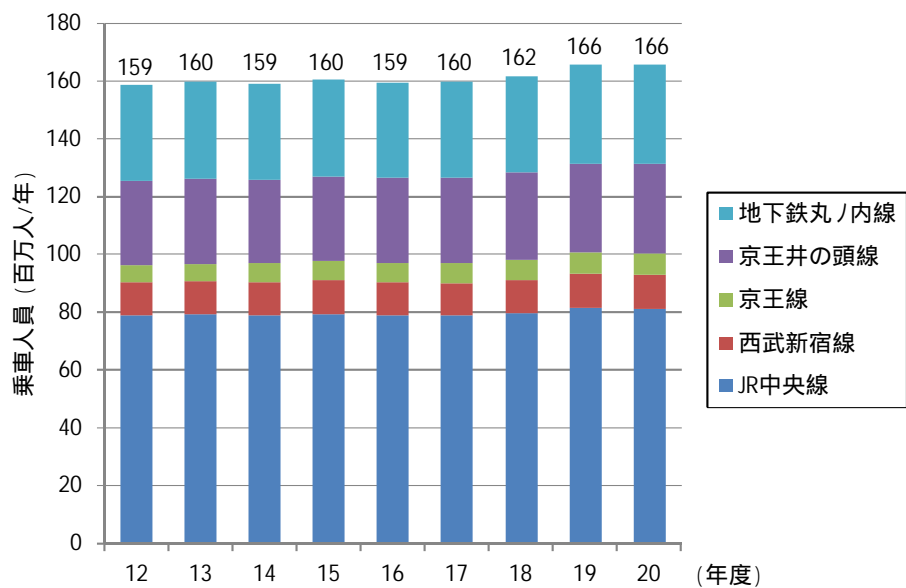
区内には、JR中央線、西武新宿線、京王線、京王井の頭線、地下鉄丸ノ内線の5路線の鉄道が整備されています。

平成17年度までは、鉄道利用状況は横ばい状態でしたが、平成17年度以後鉄道利用者は約600万人程度増加しています。乗用車等の保有台数の減少からも、公共交通機関の利用への移行傾向がみられます。

### < 鉄道路線と各駅の乗車人員数 > (平成20年度)



### < 鉄道乗車人員数 >



出典：杉並区統計書

JR中央線 : 高円寺、阿佐ヶ谷、荻窪、西荻窪の各駅乗車人員の合計

西武新宿線 : 下井草、井荻、上井草の各駅乗車人員の合計

京王線 : 八幡山の乗車人員

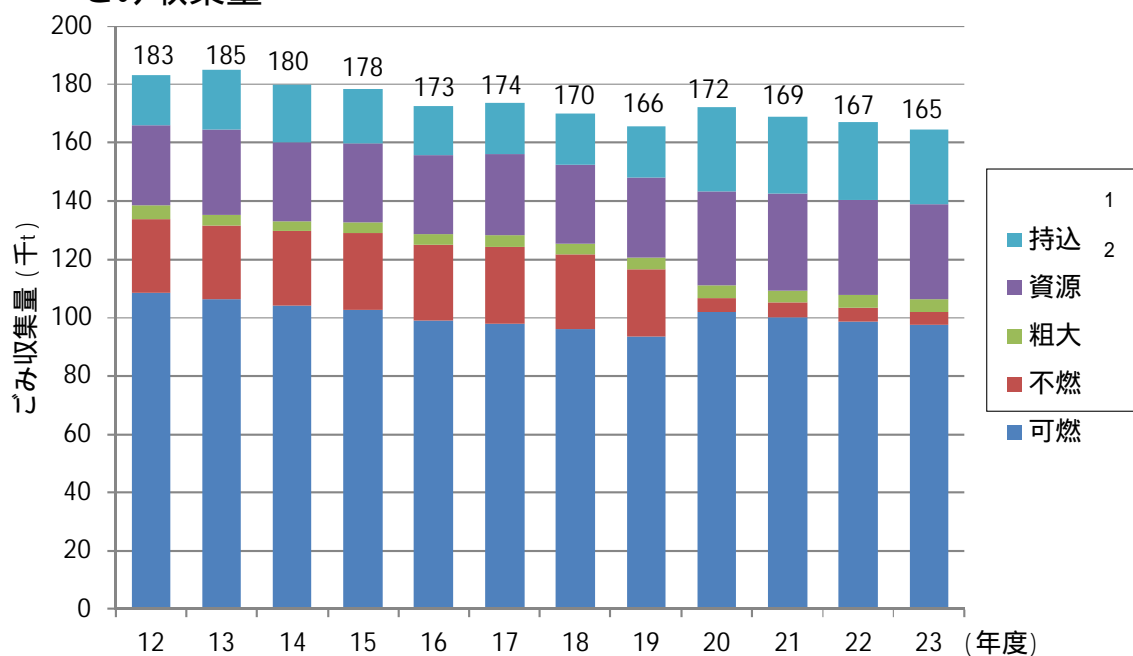
京王井の頭線 : 永福町、西永福、浜田山、高井戸、富士見ヶ丘、久我山の各駅乗車人員の合計

地下鉄丸ノ内線 : 東高円寺、新高円寺、南阿佐ヶ谷、荻窪、方南町の各駅乗車人員の合計

## ごみ収集量の推移

ごみ収集量は減少傾向にあり、区民1人当たりのごみ排出量は年々減少しています。平成20年度より、ペットボトル・プラスチック製容器包装の資源回収を開始したため、可燃ごみと不燃ごみの総量は減少し、資源回収量が増加しています。平成22年度のごみ収集量の内訳は、可燃ごみ99千t、不燃ごみ5千t、粗大ごみ4千t、資源ごみ33千t、持込ごみ27千tとなっています。集団回収による資源回収量は増加傾向にあり、大半は紙類です。

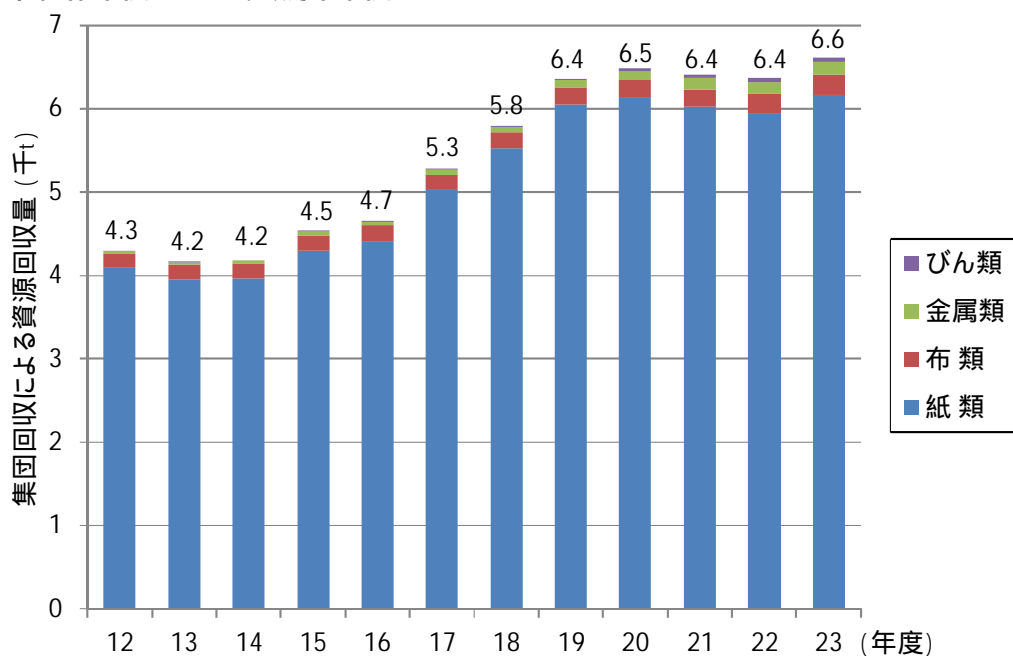
### <ごみ収集量>



出典：（平成12～13年度）杉並区統計書  
（平成14～23年度）環境清掃審議会部会資料

- 1 持込：排出者自らもしくは排出者から委託を受けた廃棄物処理業者が処理施設に直接持ち込んだごみ  
2 資源：杉並区が回収した古紙・びん・缶・ペットボトル・プラスチック製容器包装（集団回収は含まない）

### <集団回収による資源回収量>



出典：（平成12～18年度）杉並区統計書  
（平成19～23年度）環境清掃審議会部会資料

## エネルギー消費量の推移

### 1) 杉並区全体の部門別エネルギー消費量の推移

区全体のエネルギー消費量を部門別にみると、平成2年度以降、産業部門および運輸部門が減少傾向であるのに対し、家庭部門および病院、事業所、学校等の業務部門が増加しています。その結果、全体としては、平成12年度をピークに減少しているものの、平成2年度と比較すると平成21年度は約6%の増加となっています。

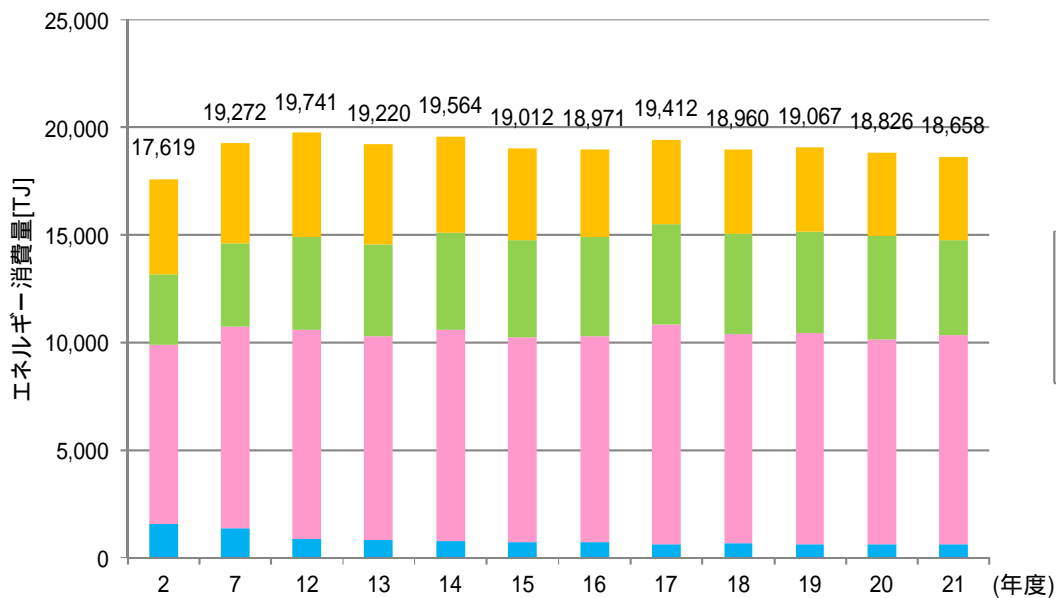
平成21年度における部門別構成比をみると、家庭部門が最も大きく52%を占め、次いで業務部門が24%、運輸部門が21%、産業部門が3%となっています。なお、構成比に大きな変化はありません。

#### < 区全体の部門別エネルギー消費量 >

年度	2	7	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
産業部門	1,581	1,410	860	842	753	738	702	656	678	612	617	651
家庭部門	8,331	9,316	9,721	9,464	9,851	9,532	9,604	10,204	9,735	9,841	9,566	9,692
業務部門	3,274	3,891	4,321	4,270	4,498	4,473	4,583	4,656	4,655	4,728	4,765	4,444
運輸部門	4,434	4,655	4,838	4,645	4,461	4,269	4,082	3,897	3,892	3,886	3,878	3,870
合計	17,619	19,272	19,741	19,220	19,564	19,012	18,971	19,412	18,960	19,067	18,826	18,658

[TJ]

#### < 区全体の部門別エネルギー消費量 >



## 2) 産業部門のエネルギー消費量の推移

産業部門のエネルギー消費量は減少傾向にあり、平成2年度と比較すると平成21年度は約6割減少しています。特に電力および重質油が大きく減少しています。

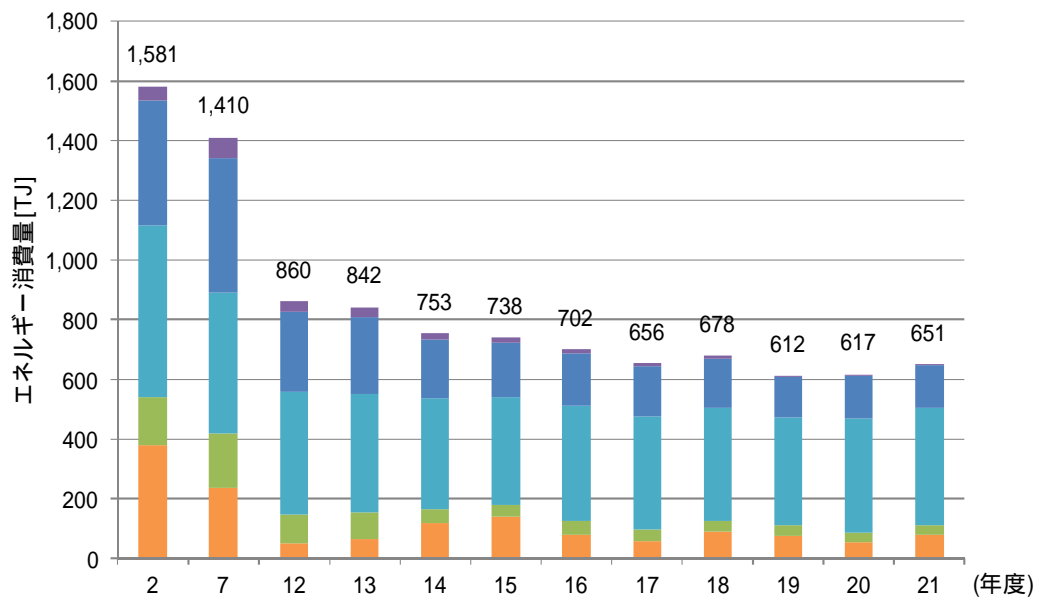
平成21年度におけるエネルギー種別構成比をみると、軽質油が最も大きく60%を占め、次いで重質油が22%、電力が13%、都市ガスが5%となっています。

### < 産業部門のエネルギー消費量 >

年度	2	7	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
電力	380	237	52	65	120	141	80	59	91	77	53	81
都市ガス	160	181	96	90	47	39	46	40	34	34	34	31
軽質油	576	473	410	396	370	363	386	378	380	360	381	393
重質油	419	450	269	259	197	180	177	167	163	136	144	142
石油ガス	47	69	34	31	19	16	14	12	10	5	5	4
合計	1,581	1,410	860	842	753	738	702	656	678	612	617	651

[TJ]

### < 産業部門のエネルギー消費量 >



### 3) 家庭部門のエネルギー消費量の推移

家庭部門のエネルギー消費量は近年ほぼ横ばい状態ですが、平成2年度と比較すると平成21年度は約2割増加しています。増加しているエネルギーは、ほとんどが電力であり、灯油は約半数に減少しています。

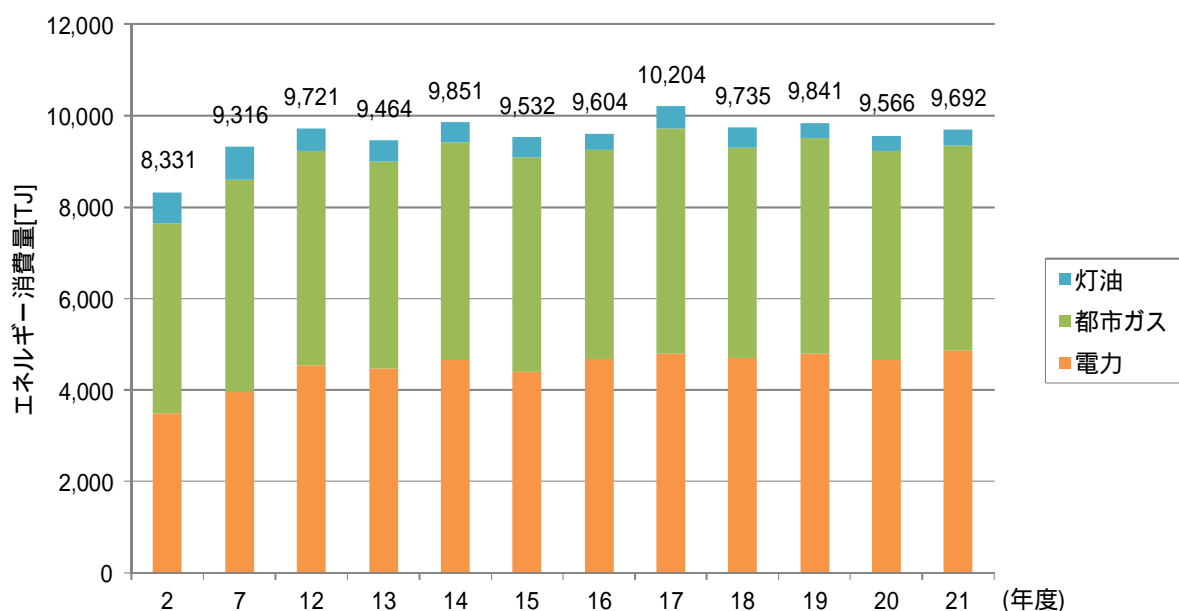
平成21年度におけるエネルギー種別構成比をみると、電力が最も大きく50%を占め、次いで都市ガスが46%、灯油が4%となっています。

#### < 家庭部門のエネルギー消費量 >

年度	2	7	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
電力	3,476	3,960	4,537	4,456	4,641	4,393	4,688	4,779	4,696	4,805	4,653	4,874
都市ガス	4,161	4,649	4,698	4,547	4,781	4,691	4,565	4,941	4,596	4,695	4,570	4,473
灯油	694	707	486	461	430	447	351	484	443	341	343	345
合計	8,331	9,316	9,721	9,464	9,851	9,532	9,604	10,204	9,735	9,841	9,566	9,692

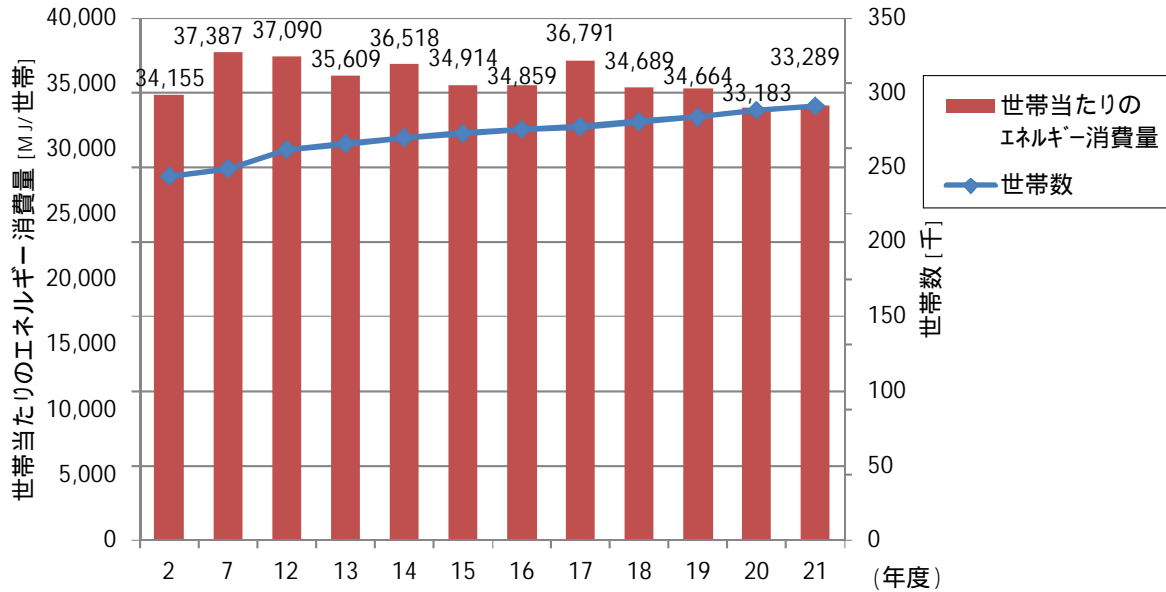
[TJ]

#### < 家庭部門のエネルギー消費量 >



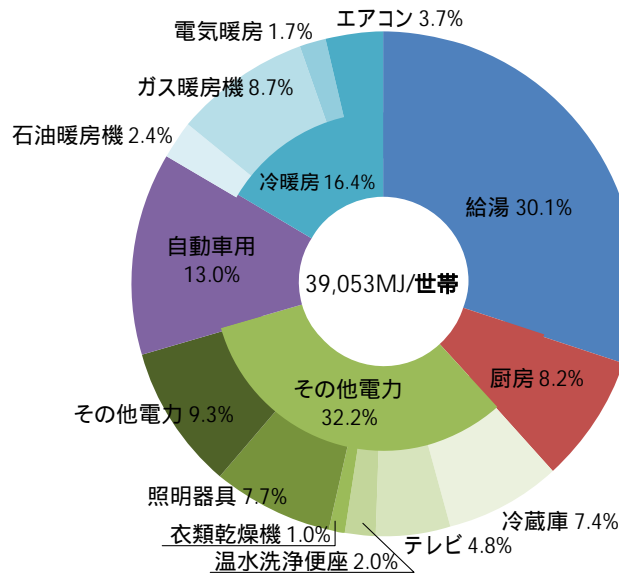
家庭部門の世帯数は一貫して増加していますが、1世帯当たりのエネルギー消費量は減少しています。

### < 世帯数と世帯当たりのエネルギー消費量 >



出典：（世帯数）杉並区統計書、住民基本台帳データ

### < 世帯当たりのエネルギー消費の内訳 >



出典：(財)特別区協議会 平成19年度  
注) 自動車有で推計

#### 4) 業務部門のエネルギー消費量の推移

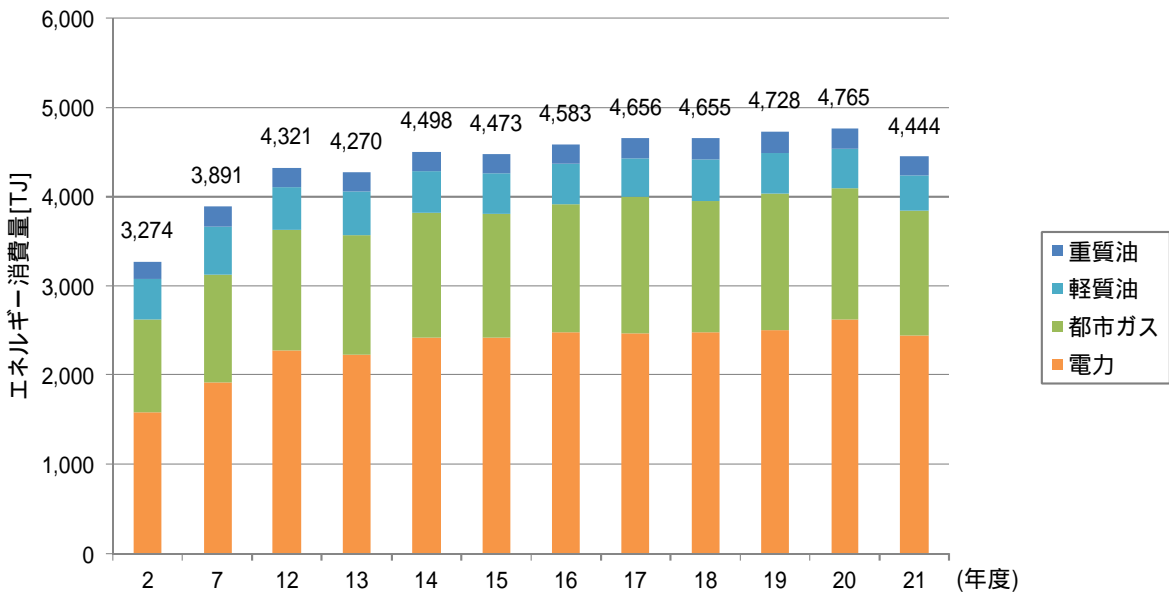
業務部門のエネルギー消費量は平成20年度まで増加傾向でしたが、平成21年度は減少しています。平成2年度と比較すると平成21年度は、約4割増しており、増加しているエネルギーはほとんどが電力です。

平成21年度におけるエネルギー種別構成比をみると、電力が最も大きく55%を占め、次いで都市ガスが32%、軽質油が9%、重質油が5%となっています。

##### < 業務部門のエネルギー消費量 >

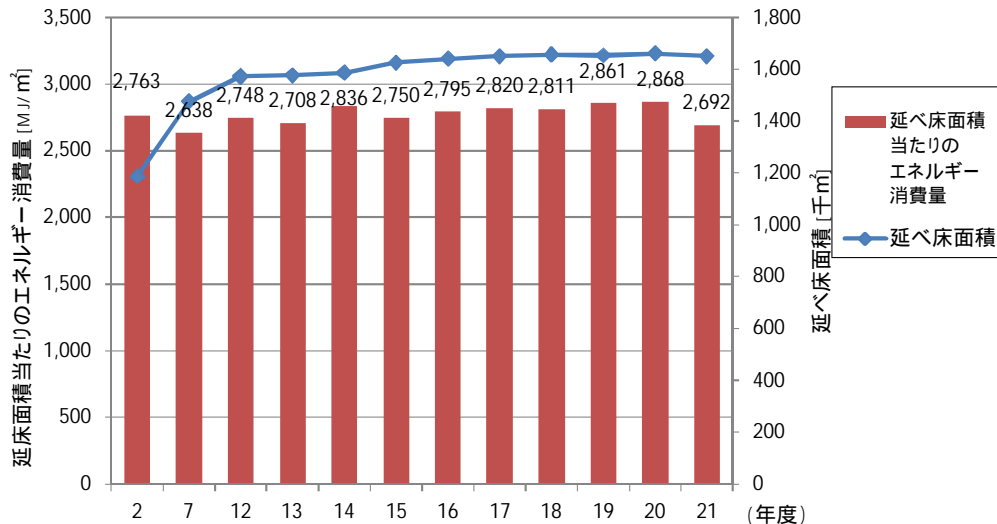
年度	2	7	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
電力	1,580	1,919	2,280	2,222	2,422	2,415	2,477	2,465	2,480	2,500	2,625	2,436
都市ガス	1,038	1,204	1,343	1,344	1,395	1,394	1,442	1,529	1,469	1,534	1,463	1,411
軽質油	457	538	484	487	468	454	450	442	467	458	446	397
重質油	198	231	214	217	213	210	214	219	239	236	231	201
合計	3,274	3,891	4,321	4,270	4,498	4,473	4,583	4,656	4,655	4,728	4,765	4,444

##### < 業務部門のエネルギー消費量 >



延べ床面積、延べ床面積当たりのエネルギー消費量とも一貫して増加傾向にあります。新たに出店する大規模店舗の増加や事務所のOA化の進展が影響しているものと考えられます。

##### < 延べ床面積と延べ床面積当たりのエネルギー消費量 >



出典：(床面積)東京都統計年鑑、固定資産税台帳登録家屋データ

注) (延べ床面積内訳) 木造その他/事務所・店舗・百貨店・銀行/病院・ホテル/劇場・娯楽場等

## 5) 運輸部門のエネルギー消費量の推移

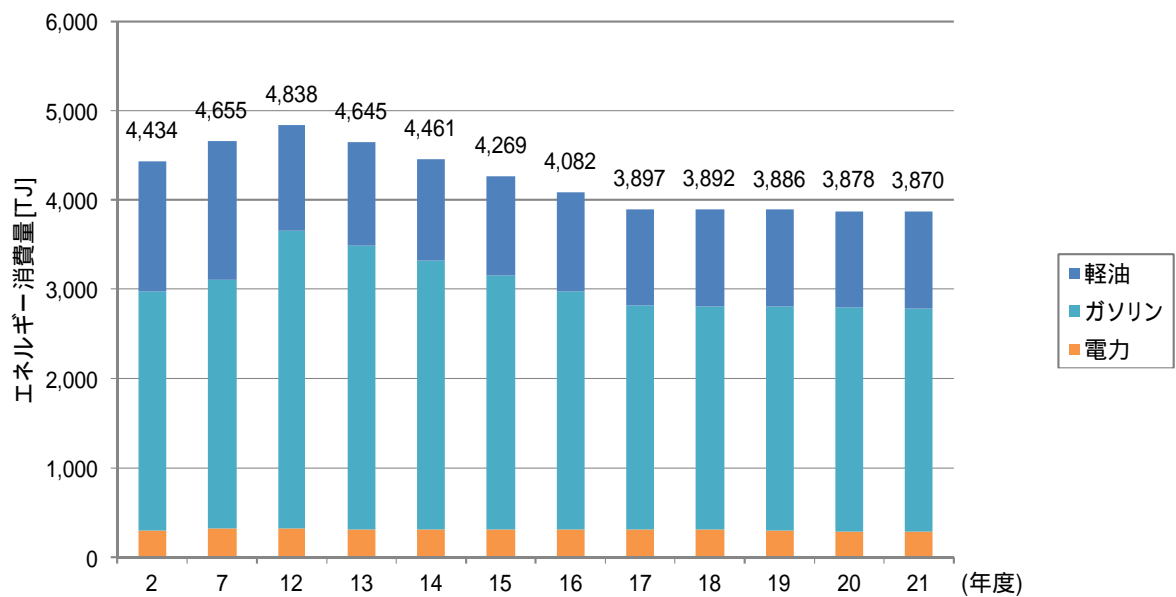
運輸部門のエネルギー消費量は平成12年度以降減少傾向にあり、平成21年度と比較すると平成21年度は約1割減少しています。最も大きく減少しているのは軽油です。

平成21年度におけるエネルギー種別構成比をみると、ガソリンが最も大きく65%を占め、次いで軽油が28%、電力が7%となっています。

### < 運輸部門のエネルギー消費量 >

年度	2	7	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
電力	299	323	321	313	316	310	308	310	304	299	291	283
ガソリン	2,670	2,788	3,337	3,171	3,004	2,838	2,672	2,505	2,505	2,505	2,505	2,505
軽油	1,464	1,543	1,181	1,161	1,141	1,121	1,102	1,082	1,082	1,082	1,082	1,082
合計	4,434	4,655	4,838	4,645	4,461	4,269	4,082	3,897	3,892	3,886	3,878	3,870

### < 運輸部門のエネルギー消費量 >





### (3)再生可能エネルギー賦存量および利用可能量の推計

杉並区内の再生可能エネルギー賦存量と利用可能量の推計対象を下表のように設定し、太陽光発電、小型風力発電、小水力発電、バイオマス発電、廃棄物発電について推計を行いました。

#### <再生可能エネルギーの賦存量および利用可能量の推計対象>

種類	賦存量	利用可能量
太陽光発電	杉並区に建設されている建物の屋根面積(建築面積)全体に太陽光パネルを設置した場合の発電量	用途地域ごとに屋根面積に対するパネル面積率を設定し、その面積分の太陽光パネルを設置した場合の発電量
小型風力発電	杉並区に建設されている建物と公園に小型風力(1kW)を設置した場合の発電量	杉並区内の都市公園(区立)に小型風力(1kW)を設置した場合の発電量
小水力発電	杉並区内の流量の観測点に小水力発電機を設置し、年度平均流量の全量を使用した場合の発電量	杉並区内の流量の観測点に小水力発電機を設置し、年度平均流量の3割を使用した場合の発電量
バイオマス発電		
タケ	杉並区内の竹林から伐採できるタケを燃焼させて発電した場合の発電量	賦存量のうち、竹材・タケノコとして利用されていないタケを燃焼させて発電した場合の発電量
国産材製材廃材	杉並区内の製材所で、国内産の丸太から木材製品に加工する工程で発生する残廃材を燃焼させて発電した場合の発電量	賦存量のうち、小物製材、オガライト・オガタン、燃料、家畜敷料棟に利用されていない残廃材を燃焼させて発電した場合の発電量
外材製材廃材	杉並区内の製材所で、外材から木材製品に加工する工程で発生する残廃材を燃焼させて発電した場合の発電量	賦存量のうち、小物製材、オガライト・オガタン、燃料、家畜敷料棟に利用されていない残廃材を燃焼させて発電した場合の発電量
食品加工廃棄物	杉並区内の食品製造業等の製造工程から排出される動植物性残渣をメタン発酵させ、発生したメタンガスを燃料に使用した場合の発電量	賦存量のうち、再生利用量を除いた動植物性残渣をメタン発酵させ、発生したメタンガスを燃料に使用した場合の発電量
業務系厨芥類	杉並区内の食品卸売業・小売業、外食産業等の食品加工または調理過程などから排出される食品廃棄物をメタン発酵させ、発生したメタンガスを燃料に使用した場合の発電量	賦存量のうち、再生利用量を除いた食品廃棄物をメタン発酵させ、発生したメタンガスを燃料に使用した場合の発電量
廃棄物発電	杉並清掃工場における可燃ごみ収集量を焼却処理する際の発生熱量を発電に利用した場合の発電量	賦存発電量から杉並清掃工場施設内での使用分を除いた電力量

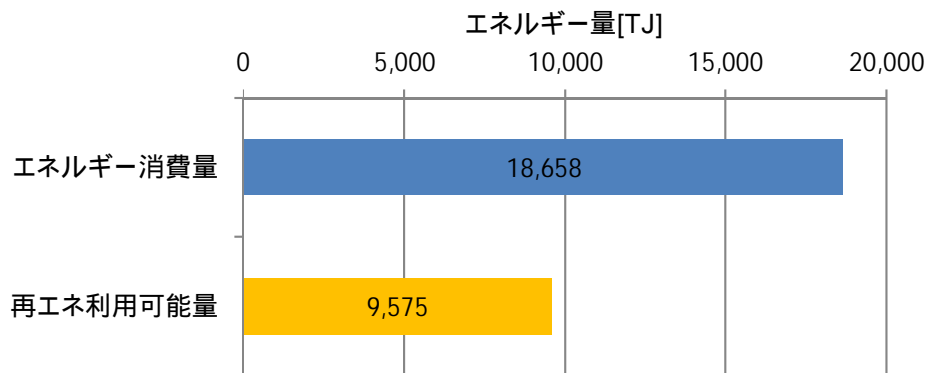
杉並区内の再生可能エネルギー推計結果は、賦存量 33,159TJ/年（9,211GWh/年）、利用可能量 9,575TJ/年（2,660GWh/年）となりました。

利用可能量 9,575TJ/年のうち99%以上が太陽光発電であり、その他は1%未満です。また、杉並区内のエネルギー消費量（2009年度 18,658TJ/年）に対する利用可能量の比率は51%になります。

< 杉並区内の再生可能エネルギー賦存量および利用可能量 >

種類	賦存量		利用可能量		利用可能量比率
	GJ/年	MWh/年	GJ/年	MWh/年	
太陽光発電	32,974,679	9,159,633	9,495,470	2,637,631	99.17%
小型風力発電	26,925	7,479	13	4	0.00%
小水力発電	142	40	43	12	0.00%
バイオマス発電	9,330	2,592	5,765	1,601	0.06%
タケ	3.6	1.0	3.6	1.0	/
国産材製材廃材	3.5	1.0	0.2	0.1	
外材製材廃材	22.0	6.1	0.8	0.2	
食品加工廃棄物	12.3	3.4	4.9	1.3	
業務系厨芥類	9,288.5	2,580.1	5,755.7	1,598.8	
廃棄物発電	147,960	41,100	73,436	20,399	0.77%
合計	33,159,035	9,210,843	9,574,727	2,659,646	100.00%

< 杉並区内のエネルギー消費量と再生可能エネルギー利用可能量の比較 >



次頁以降に、各再生可能エネルギー賦存量および利用可能量の推計方法を示します。

## 太陽光発電

### 1) 賦存量 32,974,679GJ/年(9,159,633MWh/年)

杉並区に建設されている建物の屋根面積(建築面積)全体に太陽光パネルを設置した場合の発電量を賦存量とします。

#### 【算定式】

$$\text{太陽光発電賦存量[kWh/年]} = \text{杉並区に建設されている建物の屋根面積(建築面積)[m}^2\text{]}^{*1} \\ \times \text{年間最適傾斜角日射量[kWh/m}^2\cdot\text{日]}^{*2} \times \text{補正係数}^{*3} \times 365[\text{日/年}]$$

- \*1...区内屋根面積 11,734,807m<sup>2</sup>  
「杉並区内の用途地域別面積、全建物棟数、建築面積(平成23年度)」杉並区
- \*2...年間最適傾斜角日射量 32.9kWh/m<sup>2</sup>・日(練馬観測所)  
「年間月別日射量データベース(MONSOLA-11)」NEDO
- \*3...補正係数 0.065  
「新エネルギーガイドブック2008」NEDO

### 2) 利用可能量 9,495,470GJ/年(2,637,631MWh/年)

用途地域ごとに建物の屋根面積に対するパネル面積率を設定し、その面積分の太陽光パネルを設置した場合の発電量を利用可能量とします。

#### 【算定式】

$$\text{太陽光発電利用可能量[kWh/年]} = \text{用途地域別パネル設置面積[m}^2\text{]}^{*1} \\ \times \text{年間最適傾斜角日射量[kWh/m}^2\cdot\text{日]}^{*2} \times \text{補正係数}^{*3} \times 365[\text{日/年}]$$

- \*1...用途地域別パネル設置面積合計 3,379,184m<sup>2</sup>
- \*2、\*3...賦存量と同様

用途地域名	全建物棟数	建築面積 (m <sup>2</sup> )	パネル 面積率	パネル設置 面積(m <sup>2</sup> )	備考
第一種低層住居専用地域	75,577	7,279,100	25%	1,819,775	3kW/棟程度
第二種低層住居専用地域	664	57,620	25%	14,405	3kW/棟程度
第一種中高層住居専用地域	14,871	1,562,666	30%	468,800	4kW/棟程度
第二種中高層住居専用地域	3,412	361,644	30%	108,493	4kW/棟程度
第一種住居地域	2,755	259,385	35%	90,785	4kW/棟程度
第二種住居地域	1,226	176,611	35%	61,814	6kW/棟程度
準住居地域	1,412	209,077	40%	83,631	7kW/棟程度
近隣商業地域	11,134	1,134,728	40%	453,891	5kW/棟程度
商業地域	3,917	509,918	40%	203,967	7kW/棟程度
準工業地域	868	184,058	40%	73,623	10kW/棟程度
工業地域	0	0	-		
工業専用地域	0	0	-		
合計	115,836	11,734,807		3,379,184	

## 小型風力発電

### 1) 賦存量 26,925GJ/年(7,479MWh/年)

杉並区に建設されている建物と公園に小型風力(1kW)を設置した場合の発電量を賦存量とします。

#### 【算定式】

$$\text{小型風力発電賦存量[kWh/年]} = \text{平均風速エネルギー密度[kW/m}^2\text{]}^1 \times \text{風車受風面積[m}^2\text{/基]}^2 \times \text{風車設置台数[基]}^3 \times \text{発電効率[\%]}^4 \times \text{年間時間数[h/年]}^5$$

\*1...平均風速エネルギー密度( $P_0$ ) 0.0363m/s

$$P_0 = 1/2 \times V^3$$

空気密度( ): 1.225kg/m<sup>3</sup> 「風力発電導入ガイドブック」NEDO

杉並区内の平均風速(V): 3.9m/s(地上30m地点) 「風況マップ」NEDO

\*2...風車受風面積 2m<sup>2</sup>/基(出力約1kWの風車)

「風力発電導入ガイドブック」NEDO

\*3...風車設置台数 117,601基(建物...1棟あたり1基、公園...500m<sup>2</sup>あたり1基)

建物棟数: 115,836棟

「杉並区内の用途地域別面積、全建物棟数、建築面積(平成23年度)」杉並区

公園面積

区分		設置数	面積(m <sup>2</sup> )	風車設置台数
都立	公園	2	283,485.94	566
区立	都市公園	259	574,441.95	1,148
	児童遊園	51	25,879.78	51
合計		312	883,807.67	1,765

出典: 杉並区統計書

\*4...発電効率 10%(市街地における小型風力発電機の効率)

\*5...年間時間数 8,760h/年

### 2) 利用可能量 13GJ/年(4MWh/年)

杉並区内の都市公園(区立)に小型風力(1kW)を設置した場合の発電量を利用可能量とします。

#### 【算定式】

$$\text{小型風力発電利用可能量[kWh/年]} = \text{平均風速エネルギー密度[kW/m}^2\text{]}^1 \times \text{風車受風面積[m}^2\text{/基]}^2 \times \text{風車設置台数[基]}^3 \times \text{発電効率[\%]}^4 \times \text{年間時間数[h/年]}^5$$

\*1、\*2、\*4、\*5...賦存量と同様

\*3...風車設置台数 57基(都市公園...1ha(10,000m<sup>2</sup>)あたり1基)

区分		設置数	面積(m <sup>2</sup> )	風車設置台数
都立	公園	2	283,485.94	-
区立	都市公園	259	574,441.95	57
	児童遊園	51	25,879.78	-
合計		312	883,807.67	57

## 小水力発電

### 1) 賦存量 142GJ/年(40MWh/年)

杉並区内の流量の観測点に小水力発電機を設置し、年度平均流量の全量を使用した場合の発電量を賦存量とします。

#### 【算定式】

$$\text{小水力発電賦存量[kWh/年]} = \text{河川流量[m}^3\text{/s]}^1 \times \text{落差[m]}^2 \times \text{重力加速度[m/s}^2\text{]}^3 \\ \times \text{水車の効率}^4 \times \text{年間稼働時間[h/年]}^5$$

- \*1...河川流量(年間平均流量) 「荒川水系神田川流域河川整備計画」平成22年11月 東京都  
 玉川上水導水地点上流(神田川ゆうやけ橋) 0.03m<sup>3</sup>/s  
 玉川上水導水地点下流(神田川ゆうやけ橋) 0.03m<sup>3</sup>/s + 玉川上水0.13m<sup>3</sup>/s) 0.16m<sup>3</sup>/s  
 宿橋 0.09m<sup>3</sup>/s  
 定塚橋 0.36m<sup>3</sup>/s



- \*2...落差 1m  
 観測点の標高がわからないため、落差を1mと仮定
- \*3...重力加速度 9.8m/s<sup>2</sup>
- \*4...水車の効率 0.72  
 「平成22年度 再生可能エネルギー導入ポテンシャル調査 報告書」環境省
- \*5...年間稼働時間 8,760h/年

### 2) 利用可能量 43GJ/年(12MWh/年)

杉並区内の流量の観測点に小水力発電機を設置し、年度平均流量の3割を使用した場合の発電量を利用可能量とします。

#### 【算定式】

$$\text{小水力発電利用可能量[kWh/年]} = \text{河川流量[m}^3\text{/s]}^1 \times \text{利用率[\%]}^2 \times \text{落差[m]}^3 \\ \times \text{重力加速度[m/s}^2\text{]}^4 \times \text{水車の効率}^5 \times \text{年間稼働時間[h/年]}^6$$

- \*1、\*3、\*4、\*5、\*6...賦存量と同様
- \*2...利用率 最低流量等を考慮し、年間平均流量の30%と想定

## バイオマス発電

### 1) 賦存量 9,330GJ/年(2,592MWh/年)

杉並区内から発生するタケ、国産材製材廃材、外材製材廃材、食品加工廃棄物、業務系厨芥類を対象とします。タケ、国産材製材廃材、外材製材廃材はそのまま燃焼させ、食品加工廃棄物、業務系厨芥類はメタン発酵によるメタンガスを燃焼させて、発電した場合の発電量を賦存量とします。

#### 【算定式】

$$\text{バイオマス発電賦存量[GJ/年]} = \text{バイオマス賦存量[GJ/年]}^{*1} \times \text{発電効率}^{*2}$$

\*1...バイオマス賦存量 「バイオマス賦存量・有効利用可能量の推計」2011年3月31日 N E D O  
区内のバイオマス別賦存量と熱量

種別	賦存量 (DW-t/年)	賦存量熱量 (GJ/年)
タケ	2.88	36.00
国産材製材廃材	1.94	35.20
外材製材廃材	12.14	219.80
食品加工廃棄物	42.79	123.23
業務系厨芥類	4,552.65	92,884.65

\*2...発電効率 10%  
「バイオマス賦存量・有効利用可能量の推計 平成18年改訂版」N E D O

### 2) 利用可能量 5,765GJ/年(1,601MWh/年)

杉並区内から発生するタケ、国産材製材廃材、外材製材廃材、食品加工廃棄物、業務系厨芥類のうち未利用分(有効利用量)を対象とします。タケ、国産材製材廃材、外材製材廃材はそのまま燃焼させ、食品加工廃棄物、業務系厨芥類はメタン発酵によるメタンガスを燃焼させて、発電した場合の発電量を利用可能量とします。

#### 【算定式】

$$\text{バイオマス発電利用可能量[GJ/年]} = \text{バイオマス有効利用可能熱量[GJ/年]}^{*1} \times \text{発電効率}^{*2}$$

\*1...バイオマス有効利用可能熱量  
「バイオマス賦存量・有効利用可能量の推計」2011年3月31日 N E D O  
区内のバイオマス別有効利用可能量と熱量

\*2...賦存量と同様

種別	有効利用可能量 (DW-t/年)	有効利用熱量 (GJ/年)
タケ	2.88	36.00
国産材製材廃材	0.11	1.96
外材製材廃材	0.43	7.79
食品加工廃棄物	16.87	48.59
業務系厨芥類	2,821.10	57,557.08

## 廃棄物発電

### 1) 賦存量 147,960GJ/年(41,100MWh/年)

杉並清掃工場における可燃ごみ収集量を焼却処理する際に発生する熱量を発電に利用した場合の発電量を賦存量とします。

#### 【算定式】

廃棄物発電賦存量[MJ/年]

$$= \text{杉並清掃工場での年間可燃ごみ収集量}[\text{t/年}]^{*1} \times \text{低位発熱量}[\text{MJ/t}]^{*2} \times \text{発電効率}^{*3}$$

\*1...杉並清掃工場での年間可燃ごみ収集量 98,620t/年  
「清掃事業年報 平成22年版」東京二十三区清掃一部事務組合

\*2...低位発熱量 10,002MJ/t  
「ごみ性状調査結果(平成22年度の測定結果) 杉並清掃工場」東京二十三区清掃一部事務組合

\*3...発電効率 15%  
「新エネルギーガイドブック 2008」N E D O 環境省による補助制度(平成19年度)要件

### 2) 利用可能量 73,436GJ/年(20,399MWh/年)

杉並清掃工場における賦存発電量から杉並清掃工場施設内での使用分を除いた電力量とします。

#### 【算定式】

廃棄物発電利用可能量[MJ/年]

$$= \text{杉並清掃工場の賦存発電量} - \text{杉並清掃工場施設内での発電電力使用量}^{*1}$$

\*1...杉並清掃工場施設内での発電電力使用量 20,701MWh/年  
杉並清掃工場の総発電量(実績値34,728MWh/年)-(うち外部供給量 14,027MWh/年)  
「平成22年度 一般廃棄物処理実態調査結果(東京)」環境省

## <用語解説>

2 賦存量：資源を利用するにあたっての制約は考慮せず、理論的に導き出された総量。

3 T J (テラジュール)：エネルギー量の単位で、Tは10の12乗を意味します。

4 G W h (ギガワットアワー)：電力量の単位で、Gは10の9乗を意味します。

5 M W h (メガワットアワー)：電力量の単位で、Mは10の6乗を意味します。

## 2 杉並区の省エネルギーの取組み

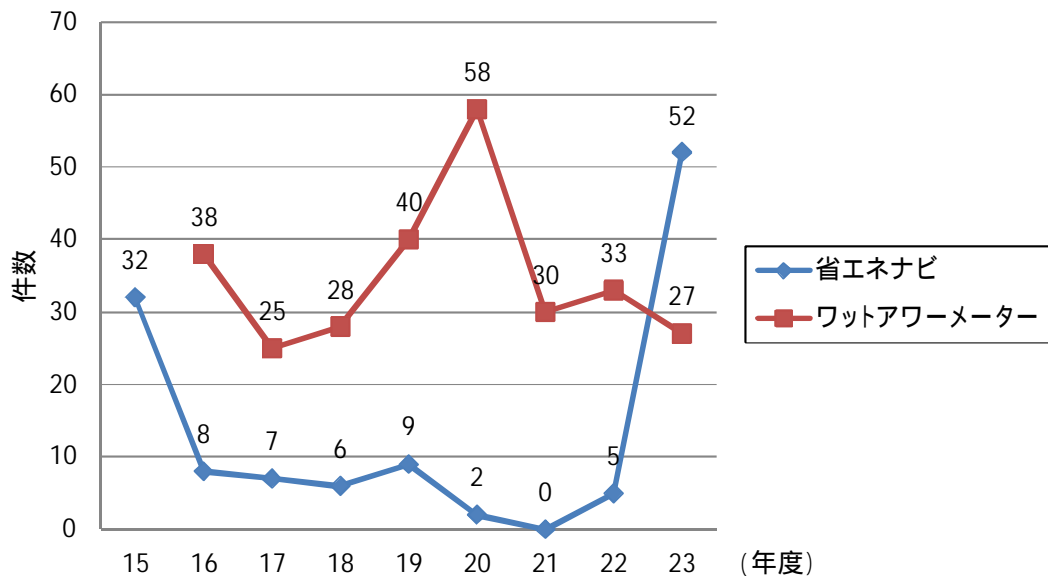
### (1) 省エネルギー

#### 省エネルギーの普及啓発

#### 1) 省エネ機器の貸出状況

平成15年度から家庭で使用する電力を記録し、省エネに資する省エネナビの貸出を開始し、平成16年度からは、家電製品の消費電力を瞬時に計測するワットアワーメーターの貸出を行っています。

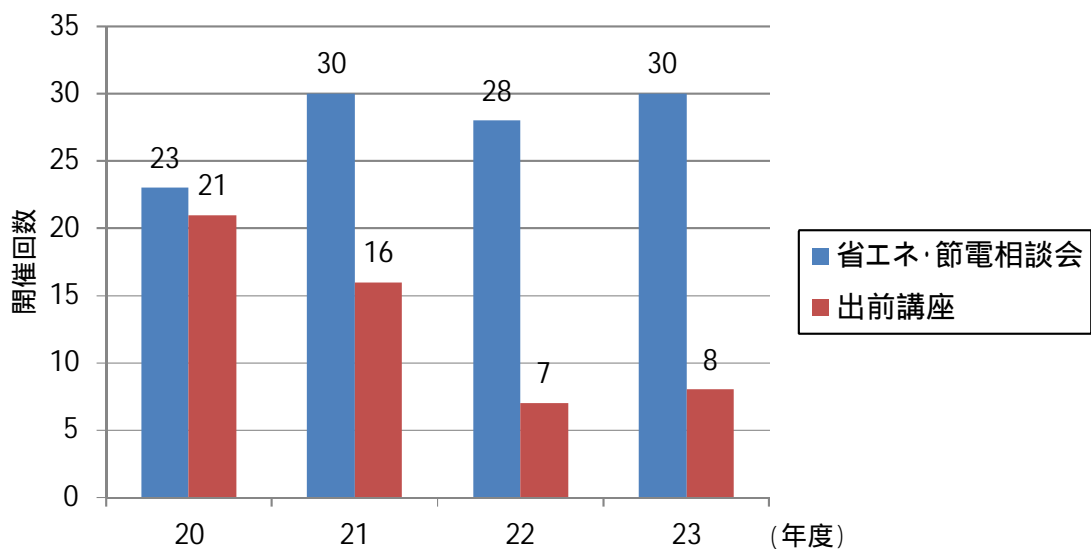
< 省エネナビ・ワットアワーメーターの貸出状況 >



#### 2) 省エネ相談・出前講座の開催状況

平成20年度から、区内NPO、エネルギー事業者と協働して、省エネ・節電相談会を区役所ロビーで開催するほか、町会自治会や学校などに出前講座を実施し、省エネルギーに関する知識・ノウハウの周知に努めています。

< 省エネ相談・出前講座の開催状況 >





### 3) 東京都「新しい公共」支援モデル事業による取組み

平成23年度から、区は、東京都「新しい公共」支援モデル事業の選定を受け、区内環境NPOである杉並・地域エネルギー協議会、全国規模の環境NPO「環境自治体会議環境政策研究所、区内エネルギー事業者である東京ガス西部支店、東京電力荻窪支社と「杉並エネルギー会議」を設置し、「拡がれ！すぎなみ省エネ・創エネプロジェクト」を展開しています。

主な事業内容は、

- 1) 家庭に次世代省エネナビ、事業所にデマンドシステムを設置し、エネルギー消費の実態調査と分析
- 2) 太陽光発電機器設置者のネットワークづくり及び実態調査の実施
- 3) エネルギー創出に関する相談会の開催、省エネ機器の展示、普及啓発です。

#### 家庭用省エネルギー機器の設置助成

杉並区は、社会経済的な特性として、典型的な住宅地であり、戸建住宅、アパート・マンション等が建物棟数、延床面積ともに90%近くを占めています。

また、区内を三つの河川が流れていますが、河川流量は少なく、平均風速も少ないという自然特性です。

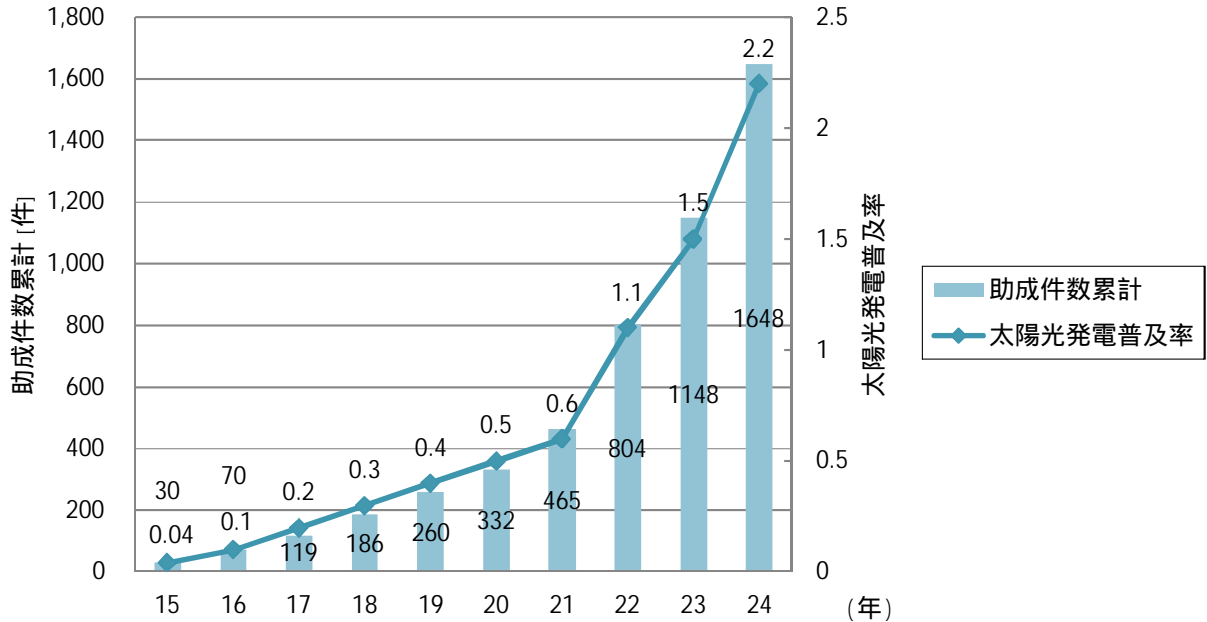
緑被率は向上しているものの、屋敷林や農地などの面としてまとまったみどりは減少しており、楽観はできません。

エネルギー政策を考えていく上で、区立施設を含め、戸建住宅、アパート・マンション、事業所等への太陽光発電を中心とした再生可能エネルギーの導入促進、コージェネレーションシステムや家庭用燃料電池による自家発電、住宅やまちづくりにおけるさらなる省エネルギーの推進が課題となっています。

## 1) 太陽光発電機器の設置助成

平成15年度から住宅用太陽光発電機器設置助成を開始し、平成23年度までの助成件数は1,148件、区の助成件数を区内の戸建棟数で除した普及率は、1.5%となっています。平成24年度からは、助成対象を中小規模事業者やアパート経営者、マンション管理組合に助成対象を拡大し、東日本大震災を契機とした地域分散型エネルギーの導入拡大の機運に応え、さらなる導入拡大に努め、平成24年度末には1,648件の導入を見込んでいます。

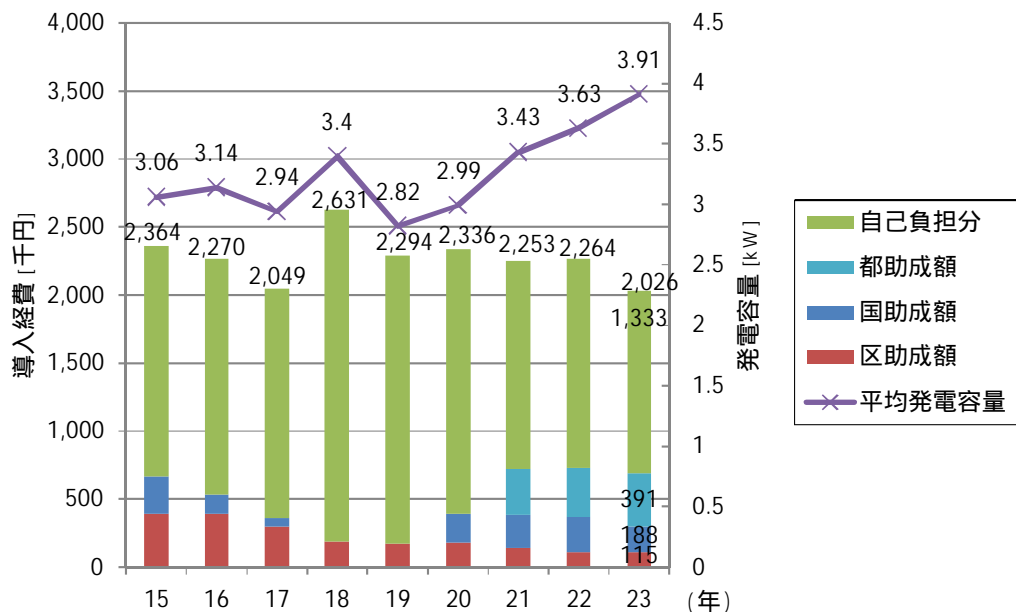
< 太陽光発電機器設置助成件数及び太陽光発電普及率 >



注1) 2011年度までは決算数値、24年度は予算額。( )内の数値は単年度の助成件数

区の助成制度の他に、国や都の助成制度開始により、太陽光発電機器の設置が進むと同時に設置コストが年々軽減し、1件あたりの発電容量は約1kW増加しました。これは、年間1,000kWhの発電量に相当します。

< 1件当たりの太陽光発電機器導入経費と発電容量 >

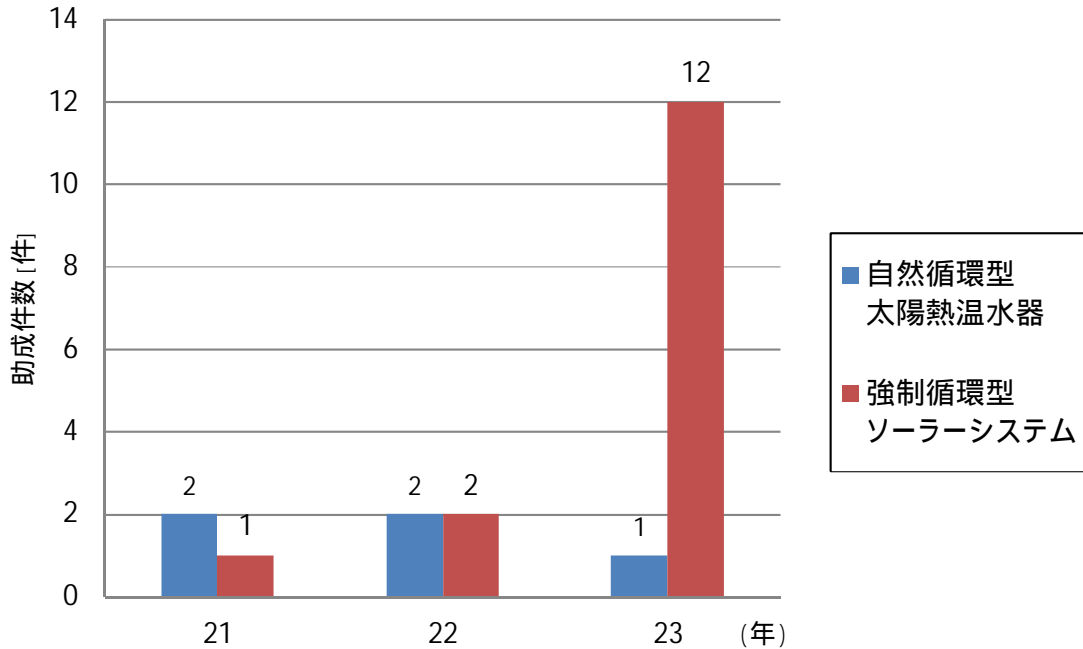


## 2) 太陽熱利用機器の設置助成

平成21年度から、自然循環型太陽熱温水器及び強制循環型ソーラーシステム機器の設置助成を行っています。

助成制度開始当初は、既存の温水器等の付け替え需要がほとんどでしたが、平成23年度には、強制循環型ソーラーシステム機器のうち、集熱パネル及び貯湯ユニット、潜熱回収型高効率給湯器を組み合わせた機器が開発され、新規需要が増加しています。

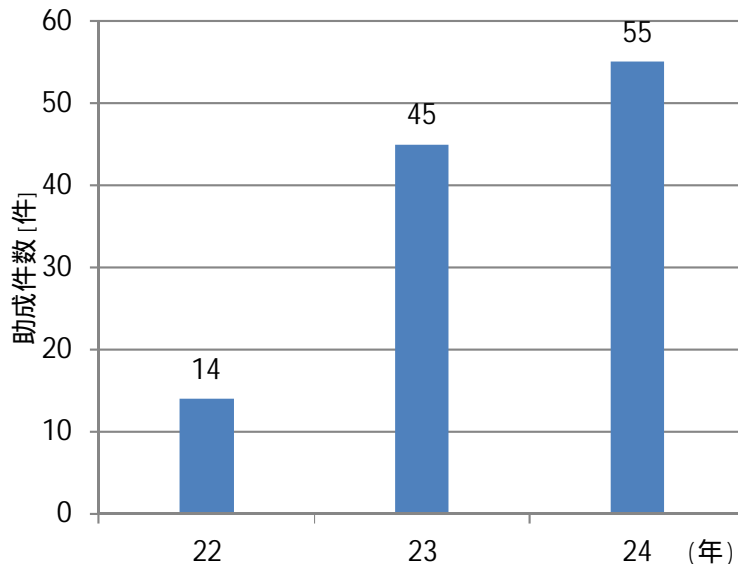
< 太陽熱利用機器の設置助成状況 >



## 3) 家庭用燃料電池(エネファーム)設置助成

自宅で発電可能な家庭用燃料電池(エネファーム)の発売に合せ、助成制度を開始し、3年間の助成累計は、114件となっています。年々申請件数が増加しており、区民の需要が高まっていることが伺えます。

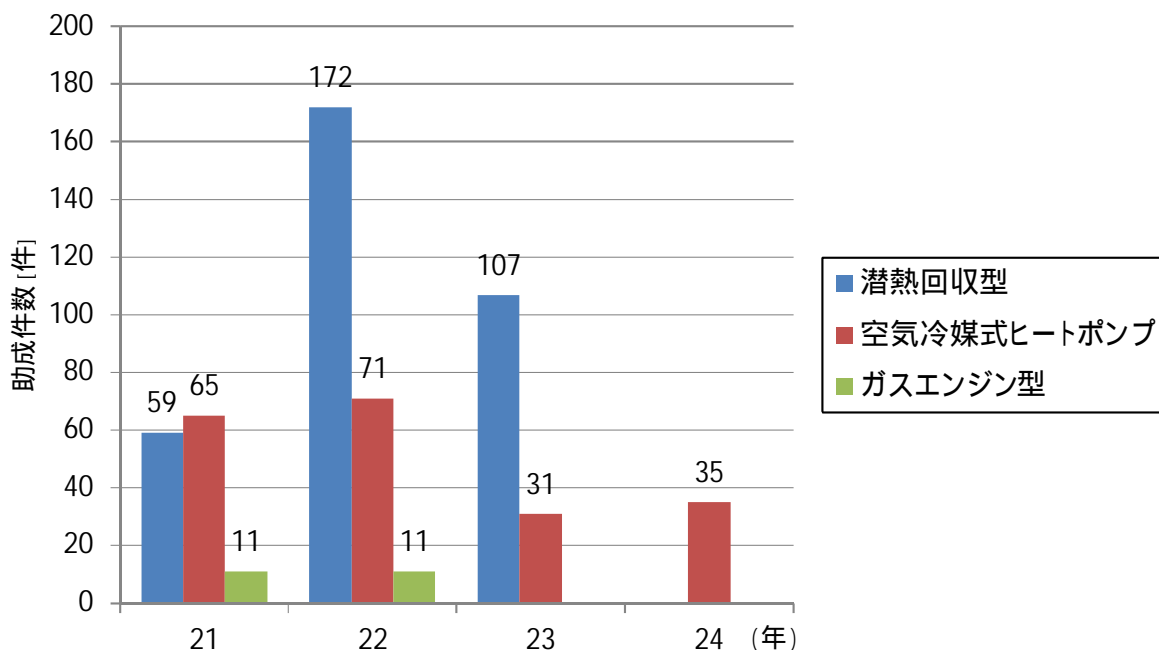
< 家庭用燃料電池(エネファーム)の設置助成状況 >



#### 4) 高効率給湯器の設置助成

家庭における給湯へのエネルギー消費量が多いことから（図 世帯当たりのエネルギー消費の内訳参照）、平成21年度から高効率給湯器の設置助成を行っています。

##### < 高効率給湯器の設置助成状況 >



注) 潜熱回収型が平成 25 年度から標準タイプの給湯器となること、ガスエンジン型の平成 23 年度

#### 運輸部門の省エネルギー対策

運輸部門の省エネルギー対策として、エコドライブ支援機器の設置助成を平成20年度から平成23年度まで実施しました。

区の助成とともに実施された国や都の類似事業により、申請が激減したことから、運輸部門の需要が満たされたと判断し、助成を終了しました。

## (2)再生可能エネルギーの活用

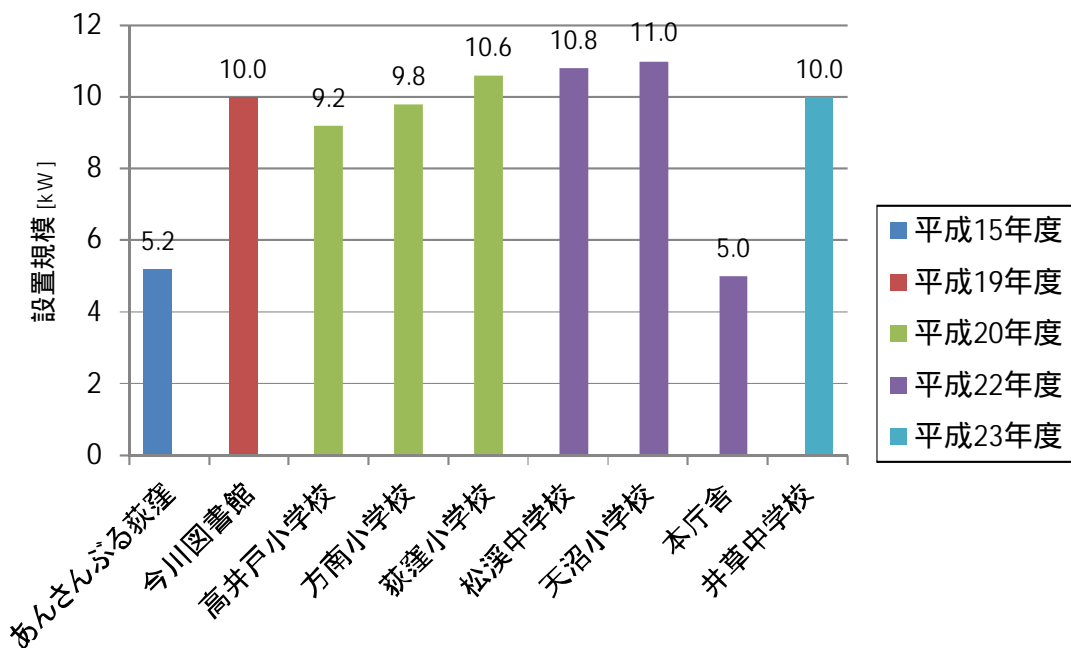
### 住宅等への太陽光発電機器及び太陽熱利用機器の設置助成

平成15年度から太陽光発電機器について、平成21年度から太陽熱利用機器について設置助成を実施しています。(図 太陽光発電機器設置助成件数及び太陽光発電普及率、図 太陽熱利用機器の設置助成状況参照)

### 区立施設への再生可能エネルギーの導入

学校の改築時や施設開設時等に合せて、太陽光発電機器の設置を行っています。今後とも、施設改修等に合せて設置を推進していきます。

< 区立施設への太陽光発電機器導入状況 >



### バイオマス発電の研究

平成23年度に給食残渣等を活用したバイオマス発電について研究を行いました。

研究時には、大田区城南島に搬送して発電することを想定していましたが、輸送コストと、杉並清掃工場において焼却発電するコストを勘案して、杉並清掃工場での焼却発電を選択しました。

### (3) コージェネレーション

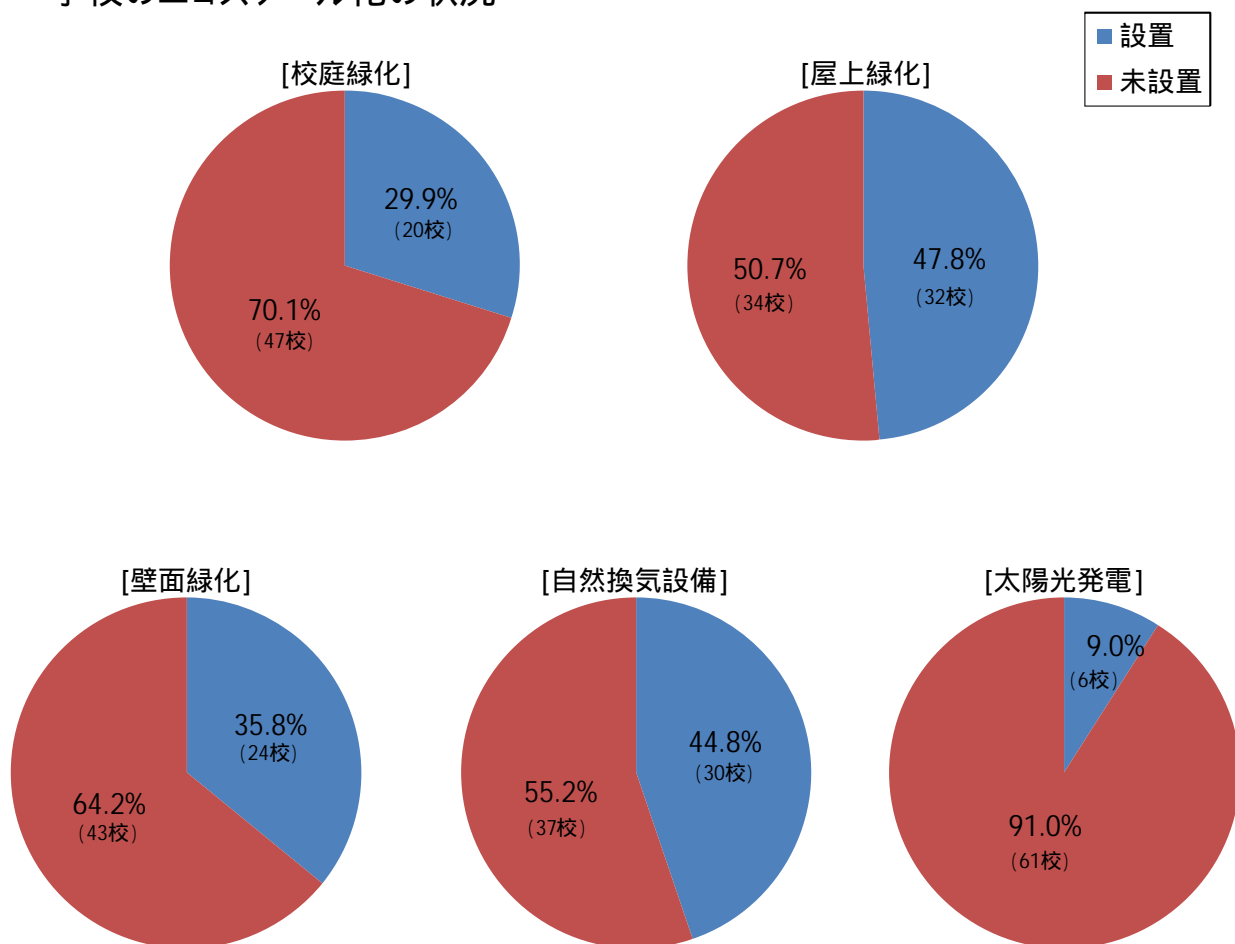
平成5年度の区役所本庁舎改修に合せて、コージェネレーションシステム250kWを2基導入し、本庁舎の平成22年夏季の最大使用電力量1,436kWの35%を賄っています。

また、今年度の目標最大使用電力量（平成22年夏季の20%削減）1,248kWの40%を発電しており、区役所の節電に大きな効果を発揮しています。

### (4) 学校のエコスクール化

平成13年度の校庭の芝生化を皮切りに、屋上緑化、壁面緑化、自然換気設備、太陽光発電機器の設置を進めているほか、児童生徒の環境教育にも力を注いでいます。

#### < 学校のエコスクール化の状況 >



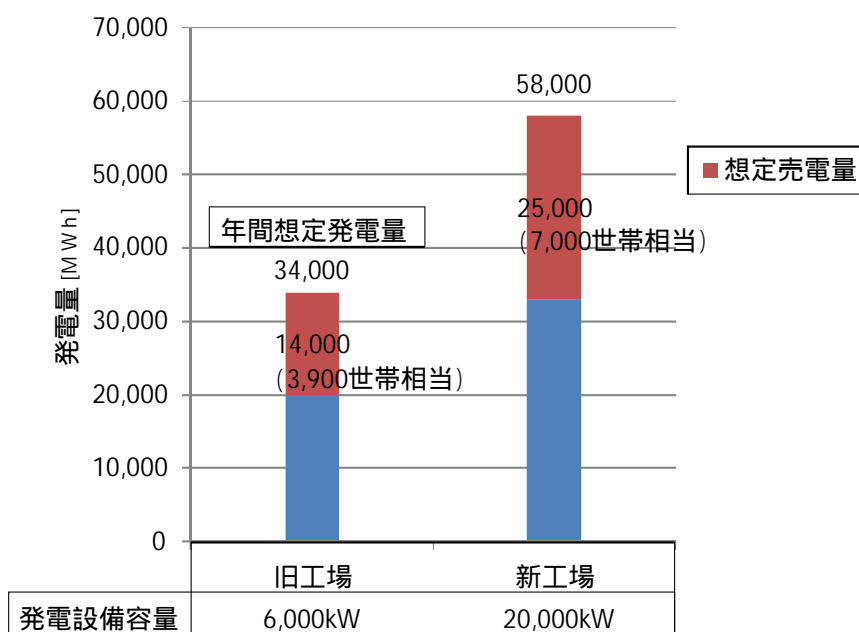
## (5) 新電力(PPS)からの電力購入

### 区内の発電施設「杉並清掃工場」のごみ焼却発電と廃熱利用

東京二十三区清掃一部事務組合が所有する杉並清掃工場のごみ焼却発電を、新電力の(株)東京エコサービスを経て区内7校に導入しているほか、発電廃熱を隣接する高井戸温水プールや高齢者デイケア施設の浴場に利用しています。

また、現在、杉並清掃工場は改築中で平成29年度の竣工を予定していますが、発電機能が大幅に向上することが見込まれています。

< 杉並清掃工場発電量新旧比較 >



### 入札による新電力からの電力購入の進展

平成23年度から電力分散化と低価格での購入を図るため、新電力(PPS)からの電力購入を段階的に進め、現在、小学校40校、中学校23校、特別支援学校1校で新電力からの電力購入を行っています。

(株)東京エコサービスから電力購入している7校を合せ、区内公立学校67校のうち64校、96%が新電力から電力を購入しています。

今後も、エネルギーセキュリティの観点からも計画的に導入を進めていきます。

### 3 区民、事業者アンケート

#### (1) 目的

杉並区地域エネルギービジョンの策定にあたり、区民及び区内事業者のエネルギー使用実態を把握するとともに、意見を反映した内容とするため、区民、事業者アンケートを実施しました。

#### (2) 対象者

##### 区民アンケート

世帯構成を「単身（65歳以上）」「単身（65歳未満）」「夫婦のみ（65歳以上の構成員を含む）」「夫婦のみ（65歳未満の構成員のみ）」「二世帯（65歳以上の構成員を含む）」「二世帯（65歳未満の構成員のみ）」「三世帯」「その他」に分類し、各々400世帯（その他は、200世帯）計3,000世帯を、平成25年1月7時点の住民基本台帳から無作為抽出しました。

##### 事業者アンケート

「平成21年度経済センサス - 基礎調査」から、区内事業所を地域、業種、規模が偏らないよう3,000所を無作為抽出しました。

#### (3) アンケート調査票

区民アンケート調査票様式は、資38～41ページのとおり。

事業者アンケート調査票様式は、資42～45ページのとおり。

#### (4) 期間

平成25年1月25日に郵送し、返信用封筒にて同年2月8日（消印有効）までに返送してもらいました。

#### (5) 回収状況

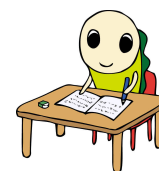
区民アンケート 576件（回収率 19.2%）

事業者アンケート 842件（回収率 28.1%）



## 「杉並区地域エネルギービジョン」に関する区民アンケート

以下の各設問について、該当する番号を丸印で囲むか、必要事項を記載することによりお答えください。



- F 1 同じ住家で生活を共にしている人について、平成 24 年 12 月 1 日現在の満年齢、1 日の平均在宅時間（概算で結構です）をご記入ください。

満年齢	1 日の平均在宅時間			
	平日		休日	
		内、睡眠時間		内、睡眠時間
歳	時間	時間	時間	時間
歳	時間	時間	時間	時間
歳	時間	時間	時間	時間
歳	時間	時間	時間	時間
歳	時間	時間	時間	時間
歳	時間	時間	時間	時間
歳	時間	時間	時間	時間

- F 2 お住まいの住宅の形態・構造について、該当する番号に丸印をつけてください。

一戸建て木造      一戸建て鉄筋      集合住宅木造      集合住宅鉄筋  
その他（      ）

- F 3 お住まいの住宅の築年について、該当する番号に丸印をつけてください。

2 年以内      3 ～ 5 年      6 ～ 1 0 年      1 1 ～ 2 0 年  
2 1 ～ 3 0 年      3 1 年以上

- F 4 お住まいの住宅の延べ床面積について、該当する番号に丸印をつけてください。

3 0 m<sup>2</sup>以下      3 1 ～ 5 9 m<sup>2</sup>      6 0 ～ 8 9 m<sup>2</sup>      9 0 ～ 1 1 9 m<sup>2</sup>  
1 2 0 ～ 1 4 9 m<sup>2</sup>      1 5 0 m<sup>2</sup>以上

F 5 お住まいの住宅で使用しているエネルギーに該当するものに丸印をつけてください。  
(複数回答可)

電気 都市ガス LPガス 灯油 ガソリン 軽油  
その他( )

F 6 お住まいの住宅で契約している電気容量(A = アンペア)に該当するものに丸印をつけてください。

10A 15A 20A 30A 40A 50A  
60A 60A超

F 7 お住まいの住宅での再生可能エネルギー機器等の設置状況や意向について、ご記入ください。

機器名	設置状況や意向
太陽光発電システム	設置済(最大出力____kW) 設置しない 設置を検討中 設置予定あり(平成____年____月頃・最大出力____kW)
太陽熱温水器	設置済(集熱面積____m <sup>2</sup> ) 設置しない 設置を検討中 設置予定あり(平成____年____月頃・集熱面積____m <sup>2</sup> )
燃料電池(エネファーム)	設置済(発電出力____kW) 設置しない 設置を検討中 設置予定あり(平成____年____月頃・発電出力____kW)
風力発電システム	設置済(最大出力____kW) 設置しない 設置を検討中 設置予定あり(平成____年____月頃・最大出力____kW)
蓄電池	設置済(蓄電容量____kWh) 設置しない 設置を検討中 設置予定あり(平成____年____月頃・蓄電容量____kWh)

Q 1 今後、普及を期待する再生可能エネルギーに丸印をつけてください。(複数回答可)

太陽光 風力 波力・潮力 地熱 水力  
バイオマス 特にない わからない  
その他( )



Q 2 区が導入を促進(機器設置費用の補助等)するべき再生可能エネルギーに丸印をつけてください。(複数回答可)

太陽光 風力 波力・潮力 地熱 水力  
バイオマス 特にない わからない  
その他( )





## 「杉並区地域エネルギービジョン」に関する事業所アンケート

以下の各設問について、該当する番号を丸印で囲むか、必要事項を記載することによりお答えください。

F 1 貴事業所の形態に該当する記号に丸印をつけてください。

店舗・飲食店                  事務所・営業所                  工場・作業所  
 輸送・配送センター・車庫                  倉庫・油槽所（石油類貯留施設）  
 その他（    ）

F 2 貴事業所の営業時間（準備時間を含む）についてお答えください。

営業時間          午前・午後 \_\_\_\_\_ 時 \_\_\_\_\_ 分 ~ 午前・午後 \_\_\_\_\_ 時 \_\_\_\_\_ 分  
 営業日                  年中無休                  毎週（                          ）曜日定休  
                                 毎月（                          ）日定休                  その他（                          ）

F 3 貴事業所の従業員数に該当する番号に丸印をつけてください。

1 ~ 4人                  5 ~ 9人                  10 ~ 29人                  30 ~ 99人  
 100 ~ 199人                  200 ~ 299人                  300 ~ 999人  
 1000人以上

F 4 貴事業所建物の所有形態に該当する記号に丸印をつけてください。

賃貸（建物全部）                  賃貸（建物一部）                  自社保有  
 その他（    ）

F 5 貴事業所建物の築年数について、該当する番号に丸印をつけてください。

2年以内                  2 ~ 5年                  6 ~ 10年                  11 ~ 20年  
 21 ~ 30年                  31年以上

F 6 貴事業所建物の延べ床面積について、該当する番号に丸印をつけてください。

50 m<sup>2</sup>以下                  51 ~ 100 m<sup>2</sup>                  101 ~ 300 m<sup>2</sup>                  301 ~ 500 m<sup>2</sup>  
 501 ~ 1000 m<sup>2</sup>                  1001 ~ 3000 m<sup>2</sup>                  3001 m<sup>2</sup>超

F 7 貴事業所建物で使用しているエネルギーに該当するものに丸印をつけてください。  
(複数回答可)

電気 都市ガス LPガス 灯油 ガソリン 軽油  
その他 ( )

F 8 平成 24 年 1 月から 12 月までの、貴事業所での電気・ガス使用量 (年間) はいくら  
でしたか。

電気 ( ) kWh ガス ( ) 立米

F 9 貴事業所での再生可能エネルギー機器等の設置状況や意向について、ご記入くださ  
い。

機器名	設置状況や意向
太陽光発電システム	設置済 (最大出力____kw) 設置しない 設置を検討中 設置予定あり (平成____年____月頃・最大出力____kw)
太陽熱発電システム	設置済 (最大出力____kw) 設置しない 設置を検討中 設置予定あり (平成____年____月頃・最大出力____kw)
太陽熱温水器	設置済 (集熱面積____㎡) 設置しない 設置を検討中 設置予定あり (平成____年____月頃・集熱面積____㎡)
ガスタービンシステム	設置済 (発電出力____kw) 設置しない 設置を検討中 設置予定あり (平成____年____月頃・発電出力____kw)
ガスエンジンシステム	設置済 (発電出力____kw) 設置しない 設置を検討中 設置予定あり (平成____年____月頃・発電出力____kw)
燃料電池 (エネファーム)	設置済 (発電出力____kw) 設置しない 設置を検討中 設置予定あり (平成____年____月頃・発電出力____kw)
風力発電システム	設置済 (最大出力____kw) 設置しない 設置を検討中 設置予定あり (平成____年____月頃・最大出力____kw)
蓄電池	設置済 (蓄電容量____kwh) 設置しない 設置を検討中 設置予定あり (平成____年____月頃・蓄電容量____kwh)

Q 1 今後、普及を期待する再生可能エネルギーに丸印をつけてください。(複数回答可)

太陽光 風力 波力・潮力 地熱 水力  
バイオマス 特にない わからない  
その他 ( )

Q 2 区が導入を促進（機器設置費用の補助等）すべき再生可能エネルギーに丸印をつけてください。（複数回答可）

太陽光 風力 波力・潮力 地熱 水力  
バイオマス 特にない わからない  
その他（ ）

Q 3 現在、高圧50kW以上の電力を使う事業所等は、一般電気事業者（電力会社）だけでなく、特定規模電気事業者（PPS）から電気を購入することが認められています。この制度（特定電気事業者制度）をご存じでしたか。

よく知っている ある程度知っている 全く知らない  
わからない その他（ ）

Q 4 利用が可能であれば、特定規模電気事業者（PPS）から電気を購入したいと思いますか。

そう思う そう思わない 検討中である わからない  
その他（ ）

Q 5 平成24年7月からは再生可能エネルギーの固定価格買取制度が開始されました。これに伴い、太陽光発電余剰電力買取経費と再生可能エネルギー買取経費を、電力を使用するすべての世帯や事業者の電力料金に促進賦課金として上乗せされるよう制度改正されました。

東京電力管内での今年度の賦課金は、平均的な家庭で、月に300kWh（月額7,200円）を使用する場合、月84円となります。

あなたは、どの程度まで促進賦課金の上乗せを負担しても良いと考えますか。

現状のまま 月額に5%の上乗せまで 月額に10%の上乗せまで  
月額に15%の上乗せまで 月額に20%の上乗せまで  
その他（ ）

Q 6 東日本大震災以降、貴事業所では節電に取り組みましたか。取り組んだ場合、どのような節電をしましたか。

取り組んだ 取り組まなかった(理由: )

具体的にどんなことに取り組みましたか。以下の該当する記号に丸印をつけてください。（複数回答可）

- a. 省エネ型電気製品への買い替え    b. 電気式空調機の温度設定  
c. 電気機器の節電    d. コンセントを抜く、電源を切る  
e. その他( )

Q 7 東日本大震災以降、貴事業所では節電以外にエネルギーの使用削減に取り組まれましたか。取り組んだ場合、どのような削減をしましたか。

取り組んだ    取り組まなかった(理由: )

具体的にどんなことに取り組みましたか。以下の該当する記号に丸印をつけてください。  
(複数回答可)

- a. 冷暖房機の使用回数の減少    b. 冷暖房機の温度設定    c. 給湯の温度設定  
d. 公共交通機関の利用    e. その他( )

Q 8 エネルギーの使用削減を促すために、区はどのような取り組みをするべきだと思いますか。該当する番号に丸印をつけてください。(複数回答可)

広報などで削減を呼び掛ける    省エネ機器導入助成を実施する  
省エネに関する相談会を実施する    省エネを実施した事業所が特典を得られる  
その他( )

Q 9 「(仮称)杉並区地域エネルギービジョン中間のまとめ(案)」について、どのように考えますか。

全面的に賛成である    概ね賛成である    概ね反対である  
全面的に反対である    どちらともいえない    わからない

Q10 「(仮称)杉並区地域エネルギービジョン中間のまとめ(案)」について、自由にご意見をご記入ください。

ご協力ありがとうございました。



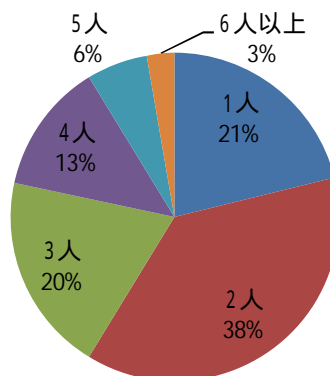
## 「杉並区地域エネルギービジョン」に関する区民アンケート 集計結果

・単純集計結果 送付数3,000 回答数586 回答率19.5%

F 1 同じ住家で生活を共にしている人について、平成24年12月1日現在の満年齢、1日の平均在宅時間（概算で結構です）をご記入ください。

### <世帯人数>

	回答数	割合
1人	124	21%
2人	220	38%
3人	115	20%
4人	76	13%
5人	35	6%
6人以上	16	3%
合計	586	100%

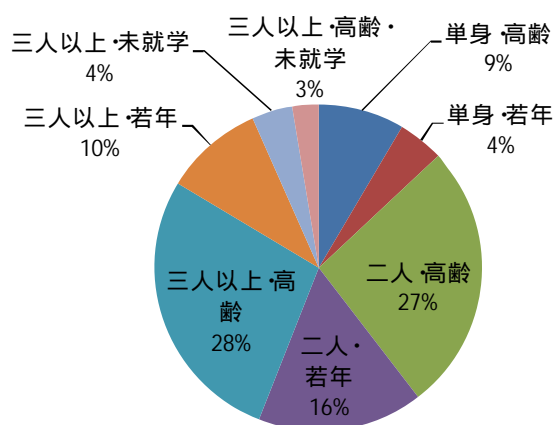


回答用紙に記載されている人数（未回答の場合はリスト掲載人数）

### <ファミリータイプ>

	回答数	割合
単身、65歳以上	50	9%
単身、65歳未満	26	4%
二世帯、65歳以上含む	156	27%
二世帯、65歳未満のみ(未就学児なし)	96	16%
三世帯以上、65歳以上含む	162	28%
三世帯以上、65歳未満のみ(未就学児なし)	57	10%
三世帯以上、未就学児含む	24	4%
三世帯以上、65歳以上・未就学児含む	15	3%
合計	586	100%

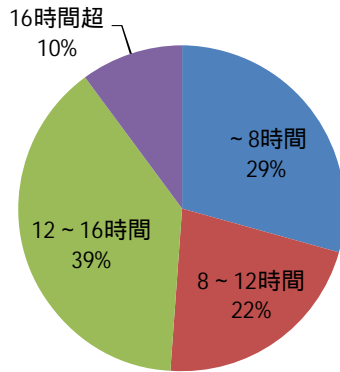
リストに掲載されている家族構成を基に一部修正



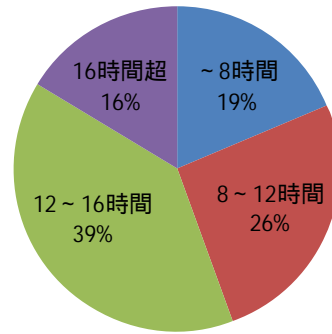
< 家庭での最長活動時間 >

	平日	割合	休日	割合
8時間以内	172	29%	109	19%
8時間超～12時間以内	127	22%	151	26%
12時間超～16時間以内	228	39%	230	39%
16時間超	59	10%	96	16%
合計	586	100%	586	100%

平日



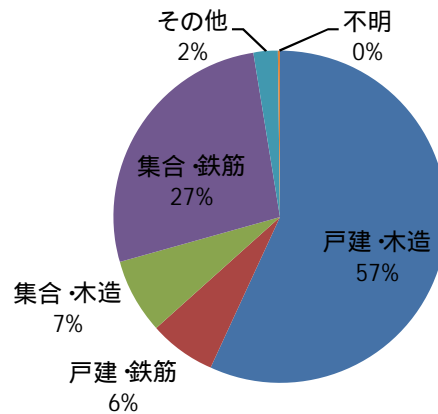
休日



F 2 お住まいの住宅の形態・構造について、該当する番号に丸印をつけてください。

< 住宅の形態・構造 >

	回答数	割合
一戸建て木造	333	57%
一戸建て鉄筋	38	6%
集合住宅木造	43	7%
集合住宅鉄筋	157	27%
その他	14	2%
不明	1	0%
合計	586	100%



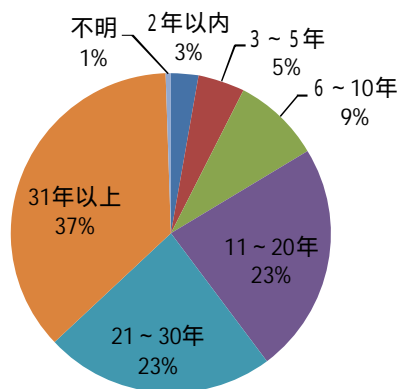
< その他の内容 >

	回答数
一戸建て鉄骨	8
2世帯住宅	3
二戸タウンハウス	1
アパート併設住宅鉄骨造	1
集合住宅および事務所	1

F 3 お住まいの住宅の築年について、該当する番号に丸印をつけてください。

< 住宅の築年数 >

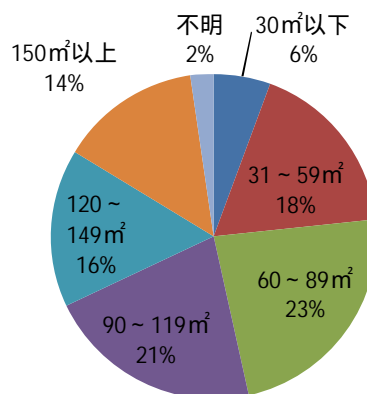
	回答数	割合
2年以内	16	3%
3～5年	28	5%
6～10年	52	9%
11～20年	137	23%
21～30年	136	23%
31年以上	214	37%
不明	3	1%
合計	586	100%



F 4 お住まいの住宅の延べ床面積について、該当する番号に丸印をつけてください。

< 住宅の延べ床面積 >

	回答数	割合
30㎡以下	33	6%
31～59㎡	104	18%
60～89㎡	136	23%
90～119㎡	125	21%
120～149㎡	92	16%
150㎡以上	82	14%
不明	14	2%
合計	586	100%

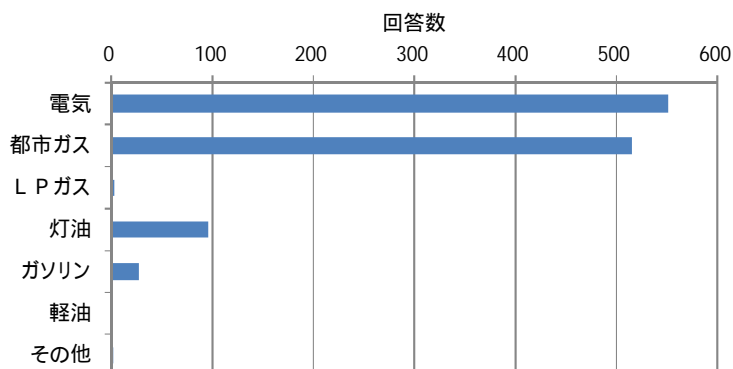


F 5 お住まいの住宅で使用しているエネルギーに該当するものに丸印をつけてください。

(複数回答可)

< 住宅で使用しているエネルギー >

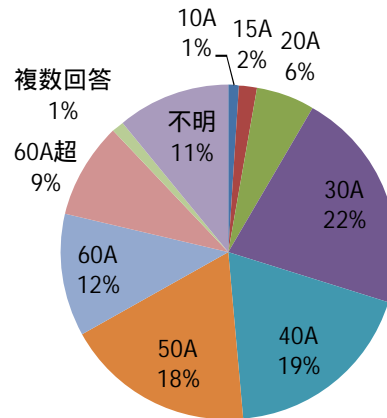
	回答数	割合
電気	551	100%
都市ガス	515	93%
L P ガス	3	1%
灯油	96	17%
ガソリン	27	5%
軽油	0	0%
その他	2	0%
全体	552	



F 6 お住まいの住宅で契約している電気容量（A = アンペア）に該当するものに丸印をつけてください。

< 住宅で契約している電気容量 >

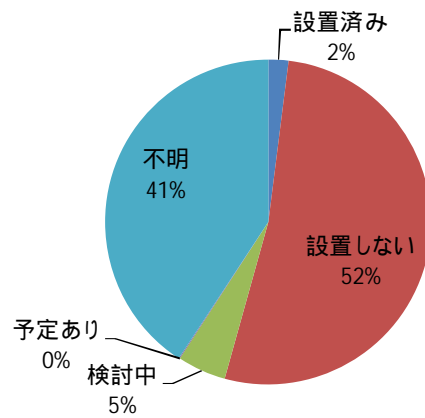
	回答数	割合
10A	6	1%
15A	10	2%
20A	33	6%
30A	126	22%
40A	110	19%
50A	107	18%
60A	69	12%
60A超	54	9%
複数回答	7	1%
不明	64	11%
合計	586	100%



F 7 お住まいの住宅での再生可能エネルギー機器等の設置状況や意向について、ご記入ください。

< 太陽光発電システムの設置状況 >

	回答数	割合
設置済み	12	2%
設置しない	306	52%
設置を検討中	28	5%
設置予定あり	1	0%
不明	239	41%
合計	586	100%



< 設置済みシステムの仕様 >

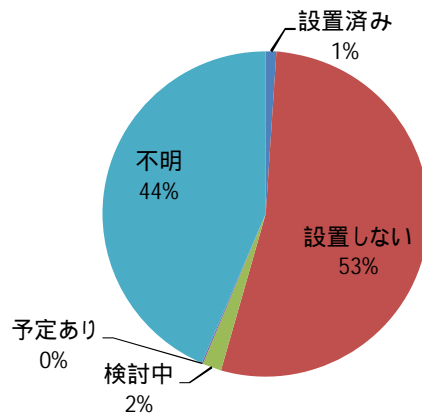
最大出力	回答数
5.59kW	1
5.50kW	1
5.00kW	2
3.24kW	1
3.07kW	1
3.00kW	2
2.00kW	1

< 設置予定年月 >

最大出力	設置年月	回答数
不明	H25.2	1

< 太陽熱温水器の設置状況 >

	回答数	割合
設置済み	6	1%
設置しない	313	53%
設置を検討中	11	2%
設置予定あり	1	0%
不明	255	44%
合計	586	100%

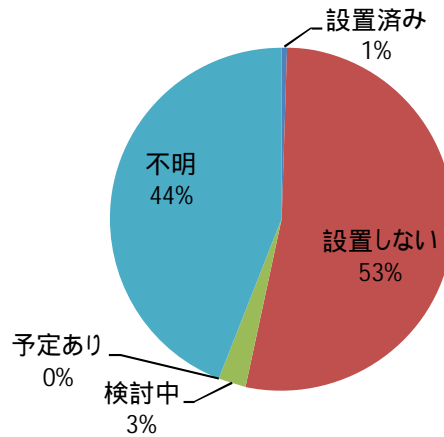


< 設置済みシステムの仕様 >

集熱面積	回答数
4㎡	2
3㎡	1

< 燃料電池（エネファーム）の設置状況 >

	回答数	割合
設置済み	3	1%
設置しない	310	53%
設置を検討中	15	3%
設置予定あり	0	0%
不明	258	44%
合計	586	100%

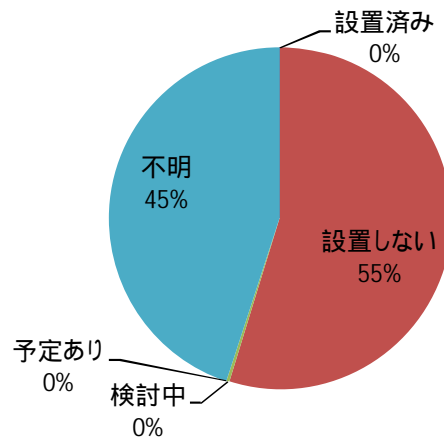


< 設置済みシステムの仕様 >

発電出力	回答数
0.75kW	2

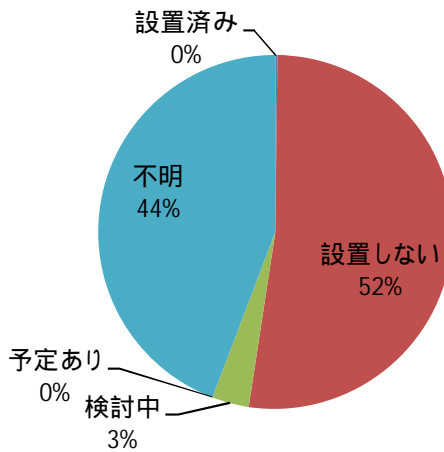
< 風力発電システムの設置状況 >

	回答数	割合
設置済み	0	0%
設置しない	321	55%
設置を検討中	2	0%
設置予定あり	0	0%
不明	263	45%
合計	586	100%



< 蓄電池の設置状況 >

	回答数	割合
設置済み	1	0%
設置しない	306	52%
設置を検討中	20	3%
設置予定あり	0	0%
不明	259	44%
合計	586	100%



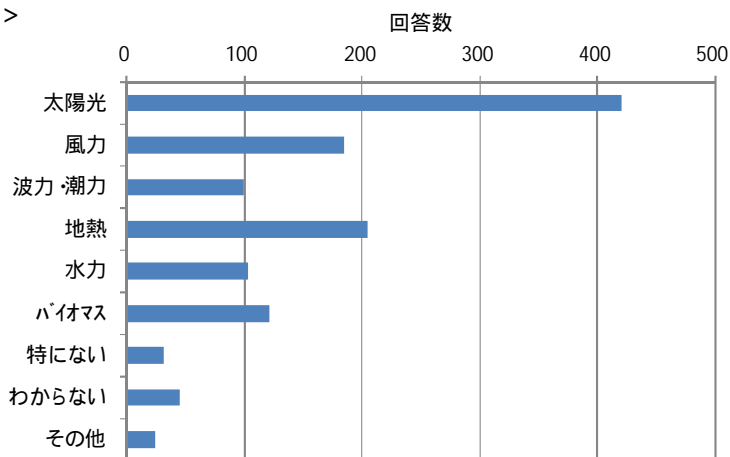
< 設置済みシステムの仕様 >

発電出力	回答数
不明	1

Q1 今後、普及を期待する再生可能エネルギーに丸印をつけてください。（複数回答可）

<普及を期待する再生可能エネルギー>

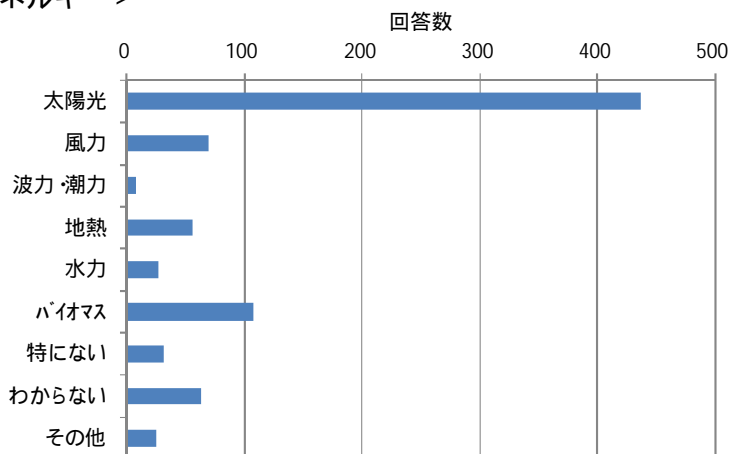
	回答数	割合
太陽光	421	77%
風力	185	34%
波力・潮力	100	18%
地熱	205	37%
水力	103	19%
バイオマス	121	22%
特にない	31	6%
わからない	45	8%
その他	24	4%
全体	549	



Q2 区が導入を促進(機器設置費用の補助等)すべき再生可能エネルギーに丸印をつけてください。（複数回答可）

<区が導入を促進すべき再生可能エネルギー>

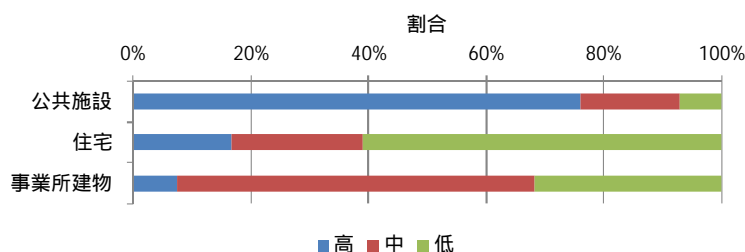
	回答数	割合
太陽光	437	80%
風力	70	13%
波力・潮力	8	1%
地熱	56	10%
水力	27	5%
バイオマス	108	20%
特にない	31	6%
わからない	63	12%
その他	25	5%
全体	546	



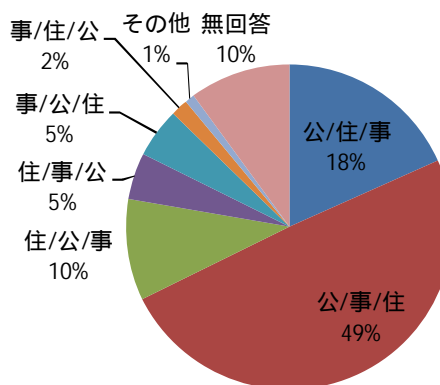
Q3 以下の3つから、区が導入を促進すべき再生可能エネルギーの設置建物を優先順位が高いと思われる順番に並べてください。

<区が導入を促進すべき再生可能エネルギーの設置建物の優先順位>

優先度	回答数			割合		
	高	中	低	高	中	低
公共施設	402	89	38	76%	17%	7%
住宅	87	117	320	16%	22%	61%
事業所建物	39	318	166	7%	60%	31%
全体	528					



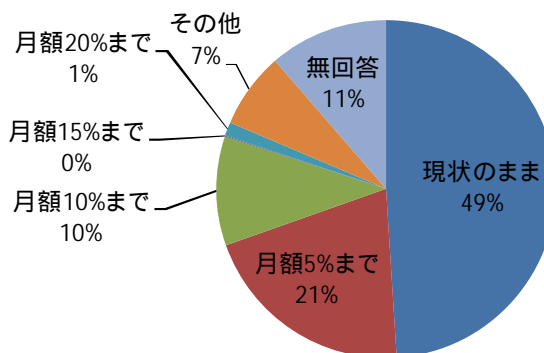
優先順位	回答数	割合
公共/住宅/事業所	107	18%
公共/事業所/住宅	290	49%
住宅/公共/事業所	59	10%
住宅/事業所/公共	27	5%
事業所/公共/住宅	29	5%
事業所/住宅/公共	10	2%
その他	6	1%
無回答	58	10%
合計	586	100%



Q 4 平成24年7月から再生可能エネルギーの固定価格買取制度が開始され、これに伴い、太陽光発電余剰電力買取経費と再生可能エネルギー買取経費を、電力を使用するすべての世帯や事業者の電力料金に促進賦課金として上乗せされるよう制度改正されました。どの程度まで促進賦課金の上乗せを負担しても良いと考えますか。

< 促進賦課金上乗せの負担限度 >

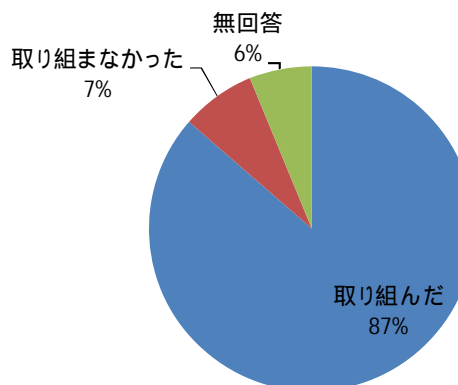
	回答数	割合
現状のまま	287	49%
月額に5%上乗せまで	121	21%
月額に10%上乗せまで	61	10%
月額に15%上乗せまで	1	0%
月額に20%上乗せまで	7	1%
その他	43	7%
無回答	66	11%
合計	586	100%



Q 5 東日本大震災以降、あなたのお宅では節電に取り組みましたか。取り組んだ場合、どのような節電をしましたか。

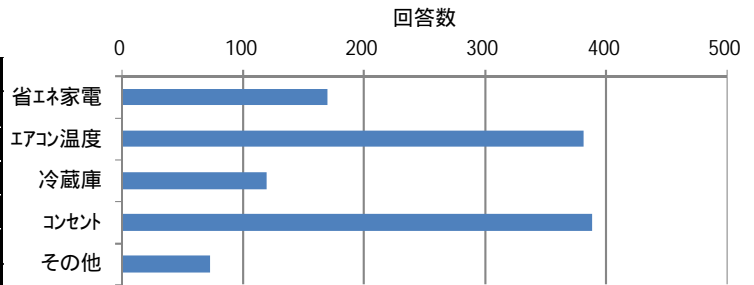
< 節電取り組み状況 >

	回答数	割合
取り組んだ	507	87%
取り組まなかった	43	7%
無回答	36	6%
合計	586	100%



< 取組み内容 >

	回答数	割合
省エネ家電への買い替え	170	34%
エアコンの温度設定	381	75%
冷蔵庫の節電	119	23%
コンセントを抜く、電源を切る	388	77%
その他	73	14%
全体	507	100%



< その他の内容 >

全般	契約電力容量の引き下げ	3
	できるだけ電気を使用しない	7
照明	不要な電灯を消す(門灯などの外灯も含む)	9
	照明をLEDに交換	14
	照明を間引く	4
	夜間用灯火(小さい太陽光発電の器具購入)	1
冷暖房	エアコンの使用時間を減らす/使わない	11
	エアコンは使用は少なく扇風機を使用	2
	エアコンからガスファンヒーターや石油ストーブへ	4
	フィルターの掃除	1
	暖房器具(カーペット、ストーブ)を使用しない	1
断熱	窓周りの断熱(フィルム、カーテン、すきま風防止)	2
	厚手のカーテン	1
その他	給湯の制限/温水使用を減らす	2
	24時間風呂を中止にした	1
	電気炊飯器からガス炊飯器にした	1
	乾燥機を使わない	1
	使用時表示(灯)コンセント購入	1
	住宅を新築し、家の保温性、エアコン、すべて一新	1
	ガスのエネファームに準ずる設備設置	1
	EVの購入 ON HOMEへの検討	1
ライフスタイル	なるべく外出する/公共施設の利用	4
	厚着、薄着など衣類で調節	3
	家族が一つの部屋に集まる	2
	グリーンカーテン	2
	家族が続けて風呂に入る	2
	湯たんぽなど	1
	家事の仕方(電気調理の使用頻度や洗濯の回数等)	1
	夕方の打ち水	1

< 取り組まなかった理由 >

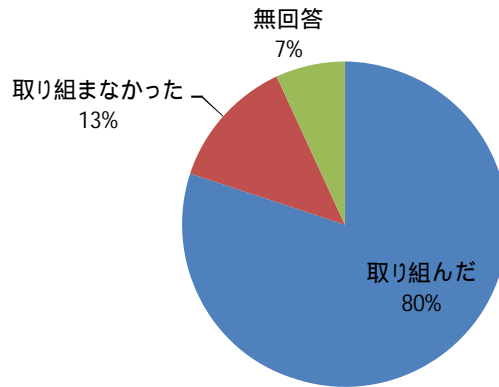
震災前から節電していたから/元々、電力使用量が少なかったから	23
省エネ家電に買い替える費用がないから	2
不在時間が長いから	1
電力使用ピーク時間帯は家にいないから	1
ヒステリックな節電ブームには加わりたくなかったから	1
震災と同時期に転居してきたから	1
高齢で家も古い(35年目)	1
家庭での意識不足	1
特に心配無いと思った	1
私も息子も足が不自由なため	1
取り組む事によって企業は困ればユーザーに転嫁すれば要が足りる 努力よりも他力願望	1
日本にいなかった	1



Q6 東日本大震災以降、あなたのお宅では節電以外にエネルギーの使用削減に取り組みましたか。取り組んだ場合、どのような削減をしましたか。

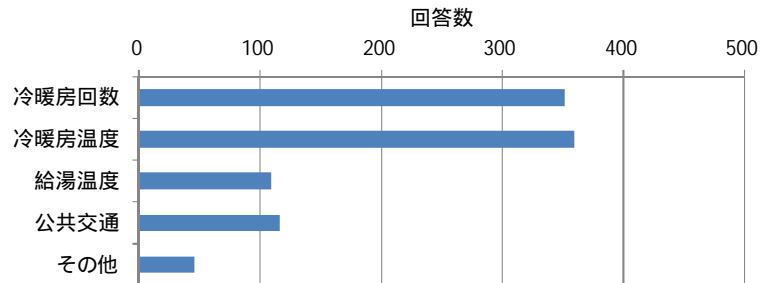
< 節電以外の取組み状況 >

	回答数	割合
取り組んだ	469	80%
取り組まなかった	77	13%
無回答	40	7%
合計	586	100%



< 取組み内容 >

	回答数	割合
冷暖房機の使用回数の減少	351	75%
冷暖房機の温度設定	360	77%
給湯器の温度設定	109	23%
公共交通機関の利用	116	25%
その他	46	10%
全体	469	100%



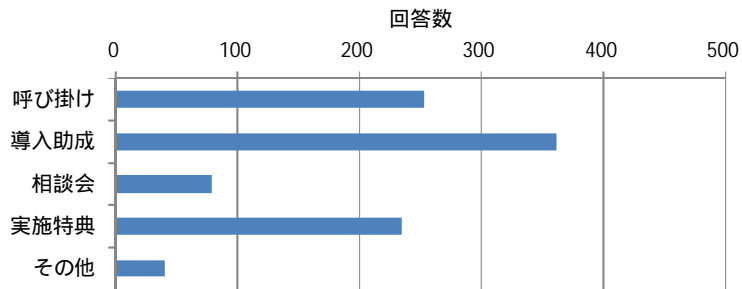
< 取り組まなかった理由 >

高齢のため	3
乳幼児がいるため	1
給湯器を昨年、「エコברים」の給湯器に換えてあった	1
車に乗らない	1
自分の生活をくずしてやるものではないと考えたため	1
一世帯には無理がある	1
必要性を感じなかった	3
今以上にやれることがない/使用量が少ない	3
電気以外に削減しようがない	6
電気以外のエネルギー削減を思いつかなかった	3
節電以外のエネルギーが何かわからない	1
電気の危機と思ったから	1

Q7 エネルギーの使用削減を促すために、区はどのような取り組みをするべきだと考えますか。該当する番号に丸印をつけてください。（複数回答可）

<エネルギー使用削減を促すために区がするべき取り組み>

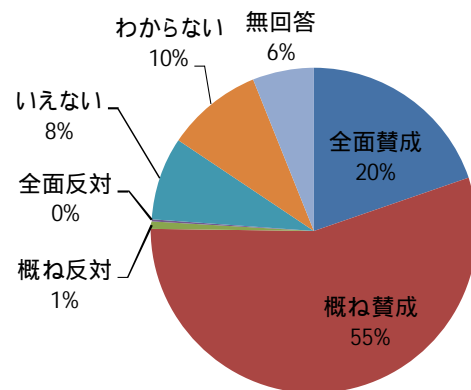
	回答数	割合
広報などで削減を呼び掛ける	253	46%
省エネ機器導入助成を実施する	362	65%
省エネに関する相談会を実施する	79	14%
省エネを実施した世帯が特典を得られる	235	42%
その他	40	7%
全体	553	



Q8 「（仮称）杉並区地域エネルギービジョン中間のまとめ（案）」について、どのように考えますか。

<ビジョン中間まとめ(案)について>

	回答数	割合
全面的に賛成である	116	20%
概ね賛成である	324	55%
概ね反対である	5	1%
全面的に反対である	1	0%
どちらともいえない	48	8%
わからない	56	10%
無回答	36	6%
合計	586	100%



## ・クロス集計結果

以下のとおり、5項目の属性と13項目の回答についてクロス集計を行った。

クロス項目

【属性】

F1 世帯人数
F1' ファミリータイプ
F2 住宅の構造
F3 住宅の築年数
F4 住宅の延床面積

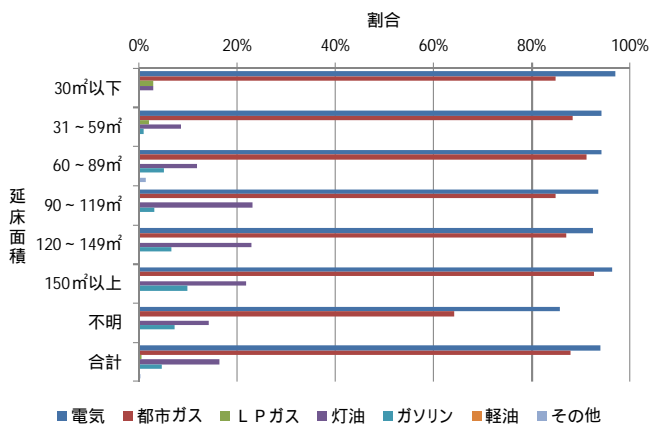
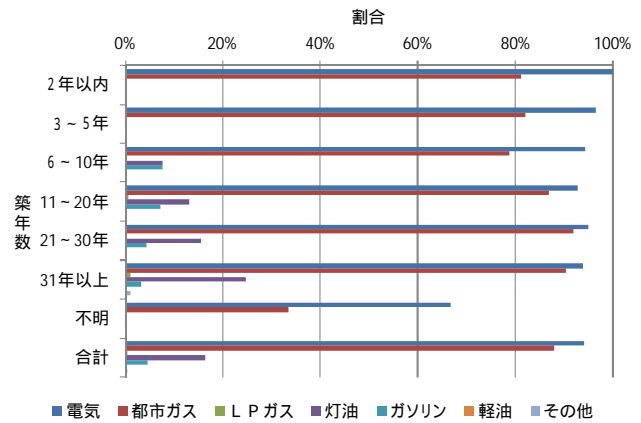
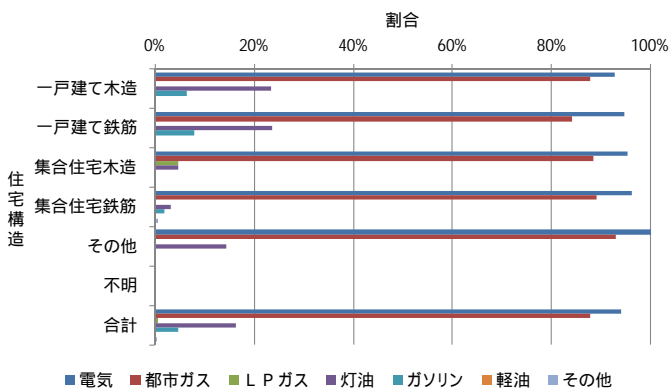
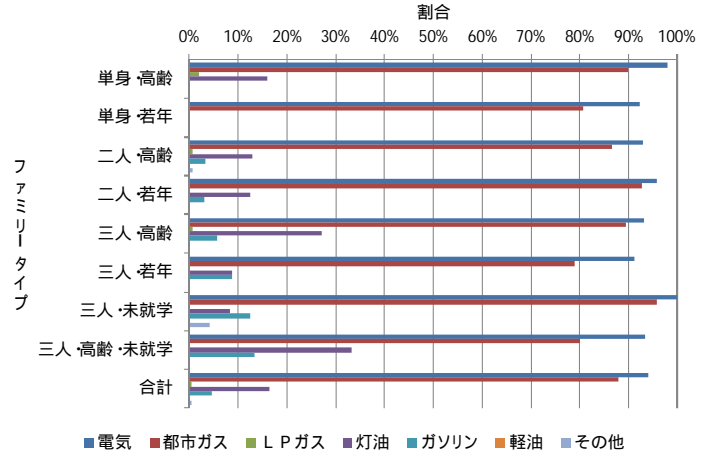
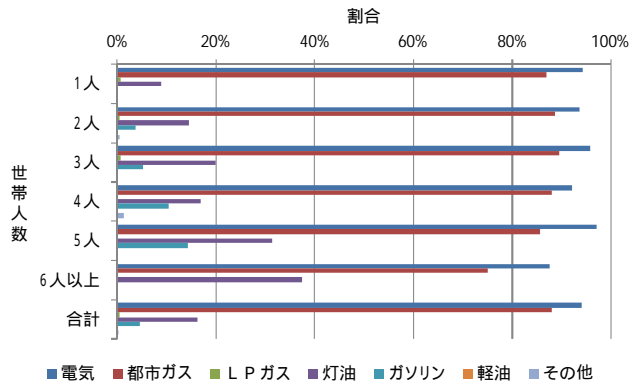
×

【回答】

F5 使用しているエネルギー
F6 契約電気容量
F7 再エネ設置状況
Q1 普及を期待する再エネ
Q2 区が導入促進すべき再エネ
Q3 再エネ設置建物優先度
Q4 再エネ促進賦課金上限
Q5 節電状況
節電取り組み内容
Q6 節電以外の省エネ状況
省エネ取り組み内容
Q7 省エネ促進策
Q8 ビジョン中間まとめ(案)

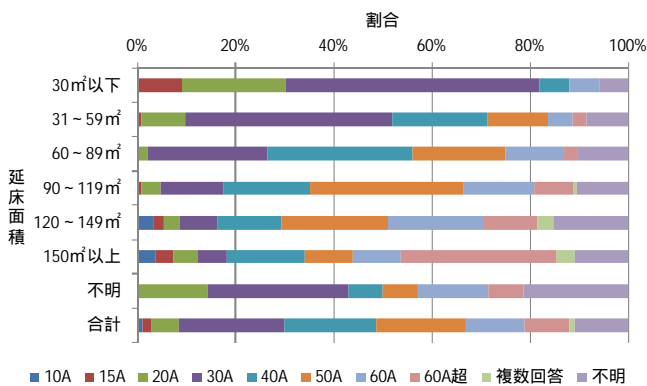
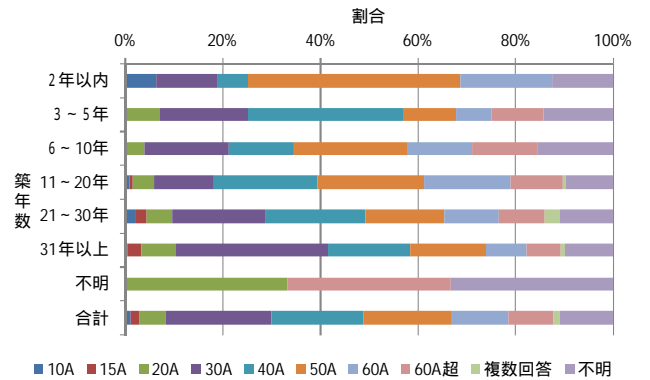
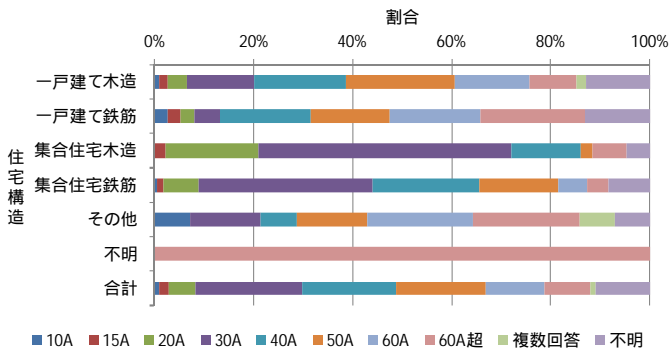
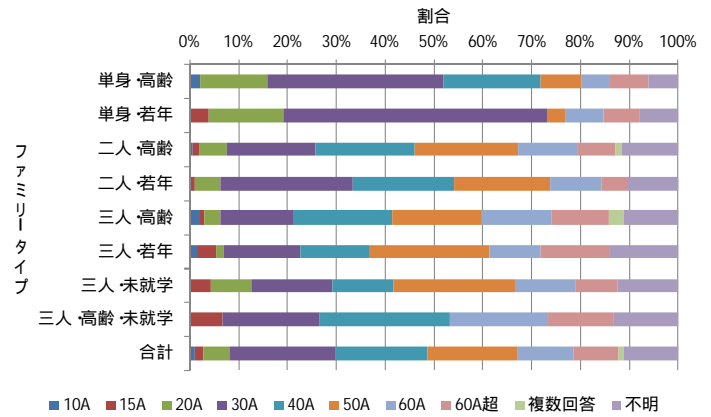
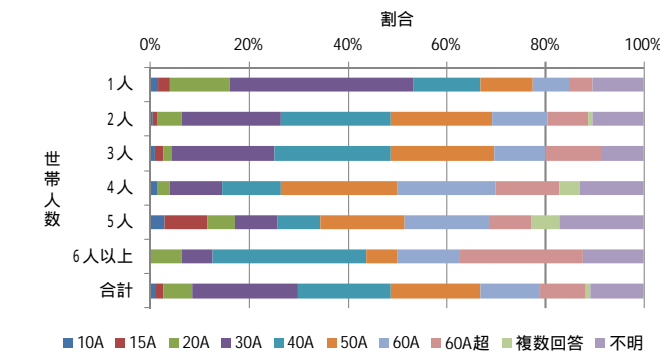
## F 5 住宅で使用しているエネルギー

- 属性に関わらず、電気と都市ガスを使用している世帯が多い。
- 「世帯人数が多い」「高齢者がいる」「一戸建て」「築年数が古い」「延床面積が広い」などの場合に灯油を使用している割合が高い傾向が見られる。



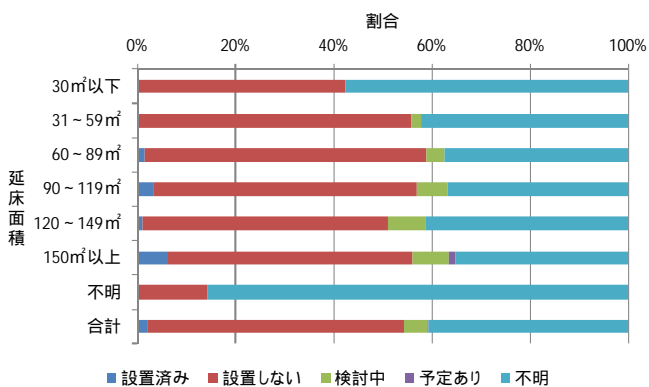
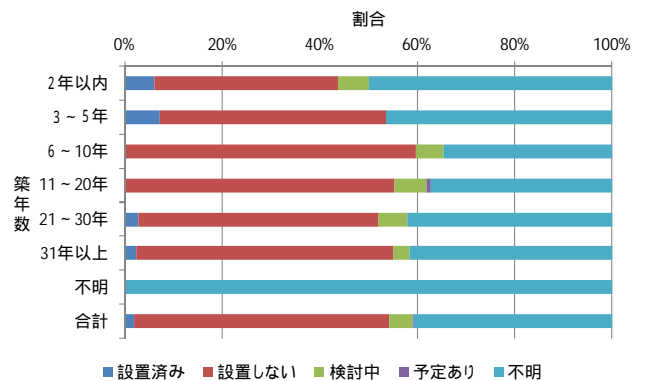
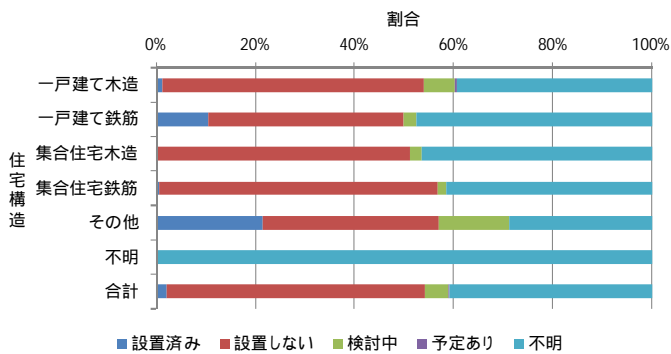
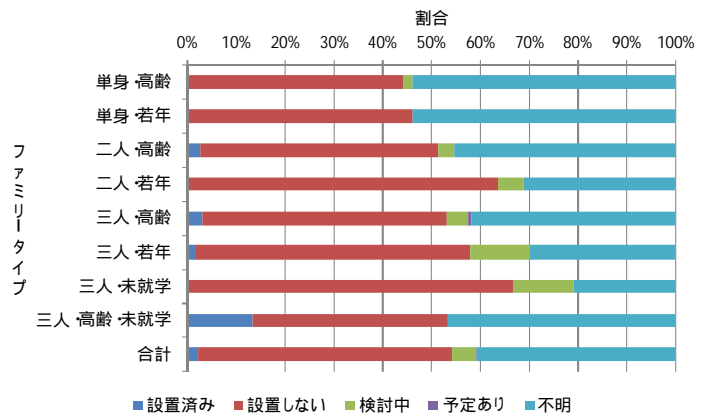
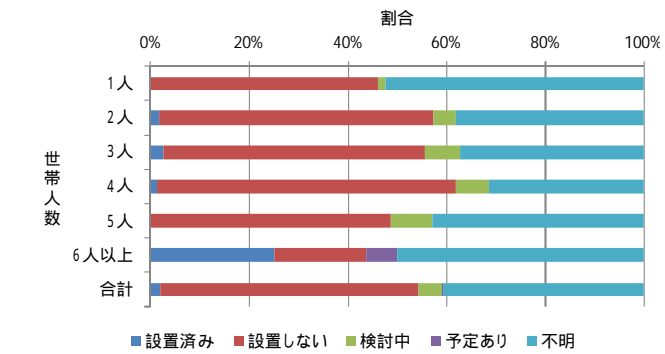
## F 6 契約電気容量

- 単身・若年世帯では契約電力容量が小さい傾向にある。家にいる時間が少ないためではないかと考えられる。
- 集合住宅や延床面積が小さい住宅では契約電力容量が小さい傾向にある。



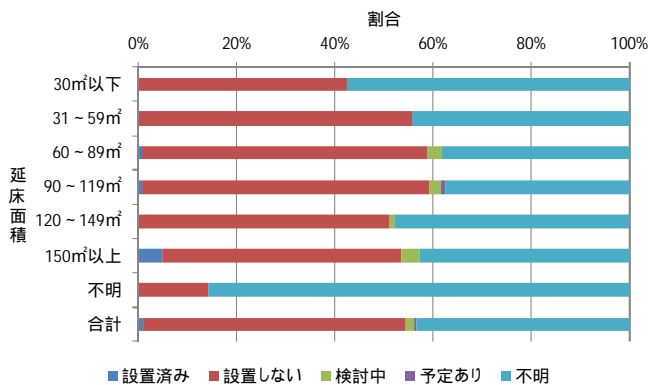
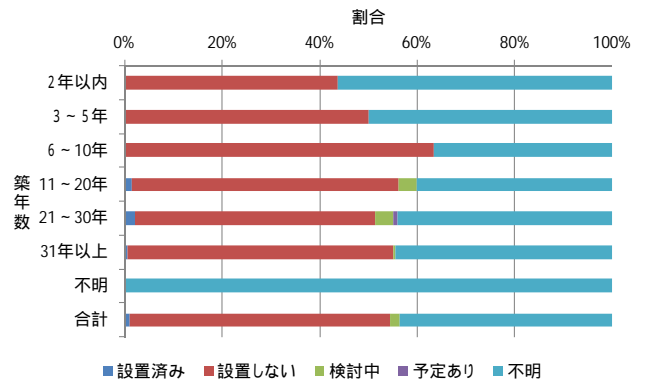
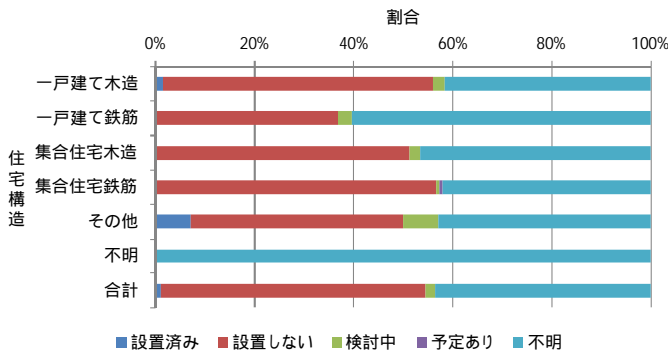
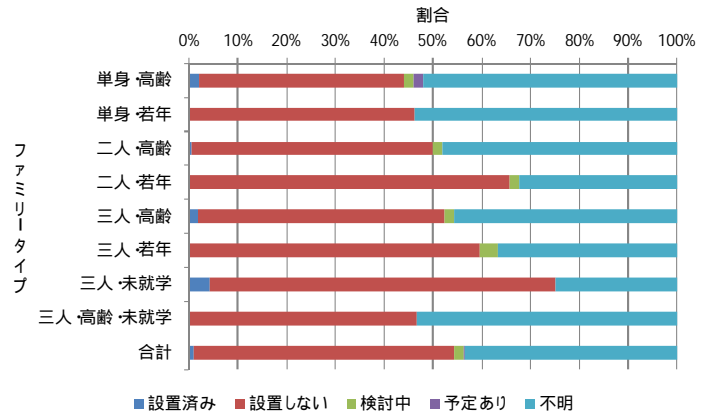
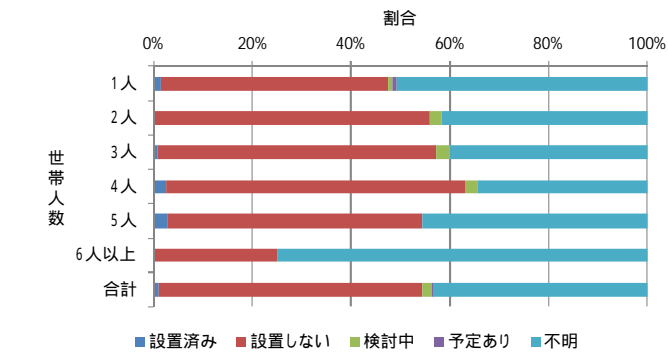
## F 7 再生可能エネルギー設置状況（太陽光発電システム）

- 「一戸建て」「築年数が新しい」「延床面積が広い」住宅で、太陽光発電システムを設置している傾向にある。



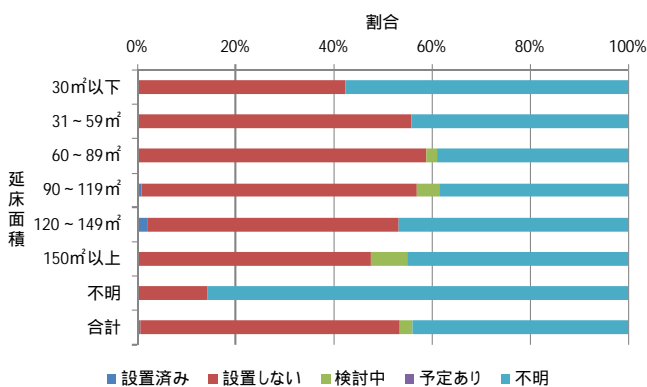
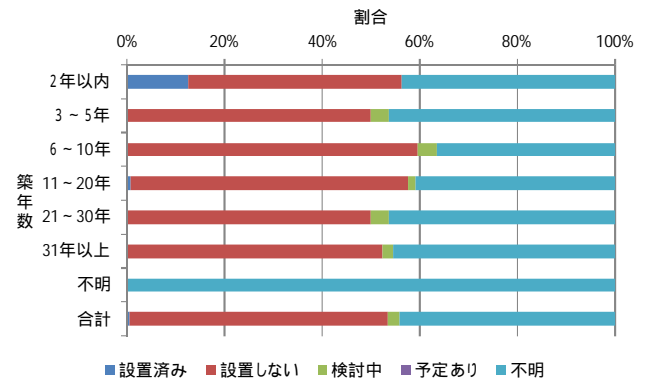
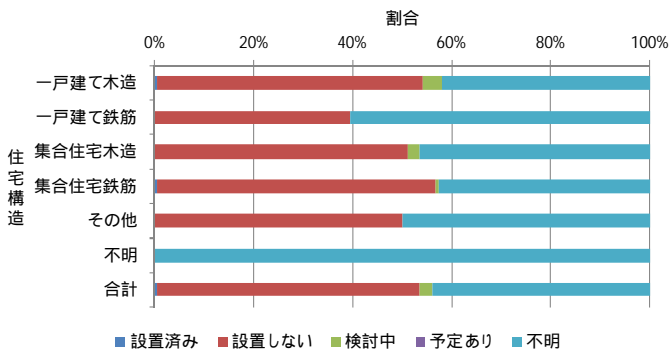
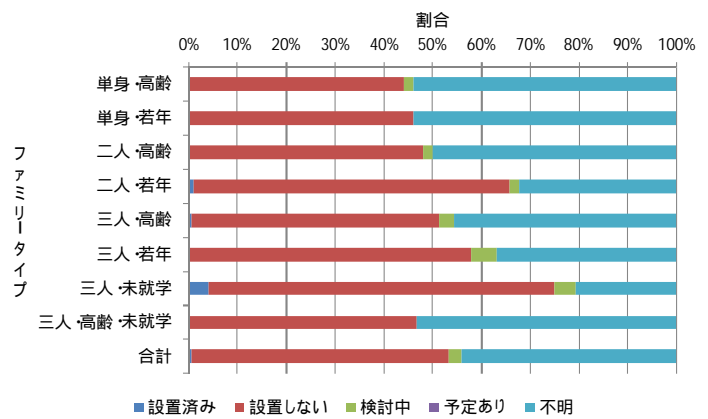
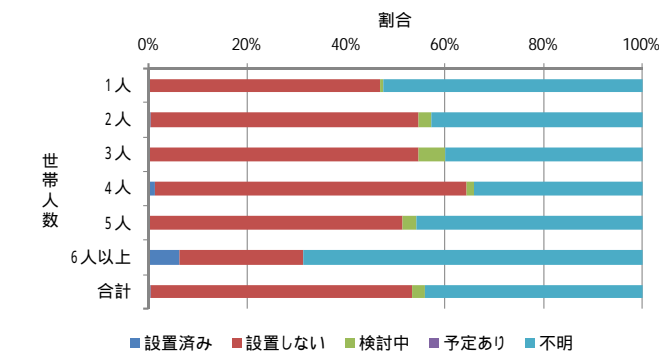
## F 7 再生可能エネルギー設置状況（太陽熱温水器）

○ 延床面積が広い住宅では、太陽熱温水器を検討している世帯がある。



## F 7 再生可能エネルギー設置状況（燃料電池）

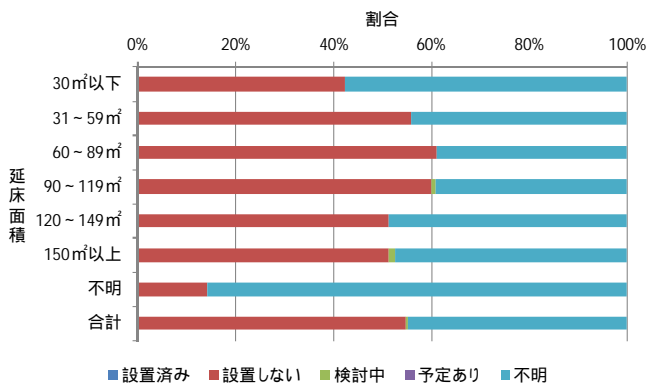
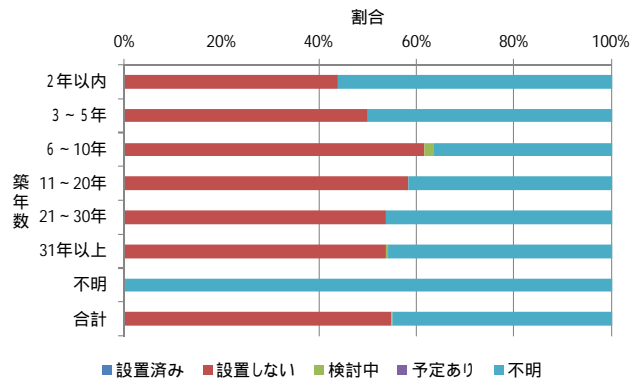
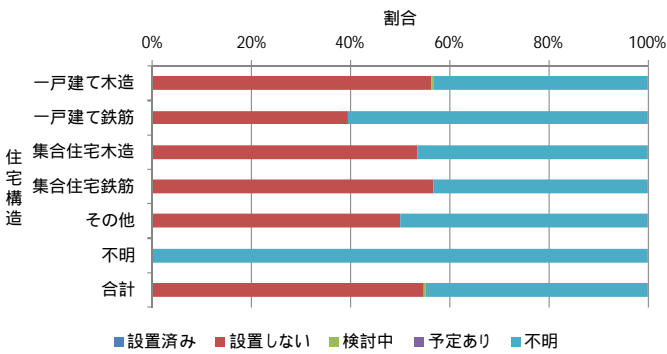
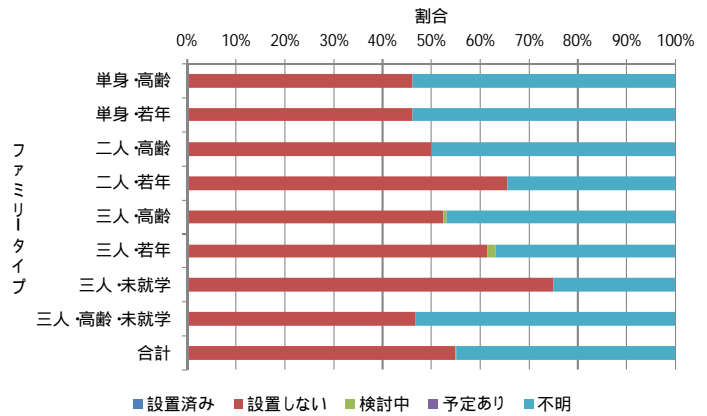
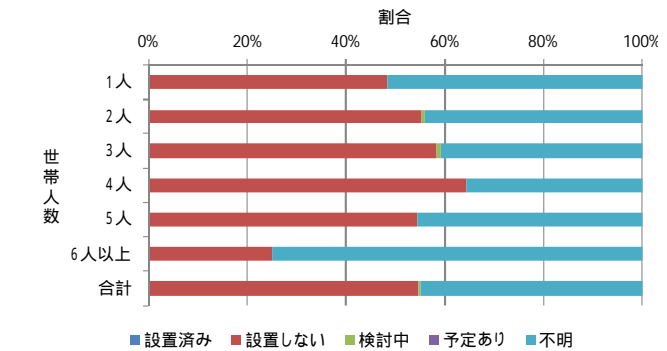
○ 延床面積が広い住宅では、燃料電池を検討している世帯がある。





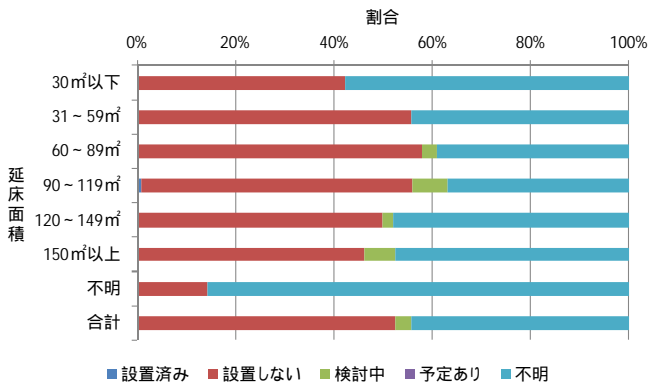
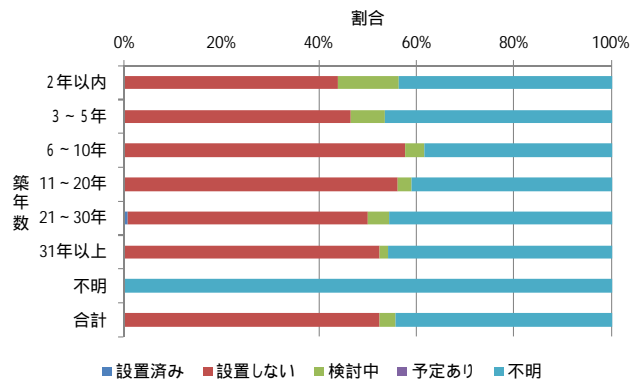
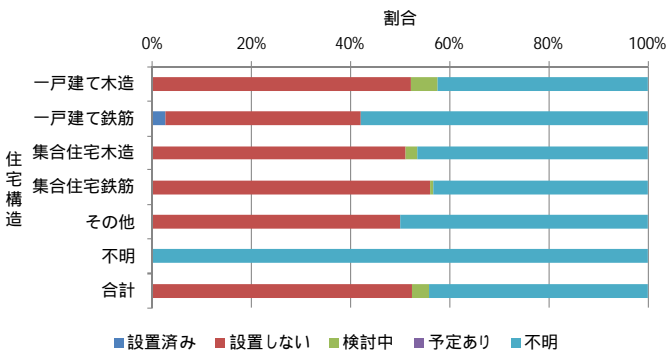
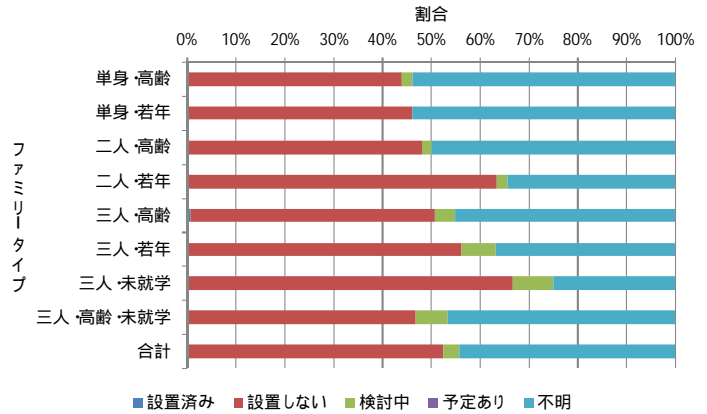
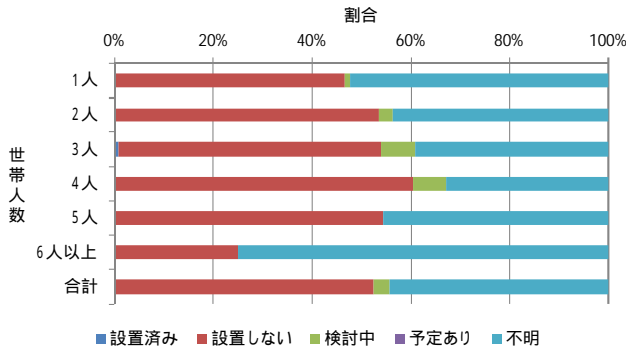
## F 7 再生可能エネルギー設置状況（風力発電）

○ どの属性においても、「設置しない」という回答がほとんどである。



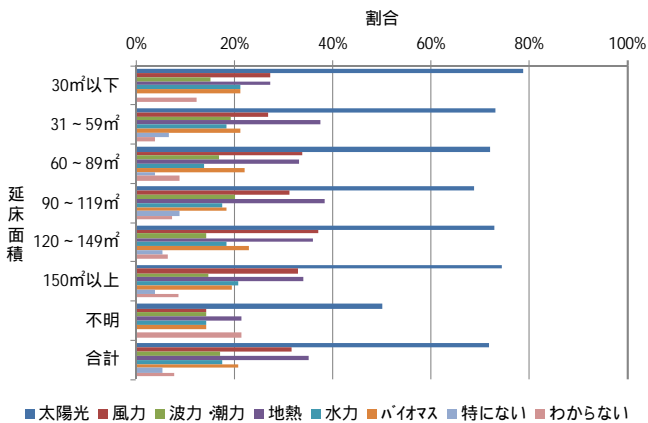
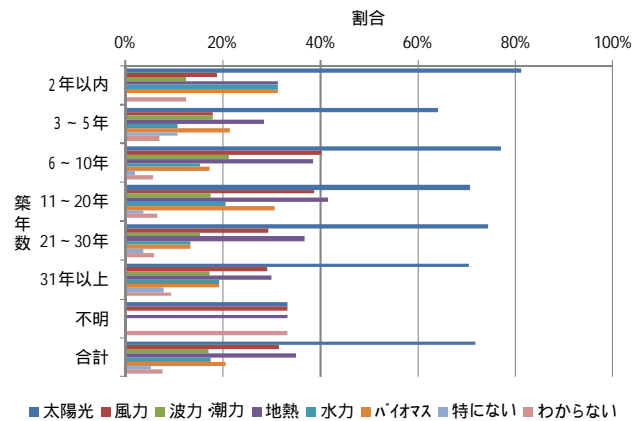
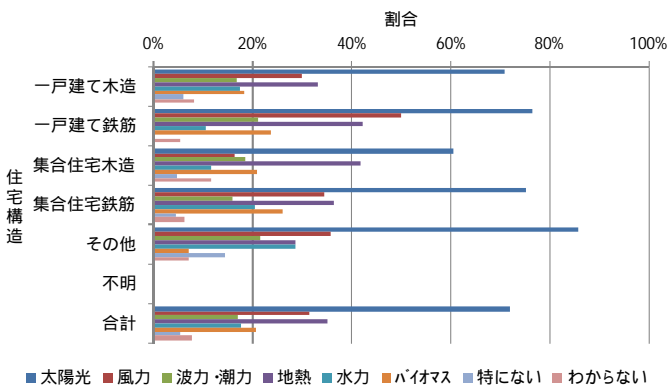
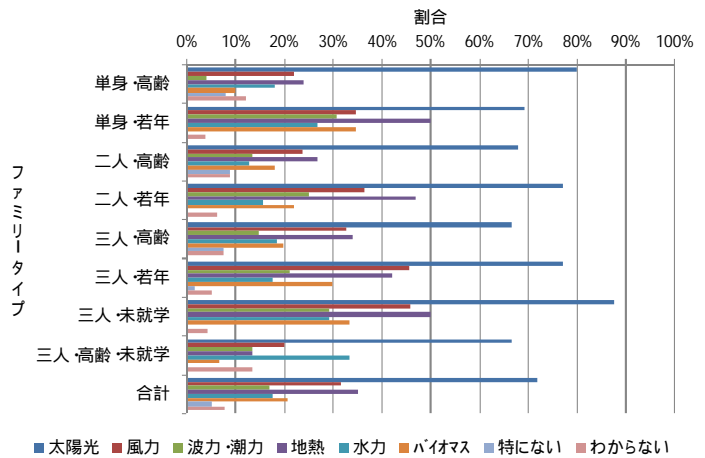
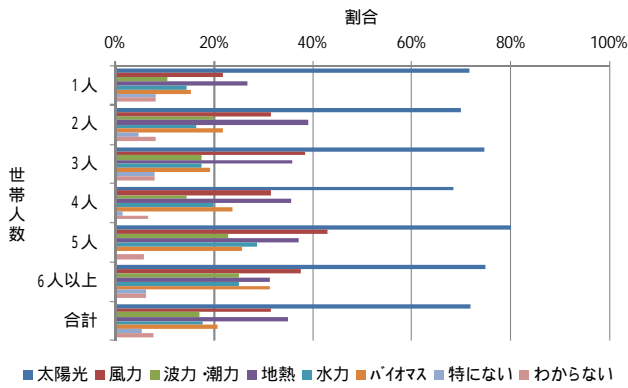
## F 7 再生可能エネルギー設置状況（蓄電池）

- 太陽光発電システムに次いで、検討中の割合が高い。
- 「一戸建て木造」「3人以上世帯」「築年数が新しい」「延床面積が広い」住宅で、蓄電池の設置を検討している傾向にある。



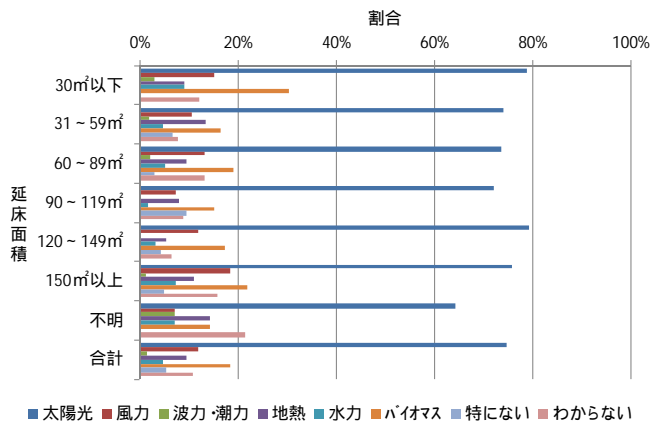
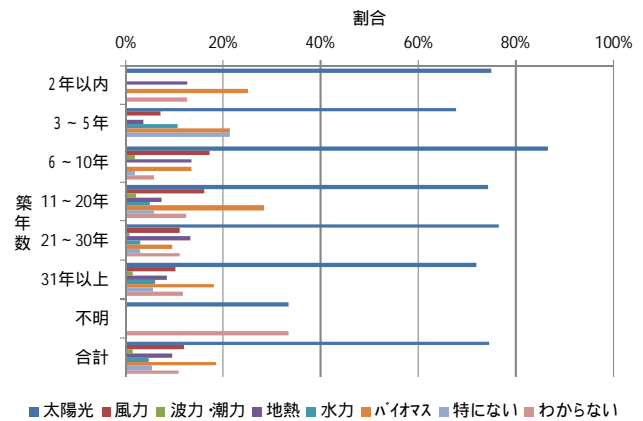
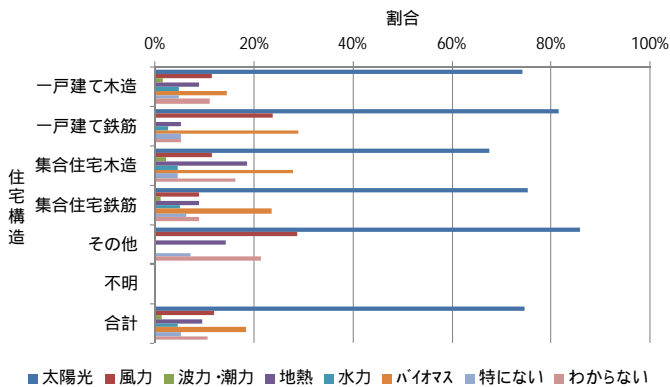
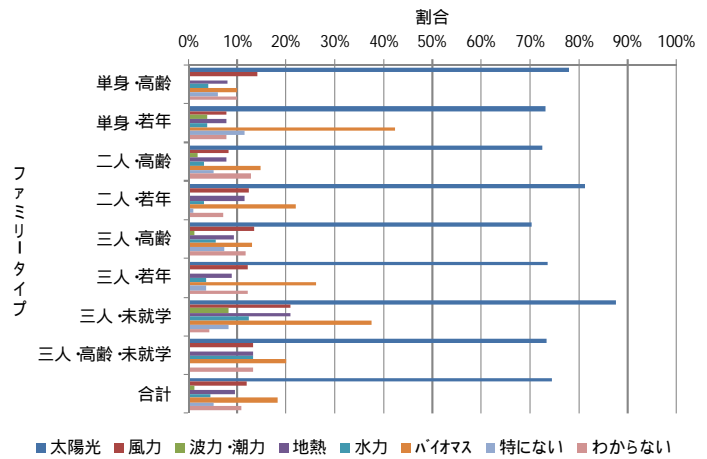
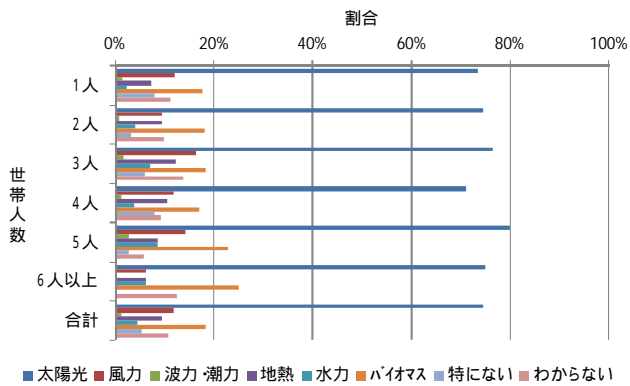
### Q1 普及を期待する再生可能エネルギー

○ 属性による大きな差はなく、太陽光の普及を期待している世帯が最も多く、次いで風力と地熱への期待が高い。



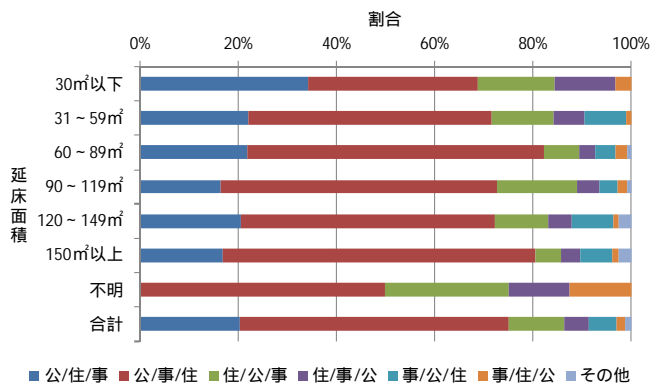
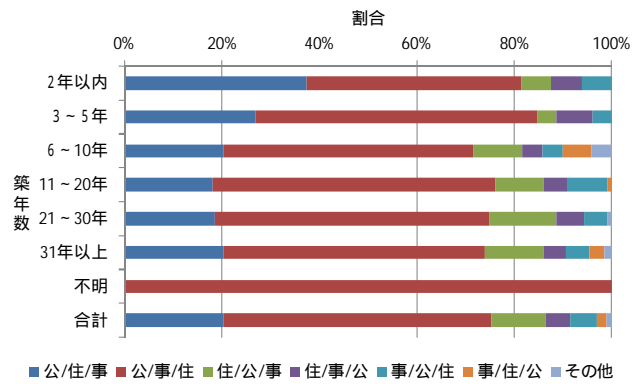
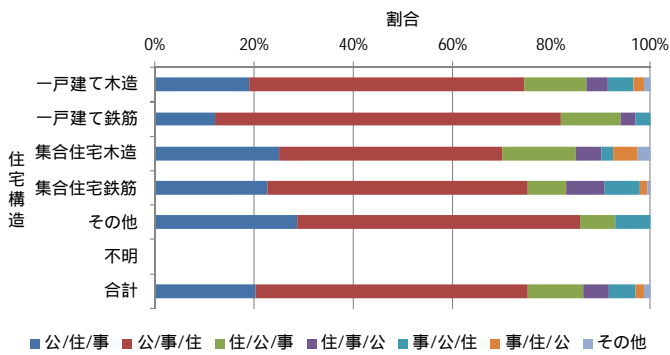
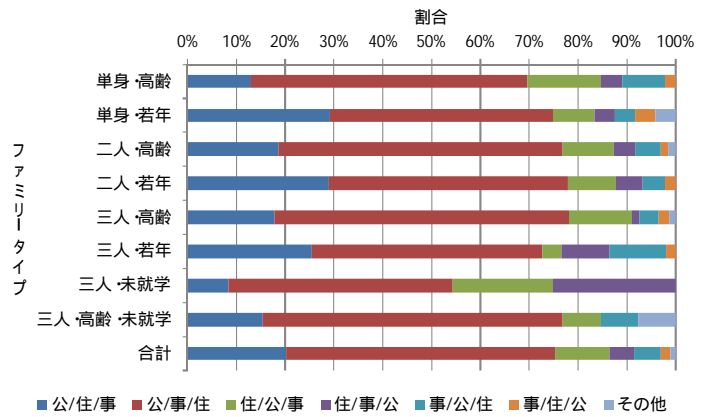
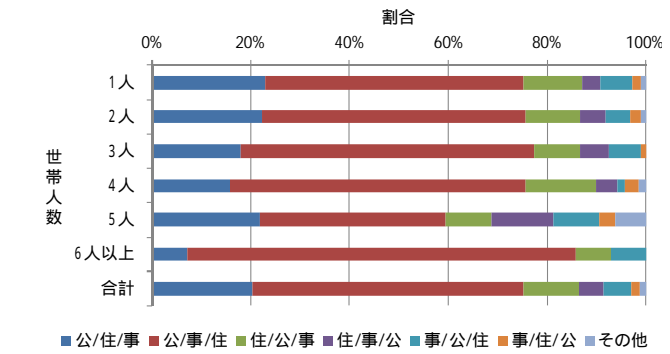
## Q2 区が導入促進すべき再生可能エネルギー

- 区が促進すべき再生可能エネルギーについても、属性による大きな差はなく、太陽光の普及を期待している世帯が特に多く、次いでバイオマスの期待が高い。



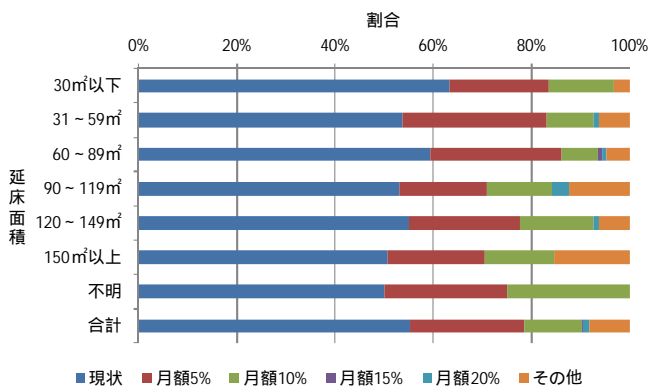
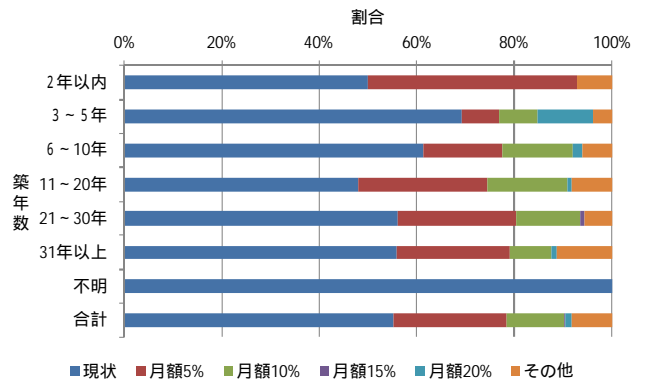
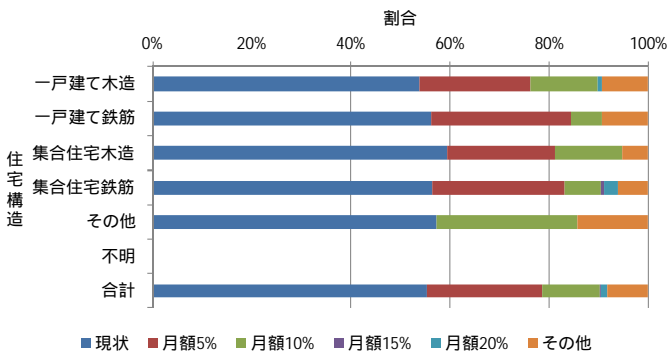
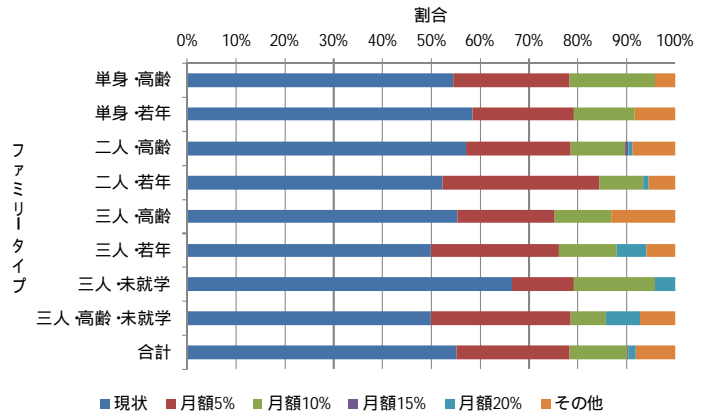
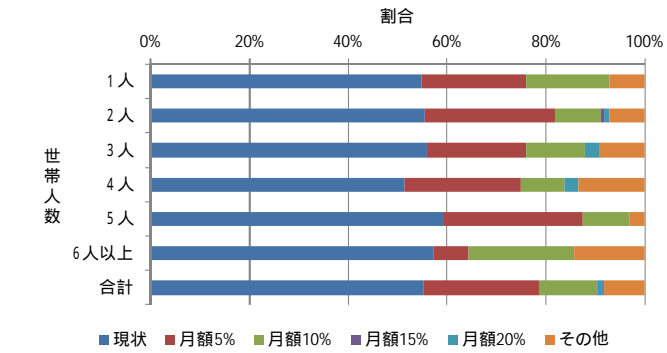
### Q3 再生可能エネルギー設置建物優先度

○ 三人以上の未就学児がいる世帯では、住宅への設置を優先した方が良いと考えている割合が高い。



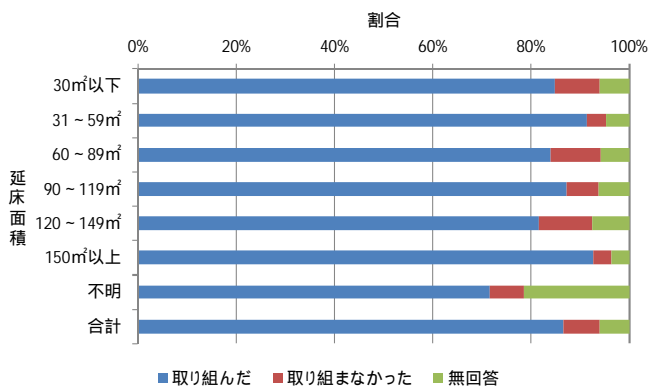
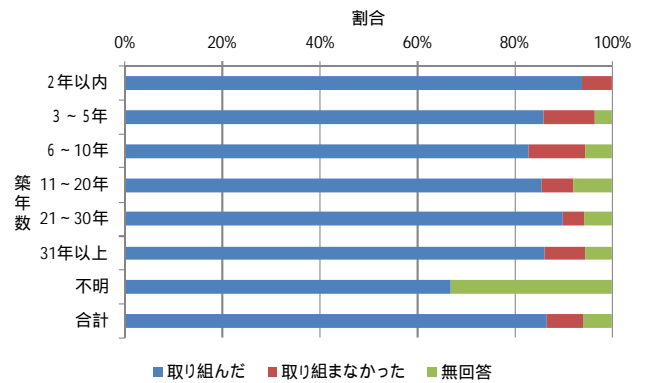
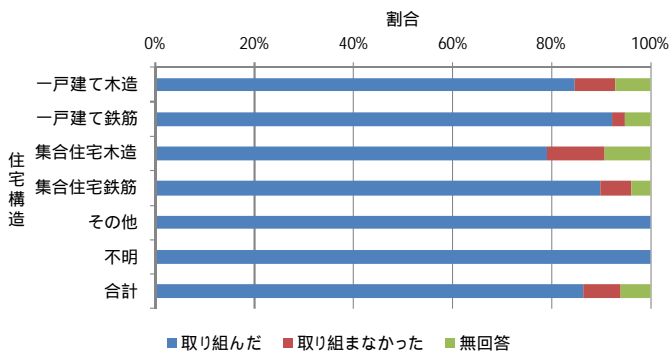
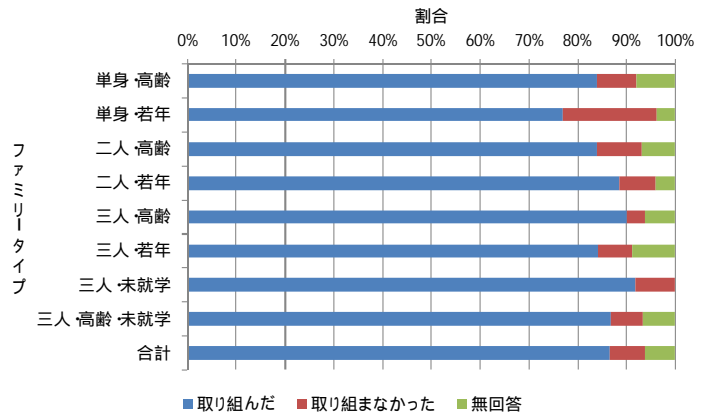
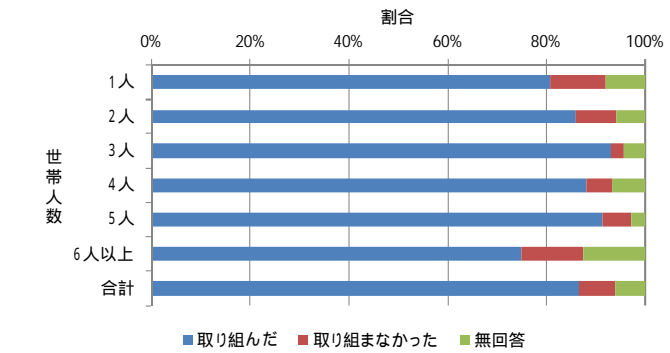
#### Q 4 再生可能エネルギー促進賦課金上限

○ 属性による大きな差はなく、賦課金は現状のままが良いとする世帯が5割以上である。



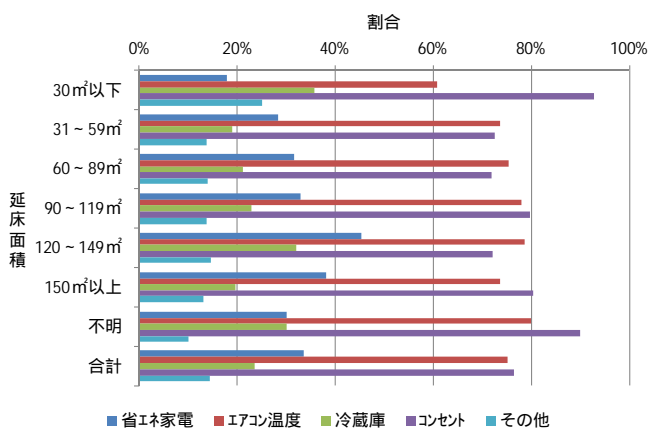
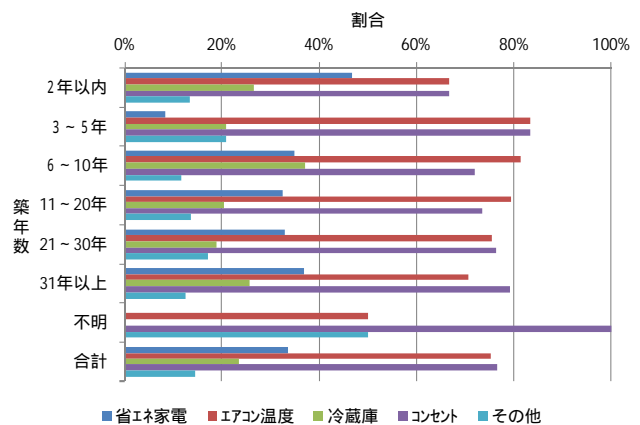
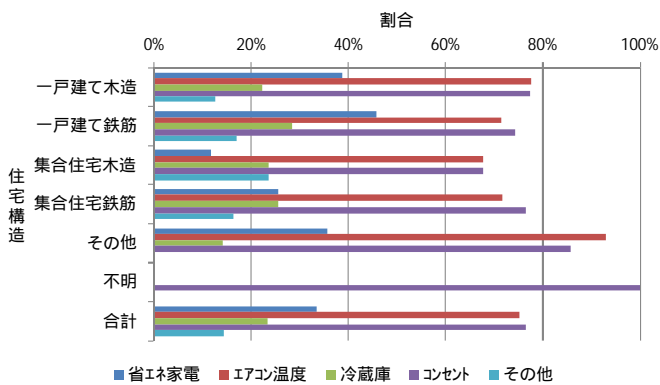
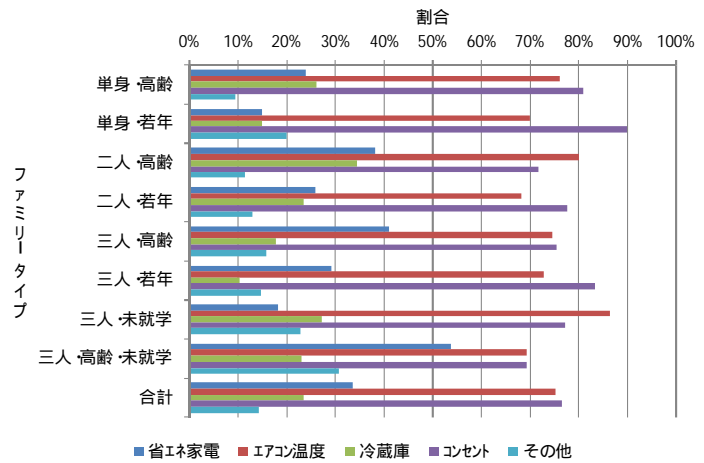
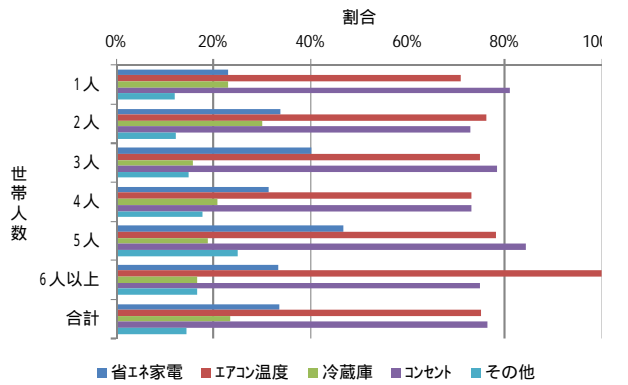
## Q5 節電状況

- 「単身・若年世帯」や「集合住宅木造」住宅では、節電に取り組まなかった割合がやや高い。



### Q5 節電取り組み内容

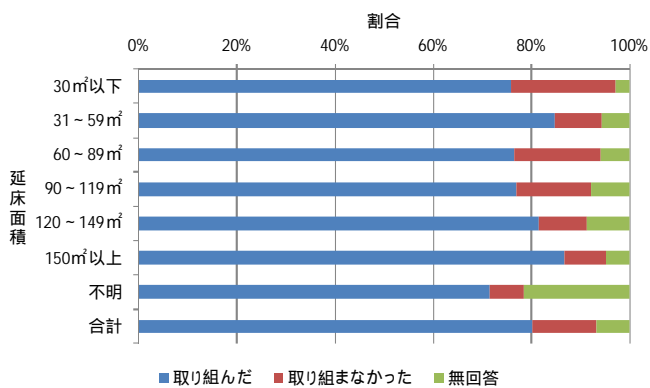
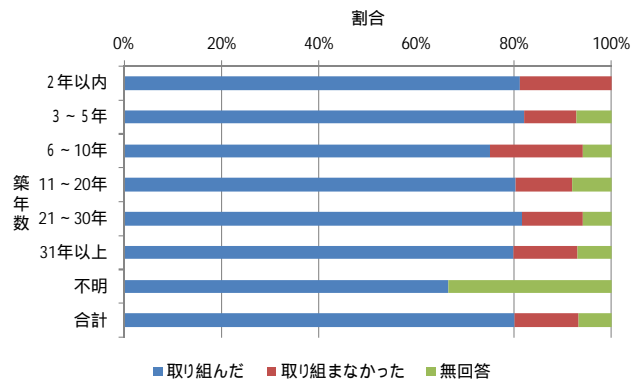
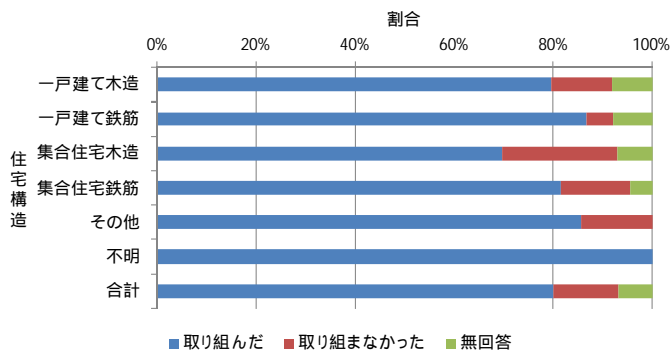
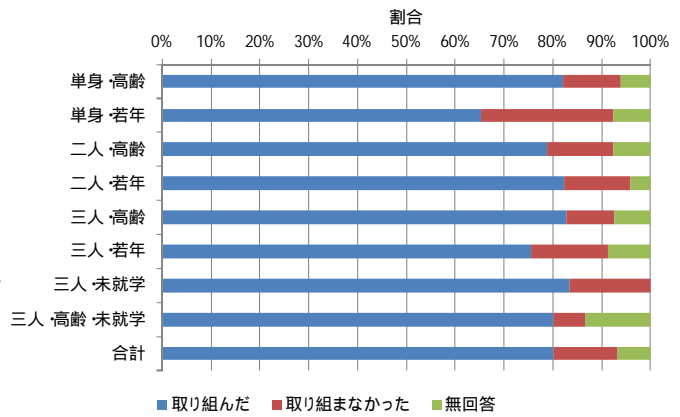
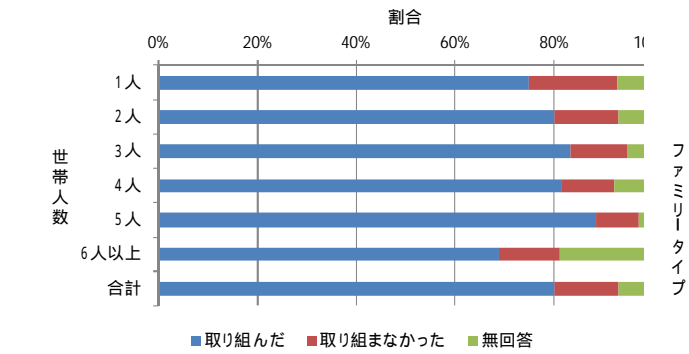
- どの世帯でも、「エアコンの温度設定」と「コンセントを抜く・電源を切る」取り組みは実施されている、特に6人以上の世帯では、「エアコンの温度設定」の取り組み割合が100%となっている。
- 「世帯人数が多い」「一戸建て」「築年数が2年以内」「延床面積が広い」世帯で、省エネ家電への買い替えが実施されている。





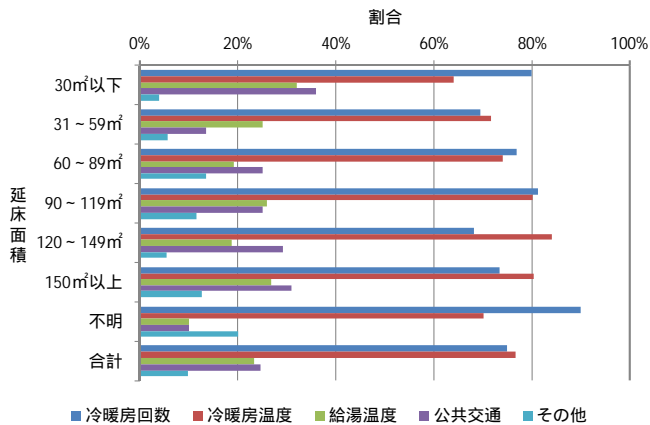
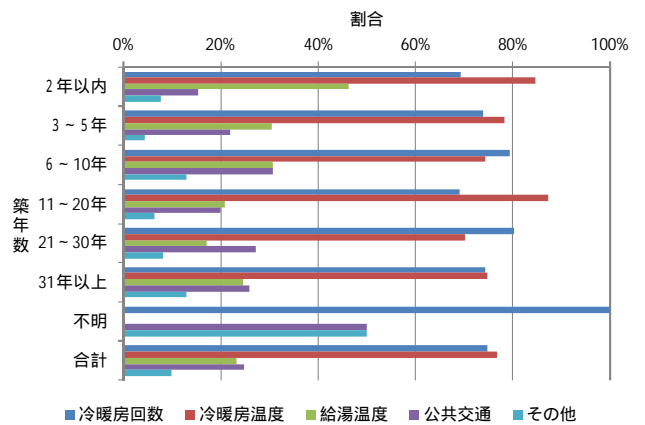
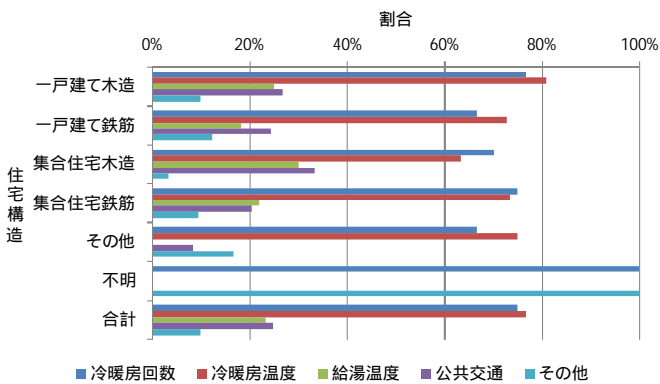
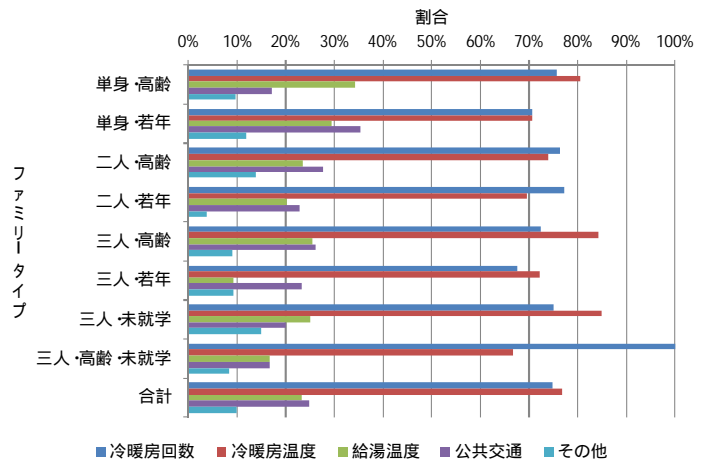
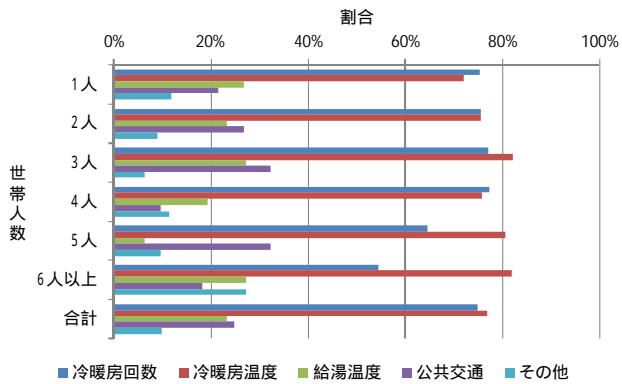
## Q6 節電以外の省エネ状況

- 「単身・若年世帯」や「集合住宅木造」「延床面積が狭い」住宅では、節電に取り組まなかった割合がやや高い。



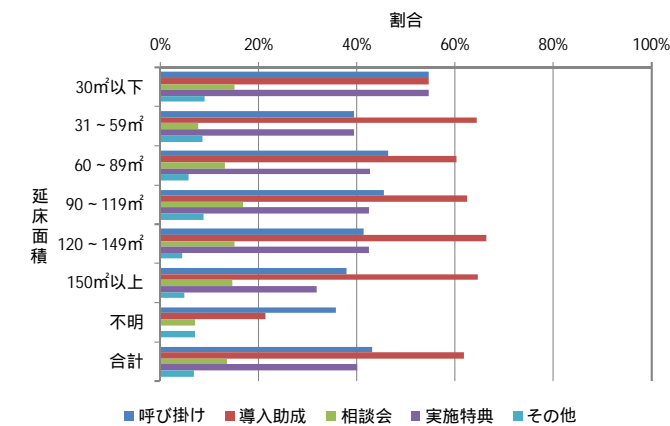
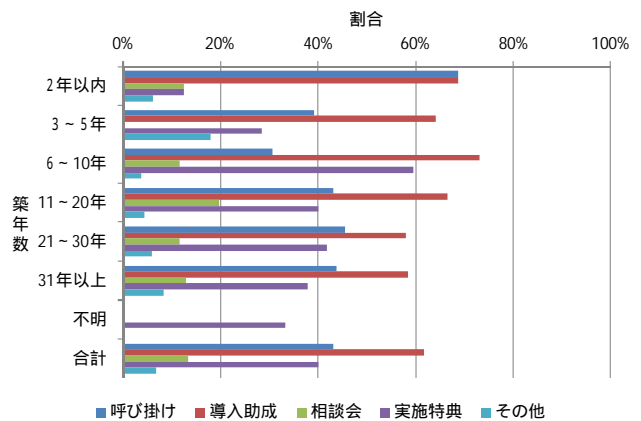
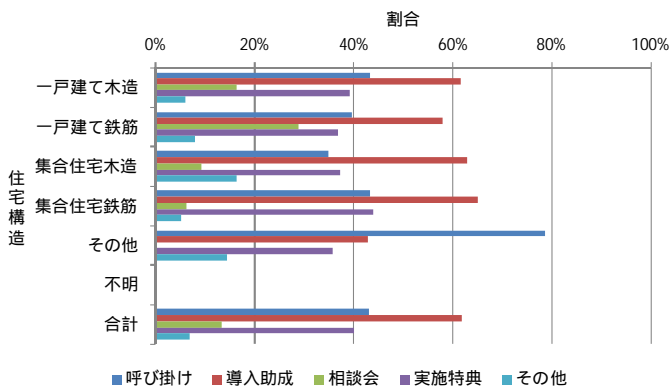
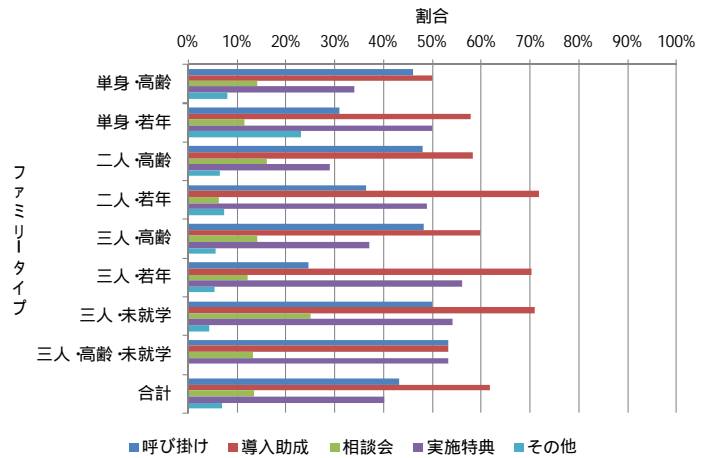
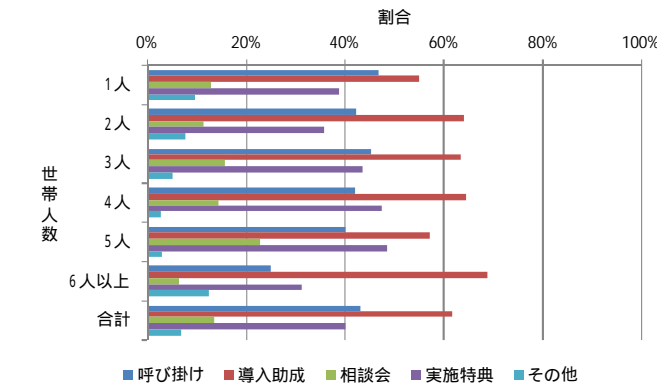
### Q6 節電以外の取組み内容

- 属性に関わらず、「冷暖房機の使用回数の減少」と「冷暖房機器の温度設定」は実施されている。



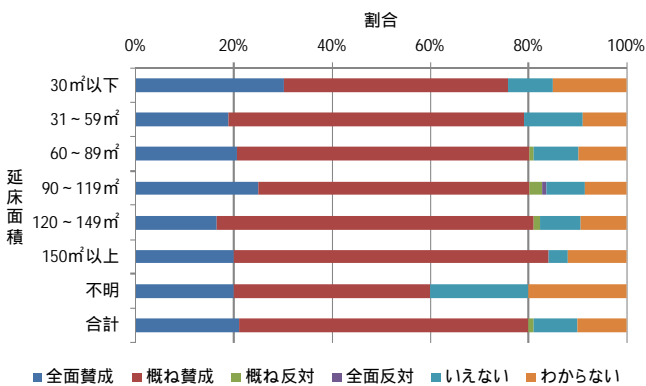
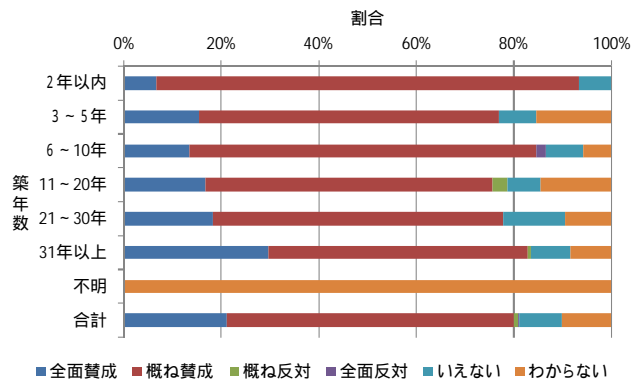
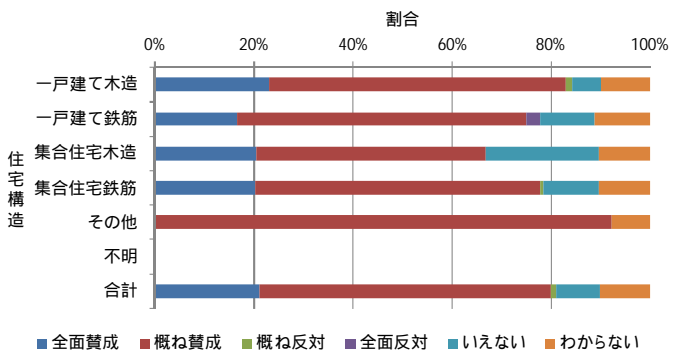
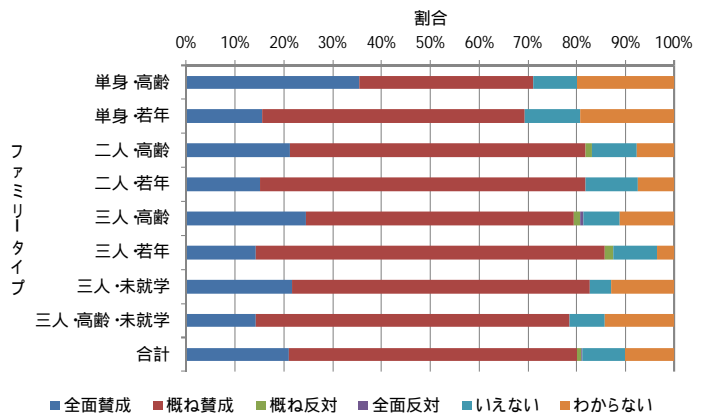
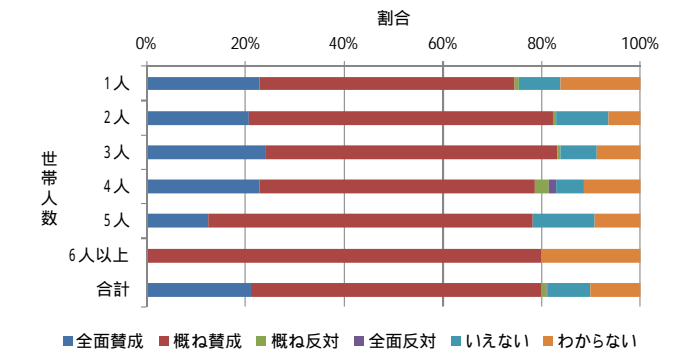
## Q7 省エネ促進策

- 属性に関わらず、「省エネ機器導入助成を実施する」に区は取り組むべきだと回答している世帯が最も多く、次いで「広報などで削減を呼び掛ける」「省エネを実施した世帯が特典を得られる」という回答が多い。



### Q 8 ビジョン中間まとめ(案)について

- どの世帯においても7～8割程度の世帯が、ビジョン中間のまとめ(案)に賛成している。特に「単身・高齢世帯」では、「全面的に賛成である」の割合が高い。



．エネルギー消費量単純集計結果

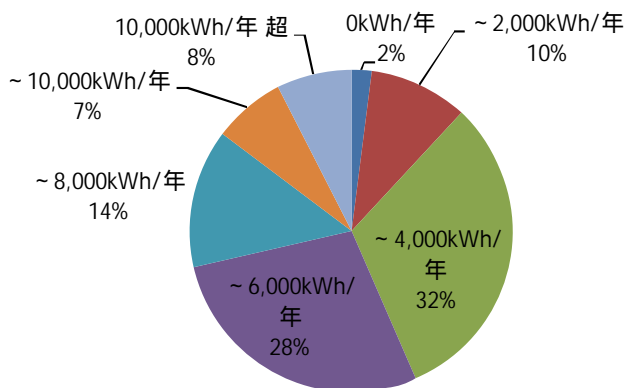
集計対象世帯数：504世帯

各世帯のエネルギー消費量は2年分を平均して1年分を算出している。データが2年未満の場合は1年間分を抽出し、データが1年未満の場合は月平均×12ヶ月を1年分としている。

1年間のエネルギー消費量

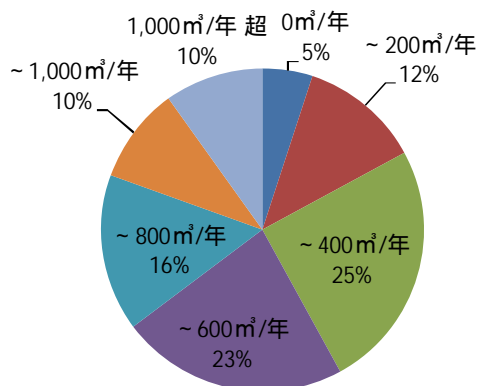
< 電気 >

	世帯数	割合
0kWh/年	10	2%
～2,000kWh/年	50	10%
～4,000kWh/年	159	32%
～6,000kWh/年	141	28%
～8,000kWh/年	70	14%
～10,000kWh/年	36	7%
10,000kWh/年超	38	8%
合計	504	100%



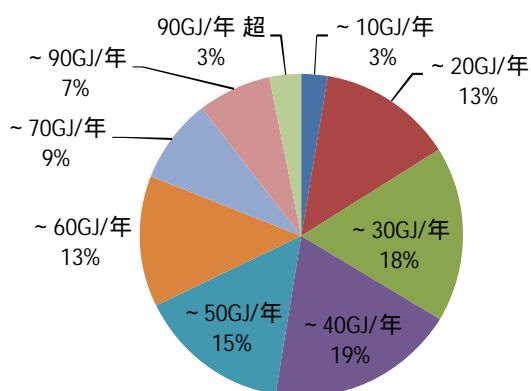
< 都市ガス >

	世帯数	割合
0m <sup>3</sup> /年	25	5%
～200m <sup>3</sup> /年	61	12%
～400m <sup>3</sup> /年	126	25%
～600m <sup>3</sup> /年	114	23%
～800m <sup>3</sup> /年	80	16%
～1,000m <sup>3</sup> /年	48	10%
1,000m <sup>3</sup> /年超	50	10%
合計	504	100%



< 電気 + 都市ガス >

	世帯数	割合
～10GJ/年	13	3%
～20GJ/年	68	13%
～30GJ/年	89	18%
～40GJ/年	95	19%
～50GJ/年	77	15%
～60GJ/年	66	13%
～70GJ/年	43	9%
～90GJ/年	37	7%
90GJ/年超	16	3%
合計	504	100%



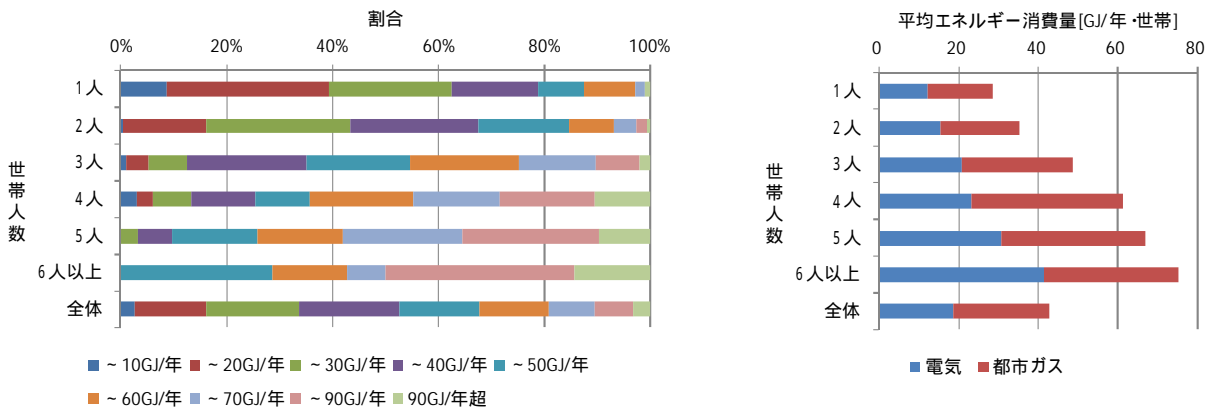
## 区民アンケート属性とエネルギー消費量のクロス集計結果

### F1 世帯人数 × エネルギー消費量

- 世帯人数が多くなるほど、エネルギー消費量は多くなる傾向にある。なお、世帯人数が多くなるほど、1人あたりのエネルギー消費量は少くなる傾向にある。

	1年間のエネルギー消費量										平均エネルギー消費量[GJ/年・世帯]		
	~10GJ/年	~20GJ/年	~30GJ/年	~40GJ/年	~50GJ/年	~60GJ/年	~70GJ/年	~90GJ/年	90GJ/年超	合計	電気	都市ガス	合計
1人	9	32	24	17	9	10	2	0	1	104	12.3	16.3	28.5
2人	1	30	52	46	33	16	8	4	1	191	15.5	19.7	35.2
3人	1	4	7	22	19	20	14	8	2	97	20.7	28.0	48.7
4人	2	2	5	8	7	13	11	12	7	67	23.2	38.0	61.2
5人	0	0	1	2	5	5	7	8	3	31	30.8	36.3	67.1
6人以上	0	0	0	0	4	2	1	5	2	14	41.5	33.8	75.3
全体	13	68	89	95	77	66	43	37	16	504	18.5	24.4	43.0

回答用紙に記載されている人数（未回答の場合はリスト掲載人数）

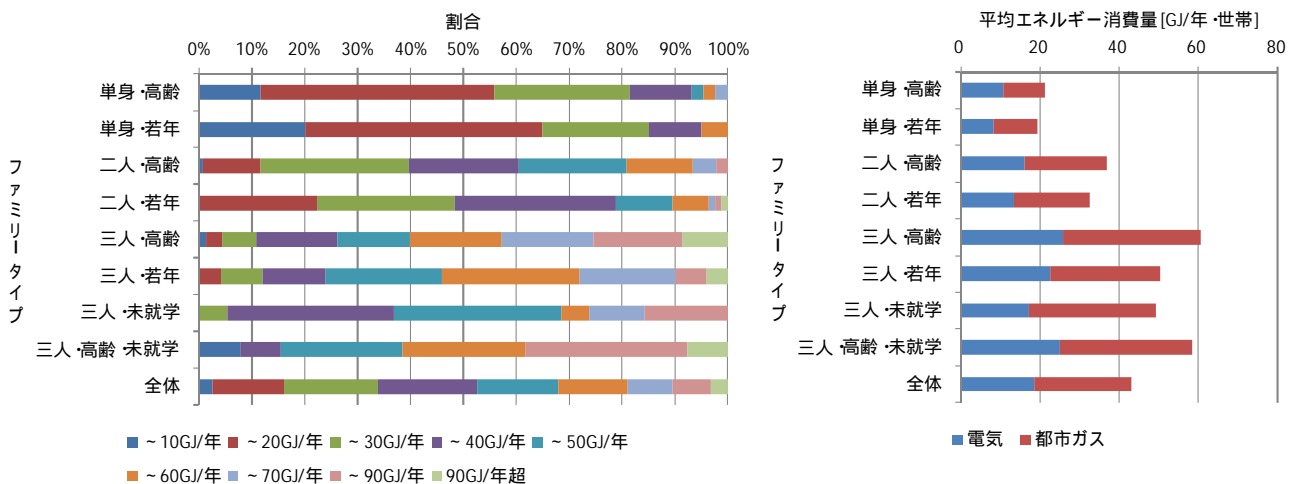


### F1' ファミリータイプ × エネルギー消費量

- 高齢世帯の方が若年世帯よりもエネルギー消費量が多い傾向にある。

	1年間のエネルギー消費量										平均エネルギー消費量[GJ/年・世帯]		
	~10GJ/年	~20GJ/年	~30GJ/年	~40GJ/年	~50GJ/年	~60GJ/年	~70GJ/年	~90GJ/年	90GJ/年超	合計	電気	都市ガス	合計
単身・高齢	5	19	11	5	1	1	1	0	0	43	10.8	10.6	21.3
単身・若年	4	9	4	2	0	1	0	0	0	20	8.5	10.9	19.4
二人・高齢	1	15	38	28	28	17	6	3	0	136	16.2	20.6	36.8
二人・若年	0	19	22	26	9	6	1	1	1	85	13.4	19.1	32.5
三人・高齢	2	4	9	21	19	24	24	23	12	138	25.9	34.6	60.5
三人・若年	0	2	4	6	11	13	9	3	2	50	22.7	27.8	50.4
三人・未就学	0	0	1	6	6	1	2	3	0	19	17.2	32.1	49.4
三人・高齢・未就学	1	0	0	1	3	3	0	4	1	13	24.8	33.8	58.6
全体	13	68	89	95	77	66	43	37	16	504	18.5	24.4	43.0

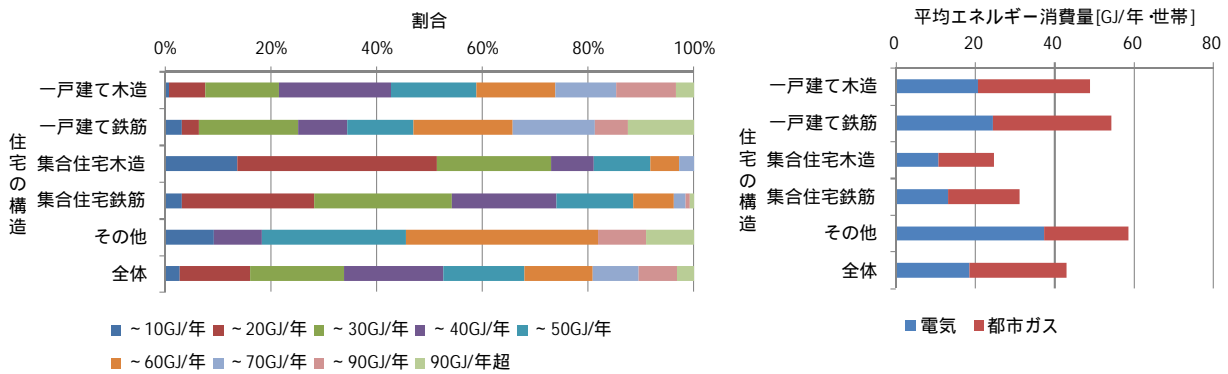
リストに掲載されている家族構成を基に一部修正



## F 2 住宅の構造 × エネルギー消費量

- 集合住宅のエネルギー消費量は、戸建の半分程度である。
- また、木造よりも鉄筋造の方がエネルギー消費量が多い傾向にある。  
おそらく、鉄筋造の方が木造よりも延床面積が広いのではないかと。

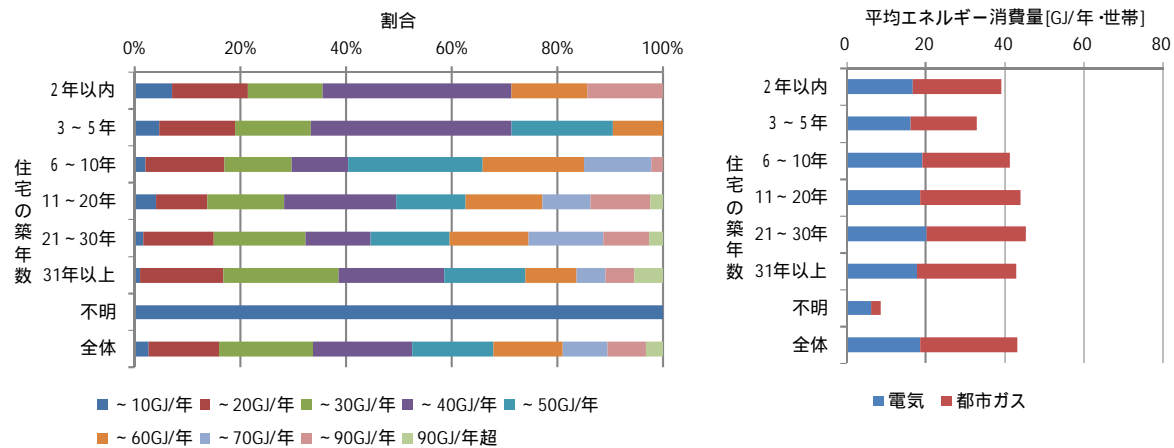
	1年間のエネルギー消費量										平均エネルギー消費量[GJ/年・世帯]		
	~10GJ/年	~20GJ/年	~30GJ/年	~40GJ/年	~50GJ/年	~60GJ/年	~70GJ/年	~90GJ/年	90GJ/年超	合計	電気	都市ガス	合計
一戸建て木造	2	20	41	62	47	44	34	33	10	293	20.5	28.3	48.8
一戸建て鉄筋	1	1	6	3	4	6	5	2	4	32	24.3	30.0	54.3
集合住宅木造	5	14	8	3	4	2	1	0	0	37	10.8	13.8	24.6
集合住宅鉄筋	4	33	34	26	19	10	3	1	1	131	13.2	17.8	31.0
その他	1	0	0	1	3	4	0	1	1	11	37.1	21.5	58.6
全体	13	68	89	95	77	66	43	37	16	504	18.5	24.4	43.0



## F 3 住宅の築年 × エネルギー消費量

- 住宅の築年数によるエネルギー消費量の差はあまり見られない。

	1年間のエネルギー消費量										平均エネルギー消費量[GJ/年・世帯]		
	~10GJ/年	~20GJ/年	~30GJ/年	~40GJ/年	~50GJ/年	~60GJ/年	~70GJ/年	~90GJ/年	90GJ/年超	合計	電気	都市ガス	合計
2年以内		2	2	5	0	2	0	2	0	14	16.7	22.4	39.1
3~5年	1	3	3	8	4	2	0	0	0	21	16.1	16.7	32.8
6~10年	1	7	6	5	12	9	6	1	0	47	19.2	21.9	41.1
11~20年	5	12	18	26	16	18	11	14	3	123	18.7	25.3	44.0
21~30年	2	15	20	14	17	17	16	10	3	114	20.1	25.2	45.3
31年以上	2	29	40	37	28	18	10	10	10	184	17.8	25.2	42.9
不明	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	6.2	2.4	8.6
全体	13	68	89	95	77	66	43	37	16	504	18.5	24.4	43.0

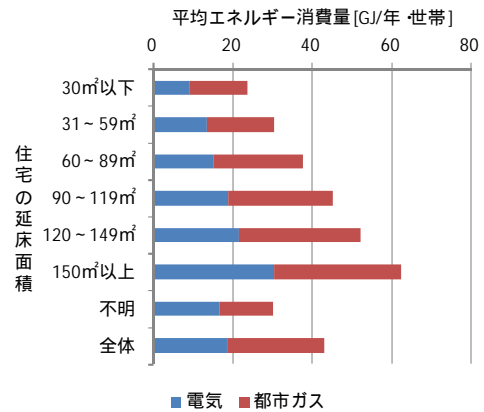
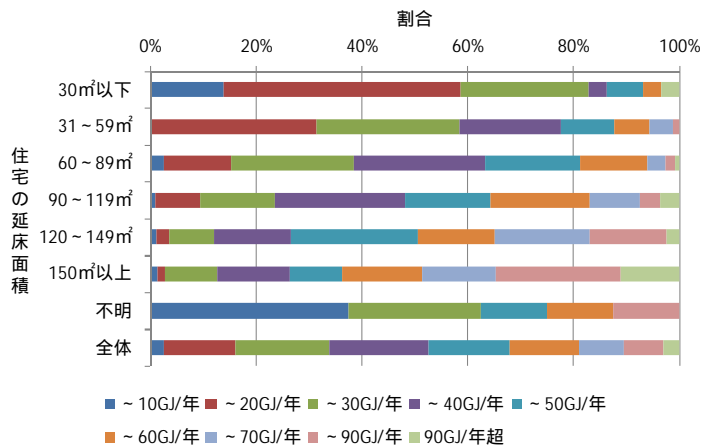


#### F 4 住宅の延床面積 × エネルギー消費量

○ 延床面積が広がるほど、エネルギー消費量が多い傾向にある。

エネルギー消費原単位（1㎡あたりのエネルギー消費量）は、延床面積が広いほど小さくなるはず。

	1年間のエネルギー消費量										平均エネルギー消費量[GJ/年・世帯]		
	～10GJ/年	～20GJ/年	～30GJ/年	～40GJ/年	～50GJ/年	～60GJ/年	～70GJ/年	～90GJ/年	90GJ/年超	合計	電気	都市ガス	合計
30㎡以下	4	13	7	1	2	1	0	0	1	29	9.0	14.5	23.5
31～59㎡	0	28	24	17	9	6	4	1	0	89	13.6	17.0	30.5
60～89㎡	3	15	27	29	21	15	4	2	1	117	15.2	22.4	37.6
90～119㎡	1	9	15	26	17	20	10	4	4	106	18.7	26.5	45.2
120～149㎡	1	2	7	12	20	12	15	12	2	83	21.6	30.7	52.3
150㎡以上	1	1	7	10	7	11	10	17	8	72	30.3	32.0	62.3
不明	3	0	2	0	1	1	0	1	0	8	16.8	13.2	30.0
全体	13	68	89	95	77	66	43	37	16	504	18.5	24.4	43.0

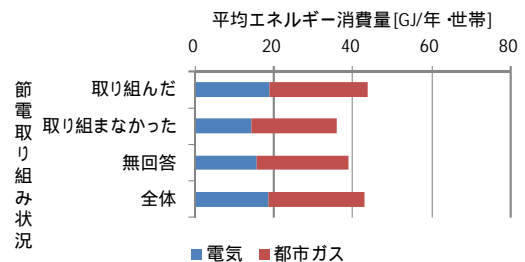
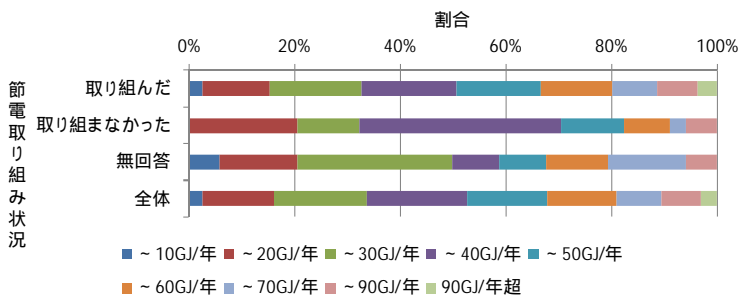


#### Q 5 節電の取り組み状況 × エネルギー消費量

○ 節電に取り組んだ世帯よりも、節電に取り組まなかった世帯の方がエネルギー消費量が少ない傾向にある。

「以前から節電していた」「あまり家にいない」など、元々のエネルギー消費量が少なかったためと考えられる。

	1年間のエネルギー消費量										平均エネルギー消費量[GJ/年・世帯]		
	～10GJ/年	～20GJ/年	～30GJ/年	～40GJ/年	～50GJ/年	～60GJ/年	～70GJ/年	～90GJ/年	90GJ/年超	合計	電気	都市ガス	合計
取り組んだ	11	56	75	79	70	59	37	33	16	436	19.1	24.8	43.8
取り組まなかった	0	7	4	13	4	3	1	2	0	34	14.3	21.6	36.0
無回答	2	5	10	3	3	4	5	2	0	34	15.8	22.9	38.8
全体	13	68	89	95	77	66	43	37	16	504	18.5	24.4	43.0

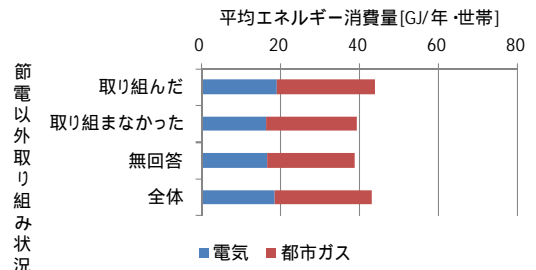
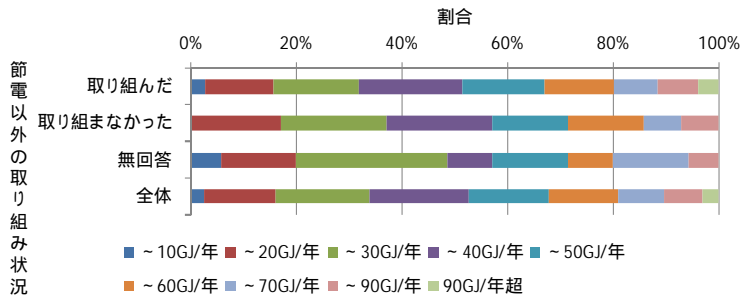




Q6 節電以外の取り組み状況 × エネルギー消費量

○ 節電以外の省エネに取り組んだ世帯よりも、節電に取り組まなかった世帯の方がエネルギー消費量がやや少ない傾向にある。

	1年間のエネルギー消費量										平均エネルギー消費量[GJ/年・世帯]		
	~10GJ/年	~20GJ/年	~30GJ/年	~40GJ/年	~50GJ/年	~60GJ/年	~70GJ/年	~90GJ/年	90GJ/年超	合計	電気	都市ガス	合計
取り組んだ	11	51	65	78	62	53	33	30	16	399	19.1	24.9	44.0
取り組まなかった	0	12	14	14	10	10	5	5	0	70	16.4	22.9	39.3
無回答	2	5	10	3	5	3	5	2	0	35	16.6	22.0	38.6
全体	13	68	89	95	77	66	43	37	16	504	18.5	24.4	43.0



< ビジョン中間まとめ(案)について自由意見 >

<p>中間のまとめとはいえ、ここまで取りこんで下さっている事全く知りませんでした。有り難く思います。これから一住む町が快適にさせるようよろしくお願い致します。</p>
<p>私には難しかったので、近所の若者に説明をうけながらかきました。以上です。</p>
<p>今も続く放射能汚染、私(達)は事故が起きて初めて本当の恐ろしさを知った人が多かったと思います。著名な方々はこのような恐ろしい事を知っていて使用していたのでしょうか。使用せざるを得なかったのでしょうか?今も汚染に苦しむ人々の事を考えると改めて憤りを覚えます。今後どんなことがあっても原子力発電には頼らないで欲しいと思います。</p> <p>杉並のエネルギービジョン、太陽光発電は良い取り組みでまたいろいろ可能性もあると思います。大きなビジョンから一人一人の小さな発見や発明も集まれば大きな物へと変わっていきます。知恵のある方のアイデアや意見も広報などでとりあげて、一人一人がエネルギーに対して意識を高め、杉並が都の先陣をきって良いお手本の区になればと願っています。</p>
<p>一昔前の事なのですが、義父が自家にどういう過程でやったのか古い話で故人となった今は何も判りませんが、2階の屋根に太陽熱利用の温水器を取り付けた事がありました。当時、私も結婚したばかりで何も聞けずに温水は風呂に使用していましたが、結局はうまくいかず機器を取り外す結果で終わりました。それは、温水器自体も問題が有り、修理に手伝いましたが、屋根の瓦に傷みが生じて幾度となく瓦を交換したり、取付けを直したりして数年しか利用しませんでした。このような機器を設置するためには、事前に十分な調査と専門的な考察、知識が必要だと思う。今後のエネルギー施策には、区自身が中心となって区全体の問題として押し進める必要が有ると思います。(うまく表現出来ず申し訳ない。ビジョンは必要なことで、大いに進めて行かなければならない事だと思います)</p>
<p>今回のエネルギービジョンは総花的で何が目的であるか判りにくいです。区独自の政策を明示して下さい。次に、電力問題ですが、現在でも何とか維持されており、本計画の策定が9年後では役立たないのではないのでしょうか?その代替エネルギーとしての太陽光発電は有効であると考えますがもっと具体的PRする必要があると思います。</p>
<p>特にありません。頑張ってください。</p>
<p>住民、業者、区による街作りは大賛成です。特に道路の区画整理は隣接の区と比較して大変すぐれている。防災面からも防犯面と併せて早急にしてほしい。</p> <p>地域環境モデル 当マンションは中小型な為、太陽光節電にあまり適していない様に思う。可能な公共施設に出資して区全体に協力出来たらよいと思う。</p>
<p>サンシャイン計画、ムーンライト計画であれだけ研究した結論を考慮に入れるべきである。科学技術上あれ以後進歩は見られていないので、あの結論は有効である。</p> <p>原子力を太陽光、風力、地熱との量的比較を明記すべきである。</p> <p>既に働きかけのある「ロシアからの電力輸入」には絶対反対。スイッチ一つで日本を麻痺させることができるから。</p> <p>私は原子力に賛成である。1億の人口に文化的生活をさせるには原子力以外にまかない切れない。リスク評価では原子力リスクは他のリスク、車、自殺、予防接種の廃止等による不慮の死のリスクより桁違いに小さい。許容すべきである。</p>
<p>この地球でこれからもずっと生きていくためには、それぞれがしっかり考えなければならない時期だと思います。</p>
<p>省エネをしたくても事情があって出来ない家庭もあると思います。省エネした人たちがだけが特典を得られると</p>

<p>いう事などは問題が多くなるのでは～と思います。</p>
<p>老人一人暮らしの古家では考えられない夢の感じがします。是非、実現させて頂きたいものです。</p>
<p>具体的な事は良くわかりませんが、各家庭において努力するしかないと思います。</p>
<p>平成24年度は夏あつく、冬寒かったので、省エネルギーはあまり目立たなかったが、各自格をもったと思う</p>
<p>断熱、防災等に対する区独自の助成を実施して欲しい。例えば、窓へのフィルム貼り程度の小規模工事にも助成を実施し、区民が手軽に省エネ活動を計れるように望む。</p>
<p>住宅から導入すると割的に結果が出ると思うが緊急時には公共施設が拠点となるのでその為には公共施設からになるのか？</p> <p>住宅で太陽光は屋根が痛んだり雨漏りがしてきたりときくので考えない。重さもありそう。古い家になってそこに雪が積もったらつぶれそう。</p> <p>各家で発電を！と思い（エネファーム、エコキュート）検討したが室外機が大きくて我が家の敷地では無理でした。そういう家が案外多いのでは？とにかくどれにしても何百万とするので今の経済事情では無理になりました。</p> <p>各自で、各地域で・・・理想に近づいてゆけたら良いですね。出来る事情の人からやって欲しいです。</p> <p>オール電化の普及はいかがなものか。</p>
<p>現状、太陽光発電等を推進するには、機器、設備代が高すぎる。国の補助金などで普及を何すにせよ限界があるのではないかと！まず、国の総合的なエネルギー戦略を確立し、安全を確保して原子力発電を存続させるべき。地域エネルギービジョンを作成し、将来のスマートコミュニティ作りをすすめることは、大変結構なことではあるが、まずは、各家庭における省エネを徹底することが必要と思う。</p>
<p>世田谷区の取り組み姿勢に共感しています。ご参考を！</p>
<p>未来の子供達のために「原発に依存しない街のエネルギー政策」ということを前面に打ち出して欲しい</p>
<p>1)太陽光発電のパネル設置工事費の補助金の事や</p> <p>2)屋根にどの位の重量が掛かるのか区民の多くは良くわからないと思いますので杉並広報でわかりやすく教えて下さい（1回だけでなく、何回でも良いから）</p> <p>3)再生可能エネルギーの固定価格買取制度の詳細について広報等でわかりやすく教えて下さい（1回だけでなく、何回でも）</p> <p>特集でも良く各人が保存出来るように考えて下さい。私はレターファイルに保管します。そして、いつでも読めるようにします。</p>
<p>エネルギーといっても原子力は別として我々は太陽エネルギーに頼っている。化石燃料にしても元は太陽エネルギーである。かかる観点からすると、樹木ないし植物はまさに太陽エネルギーの最も優れた貯蔵といえるだけに緑化、植樹なども重視されて然るべきと考えます。緑化は温暖化の防止やCo2の処理にも役立ちます。これらも間接的に節電に役立つはずで。</p>
<p>11頁の「杉並区の地域特性」で改めて事業所が殆どないのがわかりました。大規模な税収がみこまれないし、高齢者、単身世帯が増加傾向です。個人で省エネをしてもたかが知れているでしょうからこれからはエネルギーを作り出す方向にもっていくのに私たちに何が出来るか考えます。出資型ファンドを提案していますが、賛成です。</p> <p>はじめて耳にするコージェネ、蓄電池、以下用語解説にあるシステムをもっとPRする必要がありますね。</p>
<p>省エネももちろんだが、災害時の停電等の被害を最小にすべきだと思う</p>
<p>80歳なので、機械等全然分かりませんので何卒よろしくお願い申し上げます</p>

<p>再生可能エネルギーによる地域の自立した災害に強い地域になっていく事に大いに賛同します。医療機関や公共施設がマヒせず地域住民の安心のよりどころとなれたらよいと思います。助成金等により民間法人や民間住宅含め発電システムの普及がより早くなる事を希望します。</p>
<p>杉並区の人口構成によりますと、単身世帯が65%を占めております。その中には一人暮らしの高齢者も多いことでしょう。地域の町会等でグループを作りエネルギー問題に対するきめ細やかな呼びかけ及び見守りが重要であると思います。</p>
<p>停電となった時に命にかかるところ（病院等医療を必要とする人）へ供給できる分くらいを区で担っていることが分かればいろんな意味で安心です。 (元気な時はたとえ少く不便でも良いが命がかかる場合は電気に救われることがあるから)この点の調査もしてもらいたいです。</p>
<p>自身にも関わる事ですので協力できる事は協力して行きたいと思います</p>
<p>単独の導入ではなく、地域ぐるみの取り組みにすればお互いに情報交換も得られ易い気がします。ビジョンの善し悪しは書面だけではピンときません。実際のモデルケースが見学できると実感できるのではないのでしょうか。</p>
<p>過去2年間の電気、ガスの使用量データを提供するなら、それをグラフにして各家庭それぞれがひと目でわかるようにした上でまた送っていただけるとありがたいです。</p>
<p>各家庭のことはまず各自に任せ、区は区の単位で徹底的に外部電力に頼らない仕組みを目指して欲しいです。原発の可動に反対です。その為にはエネルギーを作り蓄熱できる仕組みが各自、各団体等で必要です。個人的には節電し、各家庭にも発電システムが出来る（助成される）までエネルギーのムダ使いを控えたいとおもいます。</p>
<p>杉並区は住宅が多く、代替エネルギーの問題を考えるならば、できることはせいぜい太陽光発電のみというのは、その通りだと思うし、大いにやれば良いと思う。ただし、それによって税金が上がったら、電気料金が上がることには反対である。10ページ目に売電の話があるが、公共施設や電力会社に売って、めぐりめぐって税金、電気料金につながってしまっは意味がない。杉並区民だけ分配金を受け取って、しわ寄せが他区民等に行ってしまうても良くない。 省エネというネガティブな取り組みは反対。無理した取り組みは長続きしない。創エネという考えは非常に賛成。人々がポジティブに取り組める内容でないと、大きな力にはならず、根本的な目的の達成につながらないと思うので、省エネとして見える化に取り組んで、何かのスイッチを消したりとか、ケチケチしたことはまったくなくたくない。もしそんな取り組み（システム）を作るなら、太陽光発電のパネルを一つでも多く作った方が良い。 それから、太陽光発電等だけでは災害時のリスク分散としてはやはり弱いと思う。杉並区独自の取り組みは当然進めるといって、他にも周りの区、市や都、国を巻き込んで総合的な対策を行うべきだと思う。</p>
<p>全面的には賛成だが、そんなに上手くいかないと思う。 エコ・省エネの分野は消費者の自発的な取り組みが必要不可欠だと思うし、各“家庭”に慣例化させられなければ見通し通りの結果は難しいと思う。 杉並は戸建てが多い地域なのかもしれないが、引っ越しが有る単身者・若者も導入時に金銭的負担が大きすぎない、且つ集合住宅や賃貸住まいでも利用できるものが普及したらいいと思う。（取付後も移設できたり） 「区民が誰でもやれる事」にするには、「苦労してやる事」にしたら無理。家庭で省エネが一番“根付いた”まちづくりができたら最高。</p>
<p>こういった施策は是非推し進めていただきたい。「広報」という意義もあると思います。</p>

<p>話は少しずれてしまいましたが、「自転車」の利用も省エネルギーに貢献できるはずですが、現状は「駐輪場が駅前では西友の駐輪場を使うしかなく、非常に利用しがたい状況です。こちらで改善策などないか、ご検討いただければ幸いです。</p>
<p>読みやすい紙面でわかりやすかったです。私どものように古い集合住宅に暮らす世帯も区民には多くいることと思います。少しでも新しいエネルギー供給に寄与出来るよう、集合住宅管理会社や各住民に補助費用などが設定されることを期待しています。また、すでに補助などの仕組みがある場合には、区民への丁寧でわかりやすい情報提供をお願いいたします。私たち区民のために力を尽くしておられる区職員の皆様に日々感謝しております。より、住みやすくこれからも長く住みたい街すぎなみであるよう、願っております。</p>
<p>杉並区では全てが効率が悪い。区職員、出張所、議員の削減をして欲しい。区予算本体を削減して欲しい。</p>
<p>これが実行出来るならば賛成です。ただ、設置への理解や利点など全区民が知るには時間がかかると思います。それでも原発のエネルギーを使わず生活が出来るよう、またもしもの災害時に備えられるよう職員の方々には頑張ってもらいたいと思います。</p> <p>応援しています。</p>
<p>具体性がよく分からない。</p> <p>区内消費量の51%が再エネ利用可能とのことだが、送電がストップした場合、このうちどの程度自前で電力をカバーすることができ、あるいはカバーできないのか、現状、自前で確保できるエネルギーがわずかしかないと問題点があるので、被災状況にもよるが、電力供給が絶たれた場合、どの期間どの程度の量を現状カバーでき、不足分についていつまでに何の手段を用いてどの程度の量を手に入れるのかといった具体的な手段と方法、行程表を作成すべきと考える。</p> <p>イメージではなく、実現性を。いつまでに何をどうするかといった実行性のあるものを作り、着実に行動に速やかに対応する事が重要。明確なビジョンを作ってスピードある対応を期待しています。</p>
<p>33年度までにどのようにこのエネルギービジョンを実現させていくのか、具体的なスキームを示して毎年の進捗がわかるようにして欲しいです。</p>
<p>ビジョンとしては次世代型で持続可能な社会に向けた理想的なものであると思うので今後の具体策に期待する。</p> <p>このような大規模な都市計画においては、市民の意見も重要だけれど、知識、見識の深い専門家や行政が将来を見据えたビジョンを示し、市民を巻き込んでいくことも必要だと思う</p>
<p>「ビジョン」のまま終わらないビジョンの策定を期待します。</p>
<p>早く実現して下さい</p>
<p>77歳の主人と71歳の私との2人暮らしです。少額の年金で暮らしていますので家にいることが多いので冷暖房は仕方ないと思っております。何も楽しい事が出来ませんので無解答では申し訳ないので返信いたしました。</p>
<p>杉並区に期待出来る再生可能エネルギーは太陽光発電ぐらいであるので省エネルギーを中心に考えるべきである。安いLED電球(蛍光灯型等)を普及させることなど有効ではないか。</p>
<p>Q8について よくまとめられており総論としては十分であると思う。これからこの草案をブレークダウンし実施に移されることになるのだろうが、具体案、期日(いつまでに何をを行うのか)、費用の点に触れておられない、区と国との役割分担などまだわからない点も多いので『Q8』では とした。</p> <p>気づきの点につき列記することとする。</p> <p>記</p> <p>1 区が行うべきこと、企業がおこなうべきこと、個人が行うべきこと、共同で行うべきことなどを明確にし</p>

分り易く説明をする必要があると思う。

- 2 区内でのエネルギーの創出とあるが具体的にどのような方法があるのか。

経済ベースにおいてそのようなことが可能であるのか。

- 3 地域分散型エネルギーとはどのようなものか。

- 4 P3 に関しては確かに公共施設が優先であろうが、例えばマンションなどでも事情は変わらない。

高齢者が多く車いす利用者がおられた場合エレベーターが止まればまったく身動きが取れない。勿論各人が考えるべき問題では有ろうが行政としての考え方も重要になると思う。

- 5 各人が節電を意識するのは当然でありまた実施もされていると思うがこれには限界がある。

街やマンションをあまり暗くしておくわけにもいかない。

交通機関を 15%削減すれば大混乱が起きるのであろう。

最近 LED が話題になるがこれを進めるのであれば今の電球の 4,5 倍はすることを併記すべきであろう。

また今は解決したのかもしれないが長尺の蛍光灯とは取り替えられないと聞いた。

今もそうであるならメリット、デメリットを明記すべきであろう。

- 6 盛んに再生エネルギー、代替エネルギーのことが言われている。

勿論真剣に考えるべき問題である。

細かいことでも気の付いたことからコツコツと実施すべきであると思うが全体をカバーするにはほど遠いように思う。

この問題を手持ちの資料で簡単に考えてみる。(本データは公式なものではない。)

#### 太陽光

これが一番身近で可能性のあるように考えられる。然しはたしてそうであろうか。まずマンションは無理なので戸建ての住宅か空地ということになる。戸建てに設置するとして 40 坪として約 250 万円かかるといわれている。計算上福島原発を賄うには 600 万戸を必要といわれている。

一番可能性があるアイテムのように感じるがはたして供給量、費用の点を計算すると戦力になりうるのか疑問も感じる。しかしできることから少しずつでも積み上げていくということになるとこの分野になるかもしれない。

この場合、個人で取り組むとしたらある程度の補助が必要ではないか。そうでなければ採算ベースに乗りにくいと思う。

#### 火力発電

この分野は現実論とすればいちばん取り組みやすいと思うが問題は石油にしても石炭にしても 100% 輸入品であることと、二酸化炭素の排出量が増加するという困難な問題を抱える。

いずれにしてもコストアップは避けられない。

#### 風力、水力、地熱発電

この3点に関しては全く論外(詳細の計算もあるが省く)

いずれにしても原子力発電が日本全体で 30%を占めているといわれているにしては現在何とか回っているのは不思議である。

然しいずれ深刻な電力不足に見舞われることは想定しておかなければならない。

ただ問題はコスト比較をした場合最も安いのは原子力であるということである。

エネルギー別の発電コスト(円/キログラム)は原子力 5-6、火力 7-8、大規模水力 8-13、風力 10-14、太陽光 49 という数字がある。(読売新聞)

また現在原子力発電関係で働いておられる方が協力的な方も含めると膨大な数になる。

またその保障協力金が大きな割合を占める自治体もある。

現在の再生可能エネルギーの議論の中にどれくらい費用が掛かるのか、どれくらい時間をければどの程度の代替が可能なのか原子力関連で働いておられる方をどうするのか、そのあたりの議論が全く見えてこない。そのような意味で今の議論は一方的なような気がする。(私が原子力発電関連の会社に勤めていたわけではない。)

かつて日本学術会議は原発をすべて廃止し火力発電に切り替えなお自然エネルギー発電の比率を高めた場合、標準家庭の電気料金は35%アップすると発表した。

再生可能エネルギーの議論は大いに結構であるが何かすぐにも実現できるのではないかと、バラ色に見えてくることもある。(日本全体のうごきのなかで)

いろいろ考え方はあると思うができるということと、技術的にもコスト的にもまた環境面からも実行可能ということとは違うと思う。

個々人が小さなことからでもコツコツと実施しなければならない。

今後の具体的な方針もバランスのとれた分り易い実行可能なものであってほしいと願っている。

以上

推進は多難であるが、一歩ずつの前進を計るべきと考える。それが国民の義務である。

杉並区の地域特性は住宅居住地区で、エネルギー消費地であるエネルギー節約は住人の節約意識が大切で、今回東日本代位震災の教訓からあらゆる面で節約が徹底している。再生エネルギーの生産は各住居、公共施設等建物屋上での太陽光発電しかないと思う。

できれば、緊急災害時使用出来る発電器を公共施設に設置、動かせる様な仕組みがあると良いと思う。ガスの供給は現状東京ガスに頼らざるを得ず、東京都ベースに対策となろう。

大変良くまとめてあると思います。

今後は区民にいかにより具体的な行動をしてもらおうかです。それにはPR活動(個人の経済的メリット)をさらに積極的に行って下さい。

私は、この度(第一回)杉並区基本構想実現、区民懇談会委員に選ばれましたので、ここで意見を述べる予定です。

エネルギー問題は、日本全体あるいは世界全体で取り組むべき問題と思うので、杉並区が何が出来るのかはよくわからない。

個人的な発想をいえば、私の若い頃に比べ、異常に増えたものとして超高層ビル、自家用車、携帯電話、24時間営業のコンビニエンスストアなどがある。時代遅れの意見と思うが、これらのものを抑制することがこれからのエネルギー抑制につながると思う。そのためには、区でできることとしては、公共交通機関の整備や住宅地内の車の制限などではないだろうか。

・計画の期間 最終年度まで9年は長すぎ、目標5年では、福島原発事故により全国的に省エネは浸透されてきた。これからは創エネが重点になると思う。ビジョンに訴求されている通り望ましい計画と思う。具体的に何をいつまで(年)の積極的スケジュールがあったらいい。

電力会社の経営基本が世間に白日となり赤裸々になった。根本的な「発送電分離」が国政策で具体化すればもっと自由な発想も考えられる。

電力会社の方針による国民負担による「値上げ」は堪えられない!

大きな災害の不安が日々募ります。案だけではなく、即、実行にうつしていただけることを期待しています

Q7の を広く行っていただきたいと思います

<p>このような考え方を是非推進して下さい。全面的に大いに賛成である。</p>
<p>各家庭で使用量 / 日・時間メータの取付家庭はどの程度か、街灯、自販機(ネオン、広告灯)等の使用電力の上限を設定する</p>
<p>Ex. 太陽熱利用について、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 屋根だけでなく、外壁、手すり等の設置を考慮。</li> <li>2) 高層ビルに設置(木造住宅では日照が不足)</li> <li>3) 公共施設に積極的に設置。例えばバス停、学校、その他</li> </ol>
<p>住宅用太陽光発電や家庭用燃料電池などの導入にあたって、国は「導入支援補助」、都は「助成制度」という言葉を用い、資金援助をすることが伺えます。これに対し、杉並区の本計画では「利用推進」とか「導入の推進」という言葉が用いられ、施策が抽象的です。国や都の施策と杉並区の施策はどう違うのか、杉並区の役割をもっと明確にして欲しいと思います。</p>
<p>杉並区の地域特性(70%住宅都市、単身世帯が多い)からとにかく住宅のエネルギー施策(平時および災害発生時)に早期に最重点的に取り組んで効果を出していくべきだと考えます。電力、ガス会社は25年前からスマートメータの計用実験を始めているので、現在相当ノウハウを持っている筈。これを全面的に提供してもらおうと同時に電力、ガス会社まかせでなく、国、都、区で各個のスマートメータ取り付けを援助推進し、この使用実績をもとにエネルギー対策の取り組みを計画実施すれば本当に効果のある施策が立てられると思います。まず、各戸にスマートメータの取り付けを実態把握することが急がれます!</p>
<p>杉並区としては、将来の地域エネルギーについて考えるとき、原子力発電問題をさけて通ることは出来ないと考えます。解決しなければならぬことが数多くあるエネルギーですから、多くの区民の納得できるよう、じっくりと時間をかけて間違いのない正しい道を見つけて欲しいと思っています。</p>
<p>東京電力以外からの配(送)電を受けたい。 東電に対し、他区と協力して独占企業体の体制を改革させて欲しい</p>
<p>1. エネルギー資源(現状)</p> <p>ガス(含・プロパンガス)ボンベ(式) (水道 備蓄保存水 風呂 雨水)</p> <p>電気 車載電源(12 100Vインバーター変換器)・乾電池 灯油 備蓄 ガソリン 備蓄保存</p> <p>地域組織としての取組は、太陽光発電の普及</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 太陽光発電の家庭での普及を広めるため、区内多くの見える場所に装置を設置し、目に見える太陽光発電で認知を広める 屋根設置品だけでなく、小サイン系、小照明系、少額製品を公共施設に数多く実設置する(企業と協働取組NPOとも協働)</li> <li>2. 暗闇での救護所・井戸・医療機関などの案内を確実にするため、太陽光発電の照明・サイン・指示板を設置し、常夜灯で救護所と太陽光発電の認知を深める(薄明かりさえあれば作業はできる事を知る)物を見せる!</li> <li>3. エネルギー消費を抑える活動とも結びつけ、エネルギー問題への関心度を上げる(消費を抑え、供給元を増やし、震災にも対応する)意識から活動へ</li> <li>4. 太陽光発電 電源実施モデル施設(学校)を設置し、見学させ普及に務める</li> <li>5. 金銭的に設置に二の足を踏むより、装置の機能・善し悪しの理解がよくできていないと思われる 高額な大型テレビが突然普及するように、火のつけ方だと思う 製品は企業が詳しい 地域課題は区、NPOが詳しい「協</li> </ol>



<p>働」実施で、太陽供給電普及</p> <p>6 .杉並地域の実態からも、風力発電、バイオマス発電、廃棄物発電、水力発電は急がない 年間日照時間 1728 時間 戸建住宅が 72,267 棟 の実態を見れば、設置効果の可能性は大きい 製品単価、機能、売電制度社会的 評価等により、普及の可能性はある（区全体で PR に力を！）</p>
<p>各戸の屋根や屋上を区に無償提供し、区はそこにソーラーシステム発電設備を設け、それぞれの家に一定量の 電気を供給し、残りの電気を区内の商店街や大型設備を持つ工場に安価、或いは無償にて提供し、街の活性化、失業対策の一助とする。</p>
<p>エネルギー中間まとめを拝見、私達の素人の考えられる事全て網羅されています。</p> <p>唯、杉並区だけで検討していける事ではなく、都区内及び全国で同時に検討される事だと安心です。</p> <p>原発の今の状況では次のエネルギーを大至急真剣手を打たねばならないのです。取敢ずでは無駄な気がします。まず第一に着手する事は 6 頁 4 のポイント 1 の項目と思います。それにより、みんなして節電の実施です。その実施について 9 頁の を各家庭にわかりやすく説導をキメ細かく行う事で太陽光、火力、水力、その他の充分補う事が出来る等です。</p> <p>太陽光については、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 . 価格</li> <li>2 . 区内の現住宅の多くが古く屋根取付は無理</li> <li>3 . 地震等により瓦等のズレ発生した場合、補修に大変な費用、その補修責任は？</li> </ol>
<p>原発に頼らないエネルギー政策の促進</p>
<p>家庭用燃料電池の設置助成を推進してもらいたい</p>
<p>東日本大震災による原子力発電所の事故は“ のどもとすぎれば・・・ ” の言葉通り、時間の経過とともに人は忘れてしまいがちである。今、区をあげてエネルギー政策を実施できたら、将来に安心・安全な生活が確保でき、うれしい限りである。</p> <p>しかし、どんなすばらしい政策でも、先立つものがなくては難しい。消費税増税、年金削減、家屋築年数・年齢など、個人ではどうすることもできない問題がある。また家族間でも意見の違いがある。</p> <p>“ 原発反対 ” とデモ行進したくても体力的に難しい。東電の悪口ばかりつぶやいても前に進まない。区が率先してエネルギー問題に取り組み、エネルギー政策のモデルになれば画期的なことで、社会を動かしていくチャンスになる。区民が全面的に協力できるように働きかけてほしいと期待している。よろしくお願いします。</p>
<p>10 頁の市民出資型ファンドのイメージが一番わかりやすい</p>
<p>太陽光発電システムの普及が当地区にとってもっとも実現性があると思われる。既存業者が積極的に取り組み、</p>

<p>ビジネスに結び付けようとしているが、本来公的部局が積極的に民間に先立って基礎データを市民に提示する事が先になるべきで、この為に本アンケートが一手段として役立てるといふなら早急にデータをまとめて展開すべきものと思う。</p> <p>当地域は住宅地域であるので、設置については個人に対するPRが重要な事となって来て、その成果が成功の成否を決める事になると思う。頑張ってください。期待しています。</p>
<p>現行制度下では家庭用電気の自家発電に家計場のメリットは少ないように感じられる。素人考えではあるが、下記のようなことを実施することにより家庭料金の負担軽減が計れると考えられる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 電力会社の地域独占の廃止と発送電の分離をすること。</li> <li>2. 再生エネルギーの開発、発展、普及を妨げることなく積極的に奨励、支援すること。</li> </ol>
<p>スマートコミュニティやスマートハウス事業に賛成です。</p> <p>区が考える具体策など区民に広く伝えられるよう、情報発信して欲しい。</p> <p>“我が家で使うエネルギーは我が家で作る”ができれば良い。</p> <p>現在、清掃工場は工事中だが、未来に向かってこれまでにない有効活用ができるように知恵をしばってもらいたい。</p> <p>今こそこれまでの生活全体、世の中のしくみ、生き方を見直す時が来たのだと思うので、思い切った発想で未来の町造りを進めてエネルギー政策と防災対策をやって欲しい。</p> <p>メタンハイドレード？(燃える水)の早い実用化と蓄電池の発展を国にも頑張ってもらいたい。</p>
<p>エネルギービジョンをとりまとめ策定するのは結構なことだが、要は区民に新たな負担(税金)をかけないで知恵を出して取り組んで欲しい。エネルギービジョンの懇談会の議事録にもあるが、杉並ブランドらしい別の付けを期待したい。</p> <p>データの提供が役立つと思えないので協力しません。あしからず。</p>
<p>高齢家庭にはなかなかうまく話せませんが、未来の子供達に良い社会の取り組みが出来たらなと思っております。個人の可能なかぎりは良いでしょうが、重いと大変になります。高齢社会の取り組み方を考えて欲しいです。</p>
<p>3. 1直後いろんな所でほんの数ヶ月だけ節電に取り組んでいたと思いますが、いつまでも継続するようにご指導して下さい。特に、最近の中年女性と若い女性は駅のエレベーターを簡単に使いすぎです。</p>
<p>既住宅に太陽光発電設備を設定する場合、雨漏れ等のクレームが多いと聞いています。新規建設時に補助するなり条件とすることが望ましい</p> <p>取り組みに効果ある家にはほう労金奨励金を出すべきである。</p>
<p>策定目的のうち「省エネ・省資源の更なる推進」は、区民に対して節約を呼びかける精神運動として行われる分には全く問題なく、今後とも継続して欲しい。</p> <p>「地域分散型のエネルギー社会の構築」が導く結論は、おそらく「太陽光発電を行い、区の現使用量の50%を賄いたい」のだと推論する。</p> <p>話自体は結構であるが、どうしたらそうなるかが書かれていない。つまり費用対効果の観点(注)が全く無い。巷間、この点についての喧々諤々議論が現に行われているというのに、今頃きれい事のビジョンを出すのはピントが狂っているとしか言いようが無い。</p> <p>したがって、Q8には答えようがない。</p> <p>(注)一例を挙げれば、戸建住宅とアパート・マンションが70%を占める杉並区で、再エネ利用可能量の99%を占める太陽光発電を実現する為には、これら建物の屋根に太陽光パネルを乗せる他ない。太陽光利用に拍手を送る市民ですら果たして易々と応じるだろうか。しからは区役所の公的補助金なのか。発電会社の買い取り</p>

<p>価格の高止まりなのか。</p> <p>本ビジョンは「原発を無くす」を前提としたものに見える。杉並区がいつ「原発を無くす」という決定をしたのか。手順として、まず原発是非についての真剣な区民討論の場を市民に提供するのが、代表者区役所の仕事ではなかろうか。</p> <p>なお、私は「原発に次ぐ新しい科学エネルギーが出るまでは原発を利用すべき、」という意見である。つまり、「木炭 石炭 石油 天然ガス 原子力 次」である。</p>
<p>脱原発の姿勢が不明確です。</p> <p>ごみ焼却発電とその廃熱利用以外の区産エネルギーに執着すべきではありません。家庭の太陽光発電などの効率高コストのエネルギーの普及促進のための助成制度は廃止にしましょう。</p> <p>発電と送配電を分離し、発電事業への新規参入と既存発電設備の高効率設備への改修を促進させましょう。発送電分離に伴う弊害をなくすため、市民による監視、規制を強化しましょう。</p> <p>宇宙太陽光発電の実証試験に向けての研究を本格化しましょう。</p>
<p>内容はよいと思う。家庭での太陽光発電導入の費用や国や地方の補助額がどうなっているか、又再生可能エネルギーの固定価格買取制度について具体的な内容を補助資料として添付して欲しい。促進還付金を電力料金に上乗せさせるのには抵抗があるので、税金で対応するなど検討して欲しい。</p>
<p>国や東京都は原発に依存しない社会を実現させると言っているだけで、経済を最優先させ、まだ原発を稼働させようとしている。太陽光発電などの再生可能エネルギーで、区外に依存しないエネルギーを創るシステムを考えてもらいたい。</p> <p>「エネルギービジョンの中間のまとめ」を見てほしいの言いたい事はわかったが、もう少しページ数を減らし、具体的な数字や費用を出してわかりやすく簡潔にした方が多くの人に理解してもらえと思う。</p> <p>3.11のあと、太陽光発電を取り入れたいと思ったが、費用が高い為あきらめた。もっと簡単に安く太陽光発電を家に取り入れられるようにしてもらいたい。</p>
<p>太陽光発電システム導入に対する補助金支給、その条件に向こう一年でという意識が変わったか導入後の節電や売電によるメリットを収支も含めてレポートをしてもらう。</p> <p>団地など、限られたエリアをモデルエリアに定めて実地で太陽光発電や節電施策を導入して運用し、ピフオーアフターを発信していく。</p>
<p>実例を広報で取り上げて欲しい</p>
<p>誰もがいつでも安心して快適に暮らせるまちすぎなみ、イネ！！すぎなみと区民に言ってもらえる「すぎなみ」に期待しております。区民も応援しなくてはね！</p>
<p>エネルギー負担にかかる費用と効果がわかりづらい。</p> <p>区に関する情報は一定盛りこまれているが都や周辺自治体との連携に関する情報（あるいは施策）も盛り込んで欲しい。</p> <p>省エネ、再生可能エネルギーという単語は耳障りこそ良いものの、結局いくらかけて（負担して）何ができるかといった具体性に欠けている印象を持ちました。</p> <p>アンケートQ1～Q3は情報が十分でないことも有り、誘導されている印象もありました。（好きなことばかり書かせていただきましたが、期待しています）</p>
<p>HEMSや分散型電源の導入は各家庭の災害時対策としても有効であり、希望する家庭は多いはずだが、初期費用負担が大きく、導入後の光熱費削減を考慮しても経済性が確保できないことから導入に踏み切れないのが現状だと思います。</p> <p>利益は不用までも、（実質）ゼロコストで導入できる様、補助金等によるサポートを期待します。</p>

方向性は良いと思うが政権が変わったことにより合理的に実現できるのか不明
期待しています
推進して欲しい
集合集宅は別として個人住宅ではできることは省エネまでではないだろうか？太陽光発電も木造のため少々不安である。
より具体的な提案が出ることを期待しています。自転車の利用が便利な道造りも自動車を減らす取り組みになるのではないのでしょうか。
<p>杉並区内にある銭湯の燃料に、剪定枝、廃材、再利用できない古紙を利用する。銭湯への運搬はボランティア利用。家庭の使用済廃油も同様。燃料運搬協力みあいとして、入浴補助券を配布する。</p> <p>ビル屋上に太陽パネルを設置する方法だけでなく、屋上菜園をつくり、地域住民の交流の場とする。屋上菜園は屋上緑化と同じく、冷暖房コストを低減させる効果もある。</p> <p>年金や生活保護を受給したら「何もなくてもよい」というのは間違っている。年金、保護費を給料としてもらっていると理解し、社会的共通資本（道路、公園、公共施設）のメンテナンスを、体力に応じて、数時間の仕事として参加する。</p>
<p>先進国での取り組みがTVなどで報道されているが、杉並区も現状の問題点をふまえてどの家庭でも取り組めるスマートイメージを策定してスタートする。</p> <p>その際、区(行政)と各家庭のやるべき分担も明示して最終目標と年度別の達成目標をたてる。</p> <p>この間、見直すべきは見直して、全体の半ば程度がクリアできるよう行政はバックアップ体制を整備する。</p> <p>( 大事なことは、あまり高額な費用をかけないこと)</p>
検討も大事ですが、次々と順次素早く実行に移す。修正しながら実行推進させる努力がもっとも重要です。
<p>良く考えられていると思います。</p> <p>災害時における体制として、まずは区の機能を維持すること、区民を守るための避難所をきちっと機能させることだと思います。</p> <p>次に各住戸が自立して生活ができる体制に移行できれば、区の負担も分散化できる中で災害時にも強い街になって行くと思います。</p> <p>(災害対応としての他地域との災害時相互援助契約は、区民 54 万人 30 万世帯すべては無理にしても良く考えられていますので、今後も推進して頂ければと思います。)</p> <p>今回、エネルギー政策をテーマとされていますので、段階的に実施するのであれば上記にも記載の通り勝手な意見ですが以下がその順位と考え方ではと思います。</p> <p>区の施設、避難施設のエネルギー確保 現在考えられている太陽光発電や自家発電設備等の設置促進。</p> <p>ただし、自家発電設備はコスト面は安価かもしれませんが、燃料の確保や供給の問題があるので継続性の面での課題が残ります(騒音や排気ガスの問題もあります)。</p> <p>自然エネルギーであればそれら問題が概ね解決されて、永久的に供給可能と思われまますので今後はシフトさせて行く必要があると思います(今は自家発電設備が効果ありと思います)。</p> <p>各住戸のエネルギー確保 太陽光発電と蓄電設備の設置促進。</p> <p>最低限の生活が自宅で行える様になれば、避難所の在り方も変わると思います。</p> <p>エネルギー供給体制の構築</p>

<p>水力発電についても、河川や上中下水道を使用した小電力発電は可能と思いますので、避難経路の照明等 LED 街灯等であれば十分供給するのではと思います。</p> <p>燃料を必要としない電力確保は、費用対効果もあるでしょうが特に区では区民の安全確保という点から選択肢としては用意して良いと思います。</p> <p>また、区単独ではなく、東京都としての電力確保策とも連携してどの部分を区で行い、どの部分を東京都として対応できる様にするかも整理できれば、区として効果のある投資ができると思います。</p> <p>次に今回の資料の中に近隣との電力融通と記載されていることを見て思ったのですが、区の施設(特に学校等広い施設)がある周辺地域に対して、区の施設が拠点となって共有される街路照明や通信設備、上水道電源等最低限の電力供給ができる地域拠点にできれば、地域停電が発生した場合にも強い街になるのではと思いました(勝手な意見ですみません)。</p> <p>尚、LED 照明の促進は、生活環境を変えない中での低消費電力化であり、イニシャルコストはそこそこ発生しても数年で回収できるので切り替え促進は必要と思います。</p> <p>結果として、災害時における電力供給量も絞ることができますので、同じ発電量でもより多くのものへ供給ができる様になると思います。</p> <p>何をなすと効果がでるか、広報活動も大変と思いますが常に意識付けする活動は必要と思います。</p>
<p>小冊子としてとても読みやすく、各項目を簡潔にまとめてあり、好印象を持ちました。</p> <p>約 70%を宅地が占める杉並区において、各世帯に今後のエネルギー政策のあり方を意識してもらうことが重要と思います。</p> <p>そこで提案として</p> <p>増加している空屋・空地の活用</p> <p>法整備の問題がありますが、理由なく放置されたまま年数経過した空屋・空地は周囲の住民にとっても不安です。公費による古家の撤去を条件に区としても利用を可能にした方がよいのではないかと思います。広い土地なら太陽光発電設備も設置できます。</p> <p>高齢者世帯へのていねいな説明</p> <p>杉並、世田谷など資産を持つ高齢者世帯が多い区は小冊子 P10 にあるような市民(区民)出資型ファンドを活用すべきと思います。そのための意識改革に力を入れる方法を充実して欲しいと思います。</p>
<p>都市部のできる施策は限定的(太陽光、太陽熱、省エネ)したがって、これから啓蒙、助成に特化すべき。</p>
<p>徹底した節電、省エネをアピールする為広報を通じ区民に呼びかける活動を希望します。</p>
<p>素晴らしい地域エネルギービジョンだと思います。杉並区は他区に比べて緑や水(川)が多いところかと思えます。これは自慢出来ることかと思えます。この河川を利用して、山梨県、長野県のような小型の水車を設置することなどもご提案します。景観をこわさない水車だと、さらに区民に癒しを与えてくれるのではないのでしょうか?ご研究下さい。基本的には区民一人一人の暮らしのあり方でしょうか。これからもビジョンにむけて頑張ってください。</p>
<p>できることから少しずつでも始めてほしいです。</p>
<p>最後まで形あるものに仕上げてください</p>
<p>住みよい地域になるよう頑張ってください</p>
<p>スマートコミュニティ(スマートシティ)造りの推進という点には大変興味があります。「先導モデル事業の選定・事業の具体的推進」や、「まちづくり施策を連携した仕組み作りの検討」などが挙げられていますので、今後の実践がもたれます。区内にスマートコミュニティが出来た際にはその地域の住民以外の区民にもその良さが伝えられるようにモデルハウスを建設して公開して頂きたいと思います。</p>

<p>資料４P「現状の問題点」が事実であるなら「太陽光発電」に特化し推進すべきではないでしょうか。また、東電グラウンドでの神田川と合わせた風・水力エネルギーの一考をしたら良いと思いますが。</p>
<p>書いてある内容には賛成であるが、数値目標が示されていないので、目指すところがわからない（中間のまとめだからなのか？）</p> <p>「送発電分離」を推進して電気料金が安価になるようにし、かつ災害時の安定供給が可能となる施策を検討して欲しい。</p> <p>Q1Q2 は一般市民に質問する意味が理解できない。</p> <p>Q4 に関し、区に意見する話ではないかもしれませんが、「再生可能・・・買取制度」の前に「送発電分離」で電気料金が下がるようにするのが先では。</p>
<p>風力については小型でビル風を利用するタイプ。</p> <p>こういう計画を利用して、設備設置工事の契約の勧誘電話が増えます。高齢者が被害にあわない様に願うだけです。</p> <p>エネルギー問題は、区単位で考えると実現イメージが湧いてこない。</p>
<p>発案されているエネルギーを使用している。身近にあるスーパー、公共施設、すぎまるバスなどで、私達が体感、実感できるよう、各事業所にこのエネルギーし使用という掲載をするなど誰でも気づける取り組みはできれば実行して欲しい。「こういうエネルギーを使っているんだ！」「ごみ焼却発電、廃熱による温水プール」などは、井の頭線から見えるようなポスターにする・・・など</p>
<p>発電におけるビジョン</p> <p>再生可能エネルギー：特に杉並区の住宅街は面積的に豊富なため、一般住宅の屋根を借りて区が太陽光発電パネルを設置し、区の電力として利用するなどを盛り込んではいかがでしょうか。副次的に一般住宅の寿命を伸ばす仕組みなど、必要になるがそれも良いきっかけ。</p> <p>区で発電したら、区で蓄電池なども設置して、モデルケースを作って欲しい。ゆっくりと一般家庭が組み入れられるモデルケースになると良い。</p> <p>送電におけるビジョン</p> <p>地産地消的コンセプトの適用</p> <p>省エネにおけるビジョン</p> <p>日没後の商業活動におけるネオン照明等の規制を検討してはどうか。</p>
<p>提案</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 次代を担う子供たち（小中学生）に、月1～2回エネルギー教室（省エネ、再生エネなど）を設ける。</li> <li>2) 区内 JR 駅のホームの屋根に太陽光パネル設置（JR などですでに検討されているかもしれませんが）</li> </ol>
<p>区民が安心して生活出来るには大変と思いますが、太陽発電の開発等に取り組み、区民の間に省エネに協力など啓蒙させてください。</p>
<p>疑問：無作為に3000人余に依頼したとのことであるが、年齢、性別によっては問題あると思う。高齢者に「中間のまとめ」を読んで判断可能と思っているのか？インフラであるガスについて、災害あった場合、責任はどこにあるのか。私道及び敷地内のガス管は個人に責任である為、資金のない需要家は腐食等でガス管の入れ替えが必要であっても出来なかったら、（電気も同様）</p> <p>同様な細かい事は他にもあるのですか？</p> <p>高齢者である本人もループで見たが苦労し、判断出来ない所多し。</p>
<p>区民が自主的に参加し、そのメリットが享受できる事業モデルを積極的に推進して欲しい</p>

<p>東日本大震災以後、原子力に頼らない電力供給ということで省エネという言葉が毎日のように新聞、報道で耳にしていますが、このところあまり耳にしなくなっています。小さな省エネでもと当所はコンセントを毎日抜いたり、こまめに電気を消したりとしてきましたが、このところ手を抜いている自分に気がきます。繰り返し、間を置くことなく省エネの言葉を発し続けることで、区民皆の力が出てくるように感じます。</p> <p>このエネルギービジョンの案が出されたことは、皆の意識を高めるためにも大いに役立つと思います。国だけでなく、杉並区も独自で考え行動しようとしていることに感謝です。</p>
<p>大変良くできている</p>
<p>これからは、太陽光発電や太陽熱利用などを考えなくてはならないと思いました</p>
<p>生活費に余裕がないので、電気、ガス、水道総て値上げ反対。</p> <p>エネルギー源を輸入に頼らない。</p> <p>自国で生産できる原子力発電に移行して欲しい。</p> <p>以上が総意。</p>
<p>大規模災害が起きた時にエネルギーで困らない街づくりや区民へのわかりやすい情報提供と自主的な参加促進の仕組みづくりなど是非やっていただきたいと思います。</p>
<p>私は要介護の認定を受け且つ老年の為、省エネになかなか協力出来ず、又将来とも協力不可の状態にあり、申し訳ないと思っております。</p>
<p>太陽光にしろ風力にしろ自然エネルギーの発電量や蓄電の安定的な製造及び管理が技術的にどこまで可能なのか、公的施設から一般家庭に至るまで展開した際に、設備設置から保守に至るまでのコスト等、利用者側の負担など、現状が全く見えていません。技術的に可能であるかを確認した後、誰もが理解できる説明と数値で表現して案内していただく事を今後希望します。</p> <p>尚、当アンケートについて無作為に抽出したとの事ですが、抽出該当者の母は87歳の高齢者の為、息子の自分が代わって回答しました。アンケート依頼時には、年齢も考慮下さい。</p>
<p>区民センター等でわかりやすい説明会を度々開催して頂きたいと思います</p>
<p>あらゆる可能性について、常時検討し、広報、取り組みを期待します。成せば成るです。不断の努力、知恵の結集をお願いします。世界一のエネルギー削減先進都市を目指しましょう。</p>
<p>杉並区の計画が大層細かく理想に近い形でまとめられていて、有り難いと思いました。</p> <p>自分だけの事でなく、国全体の事として考える事が、すべての住民にできたら理想です。</p> <p>進歩した器機やシステムによる恩恵が行き渡るのを望みますが、費用の面、設置の具体的な面について、特に高齢者にはわかりやすく説明してもらいたいと思います。（聞きに行くのは困難です）</p> <p>今年は特に寒いので、風呂だけは充分入りたいと思いますが、ガス使用量が上がってしまい、残念ですが鉄筋住宅の場合に省エネに改善することが難しく思います。</p>
<p>公の場所から率先してエネルギーを作る姿勢を見せていただくこと、「やってみたい」「簡単」と敷居が低い参加ができるようになれば良いですね。低所得者や老世帯なども気兼ねなく強制なく参加でき、子供たちの教育費、福祉へ力を入れる杉並区であってほしいと個人的に思います。</p>
<p>当方のエネルギー改善の歩み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 5～6年前、太陽光発電採用 オール電化システム導入</li> <li>・ 2年前、夜間の安価電力の活用 EV(電気自動車)購入 夜間リチウムイオン電池の充電 ガソリン使用減</li> <li>・ 今年度、EVのリチウムイオン電池(24kWh)を活用し、ON HOME化(夜間充電 昼間の家庭内電力への活用)を計画中</li> </ul> <p>区への要望</p>

<p>災害時の停電は2日以内に復元するシステムを確立して下さい。</p>
<p>エネルギー政策は行政におまかせと致しましても国民各人の省エネに対する気持ちは震災後一時的なものですが、元に戻ってしまった様な気がします。ネオン、街のあかり、自販機、24時間営業の店、これでは原発からののがれられないのでしょうか。各人に常に呼び掛ける 意識レベルを上げる 節電に導く 達成感を感じさせる この繰り返し！！地道な努力ですが。</p>
<p>太陽光や太陽熱は晴れた昼間だけなのでもっと夜間などでも効率良く発電できる小型風力発電を利用するのが良いのでは。場合によっては小型風力発電や他の発電方法に対して研究助成や共同研究も良いのではないのでしょうか。</p>
<p>個人住宅、事務所（小規模が多い）は、経済的負担が大きいと思われ、補助が必要と思われ大変です。上記については一部の世帯として他で効率よく経済的になった方がよいと思われ。</p>
<p>杉並区の観点でまとめるのは大変結構であるが、東京都あるいはより広い地域も視野に入れることを期待する。</p> <p>将来の技術水準を予測して、スマート（スマーター）シティを設計して下さい。</p> <p>担当者の誠意と努力に期待します。</p>
<p>大変だけど、そういうように皆で努力していきたいと思います</p>
<p>学校（屋上）などに太陽光発電の設置するなどどうでしょうか</p>
<p>杉並区としての問題提起の観点から、その範囲内での検討となっているが、東京都としても同一の問題提起、検討が行われていると思われ、特に大規模災害が起きた時についての検討では、地理的、地質的に比較的恵まれた当区としては、大被災が想定される他地区への支援的観点を含める事が望まれます。</p>
<p>庶民に負担がかからないことを望みます</p>
<p>できるだけ早く</p>
<p>全面的に賛成です</p>
<p>区でこういった取り組みをする事は大変良い事だと思います。今まで便利にしようしてきましたが、一人ひとりがエネルギーについて考えなければならないと思います</p>
<p>先進地域のマネでなく独自性を発揮し、杉並各地域にマッチしたものを作ってください。</p> <p>共同住宅毎に最適再生エネルギー設備を第三者（役所がやるメーカー委託ではなしに。）がアドバイスし、推進して欲しい。</p>
<p>街路灯などに太陽光パネルを付けて販売している会社もあるようなので、小さくても少しずつ他の発電システムに変えていけたらなと思います。又、太陽光パネルの設置費が高いので、その助成もあればもっと普及するのではと思います。</p>
<p>杉並区は住宅が多いので、団地やマンションアパートなどの集合住宅に太陽光発電や太陽熱利用の設置を促し、助成するべきだと思う。</p> <p>災害時だけでなく、日常的にまかなえるのが理想です。</p> <p>東京電力に依存しない都市を目指していきたい。</p> <p>そのためなら協力はおしみません。</p>
<p>ビジョンをまとめるにあたり、区民が負担するものやメリットの代償として失うものを隠さずに示して欲しい。</p> <p>経済的な負担や地域環境に負荷を与える施設設置など区民が許容すべき事柄を明記すべき。</p>
<p>区民に対して「過度の快適さを求めすぎない生活」を考え、実行することを行政として求めていくことも具体的施策の実施と併せて同時に必要なことだと思います。</p>



再生可能エネルギーのコストパフォーマンス、化石燃料の有限性などを考えると、やはり人類（日本人だけでなく）としては原子力エネルギーをいかに安全にコントロールする方策を求める事からのがれてはいけないと思います。

元来、宇宙の働きは核融合エネルギーが基になっている訳で、宇宙の一員たる人類としてはこの核エネルギーを正しく制御し安全に機能させることが必要だと思います。脱原発のスローガンは人類の未来から逃げているように思えてなりません。

省エネの大切さを無視するわけではありませんが、創エネも大事だと思います。

時代の流れから省エネの推進と再生可能エネルギーの促進は必須であるとする。区で自前でエネルギーを供給できれば、災害にも強くなると思う。私は、再生エネルギーは、太陽光以外にも他のものを組み合わせた方が相剋的な省エネ効果が期待できると思うが、杉並区の特性上、住宅が中心なことから屋根を利用した太陽光発電が中心となるであろう。また、それらを導入するにあたって区が補助金等、助成する方が進むと思う。我が家は、まだ導入予定はないが、今後、勉強したり、さらに具体的な情報が出て動きがわかってくれば、いろいろと考えたいと思っている。エネルギーについては、今後、さらに関心が高まるはずだ。電気は現在、ほぼ一社独占状態であるが、もっと安く安全で使いやすくするために、自由化や競争も必要と考える。地域循環モデルのための仕組み（市民出資型ファンド）も賛成である。

中間まとめなので、最終報告がどうなっていくか定かでないが、中間まとめの内容は、総じて抽象的な内容 - 目新しいものはほとんど見られない - である。例えば、災害時に避難拠点となる公共施設の自家発電や蓄電機能を強化、区民生活が困らないようなバックアップとあるが、そもそもこれらの施設に現在どの程度の機能があるのか、機能をもたせることができる施設にいつまでに、どの程度の機能をもたせることができるのか、避難してきた者全てが生活に困らない状況まで機能を持たせられるのか等が明らかでない、絵に書いた餅に終わらないようにお願いしたい。

また、災害時のことを考えると、電柱の地中化等、路上の安全確保対策にも力を入れて欲しい。

災害時の安心安全確保を課題にあげることには大賛成です。

杉並区という住宅都市で、どのような対策ができるか検討することも意義のあることと思います。

しかしながら、エネルギー創出には多大なコストが必要であり、災害時用といえども効率を重視すべきと考えます。

効率の点からは、商業施設やビジネス街、工業地域をもつ近隣地域の方が取り組みやすいのは明白です。

しかるに、杉並区をスコープするより、23区ベースで検討するべきと考えます。

もちろん、住宅の安心安全の必要性をうたえることは重要であり、住宅都市代表としての活躍を期待しています。

分散型エネルギー社会の構築の施策について、東京都と連携して効率よく推進できるよう熟慮、協議していただくべきだと思います

太陽熱がもっとも現実的なエネルギーになるということは理解できる。ただ、条件、価格で我が家では昨年断念した経緯がある。まず、設置や効果がより期待できる公共施設や事業所での全面設置に動き、宅地用には商品の開発が進むことを望む。

太陽光発電の設置を検討していたが、まだまだ機器の種類が不十分で我が家では取り付けを断られた。早急に機器の拡充が望まれる。

機器導入助成についても、手続きを簡素化して欲しい。

<p>産業用と違って家庭用の電気代は多少は融通がきくものと考えます。これだけ、全世界で地球温暖化の問題が顕在化し、一方で中国をはじめとしたディベロッピングカントリーが未だ、石油火力に頼り、歯止めがかからない中で、我々日本は、西欧諸国に学び、徹底して再生可能エネルギーを導入すべきと考えており、民生を活かすことのできない杉並区としては、積極的に再生可能エネルギーを使ったエネルギー保全に動いて頂きたいと考えております。他の自治体との連携なども活用して、地理的事情による限界をブレイクスルーしてほしいと思います。</p>
<p>エネルギーを作る為には外国からの原油、ガスの輸入の必要性があるのでは？区で外貨購入（エネルギー価格のヘッジ、国との政策の一致）も検討してはいかがでしょう。日本で杉並区は外貨ヘッジにより、住民税の引き上げがないなんて話になれば、最高の自治体である。</p>
<p>再生可能エネルギー機器等の設置に際し、もっと助成を厚くして欲しいものです。</p>
<p>家の建て替えの時があれば太陽光発電などのシステムも考えるかもしれないが、初期費用を考えるとたぶん無理かと思う。社会全体から見ると、設置した方が良いのであれば、3年～5年程度で元が取れるようでないといけない。費用面でかなりの補助を行わないと厳しいと思う。また、自宅へ設置しなくても、貢献、及び自分にも見返りのある“市民出資型ファンド”は良いアイデアかと思う。</p>
<p>新築の住宅への導入は、導入コストの問題はありますが、技術的には問題ないと思います。既築の住宅の場合、どこまで導入できるのかケースバイケースで議題があると思います。できる範囲で少しずつ普及していく必要があると思います。導入したあとのメンテナンスも議題です。実現可能な資金計画を示して、住民に便利性とコストメリットを説明していく必要があると思います。</p>
<p>病院や避難所では、最低限の発電・蓄電機能を持たせるべきであるが、一般家庭には不必要である。特に希望する家庭は勝手にやれば良い。</p> <p>地域分散型エネルギー社会の単位は、区では小さすぎる。もっと大きく、最小でも都・県である。</p> <p>いたずらに、高価格の発電システムを増やすべきではない。もっと経済性を重視すべきである。</p> <p>災害時に不便になるのは覚悟すべきである。災害を考えすぎて、平常時の生活を不便にすべきではなく、バランスを考えるべきである。</p>
<p>節電したいと思っても、どこをどう節電すれば効率かわかりません。6ページにも書かれている家電の電力の消費量が目視できるようになって、どれだけ節電すれば、どれだけ安くなるか分かるとモチベーションが上がりますね。</p> <p>自家発電や蓄電したいと思っても、現状では高価で手が出ません。ほんの少しの発電・蓄電できればいいなと思います。</p> <p>コンパクトなものが、安く手に入る世の中に早くなればいいなと思います。</p>
<p>杉並区民としてエネルギー施策に取り組みたいと思う。早い時期に計画、実行をして、他地域の模範となるように積極的に参加したい。特に、省エネは「見える」とわかりやすく取り組む気持ちが強くなると思うのでHEMS導入や市民出資型ファンドなどは、長く続ける事ができていいと思う。</p>
<p>公共施設の効力の良い省エネ</p>
<p>きちんと取り組みを行っている姿勢が見られ、良いと思った</p>
<p>長期的な計画と、中・短期的計画を区別して、できることはすぐに実行できればよいと思う。（ごみ焼却熱をもっと有効に使用する等）</p>
<p>集合住宅に住んでいるので、個々において実施する事が難しいと思っていましたが、いろいろと参考になりました。</p>
<p>震災から二年がたち、節電意識がなくなりつつある中で、このような取り組みは素晴らしいと思います。住宅</p>

<p>地の多い杉並区なので、各家庭での意識が重要になっていると思います。</p> <p>以前住んでいた愛知県長久手市は、こことは対照的に若い世帯が家を建てるケースが多く、太陽光発電（屋根）による電気の売買も日常的な話題でしたが、杉並区に来てからの二年間、一度も話したことがありません。家屋自体が古いものが多いので、難しいとは思いますが、裕福な層から少しずつ変えていければと思います。行政の補助にも賛成します。</p> <p>いつか必ずくる災害時にパニックが起きない様、お願いしたいと思います。</p>
<p>我が家の屋根は南北への斜面屋根のため、太陽光発電を設置しても効果を期待できません。壁面に設置できるような研究の開発の推奨を検討して頂けないでしょうか。それが可能ならば、マンションなどでも設置できるように思います。「地域循環モデルのための仕組み」は良い取り組みだと思います。</p>
<p>省エネに伴うコストアップに注意（官・民ともに）</p> <p>イニシャルコスト、ランニングコストに加えて、更新・廃棄コストも考慮しておくこと（原発が良い例 - ポイントはランニングコストだけではない）</p> <p>項目毎に必要性和緊急性の検証</p> <p>（機器導入）</p> <p>イメージに左右されず具体的数値に基づく方向性、住民への広報を望みます</p>
<p>参考資料によると、杉並区では各住宅で、太陽光発電を促進することで、かなりのエネルギーを補えることがわかりました。</p> <p>区として、住民に長期的なメリット（50年、100年先まで見通して）をわかり易く広報して頂き、住民の意識を高めて頂きたいことと、太陽光発電導入の為、強力な予算をつぎこんで頂きたいと思います。</p> <p>東京電力だけに頼らず、PPS 発電所の参入に期待します。今回アンケートにより、区の環境課が様々な取り組みをされていることがわかりました。ありがとうございました。</p>
<p>杉並区が住宅地の比率が高いという性格上、スマートコミュニティの推進が必要という提言に賛同いたします。</p>
<p>エネルギーのことは大切な課題だと思っています。区が重要課題を考えていることは頼もしいと思います。けれども、それが税金や電気料金が上がるなどのような出費増になってしまっは困ります。</p>
<p>一般市民は何等かの方法でエネルギー消費量の節減に努めようと思っているが、太陽光発電や太陽光利用温水装置などを設置する為の投資がなかなか出来ないというのが本音だと思う。LED 電球一つにしても、現状では1個2,000円くらいかかり、各家庭には算えあげれば電球に換算して平均30個くらいあると思う。一度に6万円の一時金を払ってLED化するというのは庶民には中々難しい。従って、当初は、中・低所得者対象にLED化の補助があると思う。第2には、建て替えを含む家屋の新築基準に太陽光の利用を義務付ける必要があるのではないか。特に、商工業用ビルやマンション等は効果がある。家屋の新築購入時等には、ある程度の出費は覚悟している時であるから効果があると思う。</p> <p>追補：「中間まとめ」の13ページに記載されている区内エネルギー消費量に対する再生可能エネルギーの利用可能比率が51%となっていますが、21年度消費量は18,658TJに対し、その下の表にある利用可能量はGJで表示されていますが、読者が迷い易いので、両方ともGJかTJで表現統一した方が良いと思います。</p>
<p>忙しく時間がないのでざっと目を通しただけですが、大災害がおきた時にエネルギーに困らないまちという点に共感しました</p>
<p>創エネの前に省エネが先です。窓の二重化など省エネリフォームでエネルギー出費を減らしてから・・・</p>
<p>災害対策が充実し、安心、安全なエネルギービジョンを策定、実施して欲しいです。</p>
<p>国、都の政策は変わってしまう可能性があるので、区独自のビジョンを確立できるように</p>
<p>省エネ機器の導入を検討しても、省エネ機器の価格が高すぎると思うので、助成金を受けても機器導入にはふ</p>

<p>みきれません。機器メーカーの企業努力により、手頃な価格にして頂けないと普及しないのではと思います。また、将来の生活の不安を抱えての自己資金の持ち出しは、機器購入には踏み切れません。</p>
<p>新たに建物を購入（新築）する際には、自然エネルギーを利用した発電設備等を積極的に導入するが、建物の入手から時が経過すると、そうしたシステムの購入に消極的になる風潮があるのでは？後付けでこれだけの節電・電気料金の抑制ができるのだとわかりやすい戸別の試算ができるのと良いのでは？</p>
<p>直接、家庭訪問調査機関を設ける方がより適切データ入手の道と思う。 集結したデータのまとめの敏速処理こそ大切です。区民の声を大切に！！</p>
<p>公共施設での積極的な取り組みで区民へのお手本を示すのは大事だと思う。お片付けできない物は散らかさない方が良いと思うので、原子力発電はまだ無理と考える。お片付けがちゃんとできる様になるまでは・・・省エネも大事だけど、人口減少を食い止める方が先決と思う。</p>
<p>家の中にいる時の服装も大切だと思います。（エアコンについては）</p>
<p>杉並区の特徴から、住宅が圧倒的で、事業所が少ない。よってエネルギー政策も太陽光発電に依存せざるを得ないであろう。個人的にはスマートコミュニティが賛成で、地域でエネルギーを融通し合うのは将来性があると思う。しかし、現実には高齢化が進み、エネルギー需要が高まらないことを考えると、コミュニティの構成員の賛同は得にくいようにも思う。結果的には、せいぜい現状の太陽光発電設備を導入する個人、中小企業に導入助成や買取価格アップを促すことぐらいしか出来ない気がします。</p>
<p>役所の取り組みとして大変有意義なことだと思います。区民の一人ひとり、エネルギーの使い方に関して日常生活の中で真剣に具体的な問題として考えていかなければと思い、行政として区民にやさしくわかりやすいPRをお願いいたします。</p>
<p>リサイクルエネルギーをもっと増やしていくことが重要。先を見据えて小さなことからでも取り組んでいただき、区民一人一人が省エネを意識し、未来の子供達の為、環境を守る為、努力していただきたい。早めの対策が必要。</p>
<p>豊かな生活とはなったが環境問題等不安も拡大した。次世代の幸せ、日本の将来、日本の未来を視野に入れた施策を考えてほしい</p>
<p>各地区、家庭においていろいろな意見があると思いますが、エネルギービジョンについては、協力しなければならない事はたくさんあると思います。できる所から進めて頂きたいと思います。</p>
<p>今回、このような機会をいただきまして、区でさまざまなエネルギー政策を行っていることを改めて知りました。このアンケートを機に自宅でも環境問題や省エネ、節電等取り組めることがもっとあるのではないかと考えるようになりました。杉並区は住宅都市ということで、再生可能エネルギーの導入、取り組みも限られていると思いますが、その中でも区民の意識をもっと高められるよう取り組みの事例など情報を発信していただくとありがたいです。</p>
<p>ビジョンは絵や文字がから見るととても理想的に思います。実現を前提にすればとても良い街造り提案かと思えます。ただ、単身世帯が増え、高齢化を考えるとコミュニケーションがとても大事かと思えます。</p>
<p>原発は反対なので他のエネルギー確保が必要になる。我が家でできるのは、省エネ、太陽光発電などです。太陽光発電の工事がよく知らないのも、もっと情報があるといいと思います。現状として、節電が出来ること。</p>
<p>杉並区地域エネルギービジョン拝見しました。 私どもは杉並区の南で世田谷区近隣として住んでいますので、他の区、市町村との連携が必要ではないかと思えます。 防災の時には電球（電線等）の地下埋没をお願いします。</p>

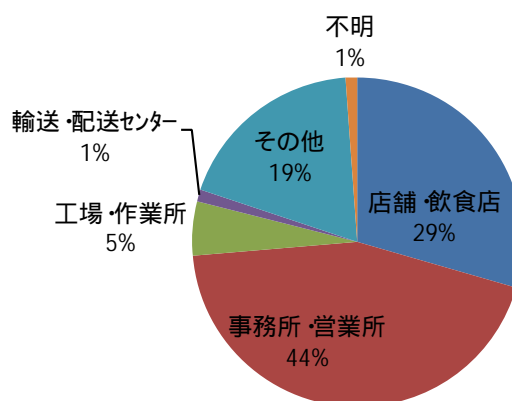
## 「杉並区地域エネルギービジョン」に関する事業所アンケート 集計結果

・単純集計結果 送付数3,000 回答数848 回答率28.3%

F 1 貴事業所の形態に該当する記号に丸印をつけてください。

### <事業所形態>

	回答数	割合
店舗・飲食店	250	29%
事務所・営業所	375	44%
工場・作業所	45	5%
輸送・配送センター・車庫	10	1%
その他	158	19%
不明	10	1%
合計	848	100%



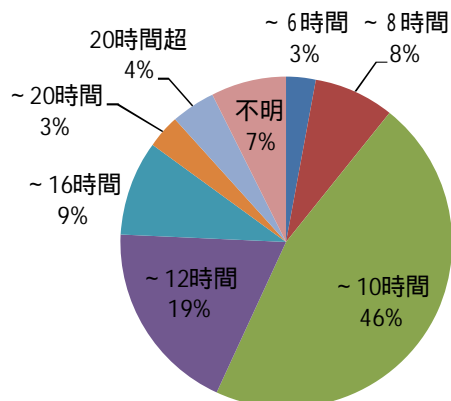
### <その他の内容>

福祉・医療機関	71
教育機関	39
不動産賃貸・管理	19
宗教施設	9
公共施設	7
N P O	2
サービス業	3
建設業	1
倉庫	1
電算事務センター	1

F 2 貴事業所の営業時間（準備時間を含む）についてお答えください。

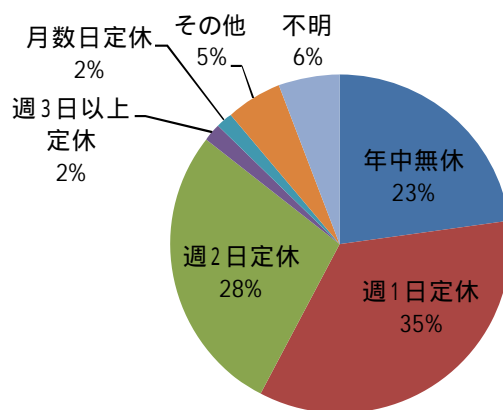
### <営業時間>

	回答数	割合
～ 6時間	24	3%
～ 8時間	67	8%
～ 10時間	391	46%
～ 12時間	161	19%
～ 16時間	78	9%
～ 20時間	28	3%
20時間超	36	4%
不明	63	7%
合計	848	100%



< 営業日 >

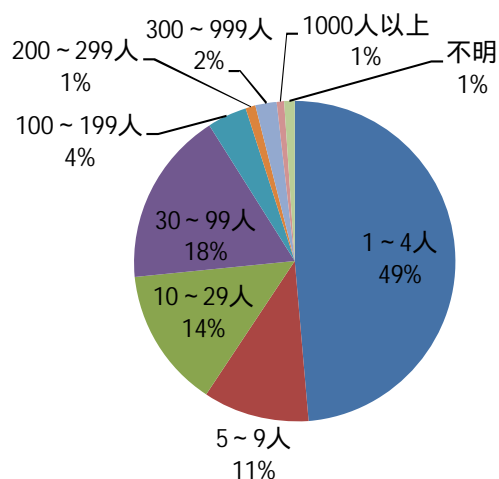
	回答数	割合
年中無休	194	23%
週1日定休	295	35%
週2日定休	237	28%
週3日以上定休	14	2%
月数日定休	13	2%
その他	45	5%
不明	50	6%
合計	848	100%



F 3 貴事業所の従業員数に該当する番号に丸印をつけてください。

< 従業員数 >

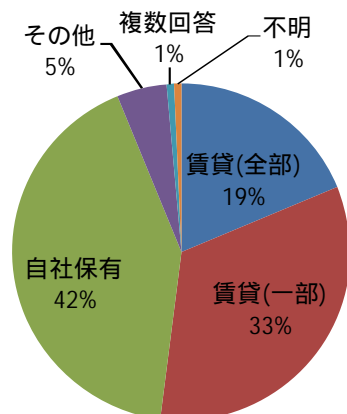
	回答数	割合
1～4人	413	49%
5～9人	90	11%
10～29人	120	14%
30～99人	149	18%
100～199人	34	4%
200～299人	9	1%
300～999人	18	2%
1000人以上	6	1%
不明	9	1%
合計	848	100%



F 4 貴事業所建物の所有形態に該当する記号に丸印をつけてください。

< 所有形態 >

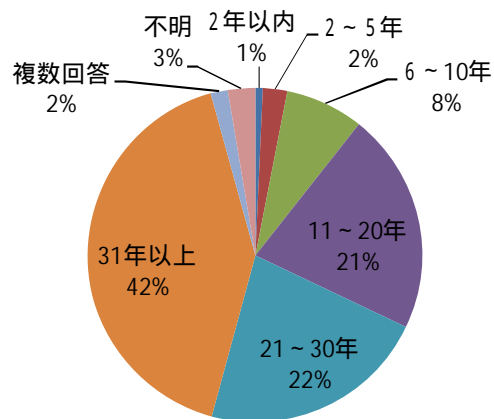
	回答数	割合
賃貸(建物全部)	159	19%
賃貸(建物一部)	282	33%
自社保有	355	42%
その他	40	5%
複数回答	6	1%
不明	6	1%
合計	848	100%



F 5 貴事業所建物の築年数について、該当する番号に丸印をつけてください。

< 築年数 >

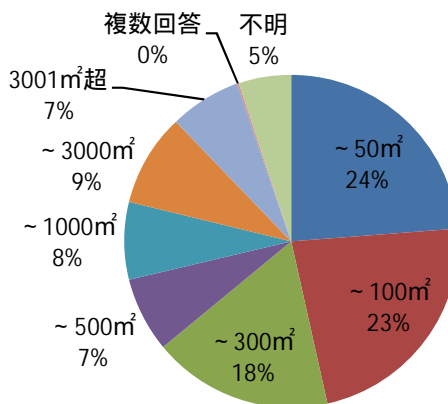
	回答数	割合
2年以内	6	1%
2～5年	20	2%
6～10年	65	8%
11～20年	181	21%
21～30年	187	22%
31年以上	353	42%
複数回答	14	2%
不明	22	3%
合計	848	100%



F 6 貴事業所建物の延べ床面積について、該当する番号に丸印をつけてください。

< 延床面積 >

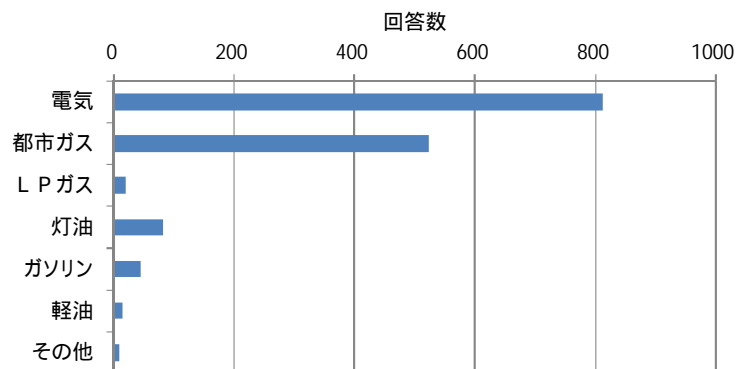
	回答数	割合
50㎡以下	202	24%
51～100㎡	192	23%
101～300㎡	149	18%
301～500㎡	61	7%
501～1000㎡	64	8%
1001～3000㎡	76	9%
3001㎡超	59	7%
複数回答	2	0%
不明	43	5%
合計	848	100%



F 7 貴事業所建物で使用しているエネルギーに該当するものに丸印をつけてください。(複数回答可)

< 使用しているエネルギー >

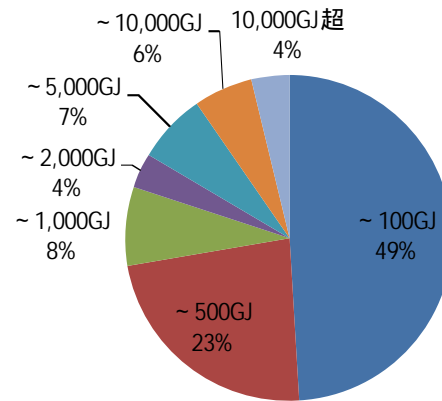
	回答数	割合
電気	812	100%
都市ガス	524	64%
L Pガス	19	2%
灯油	82	10%
ガソリン	45	6%
軽油	14	2%
その他	10	1%
全体	816	100%



F 8 平成24年1月から12月までの、貴事業所での電気・ガス使用量（年間）はいくらでしたか。

< 電気・ガス年間使用量（合計値） > 参考値

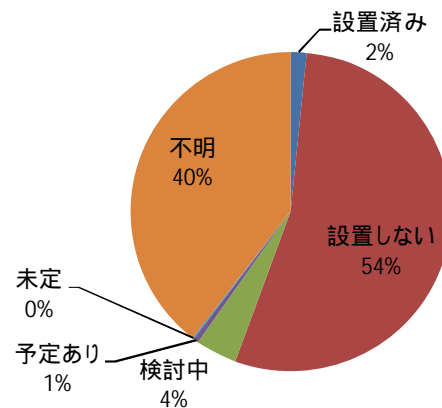
	回答数	割合
～100GJ	221	49%
～500GJ	105	23%
～1,000GJ	35	8%
～2,000GJ	16	4%
～5,000GJ	31	7%
～10,000GJ	26	6%
10,000GJ超	17	4%
全体	451	100%



F 9 貴事業所での再生可能エネルギー機器等の設置状況や意向について、ご記入ください。

< 太陽光発電システムの設置状況 >

	回答数	割合
設置済み	13	2%
設置しない	459	54%
設置を検討中	35	4%
設置予定あり	5	1%
未定	1	0%
不明	335	40%
合計	848	100%



< 設置済みシステムの仕様 >

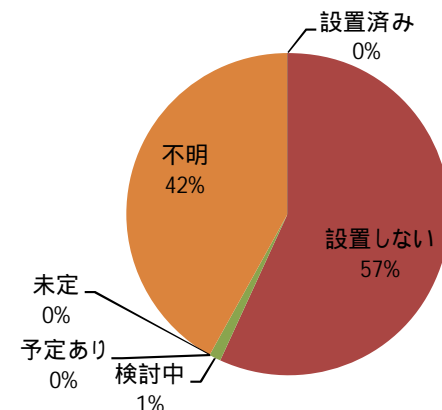
最大出力	回答数
0.36kW	1
2.50kW	1
3.30kW	1
4.96kW	1
18.0kW	1
23.0kW	1
25.6kW	1
37.0kW	1

< 設置予定年月とシステム仕様 >

最大出力	設置年月	回答数
1.1kW	H25.2	1
2.0kW	H25.2	1
不明	H25.4	1
440kW	H25.6	1
不明	H27	1

< 太陽熱発電システムの設置状況 >

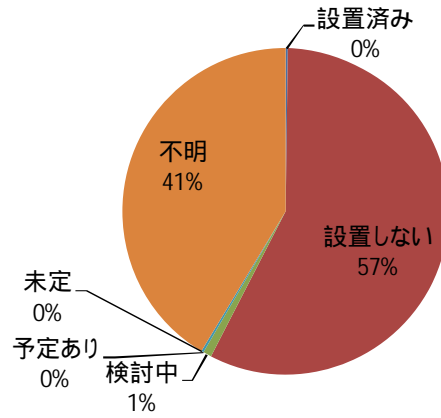
	回答数	割合
設置済み	0	0%
設置しない	482	57%
設置を検討中	10	1%
設置予定あり	0	0%
未定	1	0%
不明	355	42%
合計	848	100%





< 太陽熱温水器の設置状況 >

	回答数	割合
設置済み	2	0%
設置しない	486	57%
設置を検討中	7	1%
設置予定あり	0	0%
未定	2	0%
不明	351	41%
合計	848	100%

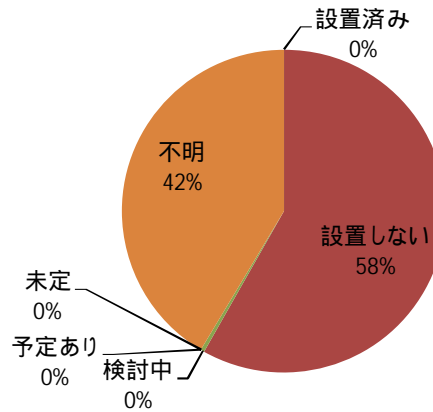


< 設置済みシステムの仕様 >

集熱面積	回答数
2㎡	1
6㎡	1

< ガスタービンシステムの設置状況 >

	回答数	割合
設置済み	1	0%
設置しない	492	58%
設置を検討中	3	0%
設置予定あり	0	0%
未定	0	0%
不明	352	42%
合計	848	100%

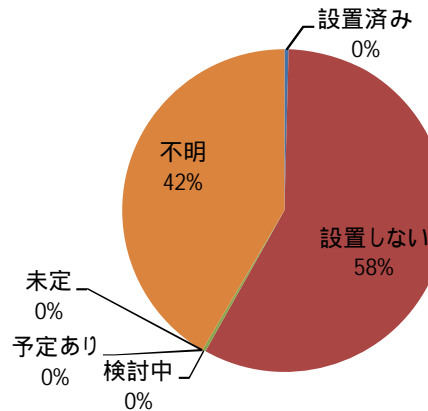


< 設置済みシステムの仕様 >

発電出力	回答数
不明	1

< ガスエンジンシステムの設置状況 >

	回答数	割合
設置済み	3	0%
設置しない	490	58%
設置を検討中	3	0%
設置予定あり	0	0%
未定	0	0%
不明	352	42%
合計	848	100%

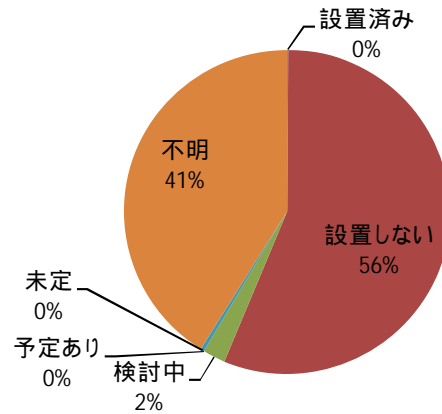


< 設置済みシステムの仕様 >

発電出力	回答数
80kW	1
90kW	1
不明	1

< 燃料電池の設置状況 >

	回答数	割合
設置済み	1	0%
設置しない	476	56%
設置を検討中	19	2%
設置予定あり	0	0%
未定	3	0%
不明	349	41%
合計	848	100%

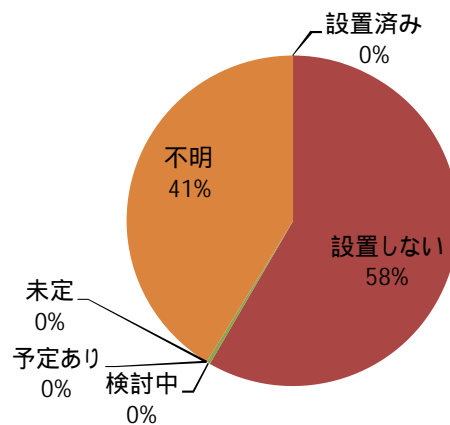


< 設置済みシステムの仕様 >

発電出力	回答数
50kW	1

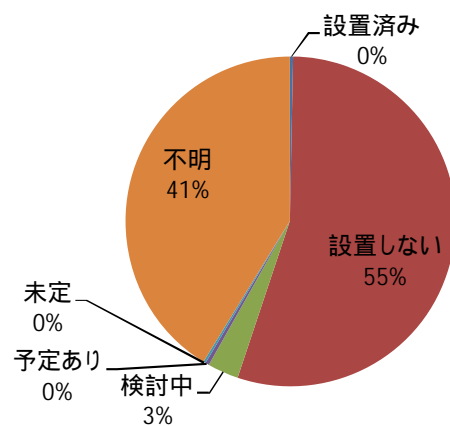
< 風力発電システムの設置状況 >

	回答数	割合
設置済み	0	0%
設置しない	494	58%
設置を検討中	4	0%
設置予定あり	0	0%
未定	0	0%
不明	350	41%
合計	848	100%



< 蓄電池の設置状況 >

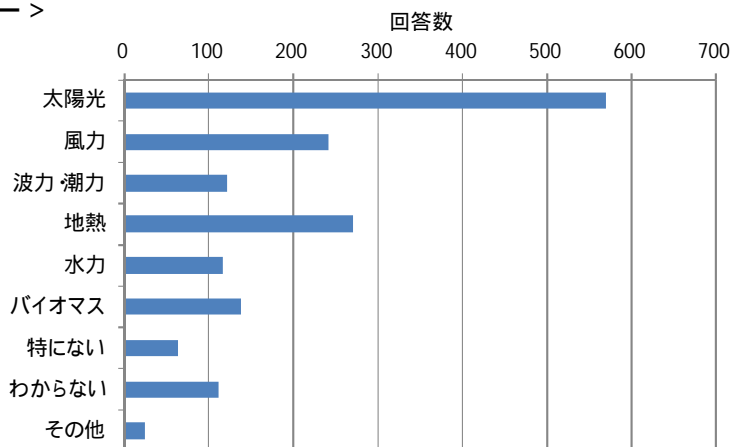
	回答数	割合
設置済み	2	0%
設置しない	466	55%
設置を検討中	26	3%
設置予定あり	3	0%
未定	2	0%
不明	349	41%
合計	848	100%



Q1 今後、普及を期待する再生可能エネルギーに丸印をつけてください。(複数回答可)

<普及を期待する再生可能エネルギー>

	回答数	割合
太陽光	569	71%
風力	241	30%
波力・潮力	122	15%
地熱	271	34%
水力	116	14%
バイオマス	138	17%
特にない	63	8%
わからない	111	14%
その他	25	3%
全体	804	



<その他の内容>

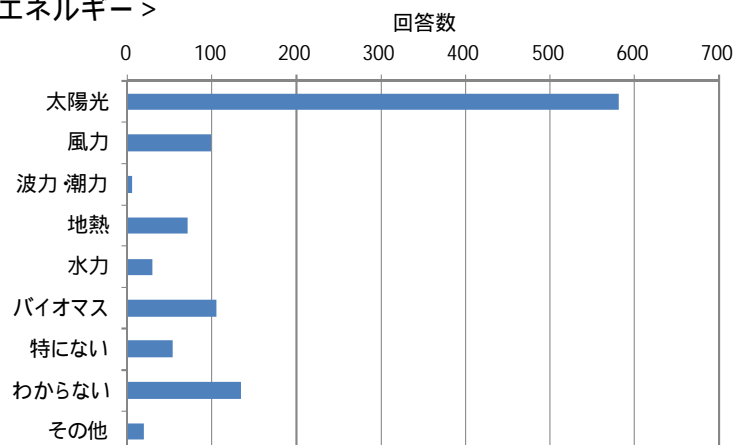
- ・太陽熱 ・太陽熱発電
- ・地中熱
- ・温泉発電 ・温度差発電
- ・バイオディーゼル
- ・シェールオイル ・メタンハイドレート(2)
- ・燃料電池 ・エネファーム
- ・天然ガスコンバインド発電 ・高効率石炭火力
- ・スターリングエンジン
- ・常温核融合(2)
- ・蓄電池(2)
- ・原子力(4) ・原子力の適正な運用
- ・原発も安全を留意しながら使用する必要があるが、なるべく他のエネルギーを多く使用した方が良くと思う
- ・原発以外
- ・なにしろ、無駄遣いしない。LED等、電気節約、可能性のあるものすべて、水節約、夏の緑のカーテン、個人でも電気をおこせる研究

Q2 区が導入を促進(機器設置費用の補助等)すべき再生可能エネルギーに丸印をつけてください。

(複数回答可)

<区が導入を促進すべき再生可能エネルギー>

	回答数	割合
太陽光	582	73%
風力	98	12%
波力・潮力	5	1%
地熱	71	9%
水力	29	4%
バイオマス	105	13%
特にない	53	7%
わからない	135	17%
その他	19	2%
全体	792	



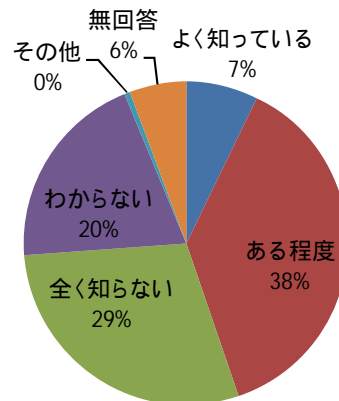
< その他の内容 >

- ・太陽熱温水供給システム
- ・地中熱システム
- ・ごみ焼却による発電(3) ・ごみ焼却時の熱(3) ・ごみ処理場
- ・井戸水の熱源化
- ・バイオディーゼル
- ・燃料電池
- ・コージェネレーション
- ・天然ガスコンバインド発電
- ・蓄電池(4)
- ・火力
- ・原子力
- ・補助金 = 税金。トータルの経済性判断で実施すべき

Q3 現在、高圧50kW以上の電力を使う事業所等は、一般電気事業者(電力会社)だけでなく、特定規模電気事業者(PPS)から電気を購入することが認められています。この制度(特定電気事業制度)をご存じでしたか。

< 特定電気事業制度の認知度 >

	回答数	割合
よく知っている	61	7%
ある程度知っている	319	38%
全く知らない	246	29%
わからない	170	20%
その他	4	0%
無回答	48	6%
合計	848	100%



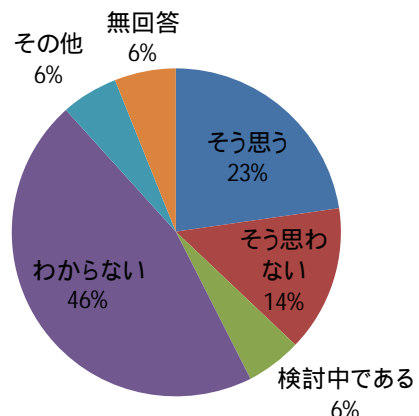
< その他の内容 >

- ・電気代は管理会社に支払っている
- ・聞いたことがある程度(2)
- ・知っているが内容は知らない

Q4 利用が可能であれば、特定規模電気事業者(PPS)から電気を購入したいと思いますか。

< PPSからの買電の意向 >

	回答数	割合
そう思う	192	23%
そう思わない	122	14%
検討中である	47	6%
わからない	388	46%
その他	47	6%
無回答	52	6%
合計	848	100%



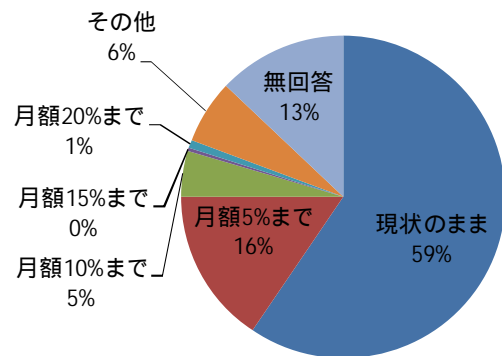
< その他の内容 >

- ・既に購入している（10） ・3月から導入予定
- ・検討は可能
- ・本社や本部の決定による（6）
- ・賃貸なのでビル所有者の意向による（2） ・賃貸のため不可 ・大家さんから分電されているので決められない
- ・料金が安くなることが前提、但し、賃貸オフィスであるため、ビル設備に依存する
- ・規模の大小にかかわらず購入ができ、今より電気量が安くなるなら
- ・現在よりも料金が安くなるなら（7） ・導入初期費用とランニングコスト次第
- ・長期間にわたる安定供給と単価保証されるのであれば、また切替手続きが煩雑でなければ購入も検討する
- ・料金・安定性
- ・50kW未満の契約のため対象外（7） ・小規模の為不明 ・特に該当しないと思うので考えたい
- ・検討したが、現状のほうが安価であった
- ・必要がない
- ・まずは知りたいと思います ・内容が分かれば検討したい

Q5 平成24年7月からは再生可能エネルギーの固定価格買取制度が開始され、これに伴い、太陽光発電余剰電力買取経費と再生可能エネルギー買取経費を、電力を使用するすべての世帯や事業者の電力料金に促進賦課金として上乗せされるよう制度改正されました。どの程度まで促進賦課金の上乗せを負担しても良いと考えますか。

< 促進賦課金上乗せの負担限度 >

	回答数	割合
現状のまま	504	59%
月額に5%上乗せまで	132	16%
月額に10%上乗せまで	39	5%
月額に15%上乗せまで	3	0%
月額に20%上乗せまで	6	1%
その他	55	6%
無回答	109	13%
合計	848	100%



< その他の内容 >

- ・上乗せ 課金反対（2） ・上乗せの必要なし ・負担したくない ・これ以上高くして欲しくない
- ・2~3%程度 ・3%（2） ・高い ・今でも充分高い ・値下げ希望
- ・家庭等に負担させるのはおかしい ・上乗せを一般家庭に負担させることに合理性があるのか ・負担は理解できない
- ・東京電力が民間企業である限り社内で調整して欲しい ・東京電力の責任！上乗せは認めたくは有りません
- ・電力会社はこの時期に賞与など出さない会社が多いときに出し、無駄な経費等があると思うのに消費者

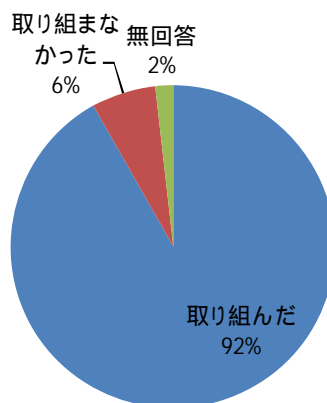
に負担させるのはどういう事が

- ・ 賦課金制度自体考え方が間違っている。東電は人件費、利益を圧縮して、企業努力をして再生エネルギーを買い取るべきです。東電は、賦課金制度がある限り、何も考えない、行動を起こさない。
- ・ 促進賦課金など電力事業者の傲慢だ
- ・ 現在の電力料金の決め方に問題あり
- ・ 促進賦課金の廃止 買取制度の廃止 ・なくすべき ・再生可能エネルギー買取制度に反対
- ・ 乗せるべきではない。他人に電力料金を負担させていることと同じ。あくまでも受益者負担とすべきである。
- ・ 新規電力会社の導入、発電供給系統の分離等に依り、市場競争の原理が働いて現状のままで充分まかなえる筈
- ・ LED など省電力化に力を注ぐべきで賦課金は徴収すべきでない
- ・ 電力料金の中身次第
- ・ 運用に必要な金額を各自が所得や使用量に応じて負担すべき
- ・ 原子力発電を廃止するためなら出来る限り協力します
- ・ 自然エネルギーなら上限気にしない
- ・ 本当のコストがわからないので何とも言えず
- ・ 電力会社のコスト詳細がわからないので回答不能。先進諸国の電力料金と比較しても、我が国の料金は高いし、選択の余地がないのか発送電分離などで改正すべき
- ・ 本部の決定による ・会社で決定します
- ・ わからない(15)
- ・ 財源はどこから出ているのか知らないで現状のままにしておきます
- ・ その事実さえ知らない

Q 6 東日本大震災以降、貴事業所では節電に取り組みましたか。取り組んだ場合、どのような節電をしましたか。

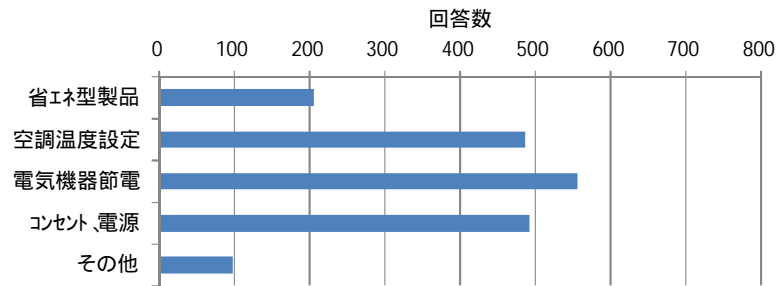
< 節電取り組み状況 >

	回答数	割合
取り組んだ	779	92%
取り組まなかった	54	6%
無回答	15	2%
合計	848	100%



< 取り組み内容 >

	回答数	割合
省エネ型電気製品への買い替え	206	26%
電気式空調機の温度設定	487	63%
電気機器の節電	556	71%
コンセントを抜く、電源を切る	492	63%
その他	98	13%
全体	779	100%



< その他の内容 >

全般	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 契約電力容量の引き下げ (2)</li> <li>・ できるだけ電気を使わない (4)</li> <li>・ 電気使用は集中してする</li> <li>・ コンセントに独自のスイッチをつけた</li> <li>・ 深夜電力の活用(熱源生成)</li> <li>・ 自家発電機(非常用)の導入</li> </ul>
照明等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 電気をまめに消す (12) ・ 照明の点灯時間短縮 (2) ・ 休憩時間の消灯</li> <li>・ 照明の間引き/削減 (43)</li> <li>・ 照明のLED化 (16) ・ 省エネ電灯に交換を検討中(LED蛍光灯)</li> <li>・ 省エネ照明器具の設置 (2) ・ 電球の明るさを下げた (2)</li> <li>・ 看板の使用中止 (7) ・ ネオンサインの一部消灯/早期消灯 (2)</li> </ul>
営業時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 営業時間の短縮 (4) ・ 残業時間の削減/早期帰宅/休日出勤削減 (5) ・ エコデー(無残業の日)設置</li> <li>・ 職員の昼休みを電力使用ピーク時間内に変更、職員の夏期任意休暇を一斉休暇に変更</li> <li>・ 夏時間採用 (30分繰り上げ) ・ 営業時間の変更 8:30~5:30 7:45~4:30</li> <li>・ 夏期店舗の輪番休業(23年7月~9月の月3回)</li> </ul>
空調	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ エアコン稼働時間、設定温度を少なくした。 ・ エアコンの利用を最小限度にして扇風機を利用</li> <li>・ 冷暖房空調の運転制御 ・ 冷暖房を休憩場で弱で使用 ・ 空調停止 (3)</li> <li>・ 冷暖房効率の改善</li> <li>・ エアコン一年中未使用</li> <li>・ 冬期エアコンを使用せずガスのみ使用 ・ 床暖房の利用時間の短縮</li> <li>・ ガス暖房</li> <li>・ 暖房を出来るだけ不使用、寒さ対策に着る物を増やす、暑いときもそれなりに工夫、体力に気を配る</li> <li>・ 旧式の冷暖房空調設備の順次更新(高効率、集中管理制御の導入)、施設の利用形態に合わせて夜間電力を使用する蓄熱式を導入</li> </ul>
設備停止運転制御	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ エレベーターの停止/利用制限 (4) ・ 階段利用</li> <li>・ 自動ドアの使用中止 (3)</li> <li>・ 冷蔵庫等の停止 ・ 作業時間(オープン、クーラー)の使用の制限をする</li> <li>・ マシンの空運転を中止(ランニング)</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用する機械( P C など)の台数を減らした</li> <li>・タブレット型コンピュータ導入によるデスクトップ型コンピュータ稼働時間の削減</li> <li>・自販機の撤去</li> <li>・クラウド化による自社サーバの撤廃</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・窓遮光フィルム( 2 ) ・遮熱塗料</li> <li>・クールビズ/ウォームビズの採用/期間延長( 2 )</li> <li>・家庭で出来る範囲のこと</li> </ul>
環境-管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デマンド値を低く設定しての管理 ・デマンド導入</li> <li>・空調デマンドコントロール、省エネへの啓蒙活動、P C の省エネ設定</li> <li>・スマートメーター設置と運用および監視</li> <li>・デマンド計の導入</li> <li>・節電システムの導入</li> </ul>

< 取り組まなかった理由 >

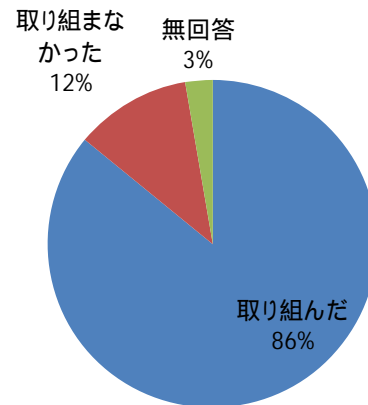
<ul style="list-style-type: none"> <li>・使用量が少ないから( 4 ) ・週 1 日程度しかいない</li> <li>・使用している電力が少ない為ですが電気のコンセントなどを抜くなどのことはしました</li> <li>・小さい事務所なので節電に限界があるため</li> <li>・当社での使用分は共有スペースのみで、使用量が少ない為</li> <li>・そもそも音楽教室の運営上、必要な分しか使っていない</li> <li>・無駄な機器がないため</li> <li>・普段から節電しているから( 6 ) ・日頃から節電している。エアコンなし、コンセントを抜く</li> <li>・必要の時以外電源を切っている</li> <li>・毎月定額ですでに節電に取り組んでいる為必要なかった</li> <li>・以前からグリーン経営にて取り組みをしているから</li> <li>・照明灯等を LED に変更済み(約 50%)、空調機器交換した後に震災があった</li> <li>・現状以上の節電は難しい( 2 )</li> <li>・冬は、患者さんが着衣を脱ぐので暖かさは十分必要なためできなかった。夏は扇風機でしのぐ日を過ごした</li> <li>・診療所のため</li> <li>・食品を扱うので照明はいる</li> <li>・アパート(管理)なので ・ビル所有者になって間もないため</li> <li>・建物の構造上</li> <li>・賃貸物件の為、具体策検討不可と思った</li> <li>・ネット上の団体であるため</li> <li>・原発を止めたから</li> <li>・必要がないため( 2 )</li> <li>・わからない</li> </ul>
--



Q7 東日本大震災以降、貴事業所では節電以外にエネルギーの使用削減に取り組みましたか。取り組んだ場合、どのような削減をしましたか。

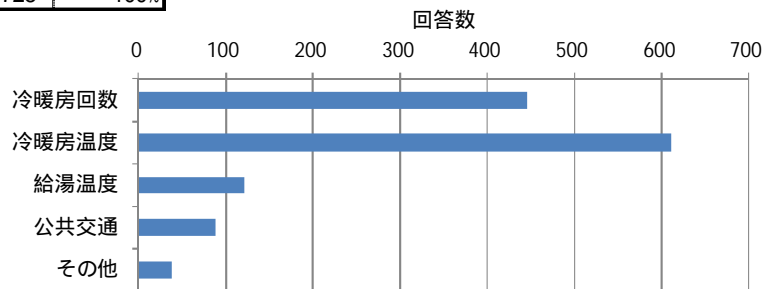
< 節電以外の取り組み状況 >

	回答数	割合
取り組んだ	728	86%
取り組まなかった	98	12%
無回答	22	3%
合計	848	100%



< 取り組み内容 >

	回答数	割合
冷暖房機の使用回数の減少	446	61%
冷暖房機の温度設定	611	84%
給湯の温度設定	121	17%
公共交通機関の利用	88	12%
その他	38	5%
全体	728	100%



< その他の内容 >

営業時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・営業時間短縮 (3)</li> <li>・夏季休業中の勤務時間の軽減措置 (短縮化)</li> <li>・仕事の高効率化</li> </ul>
空調	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高効率の空調に切り替え ・空調機の更新 (2) ・冷房不可</li> <li>・直射日光対策 (屋根・窓) ・緑のカーテン</li> <li>・窓への遮熱フィルム貼付 (2) ・遮熱塗装による冷暖房効率アップ</li> <li>・ガス暖房機に取り替えた</li> </ul>
給湯	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ガス給湯器の潜熱回収式への更新</li> <li>・給湯器の利用期間の設定</li> </ul>
交通	<ul style="list-style-type: none"> <li>・車での営業中止 宅配便</li> <li>・自動車の使用を極力使わない。都内の移動は自転車に変更した。</li> <li>・減車 ・自転車利用 (3) ・歩く</li> <li>・車両のアイドリングストップ</li> <li>・社有車のエコカーへの切替 (2)</li> </ul>
ライフスタイル	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クールビズの導入 (2)</li> <li>・エネルギー使用量の集計および周知</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボイラーの余熱利用</li> <li>・メンテナンス</li> </ul>

マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2005年にISO14001を取得。準備段階も含め従前よりエネルギー使用削減に取り組んでいる</li> <li>・グリーン経営、2Fの冷暖房のコントロールと照明コントロール</li> <li>・環境認証エコアクション21の取得</li> </ul>
省資源	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マイ箸の実践、コピー用紙の2次活用、ペーパーレス会議などの推進</li> <li>・ペーパーレス</li> </ul>
節電	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デマンドによるピークカット(2)</li> </ul>

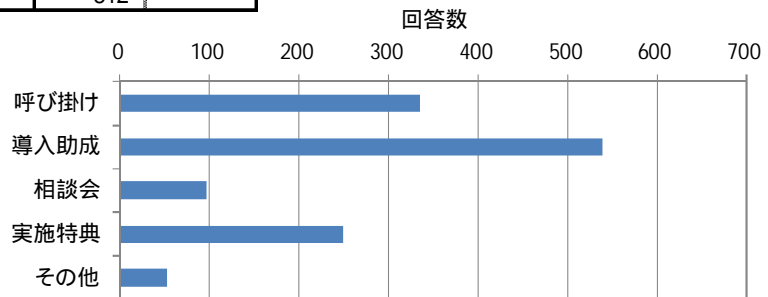
< 取り組まなかった理由 >

- ・電気しか使っていないから(11)
- ・エネルギーは電気、ガスのみで、節電のためガス使用量(冷暖房)は増加
- ・震災前から/日頃から節電しているから(9)
- ・以前からグリーン経営にて取り組みをしているから
- ・他に削減できる部分がないから(3)
- ・使用量が少ないから(6)
- ・無駄な機器を使用していないため
- ・現状通りで良い
- ・現状以上の節約は不可能
- ・運営上できなかった
- ・教育環境に影響が出るため
- ・電気機器の節電以外なかった
- ・電気以外にする気がなかった
- ・ネット上の団体であるため
- ・自宅営業のため
- ・寒がりなので
- ・電気以外は気にして対策することに対する実感(やった感、達成感)がない
- ・現実的ではなかった
- ・優先順位 - 照明と空調
- ・ビル所有者になって間もないため
- ・賃貸なので借り手側では何もできない ・賃貸のため、各々の自主
- ・ほとんどいない
- ・節電の取り組みで効果があったため
- ・原発を止めたから
- ・方法がわからない
- ・Q6との質問の違いがよくわからない

Q 8 エネルギーの使用削減を促すために、区はどのような取り組みをするべきだと考えますか。該当する番号に丸印をつけてください。（複数回答可）

< エネルギー使用削減を促すために区がするべき取り組み >

	回答数	割合
広報などで削減を呼び掛ける	335	41%
省エネ機器導入助成を実施する	539	66%
省エネに関する相談会を実施する	97	12%
省エネを実施した世帯が特典を得られる	249	31%
その他	53	7%
全体	812	



< その他の内容 >

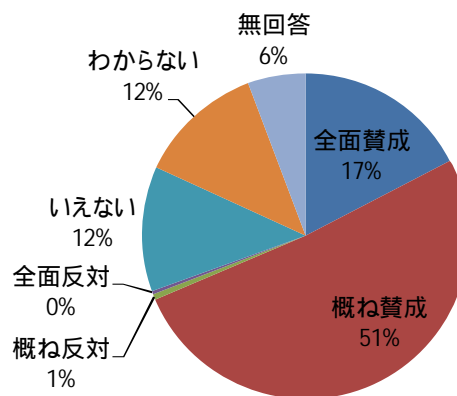
省エネ手法等の周知	具体的な例。省エネルギーのイロハ
	知識の乏しい人たちがとても多いと思う。その人達への具体的な方法やどの位の金額の効果があるかを普及させるとかなりの効果があると思う。
	区役所等の取り組み事例で良いものがありましたら紹介していただけたらありがたいです
	事例を教えて欲しい
	省エネの方法をもっと啓発する（具体的な方法がわからない）
	各中学校単位くらいで説明、PR の会を行う
	さらに効果的な使用方法を呼び掛けてもらう
	区報への発表とか
	他の成功事例を紹介していく。皆がやっている人だという風土作り 「エネルギーが足らなくなるよ」と以前同様危機感をあおる
省エネ効果の周知	広報などで削減%の実績を知らせる（ごみ削減についてしている手法）
	区の省エネに取り組んでいる定期的報告成果等の広報 区民にも意識付けになる
	まず、公共の施設で実例を作って、そのコストパフォーマンスを公表する
助成等	助成金等をもっと区民に知らせる為、広報活動をさまざまなメディアを活用して積極的に行う必要がある
	LED の導入推進、推進にあたっての助成金制度
区の率先行動	区の設備（学校、区役所、公園など）で最初に取り組んで欲しい
	区役所、駅前事務所等が暑すぎ、寒すぎる
	公共の無駄な電気を消すなどのできることを実行しては？
	区内のタクシー、バスのEV化 100% 区で蓄電池の設置

	区自体がもっとエネルギーについて勉強すべき
	区民の提示した事を行政が取り組まないと思うから
その他施策	広告看板等の照明に供する電力を制限する(2)
	深夜営業時間を減らす。電気使用量(光、熱)が減る
	街灯の省エネ
	ネオンサインの削減
	廃食用油のバイオディーゼル燃料としての利用促進(回収事業の助成または行政としての実施含む)
	仕事を短くする
	ピークを平常化させる
	「地産地消」
	緑を増す
	屋上が広くてそのままなので、緑(芝生)をやりたい
	地震対策で手一杯です。 について、LED 電球は高すぎです。光をLEDにするだけでずいぶん電気使用量を減らせます。
	家庭や職場で一人一台の冷暖房機の無駄をなくす
その他	削減のみでは経済収縮をまねく
	無駄な事はしない
	必要ない(2)
	あまり意味がないと思う
	わからない(5)
	常温核融合の実用化
	質問が漠然としていて、具体性に欠く。エネルギー消費の多い所からABC分析で対応すれば効果はあると思う。

Q9 「(仮称)杉並区地域エネルギービジョン中間のまとめ(案)」について、どのように考えますか。

<ビジョン中間まとめ(案)について>

	回答数	割合
全面的に賛成である	147	17%
概ね賛成である	435	51%
概ね反対である	5	1%
全面的に反対である	3	0%
どちらともいえない	104	12%
わからない	105	12%
無回答	49	6%
合計	848	100%



## ・クロス集計結果

以下のとおり、5項目の属性と13項目の回答についてクロス集計を行った。

クロス項目

【属性】

F1 事業所形態
F3 従業員数
F4 建物の所有形態
F5 建物の築年数
F6 建物の延床面積

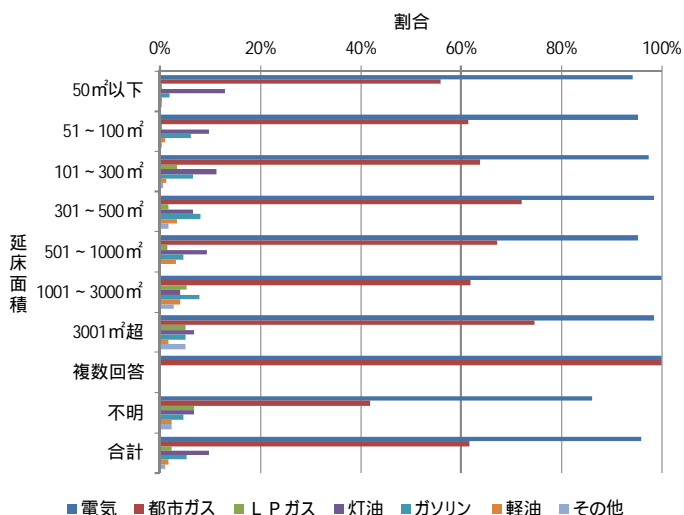
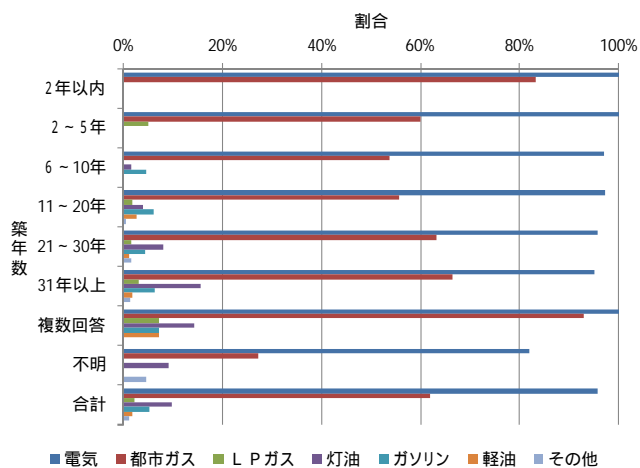
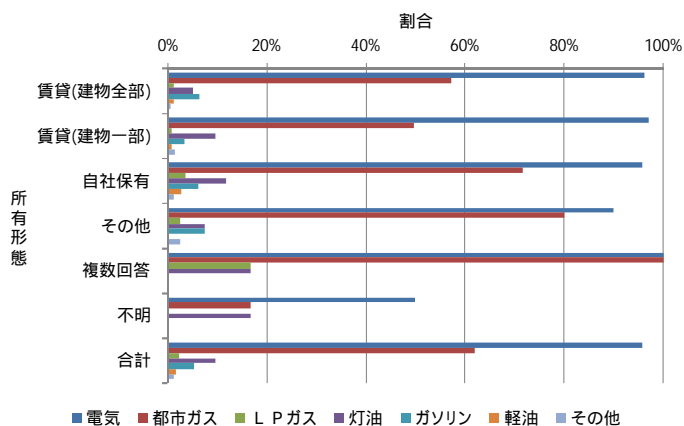
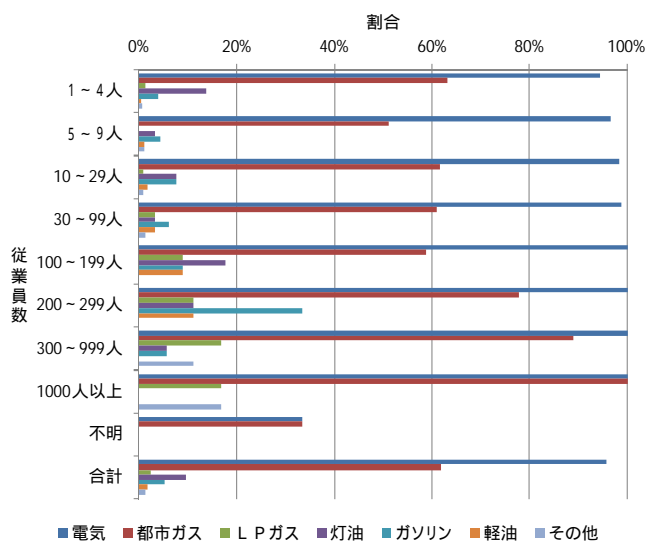
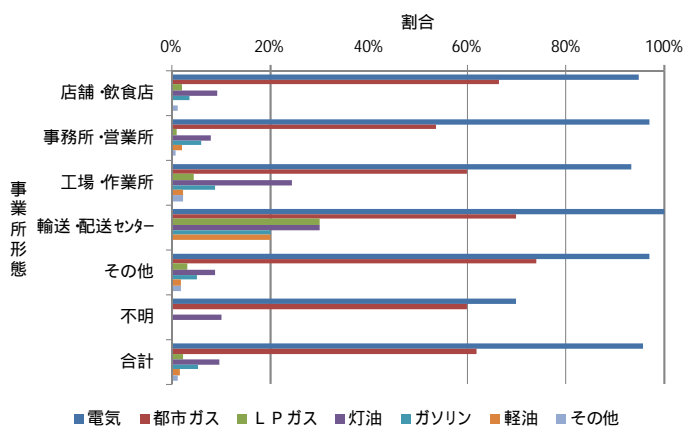
×

【回答】

F7 使用しているエネルギー
F9 再エネ設置状況
Q1 普及を期待する再エネ
Q2 区が導入促進すべき再エネ
Q3 特定電気事業制度の認知
Q4 P P S からの買電の意向
Q5 再エネ促進賦課金上限
Q6 節電状況
節電取り組み内容
Q7 節電以外の省エネ状況
省エネ取り組み内容
Q8 省エネ促進策
Q9 ビジョン中間まとめ(案)

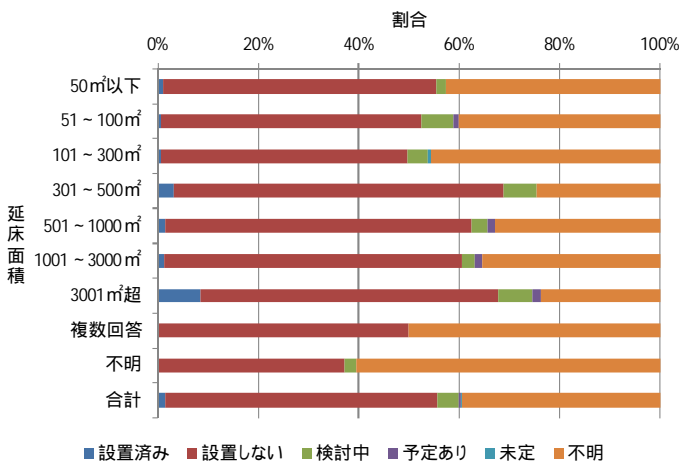
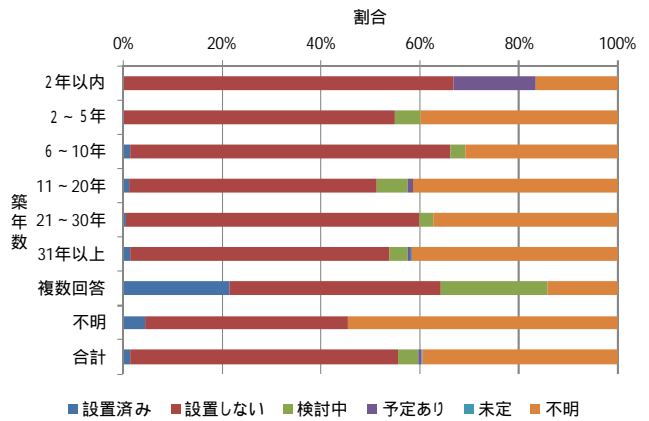
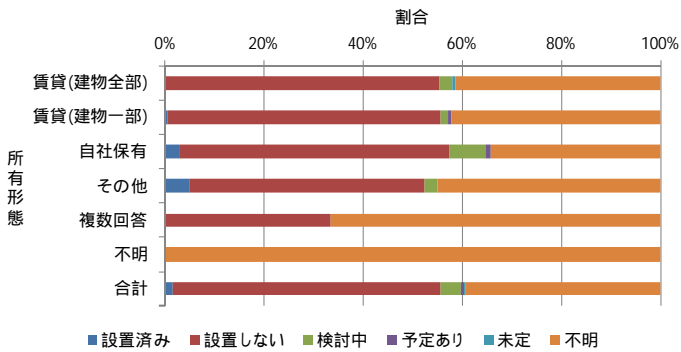
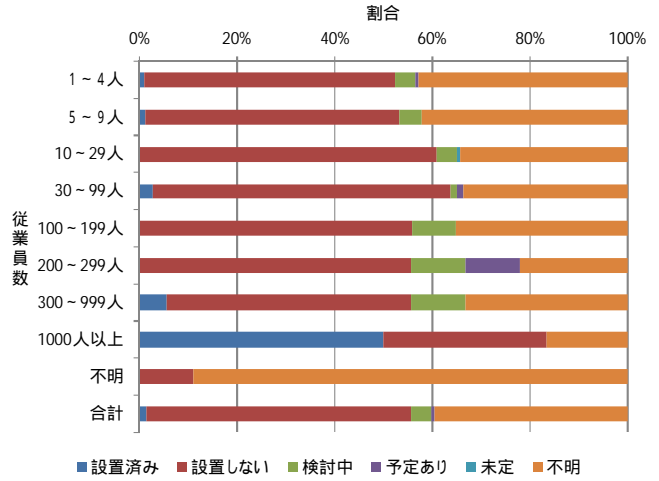
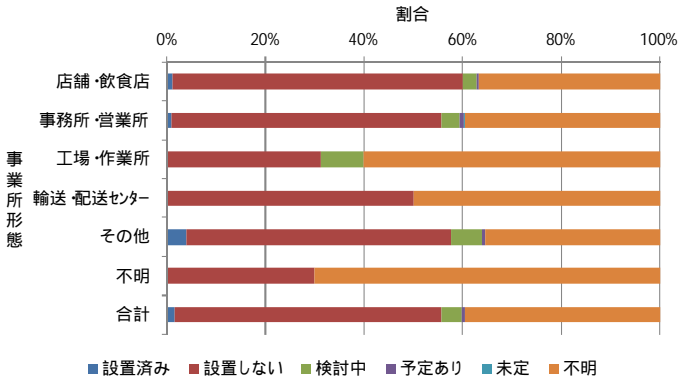
## F 7 使用しているエネルギー

- 事業所の属性に関係なく、電気と都市ガスを使用している事業所が多い。
- 従業員数が多いほど、延床面積が広いほど、都市ガスやL Pガスを使用している割合が高くなる傾向にある。
- 延床面積が広いほど、灯油を使用している割合が低くなる傾向にある



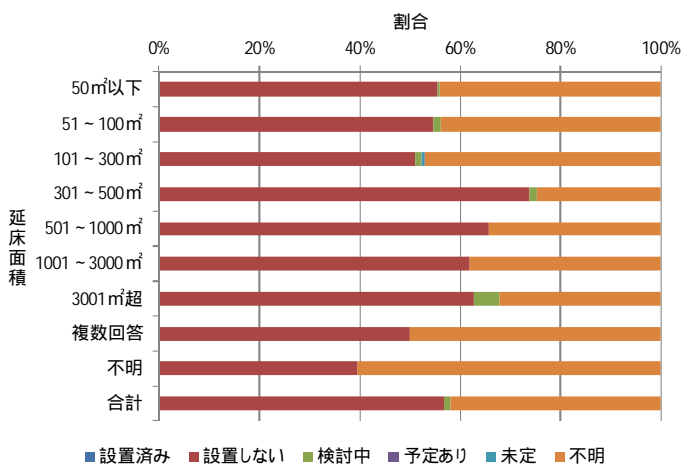
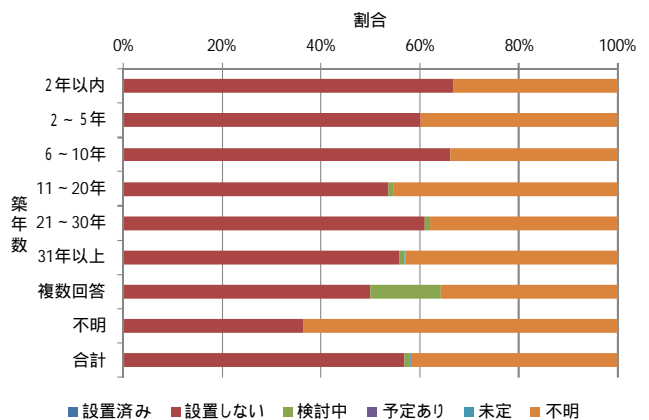
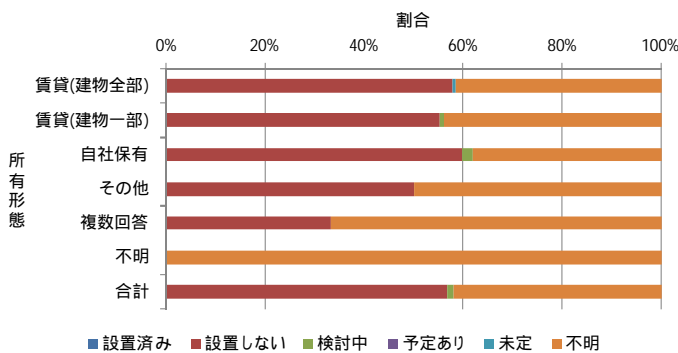
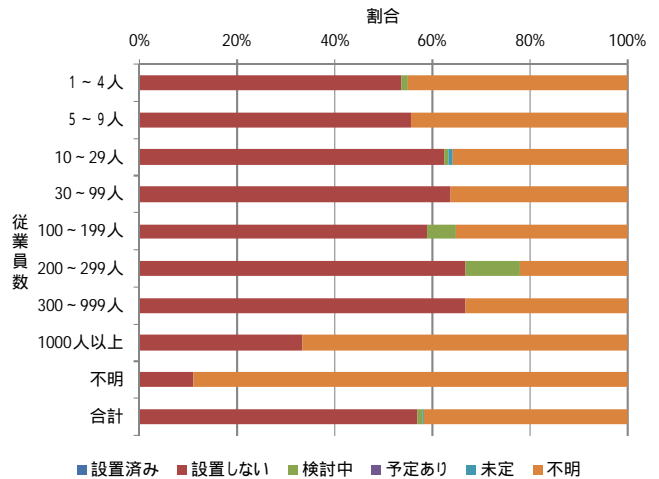
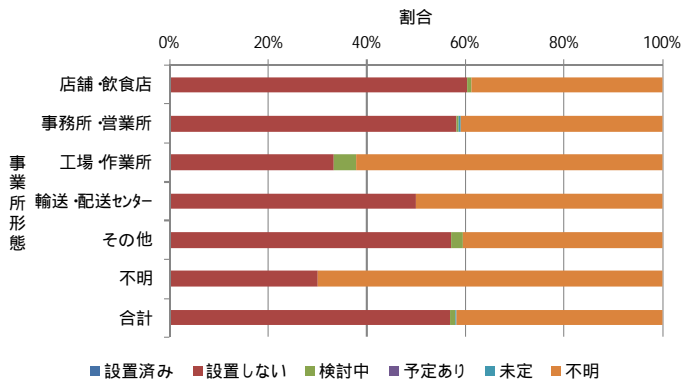
## F 9 再生可能エネルギー設置状況（太陽光発電システム）

- 「従業員数が1000人以上」「事業所建物を自社保有している」「延床面積が大きい」事業所では、太陽光発電システムを設置している割合が高い。



## F 9 再生可能エネルギー設置状況（太陽熱発電システム）

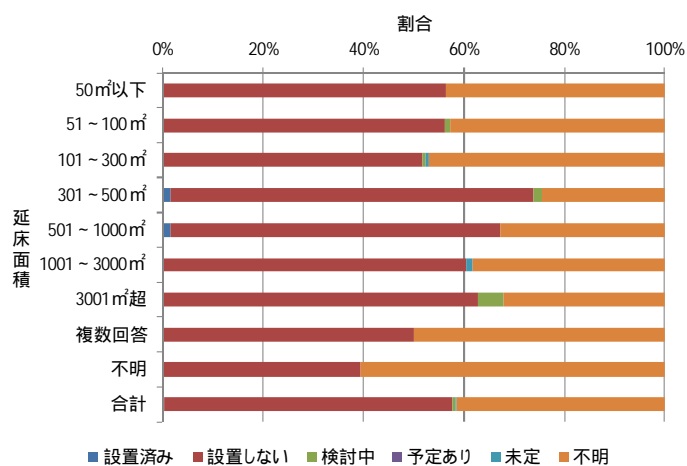
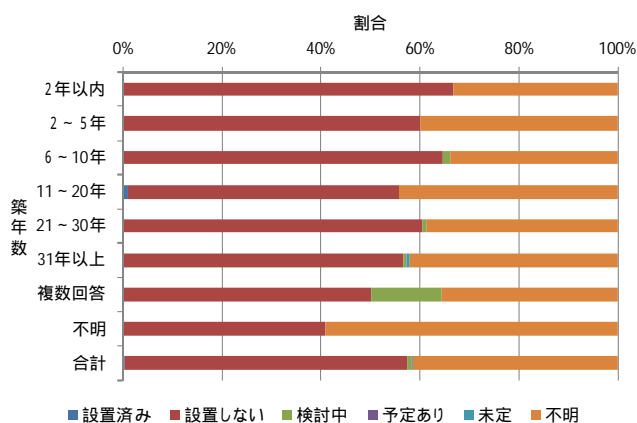
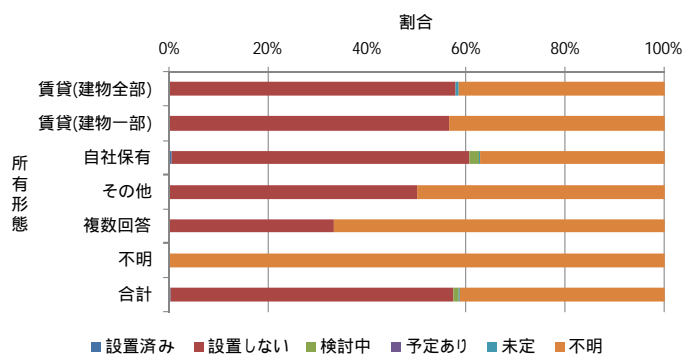
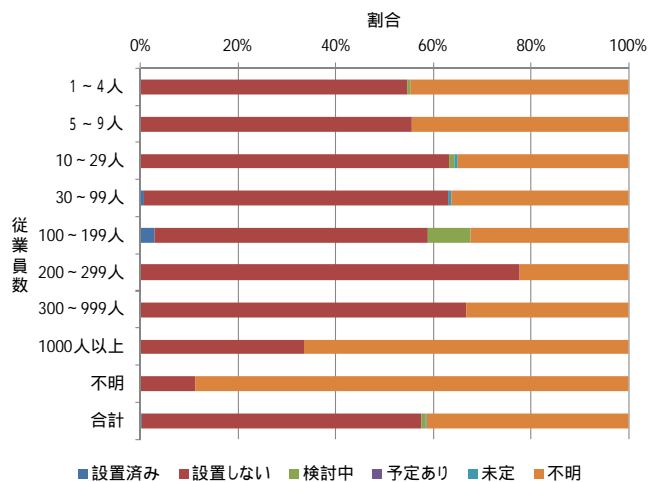
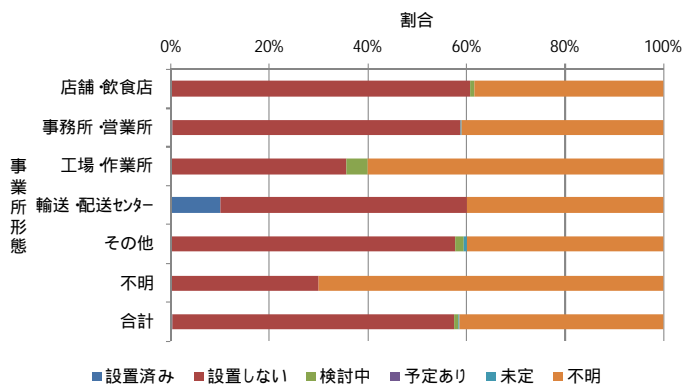
- 「従業員数が多い」「延床面積が3001㎡以上」の事業所で、太陽熱発電システムを検討している割合が高い。





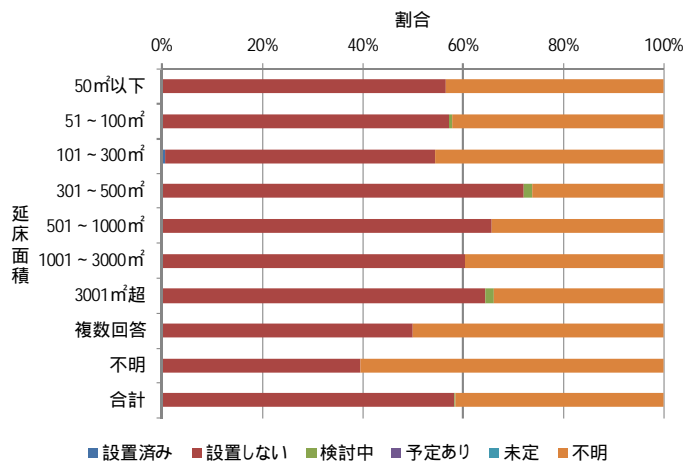
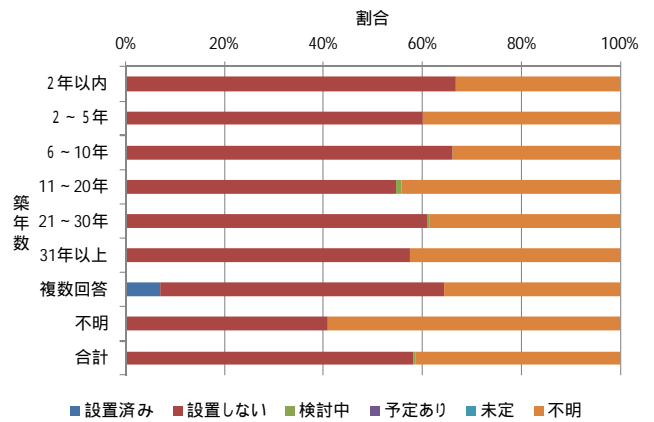
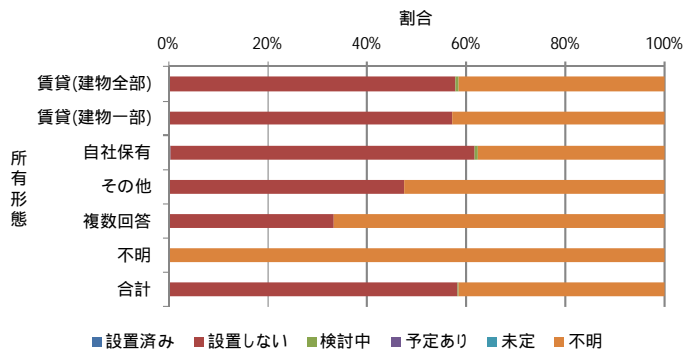
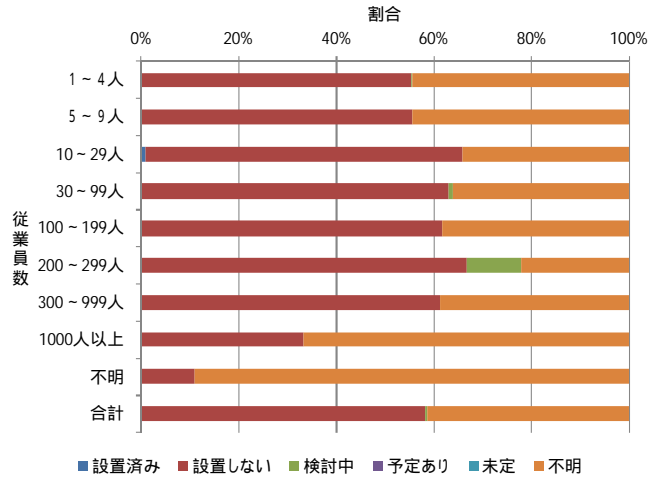
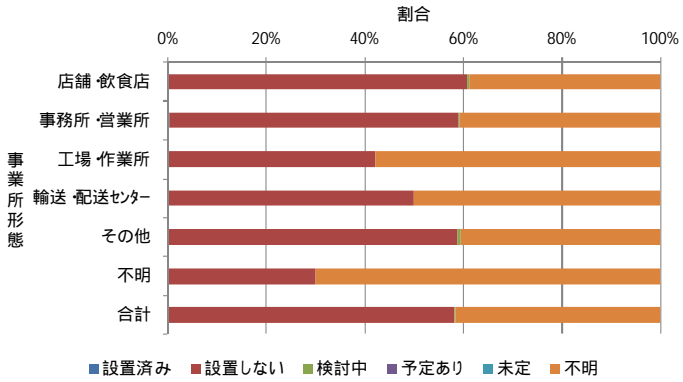
## F 9 再生可能エネルギー設置状況（太陽熱温水器）

○ 輸送・配送センターにおいて、太陽熱温水器が設置されている。



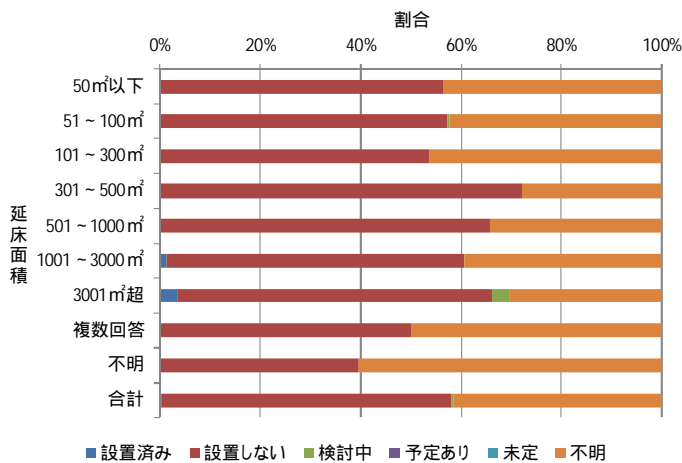
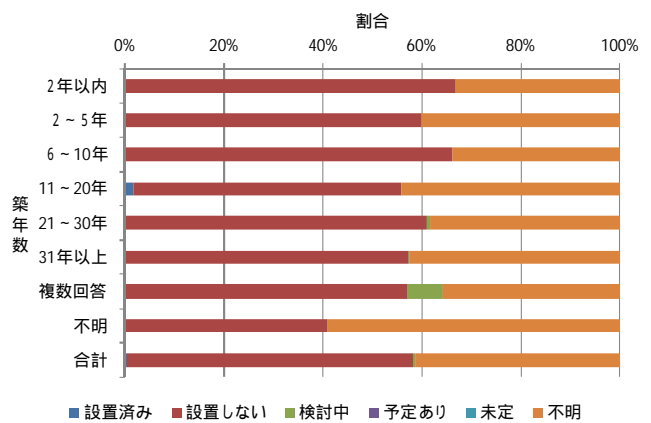
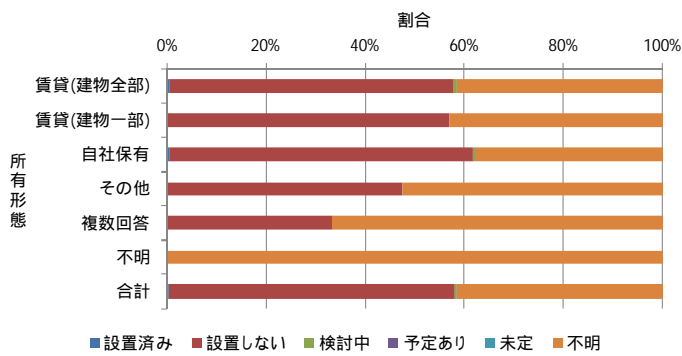
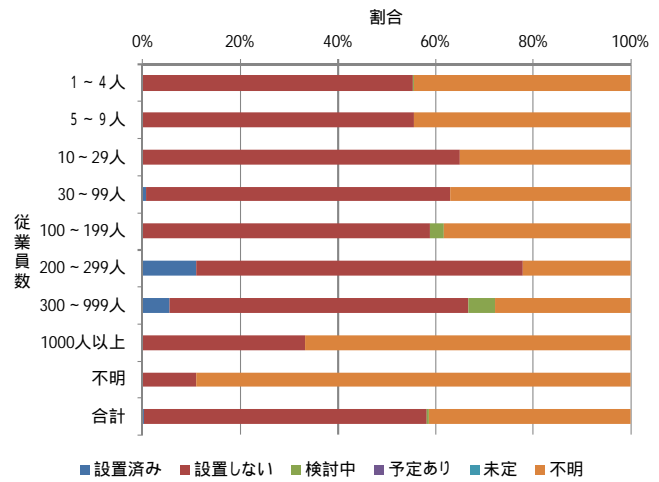
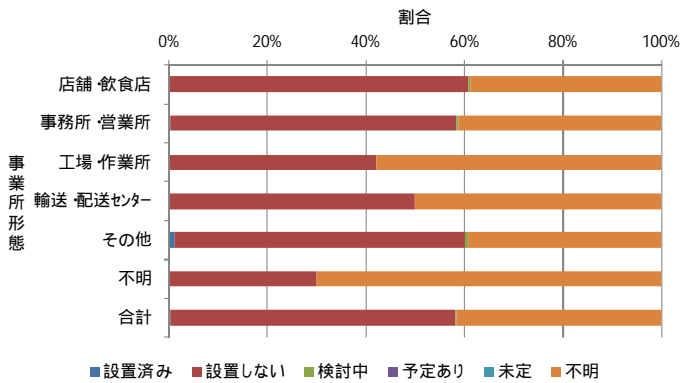
## F 9 再生可能エネルギー設置状況（ガスタービンシステム）

○ 属性による大きな差は見られず、5～6割の事業所でガスタービンシステムは設置しないと回答している。



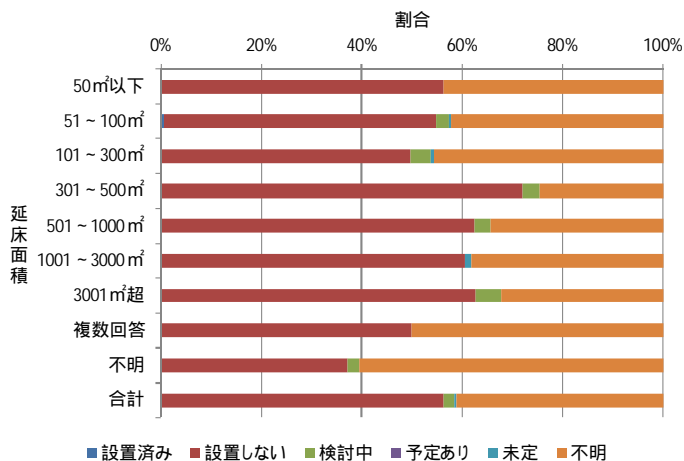
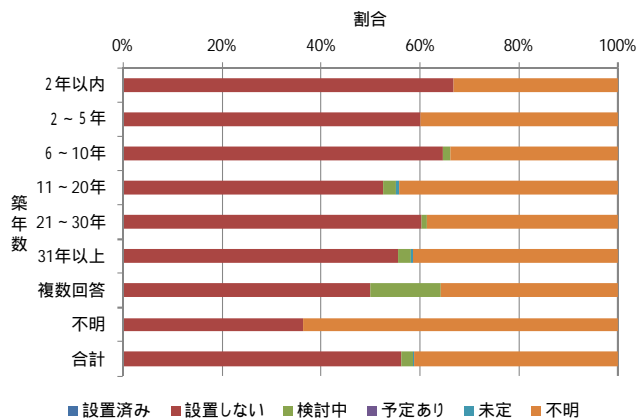
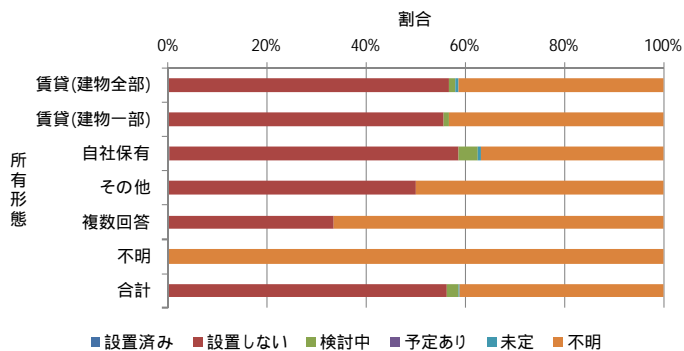
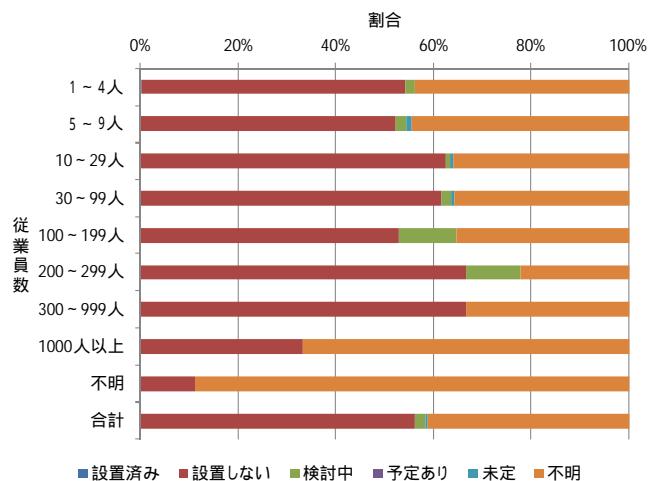
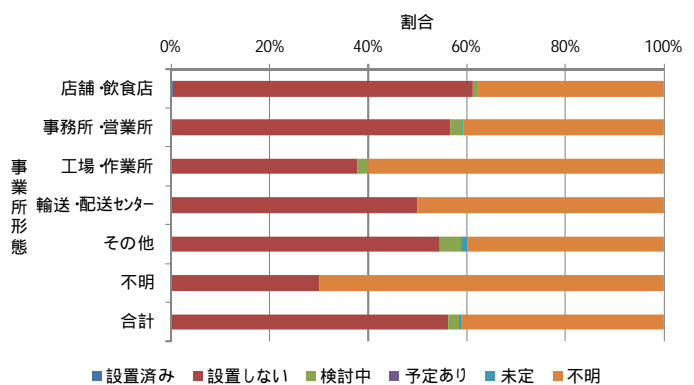
## F 9 再生可能エネルギー設置状況（ガスターエンジンシステム）

- 「従業員数が200人～1000人」「延床面積が1001㎡以上」の事業所の一部で、ガスターエンジンシステムが設置されている。



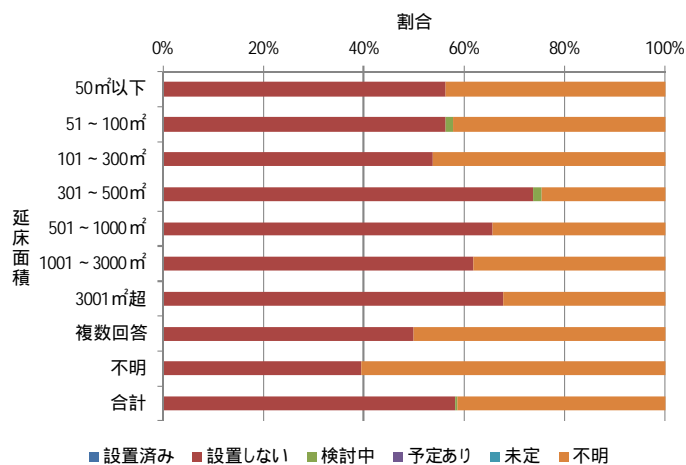
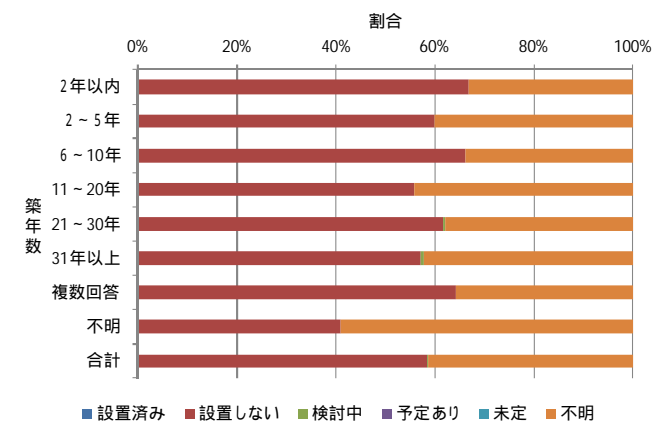
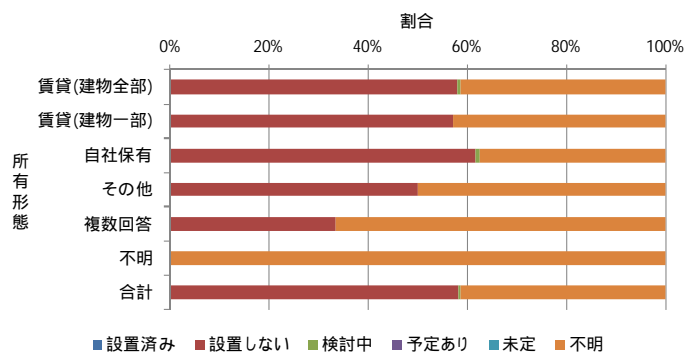
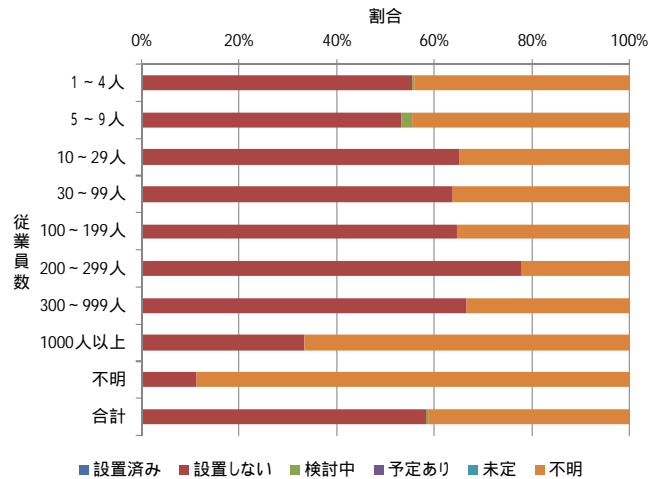
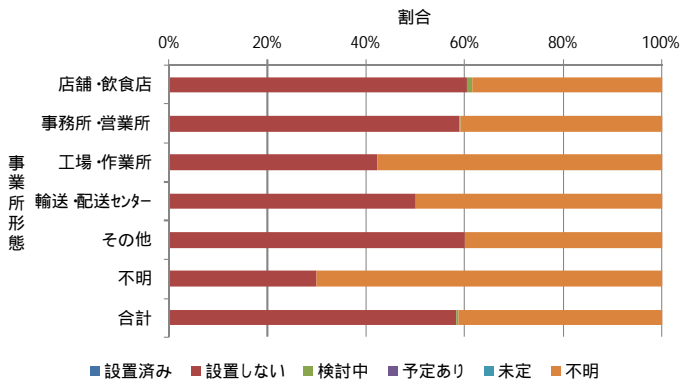
## F 9 再生可能エネルギー設置状況（燃料電池（エネファーム））

○ 「従業員数が100人～300人」の事業所の一部で、燃料電池の設置が検討されている。



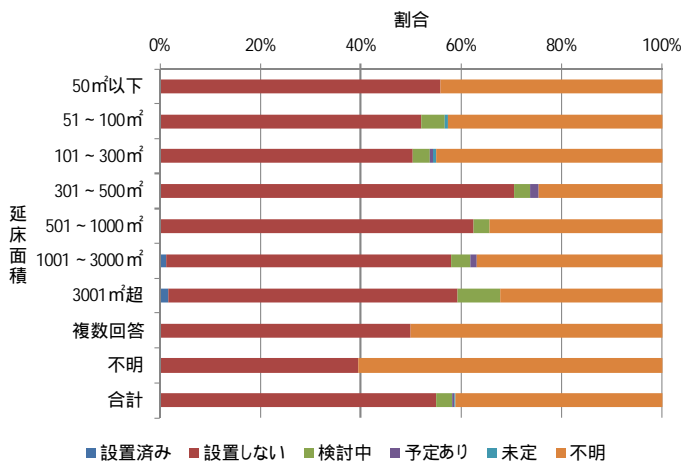
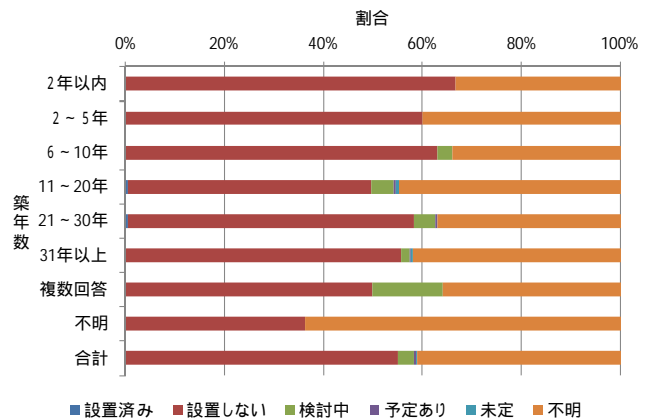
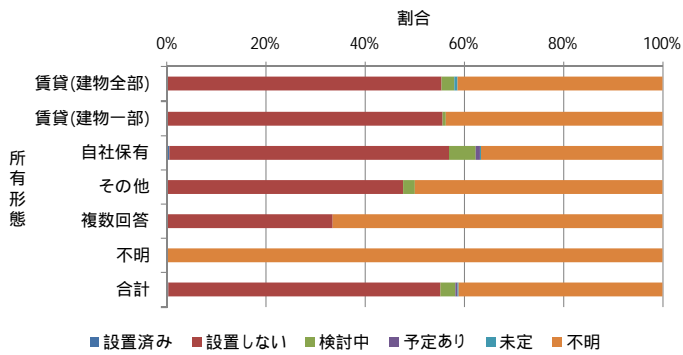
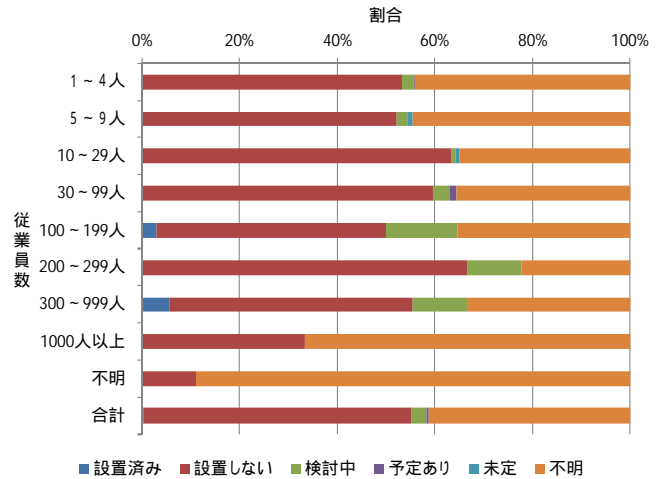
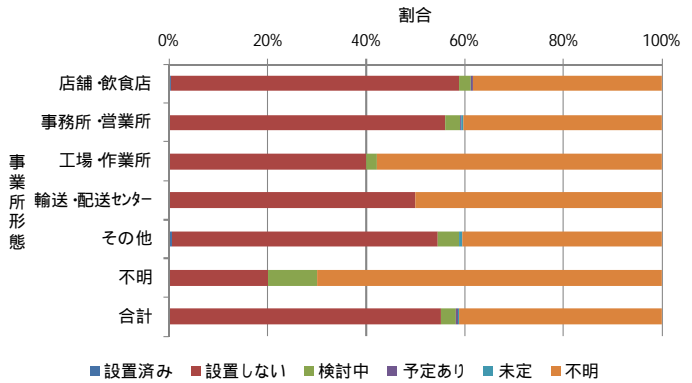
## F 9 再生可能エネルギー設置状況（風力発電システム）

○ 属性による大きな差は見られず、6割程度の事業所で風力発電システムは設置しないと回答している。



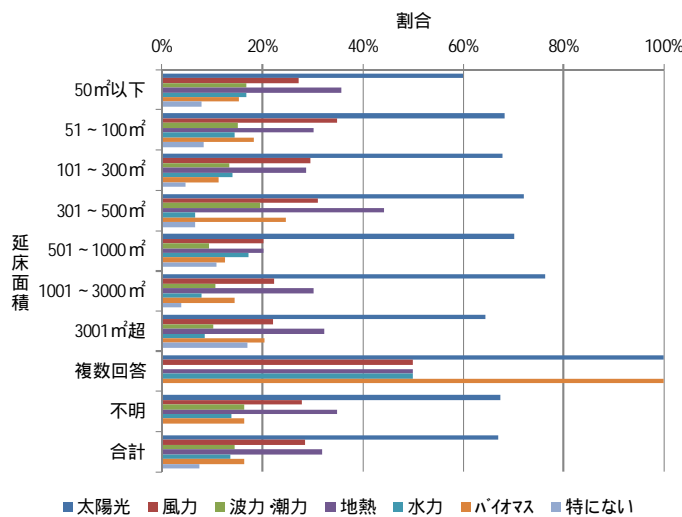
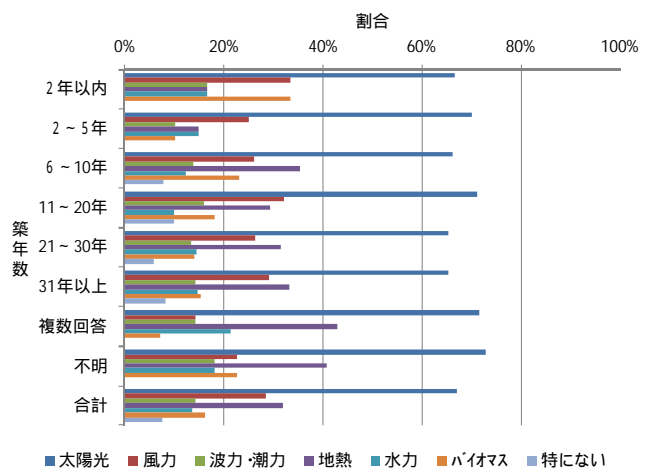
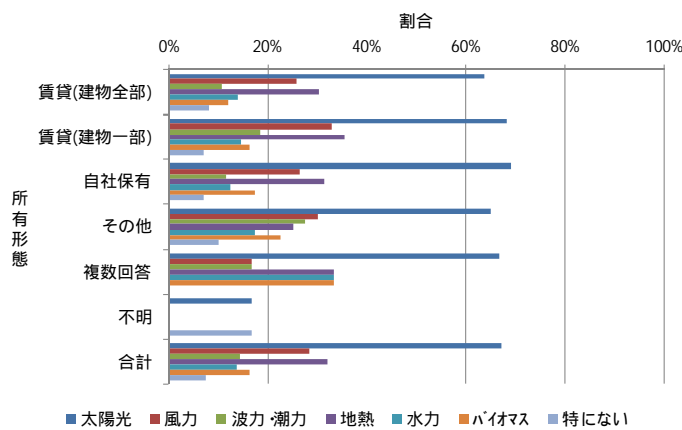
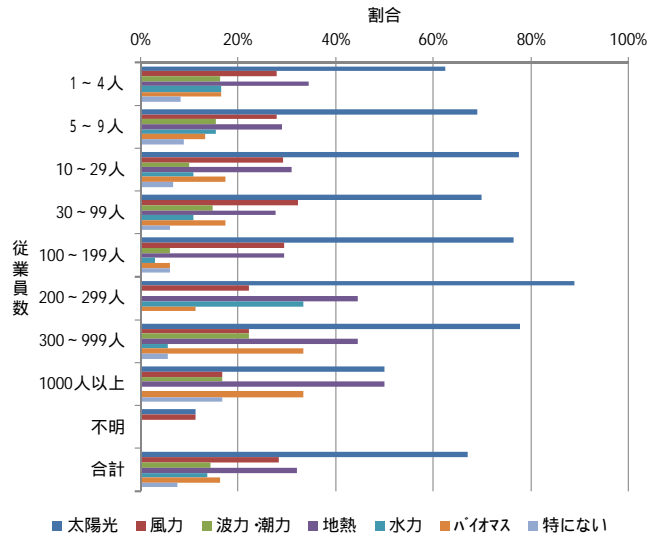
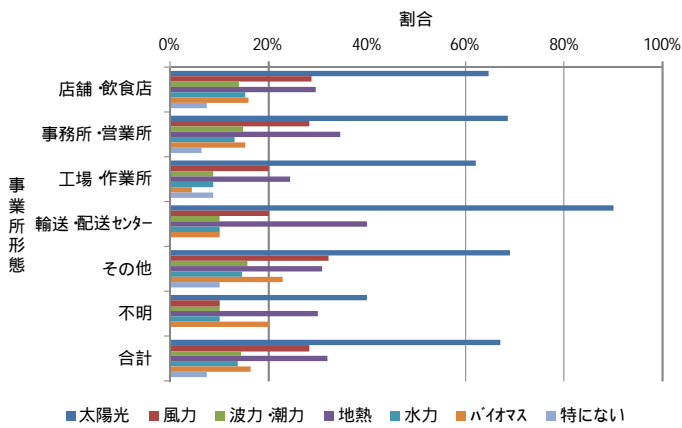
## F 9 再生可能エネルギー設置状況（蓄電池）

- 従業員数が100～1000人の事業所では、蓄電池を設置済みまたは設置検討中の事業所の割合がやや高い。



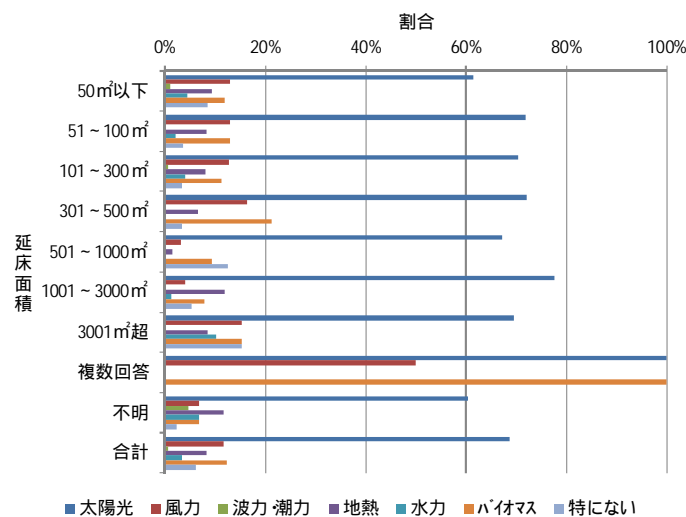
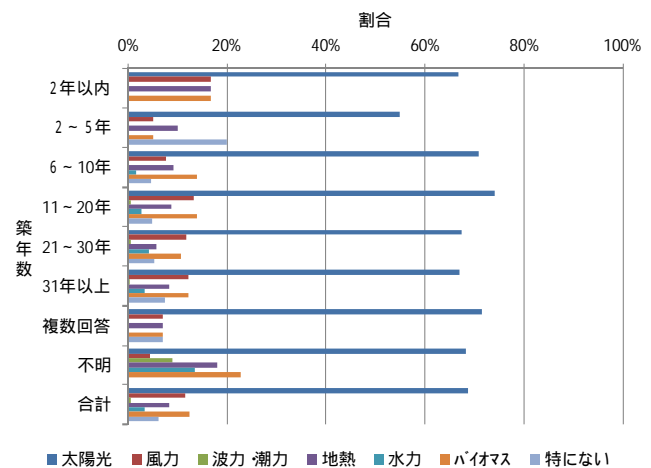
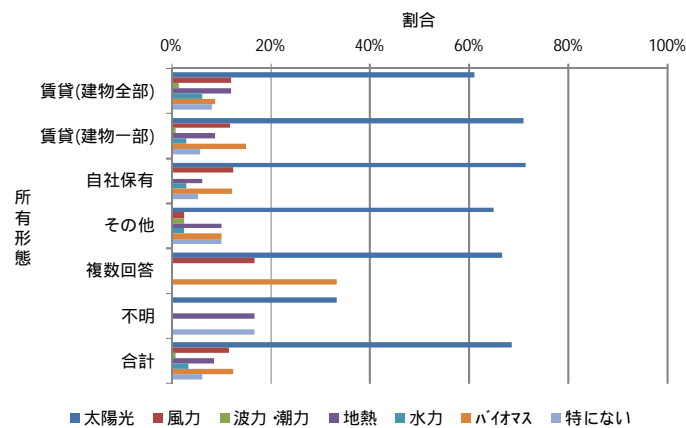
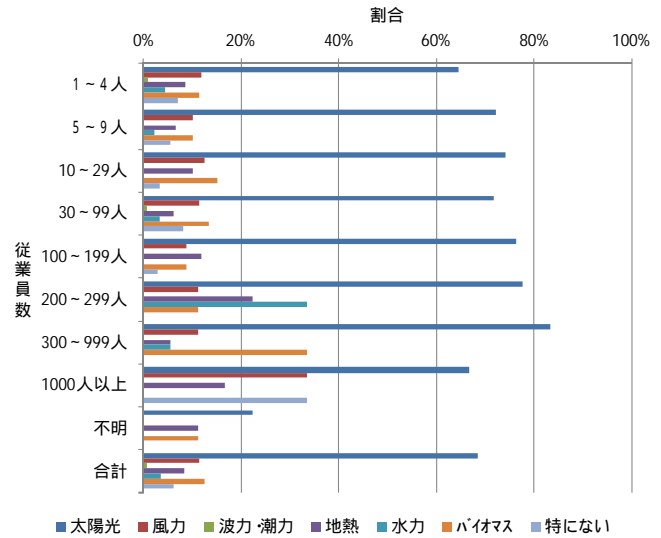
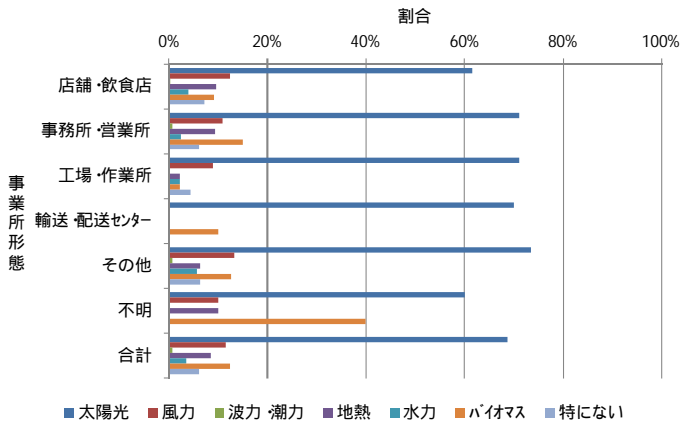
### Q1 普及を期待する再生可能エネルギー

○ 属性による大きな差はなく、太陽光の普及を期待している事業所が最も多く、次いで地熱と風力への期待が高い。



## Q2 区が導入促進すべき再生可能エネルギー

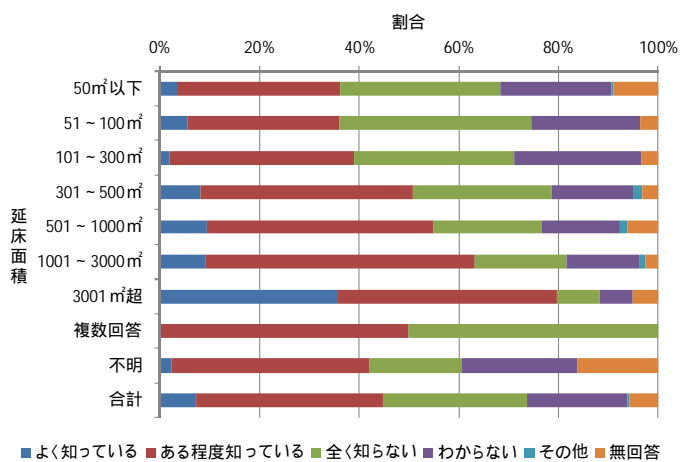
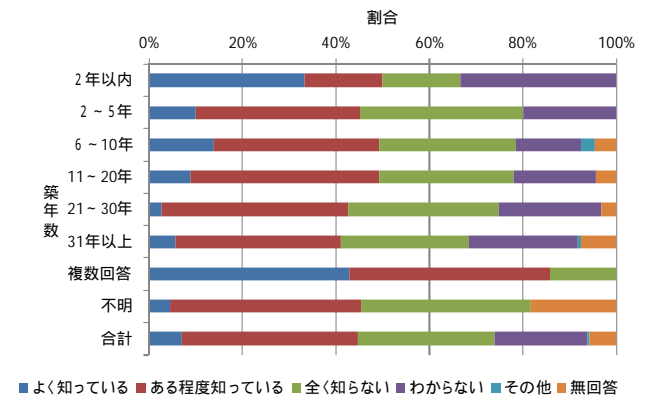
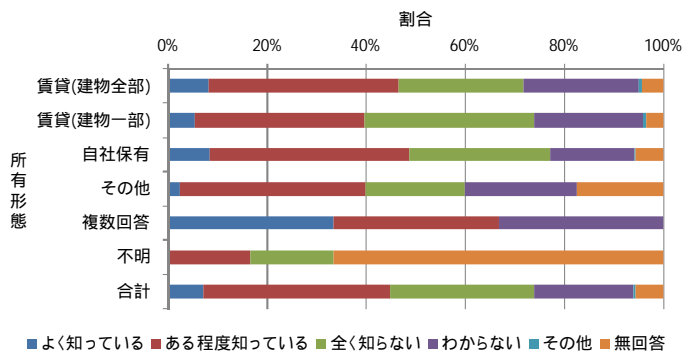
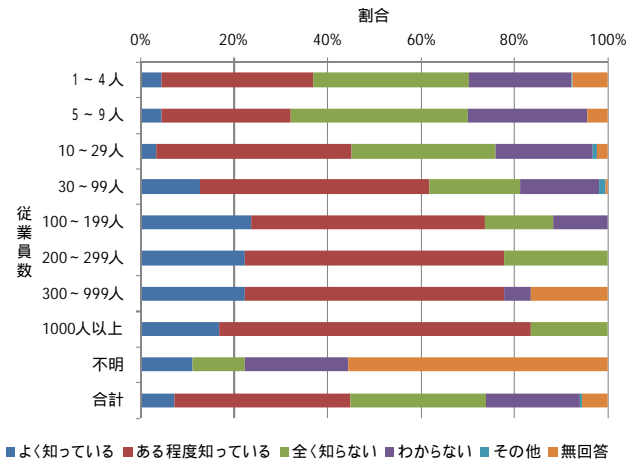
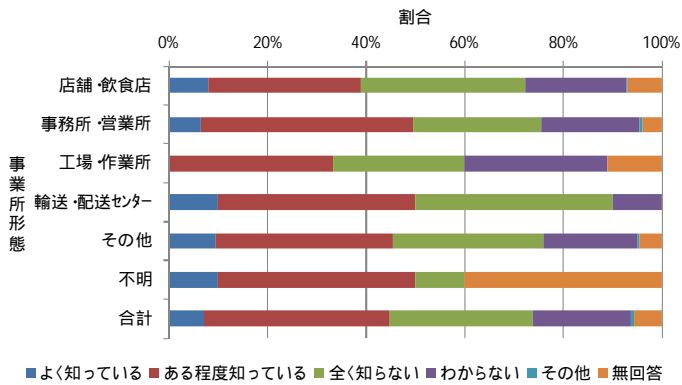
- 区が促進すべき再生可能エネルギーについても、属性による大きな差はなく、太陽光の普及を期待している事業所が多い。





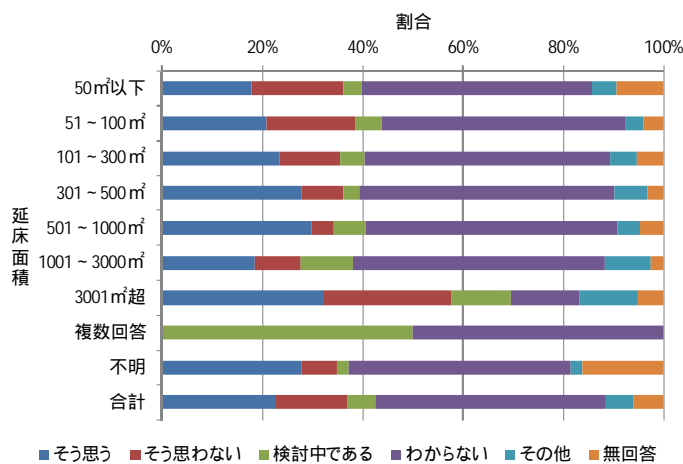
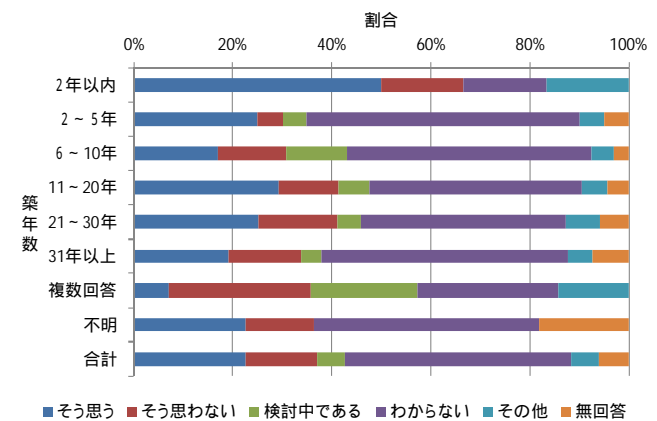
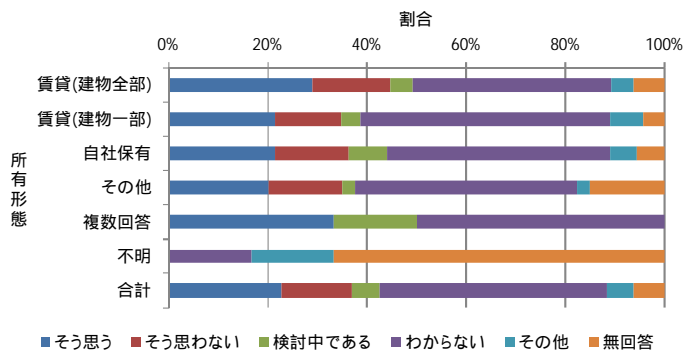
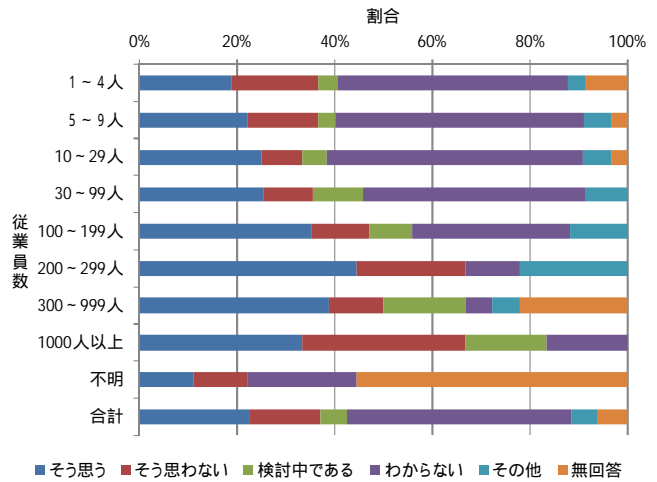
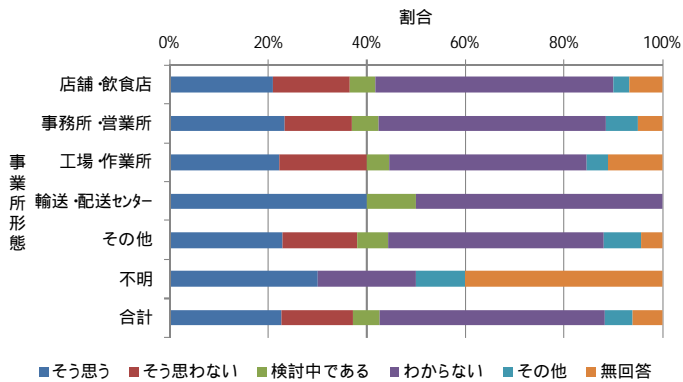
### Q3 特定電気事業制度の認知度

○ 事業所の規模が大きい（従業員数が多い、延床面積が広い）ほど、特定電気事業制度の認知度が高い傾向にある。



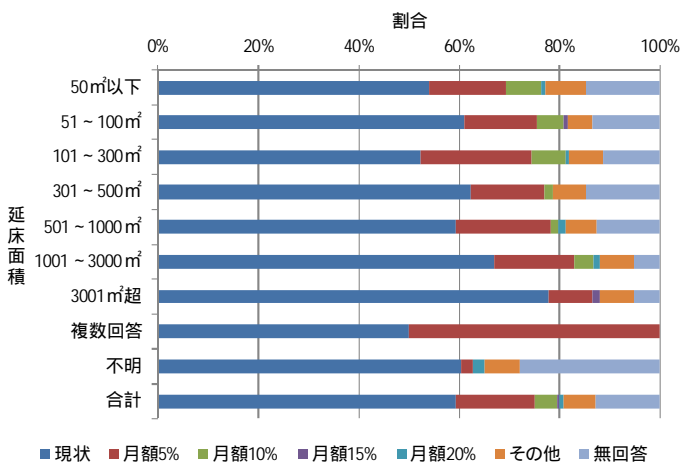
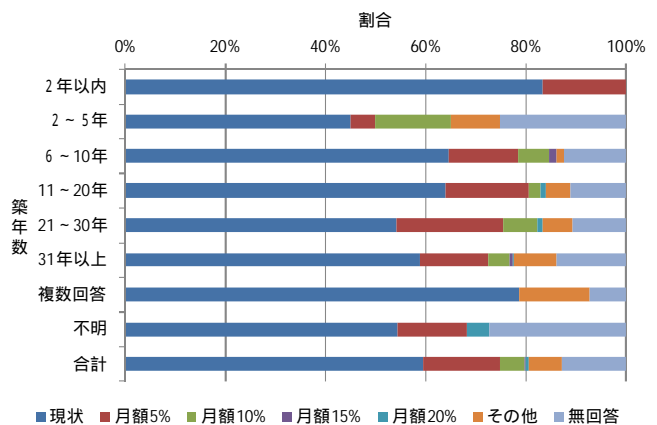
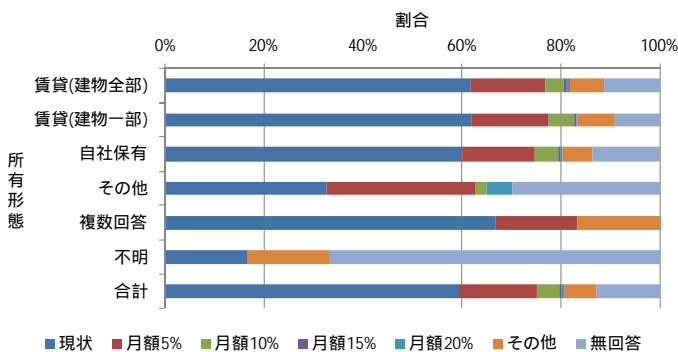
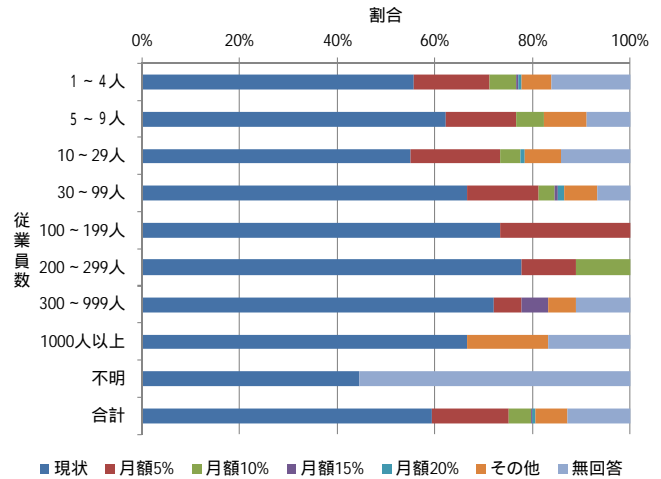
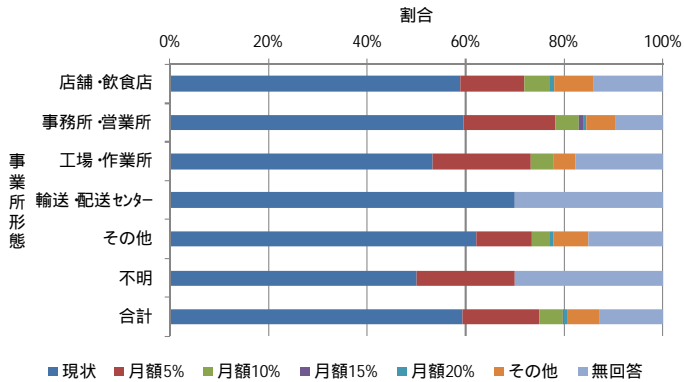
#### Q4 PPSからの買電の意向

○ 事業所の規模が大きい（従業員数が多い、延床面積が広い）ほど、PPSからの買電の意向が高い傾向にある。



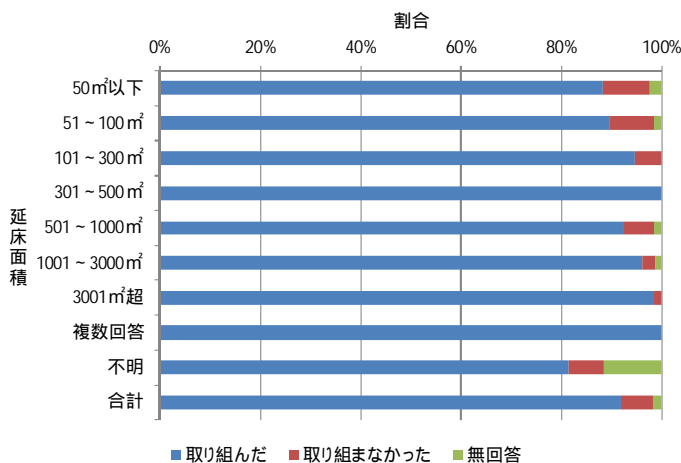
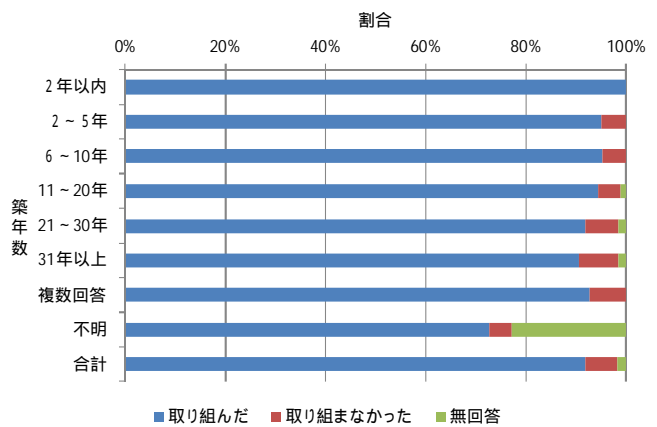
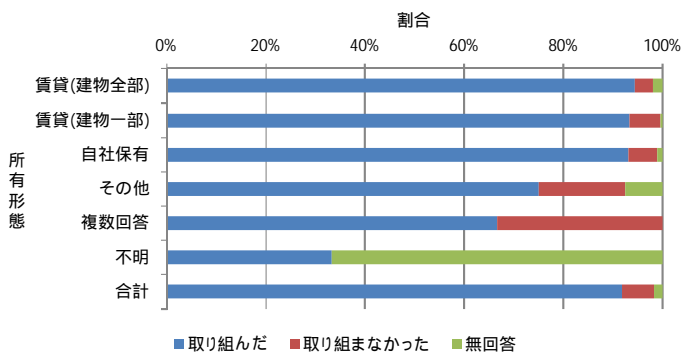
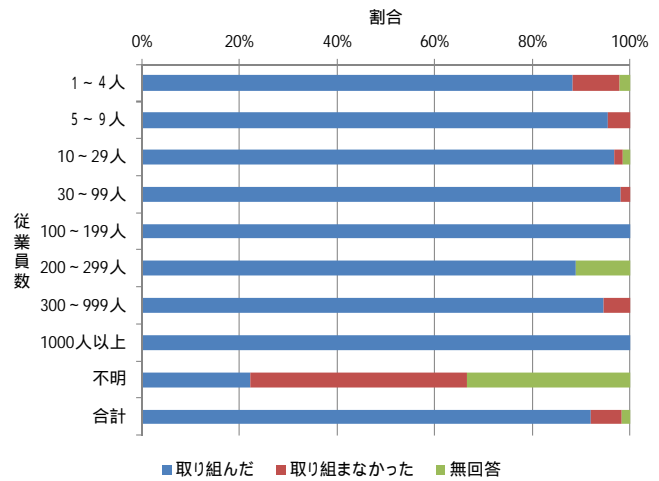
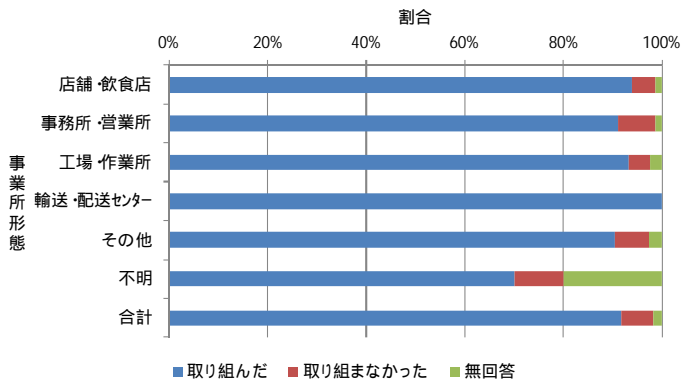
### Q5 再生可能エネルギー促進賦課金上限

○ 事業所の規模が大きい(従業員数が多い、延床面積が広い)ほど、賦課金上乘せの負担は「現状のまま」という回答の割合が高い傾向にある。



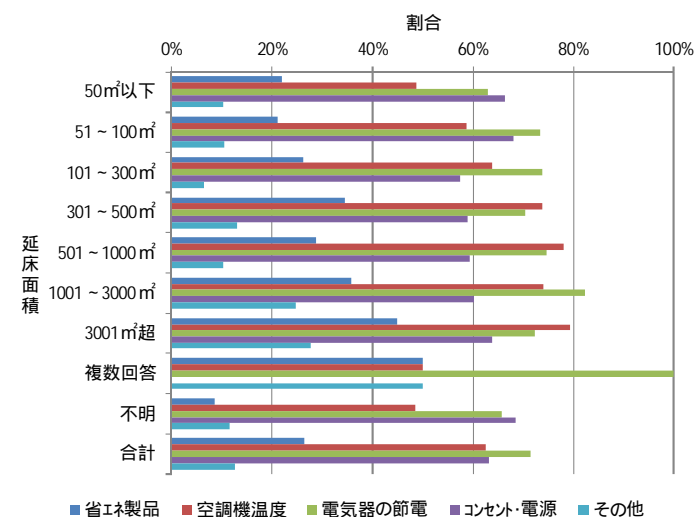
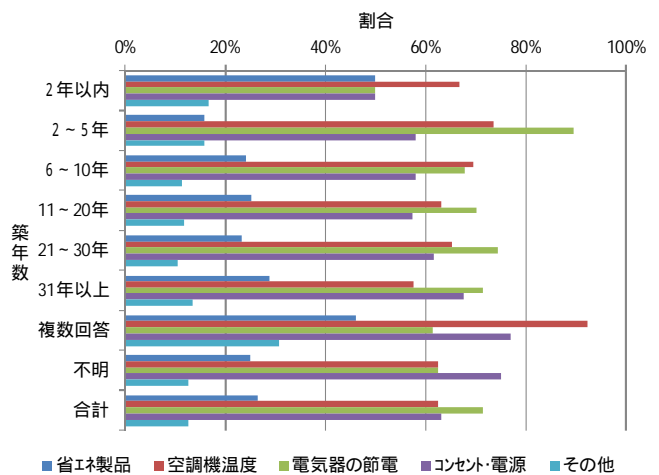
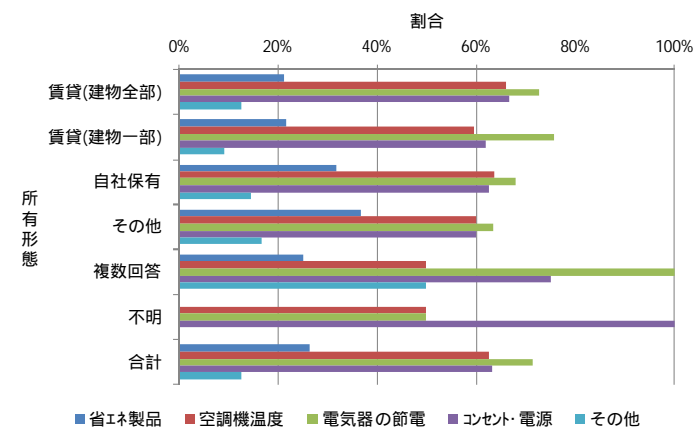
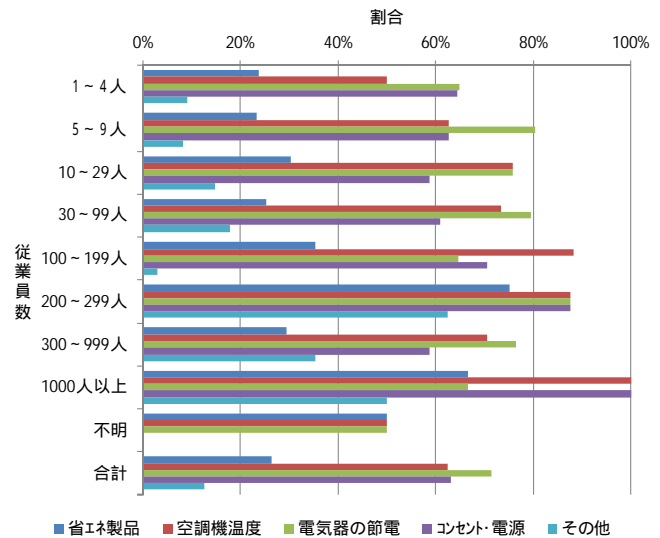
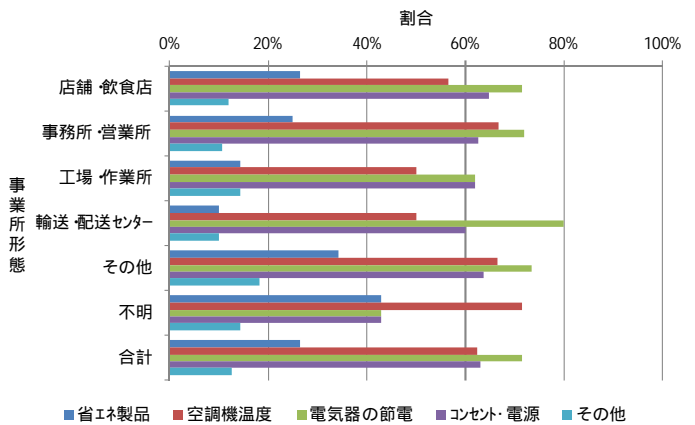
## Q6 節電状況

- 大半の事業所が節電に取り組んでいるが、事業所の規模が小さい（従業員数が少ない、延床面積が狭い）と、節電に取り組まなかった事業所の割合がやや高い傾向にある。



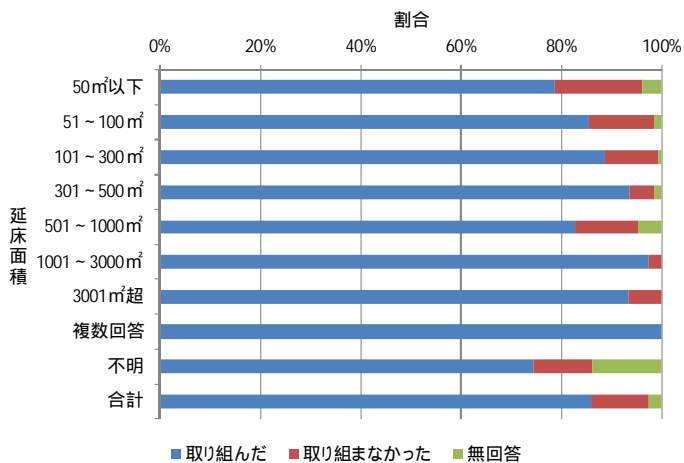
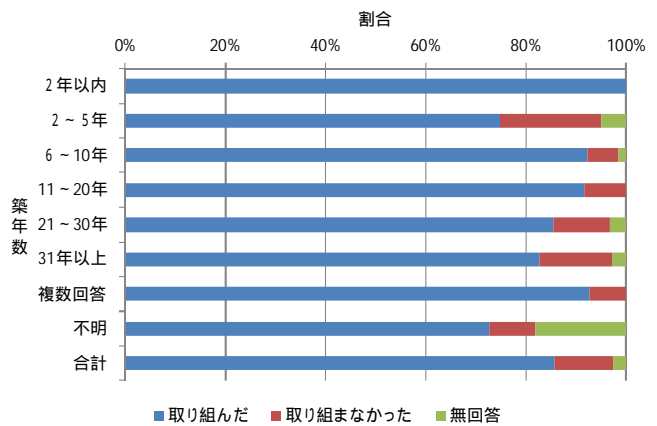
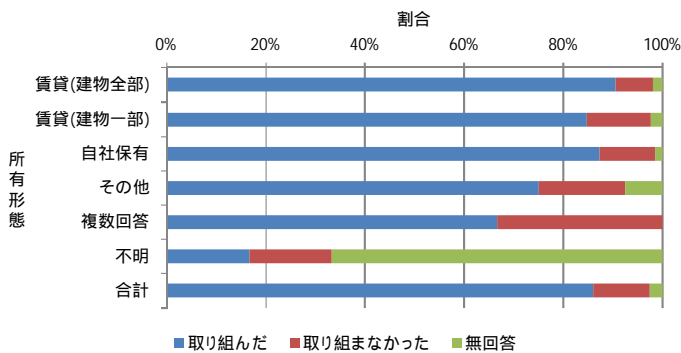
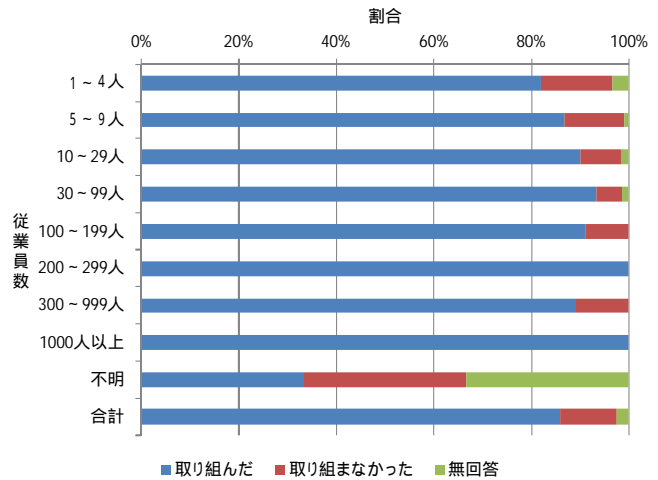
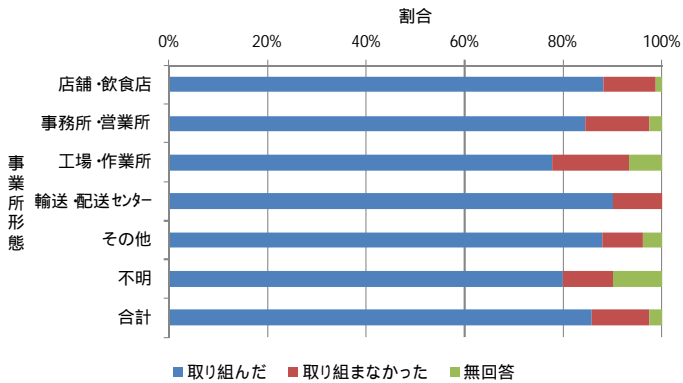
## Q6 節電取組み内容

○ 事業所の規模が大きい（従業員数が多い、延床面積が広い）ほど、「電気式空調機の温度設定」や「省エネ型電器製品への買い替え」に取り組んだ事業所の割合が高い傾向にある。



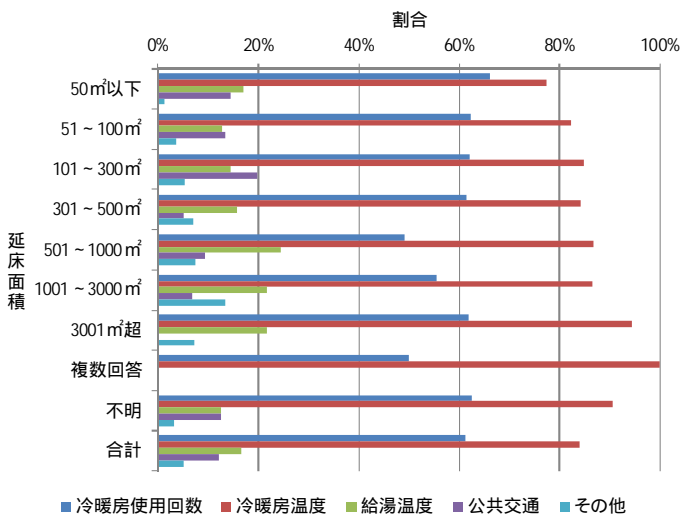
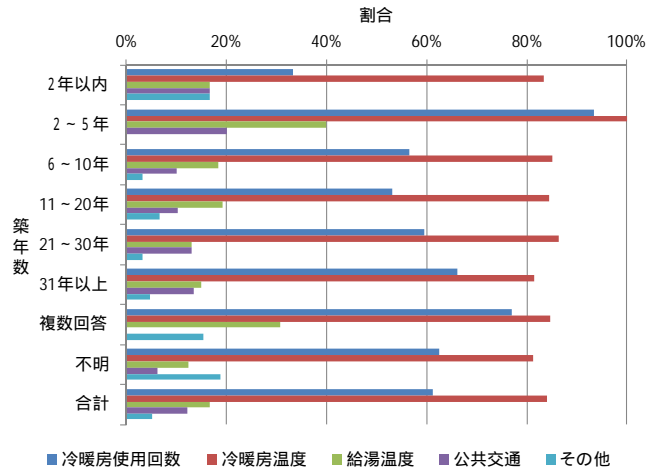
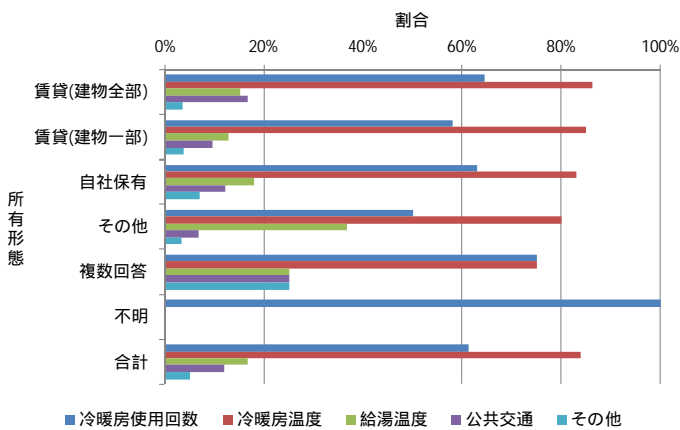
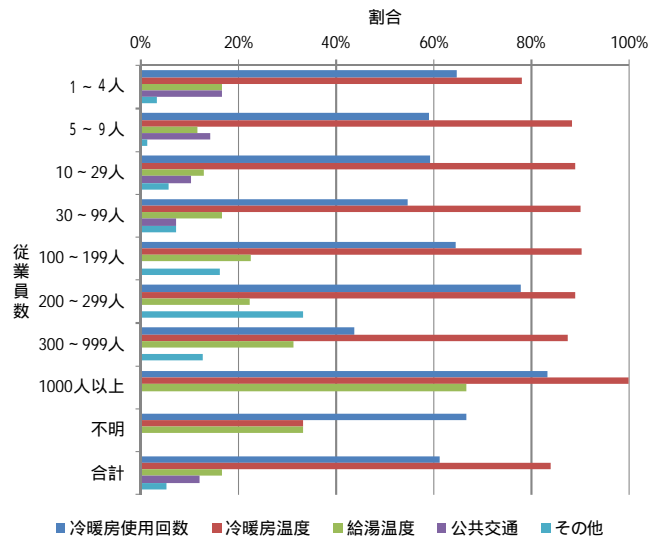
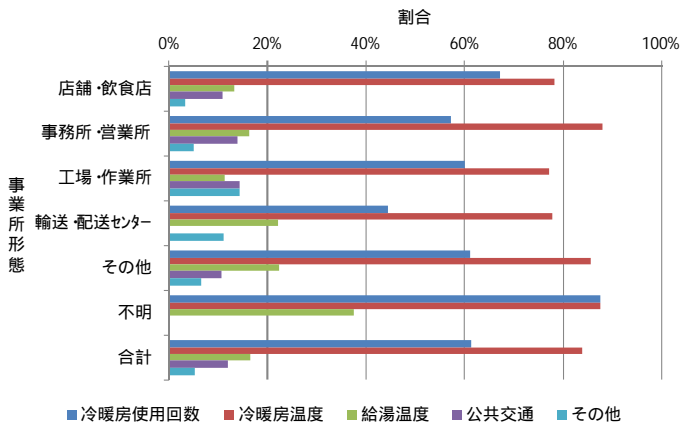
### Q7 節電以外の省エネ状況

○ 大半の事業所が節電以外の省エネにも取り組んでいるが、事業所の規模が小さい（従業員数が少ない、延床面積が狭い）と、節電以外の省エネに取り組まなかった事業所の割合がやや高い傾向にある。



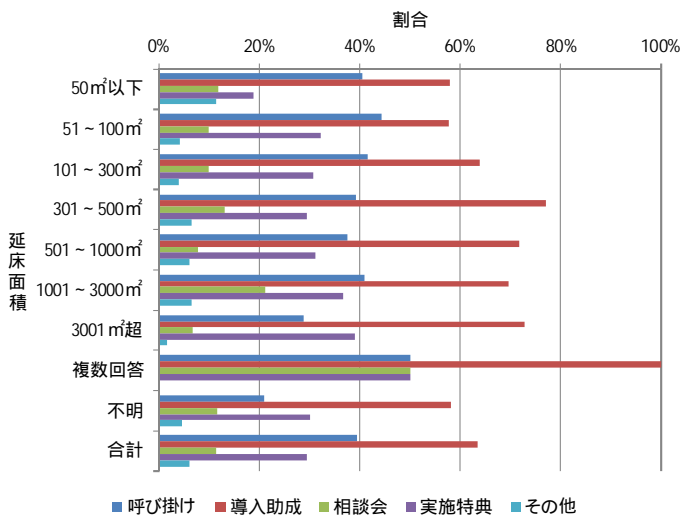
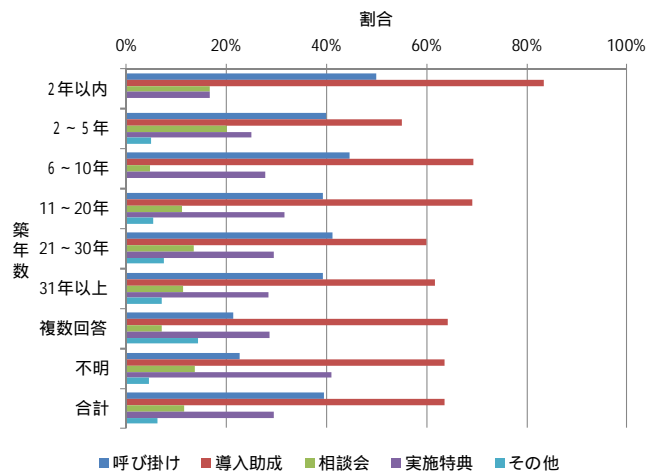
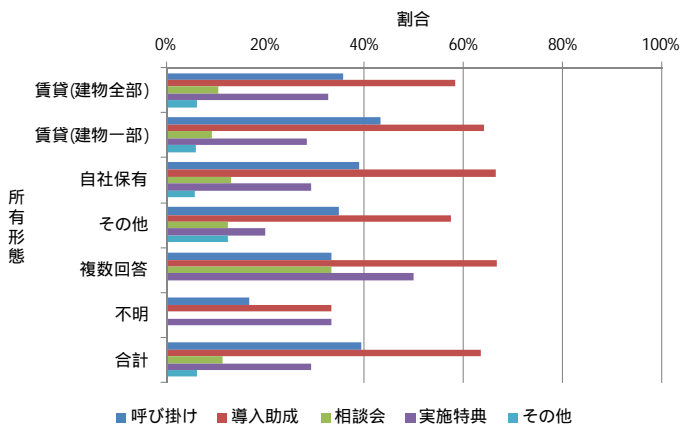
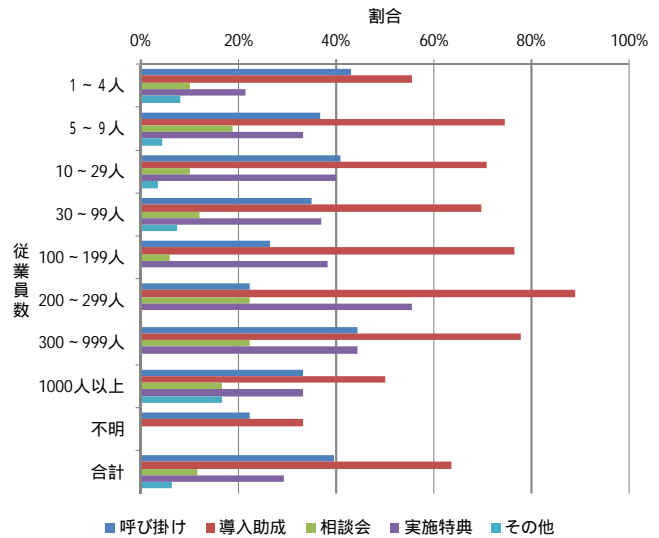
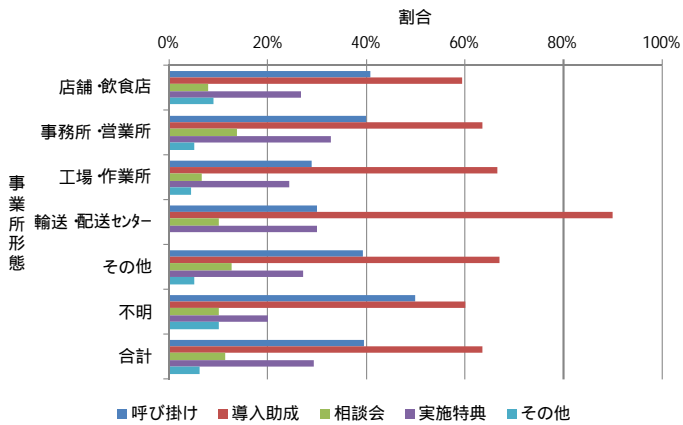
## Q7 節電以外の取組み内容

○ 従業員数が多いほど、「給湯の温度設定」に取り組んだ事業所の割合が高い傾向にある。



## Q 8 省エネ促進策

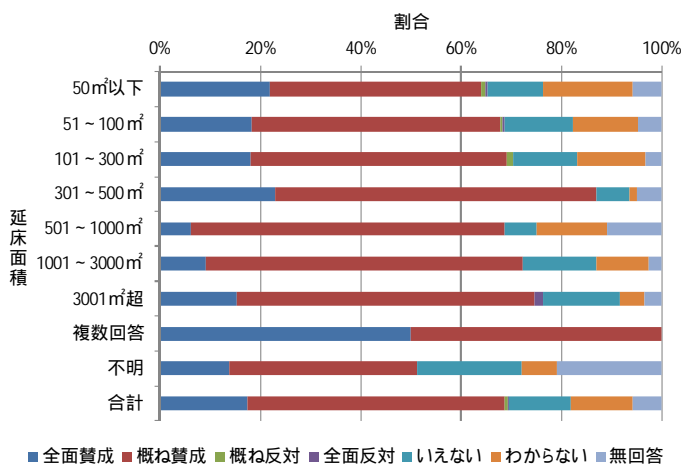
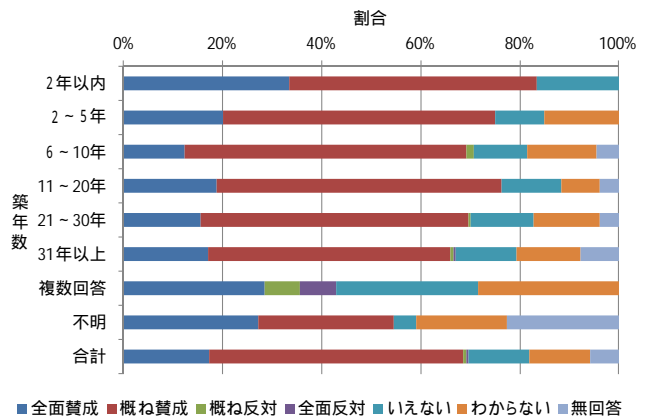
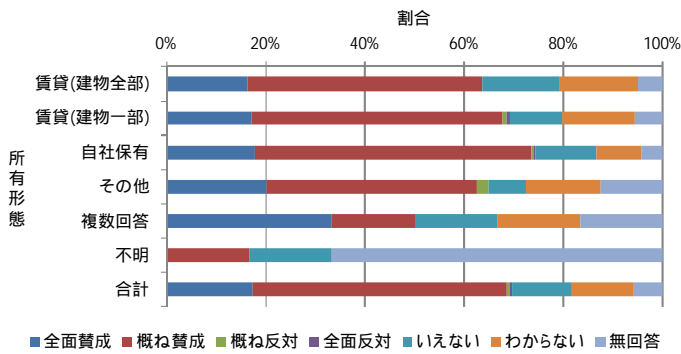
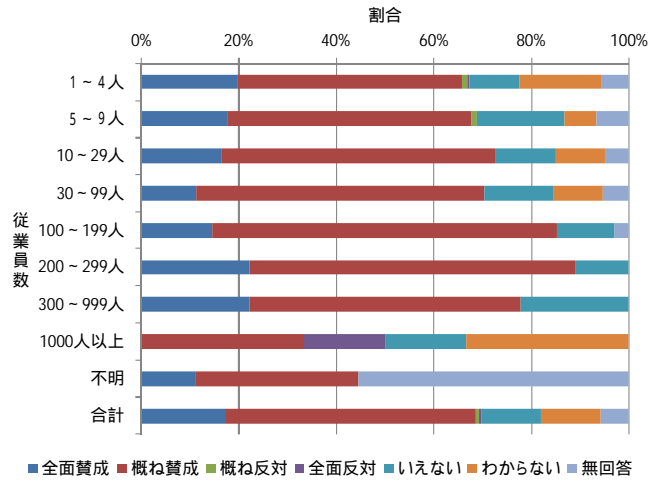
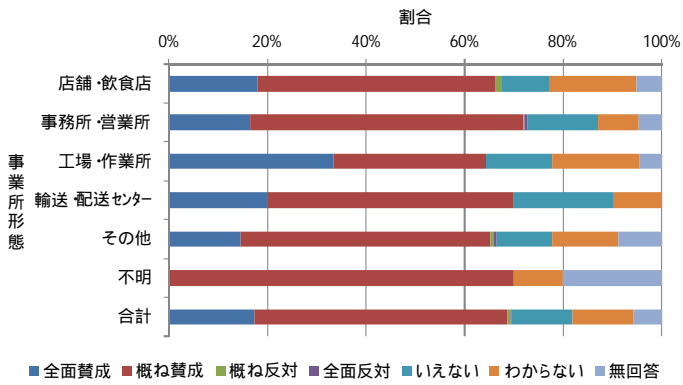
○どの属性においても、区は「省エネ機器導入助成を実施する」べきであると回答している事業所が多いが、特に、事業所の規模が大きい（従業員数が多い、延床面積が広い）とその割合が高くなる傾向がみられる。





### Q9 ビジョン中間まとめ(案)について

○ 属性に関係なく7～8割程度の事業所が、ビジョン中間のまとめ(案)に賛成している。



< ビジョン中間まとめ(案)について自由意見 >

現状の問題点を早急に行うべきである。安心して快適に暮らせる杉並区にしてほしい
積極的にエネルギー政策に取り組んで頂けると本当に有り難く感じます。区民一人への意識を変える取り組みが必要と思うので、広報、その他による呼びかけは積み重ね効果が大きいと考えます
H E M S を利用したスマートコミュニティ化を是非推進して下さい
やるなら、もっと区民、事業者に向けてアピールすべきだと思う
区内への P P S 事業者（発電施設）の誘致
行政が率先してリードして頂くと区民も推進しやすいので根気よく旗振りをやって頂けるようお願い申し上げます
エネルギーをはじめ、すべての物でも使い捨てにせず大切に使うって行きたいと思います。また、市町村（区）のレベルでスマートグリッドを推進して頂きたいです。
最近の公共機関、役所、大型店舗等節電がなされていないのが問題と思う。 荻窪小学校（省エネモデル校）の太陽光発電が 50 K W 以下で設置した様ですが、なぜですか？
電力を買い取ってくると宣伝して、それに喜んでくれる人がいる反面、促進賦課金を取られているとは知りませんでした。いいことに踊らされている感じです。マスコミも自分で金を払っていることをもっと知らせねば。
中長期的なコスト計算を示してほしい。受益者負担が現状とどう変化するのか知りたいと思います。
良いことだと思います
太陽光だけでなく、河川の水を使った水力発電等にも関心を持って欲しい
このエネルギービジョン中間のまとめにあるような方向性で進まれるのは大賛成ですが、大震災以降、個人が出来る省エネの取り組みはもはや限界があるように思われます。再生可能エネルギーの利用を進めるとともに、一般家庭でも電力会社を選べるようなシステムの導入が必要に思われます。法律や使用電力量の制限等、さまざまな問題が存在する様ですが、区立学校での新電力の導入推進があるようですので、一般家庭でも導入できるような解決策が望まれます。
現状の把握は大切。Q 8 にも書いたように事業所や意識の高い人はすでに出来ることはやっているはず。知識のない人への普及は大切と思う。そしてもうすでに行っている人達への助成として導入の助成は必要。しかし、続くためには購入時だけでなく修理やメンテナンスも含めての予算は必要だと思う。区だけではなく、国としても効果の良い太陽光パネルの開発など国家の事業として宇宙開発などで共に考えていくべきだと思う。そして、その為に無駄な公費の削減も必要。
杉並区が各区の手本になる様に。 自然のものを大切に。声なき声をきく。動植物 自転車道をつくる。 緑を大切に
一つの物に頼りすぎない。複数のオプションを持っておく事は重要。現代では、電力に頼りきっている感があるので、維持する為に代替案をもっていることは安心。特に災害時には頼りになるのでは是非進めて欲しい。
夏場に見られる路上でのアイドリング冷房車の禁止条例。公園等に井戸を作り、手押しポンプで誰でも自由に打ち水や水やりに使えようとする。子供の水遊びを認められるし、水質次第では非常用水にもなる。
杉並区施設、学校等を含めて太陽光パネルを設置し、避難場所は自家発電設備が必要だと思います。
地域分散型のエネルギー社会の構築をめざす為に、もう少し具体的に説明してほしいのですが。杉並区の住宅地で一番進められるエネルギービジョンは太陽光発電とエネルギーの蓄電設備の環境が合っていると考えま

す。
<p>1. スマートコミュニティづくりの推進を協力に進めてもらいたい。(1)電力業者、(2)消費者共に10~20%の節電をし、省エネ、地球環境を守る。</p> <p>2. その為のPR助成</p> <p>3. その他、東北の震災瓦礫等の受入をさらに推進(担当は区ではないが)</p>
エネルギービジョンをやっている事を知らなかった。まず区民にやっていると認識させる事が必要だと思う。
私たちは小さな事務所ですが、平日日中はほとんどこの事務所で過ごしています。先日の東日本大震災のように災害があった時に対応出来る街を目指して欲しいと思っていますので、このような考え方は是非実行して頂きたいと思うと共に、個々にも取り組めることを考えていきたいと思います。
今まで設備導入してきた原発を震災以降反対意見が多いが、現存の原発をいかに安全化するか投資をしつつ、次世代の太陽光、風力など安価になるまで貢献度の高い原発を利用すべきと思う
中長期的な計画が出来るよう継続した実行をお願いしたい
再生エネルギーについては、能力、効率の高い価格の安い傾向があります。今後ともより良いefficiency(効率)の高い物に移行してゆく理念に配慮した形体(態)を継続して行くことを希望します
すぐに実行出来る所から早急に始めるべきです
当区は住宅地が多いため、この企画はスピードを上げて実現を期待いたします
継続して行えるシステムの構築を期待します
早期に実現できるよう協力していきたいと思います。パソコンが止まっただけで仕事が機能しなくなるので、エネルギーの安定供給には関心があります。
杉並区の新たな政策について区民も理解出来ると思います。しかしながら、資金不足という壁の為に全て賛成、行動しますとは言えないと思います。区民に対してより詳しい情報提供そして協議し合う事で少しずつ前に進むと思います。
災害時のエネルギーを確保してほしい
再生可能エネルギーの為に区は積極的に補助金等をさして努力すべきである
杉並区の土地利用の特性を生かすためにも、太陽光発電や太陽熱利用機器導入の助成を受けやすい制度と助成額を大幅に増額すること。東京で一番の太陽光発電と太陽熱利用の街を目指す。杉並区へ期待します。
各屋根の上を利用する太陽光発電は本当に効果的なものなら推進していくべきだと思います。ただ、杉並区より地方へ旅行した時に思うのですが、保存地区に指定されている所はもちろん、それ以外の地区でも独特の形の建物や瓦屋根の連なる町並みに旅情や風情を感じる事がよくあります。高度成長期にどんどん護岸工事が進み、川の両岸がコンクリートの壁になってしまったようにすべての屋根に発電機が並んでしまうのもどうでしょうか。残すべき風景を決めてその住人は屋根の景観を保つ代わりに太陽発電をしている家と同じ恩恵を受けるようにできたらと思います。一歩進んだスマートコミュニティづくりを期待します。
エネルギー問題は緊急課題であり、杉並区としての方向性が良くわかりました。
まずは小さい事、一人一人がエネルギーに対し意識を持つ事が大切だと思います。少しの事から少しずつ大きくしていく、それが結集する事でかなり変わっていくと思います。できる限り協力したいと思います。
良く出来ています
大変ですが、子供達の為にもよろしく願いいたします。
HEMS や BEMS の設置で目に見える形で意識をもてるようにすることで省エネを実現できる。各種設備機器が高価である。一層の補助金で設備設置の促進をする。

<p>冷暖房の熱源に井戸水の活用（水は戻す）。非常用の生活用水にも転用できるのでは。</p>
<p>杉並区はマンションよりも一軒家が多いためスマートコミュニティづくりの推進は相互関係の観点から適していると思われる。ただし、その取り組みとして「スマートハウスのイメージ」のように、省エネ、創エネ対応するための備品を用意しなくてはならない。区で行うということは、区の住民皆が同じ状態にならなければ将来のビジョンとしては見えてきません。</p> <p>私たち学校勤務の者としては、地域の特性を確立する事につきまして、ご協力いたしますので、今後ともよろしくお願いいたします。</p>
<p>一般家庭や小さな事業所よりも大きいところを集中して攻めよ！</p>
<p>現在、経済産業省、文部科学省、東京都など多くの官庁がエネルギーに係る計画・対策などを行っているため、当事業所では、その対応のための事務作業量が膨大となっており限界に近い状態となっている。そこに新たに区のエネルギー関係業務が増えると本来業務に多大な影響がでるのではと懸念しております。</p> <p>多くの行政機関が競うかのようにエネルギー政策を行っても、かえって事業所サイドを混乱させ、現場のモチベーションを低下させていくような気がしてなりません。</p> <p>今後、エネルギー関係の政策を実施していくのであれば、事業所よりも一般家庭をターゲットとした政策が有効かと考えます。</p>
<p>9カ年は長すぎです。</p> <p>選択と集中です。災害時には、病院、コンビニ、緊急避難所を自衛隊の様に自己完結型の備えをすべきです。零細企業は資金的に余裕がありません。（助成を受けて、残りを自己負担できる企業は幸いです）災害時には生き残ること、火を出ささない事の2点につきます。</p> <p>省エネ機具業者への利益誘導にならないように例えば下手な補助金を出すより全世帯にLED電球を配った方が省エネになると思う。</p> <p>電力行政の改革がはっきりしないと動きがとれない、制度に振り回されるのはごめんです。</p>
<p>大いに推進して頂きたいと思います</p>
<p>本当に実現できるのか不安である。税金を有効に使って欲しい。</p>
<p>区民の為に一日も早く実施する事を願っております</p>
<p>子育て支援とエネルギー政策で杉並区のブランディングが向上し、地域がより活性化して欲しい</p>
<p>区として実施できること、都として、国として実施できること、個人として実施できることを明確にできるといいですね。</p>
<p>バス、電車等時々利用するが、冷暖房の温度の調節に気を遣って欲しい。暖かすぎたり冷えすぎたりしている事がかなりあった。各個に節電、省エネルギーについては良くわかっていると思われるが、更なる啓蒙をお願いします。</p>
<p>中間まとめではないのですが、原子力発電をなくすべく区としても国にもっと働きかけて欲しい</p>
<p>各家庭の屋根や屋上に太陽光発電を設置し、蓄電池を備えれば自分が使う分は、補えると思うので思い切って助成金を増やして促進してほしいと思います</p>
<p>旧東電グラウンドを再生可能エネルギー施設として有効活用するのはどうでしょうか。</p>
<p>原子力が事故後、悪者になっているが、生活していく上で必要なエネルギーを有効に得る為に必要であると思う。飛行機と同じ落ちるリスクはあるが、便利だから海外に行くときに使っている。そのために収入を得ている人がいる。逆に事故が起こって損をする人もいる。世の中、全ての人が利益を得る物はない。</p>

<p>すぎ丸のようなコミュニティバスの交通を増やし（ガソリンエンジンの使用を少なくする）、自家用車の使用がなくても移動できるように。使用者が運賃を支払い、区の費用負担を少なくする。区道の部分的拡巾整備が必要であろう。街路樹、公園の緑化により自然の風通りを良くする。この様なアンケートに無駄な費用をかけることは必要ありません。その費用を少しでもエネルギーを省くために使ってください。</p>
<p>当社は廃棄物処理業者で、杉並清掃工場への搬入も行ってきました。清掃工場のエネルギー供給力が災害時にも早くから活用出来るよう、業者向けに焼却物を有事の時に集める旨検討されてはいかがでしょうか。清掃工場が住民の皆様の不安材料として取り上げられるのではなく、頼れる設備としての位置付けがされる事で回収業者への理解も深まると良いなあと思いました。飛躍過ぎかもしれませんが、すみません。</p> <p>何か当社でお力になれることがあれば、是非お声かけ下さい。</p>
<p>真剣に考えていることが伺える。構想の具体化を早めたい。</p>
<p>杉並区を流れる河川での有効的な水力発電も可能かと思えます。</p>
<p>断熱住宅の推進</p>
<p>杉並区で再生可能エネルギーの大規模な設備の設置を急いで欲しいと考えます</p>
<p>たたき台として良くできていると思います。実際にかかる費用と対効果の試算についても情報があるともっと良かったです</p>
<p>太陽光パネルでは発電する総電気量より製造、設置するエネルギーの方が大きいため、促進には反対です。</p> <p>発電時に60%もの熱を捨てている電気を熱源として使うヒーターやIHは、税制度を利用して何とか普及を阻止すべきです。（ただし、電子レンジ等、ガス、灯油等で代替できないものは除きます）</p>
<p>一つの区だけで考えようとするのは行政のおごりである。消費するだけの町なのだから、謙虚に考えるべき。</p> <p>区内でバイオマス発電が考えられないのであれば、太陽光発電しかない</p>
<p>都政のオピニオンリーダーを目指して下さい</p>
<p>やれる事は何でもやった方が良いとは思いますが</p>
<p>蓄電に努めて下さい</p>
<p>比較的わかりやすくまとめられている。区民、事業者を引っ張っていくためには、一定の目標が必要だと考える</p>
<p>ビルの屋上だけでなく、側面にも太陽光発電用のパネルを貼り付けて補助金を出す。（ドイツの一部地域で実施）</p>
<p>当家は事業所ではない</p>
<p>ビル経営者には省エネを制度化し、補助金や築年数の古いビルに対しては法的にエコを推進させる制度の確立を計った方がいい</p>
<p>区民へのわかりやすい情報提供は賛成できるが、現地見学バスツアーや区民がファンドに出資する件には賛成できない。有効な省エネの手段とは思えない。</p>
<p>小さな個人事業です。ささやかな節電くらいしかできません。</p>
<p>個人の意識が大事</p>
<p>災害は一部地域に多大な影響を与える事が多く、国全体でカバーして行かなければ地方のみの対応では難しい問題です。しかし、各地方自治がそれぞれ近い地域で連携して行えば、不安も少し解消されるかもしれません。</p>
<p>太陽光発電の普及をめざし、区の方でも公園などの可能な場所に設置して、電気を売ったお金で新しい物を設置する、税金を上げれば済む話ではなく、お金を生み出すようにしていく必要があると思う。</p>
<p>狭い範囲の町内が協力して取り組み、互いの人間関係が取り戻されることが急務と考える。一人一人孤立して</p>

いる。
企業側の考えとして機器導入の助成と規制緩和を望む（建坪率等）
この様な取り組みはとてもよいと思います。考えることこそ一歩だと思います。ありがとうございました。
病院、福祉施設への発電、蓄電装置の設置、省エネ型電気製品への買換え等の助成金を増やしていただきたい と思います。
これからも地域の環境が少しずつでも良くなって欲しいと思います。（これからの世代の人たちのためにも）
何かを導入すれば助成金が出る等の策、以外の区民の意識改革に繋がるような広報活動を。
実現可能かつ生産性の高い中間報告であることを望みます
1．計画が理想すぎる。 2．事務所より家庭の援助により太陽光を増進すべき
是非原発のない世の中を作るために積極的に他の自然のエネルギーの取り入れを促進すると共に東電の発電に 対して原発中止と、東電の会社内容の公開、ならびに発電と送電の切り離しをして自由競争をさせるようにし て独裁的体制を切りかえていくようにして欲しい
JRの各駅は無駄（明るいののに平気で電気をつけている）が多すぎる
当社は営業所閉店後 出店中の顧客のアフターを主として自宅に電話を併設、役員のみ随時対応。経費は電話 代のみ。参考にならないが一般家庭として記入。
今後エネルギーの見直しは絶対に必要な事だと思います。是非検討をお願いします。
税金の無駄遣いにならない様、たっぷり工夫して下さい！良いアイデアには全面支持致します！
耐震化の方が先、木密不燃化もこれらについて区でこういうビジョンは出ているのかわからないが
どんなに方法論を考え、インフラを整備し、環境を整えても人間に意識が変わらない限りエネルギー問題は思 うように推進しない。エネルギーの浪費をしない生活習慣、多少の不便さを受け入れ、克服していく人間性と 思考力を子供の頃から育てていく「教育」がまだまだ足りないように感じます。
原発の稼働を止められるだけの新しいエネルギーを確保。今の現状では原発は止められないと思う。
エネルギーについてあまり詳しくないので、参考になりました。
太陽光発電を設置したいが、南側の隣地に8階建のビルが計画されているので出来ない。このビルの屋上に設 置出来る様にしてもらいたい。日陰になってしまう住人にもチャンスを頂きたい。住宅地であるのに8階建が 計画されるのはおかしいとも考えている。自家発電のチャンスを平等にしてほしい。
今、新築中で太陽光発電を設置したかったが、大きなマンションが建った為発電量が少なく無理になりました。 設置したくても出来ない様な状態の場合、大きな建物に設置出来る（設置してもらう）為の条例とか、設置し たい人の為に何か良い方法を見つけて欲しい。
とても良いビジョンだと思う
頑張ってください！陰ながら応援しております。
杉並区の地域特性でもわかる様に宅地、戸建て、アパート、マンションが半分以上を占めている部分から考え、 太陽光発電や太陽熱利用をどんどん推進するべきだと思います。そのためには、助成金の検討もしていただ ければもっと住民個人が関心を持って取り組める気がします。 また、清掃工場のごみ焼却発電も積極的に活用希望します。
ビルの一部をテナントとして借りている当所としては、ビル側の意向、方針に左右されますが、パソコンを使 う業務が主のため、蓄電池や家庭用燃料電池を事務所内に設置して緊急時に利用できればと考えます。このよ うな設備普及の助成をして頂けると助かります。

<p>都は東京電力の大株主であるのだから、もっと東京電力のみならず電力業界が供給・発電に仕分けられ、また各新形式の電力買電を促進する様強力に働きかける様、[直接、間接(区から都に対し)的にまた、国会議員(政府等)に]努力してもらいたい。</p>
<p>原発に依存しないエネルギー政策は現時点では国の破綻につながります。火力発電に依存することは、貿易収支の破綻につながりますので、再生エネルギーのロードマップが出来るまで原発を推進すべきと考えます。</p>
<p>あまりの節電で通路が暗く、不安なところがあります。上手にして欲しい。</p>
<p>原発エネルギーに頼らない安全で安心な地域エネルギー構想。区民の意見をもっと吸い上げて実現して欲しい</p>
<p>定期的に区民に状況の公開を行って欲しい</p>
<p>多くの意見を参考とし、必ず来る大地震に備えて区民全体の意識を高める通知をせよ。町会等のムダ金(飲み会など)の出金を防災に切り替えよ。</p>
<p>これからもいろいろ啓蒙して頂ければと思います。情報伝達、宣伝活動等よろしくお願いします。私たちの業界(パチンコ遊技業)でも節電に一生懸命取り組んで参ります。</p>
<p>3.11以後の原発事故によるエネルギーの問題がクローズアップされています。当たり前の様に使っていた電気、いつでも飲めた水、今あらたなPMの空気の問題、人間の贅沢な生活の対象に自然の崩壊思い知らさせられました。省エネ、スマートな社会作り、壮大な計画のように思われますが、エコでスマートな街ができるといいですね。</p>
<p>色彩豊かで理解の一助ともなりよくまとまっている。基本的には東電の姿勢の変更に頼るしかないのでは将来的に厳しいものであろう。</p>
<p>クリーンなエネルギーに取り組んで欲しい</p>
<p>とにかく取りかかっているしかないと思います。</p>
<p>電気に関しては、地産地消をするためにごみ発電や地熱利用だろうと小水力発電(神田川、善福寺川、下水道)だろうと利用すべきです。太陽発電が小さい電力だろうと集まれば(震災以降で)原発一基分にこの一年でなったのだから。</p>
<p>小さな(コンパクトにたためるようなもの)太陽光発電の器具を一軒(一家)に一台持てるよう補助を設定してほしいと思う</p>
<p>現実的に「もんじゅ」計画の可能性への疑問、活断層や使用済み核燃料の地下埋蔵施設の土地問題を考えれば、国民の大多数は将来的には原発廃止を願っていると思います。英国においても核廃棄施設の計画が最近になって白紙撤回になったとニュースで知りました。独国は原発廃止をスローガンではなく政治的決定をしました。確かに独国の省エネに対する国民性はすばらしいと思います。しかし、独国は仏国から電力を購入しておりますし、化石燃料物といった地下資源がまだ相当埋蔵されているとの事です。私は決して原発賛同者ではありません。我が国にとって火力発電所の老朽化とCO2の問題や代替エネルギーの重要性は十分理解しています。この(案)にしても「区民のバックアップ」の為にということとはとても親切に説明されていると思います。ただそれ以上に近い将来のクリーンエネルギー供給について日本政府が具体的に方向性を示す時期に来ているのだと思います。</p>
<p>方向性としては大いに賛成する。助成金や公共施設への展開の財源が明確であるとよい。単身者の増加はエネルギービジョンの大柱であるファミリーの都市とややモデルが異なったものと考えてもいいのではないかと。住宅の多い都市という事は、他の自治体に負うところも多いということであるから、他自治体とのエネルギー面での協力も考え、共存を目指して欲しい。エネルギー事業への参入を考えるベンチャーへの融資も大切だと思う。</p>
<p>例として杉並区役所および事業所の節電の成果をデータとして入れて欲しかった。</p>

<p>人力発電等（懐中電灯）とかよくある充電器をスポーツクラブや歩行発電や音発電の推進に工夫してもらいたい。</p>
<p>震災が起こった場合には不安があります</p>
<p>太陽光発電への補助拡大</p>
<p>新しい技術の進歩により、現在のエネルギービジョンが陳腐化するリスクをどのように考えるのか</p>
<p>太陽光を重点的に導入して助成にもっと力を入れて欲しい</p>
<p>エネルギービジョンの推進に賛成です</p>
<p>枯渇資源を使わない取り組みが必要と感じます</p>
<p>杉並区の場合、住宅が多いので太陽光発電、太陽熱利用機器の導入を促進したら良いと思います。また、各家庭の省エネ意識を高めるよう促進活動をする PPS 発電からも電気を供給してもらい、原発から徐々に遠ざかるよう常に考えていくべきだと思います。</p>
<p>杉並はお年寄りが多い区だと思います。お年寄りだけで住んでいる住宅等は LED 化を家庭で実施するのは難しいと思います。（多少の事です）</p>
<p>賃貸店舗なので、基本的には自分では省エネ以外は何も出来ない。  区の身近な施設でモデルとなる取り組みを実際に示すと目に触れる機会が増え効果的。子供の通う新しい荻窪小学校が太陽光利用等の取り組みをしていて、その実際に直に触れる良い機会となっている。</p>
<p>Q8 でも記入しましたが、高齢者住宅屋上を緑にしたい</p>
<p>ファンド以外に東京都のように太陽光発電による CO2 削減分をクレジットとしてまとめ、売買することも良いかと考える。（補助金を活用して導入した家庭を対象とする）</p>
<p>太陽光発電は設置、メンテナンス、寿命の問題もあり気軽に導入するには障害が大きい。また屋根への設置は地震の時の危険性も考えなければならぬように思われる。</p>
<p>エネルギー施策に節電を含め、エネルギーの創造という発想と災害時のエネルギー確保の 2 点があります。太陽光発電、蓄電池、余剰電力利用の促進は行政指導で可能かと思う。災害時には、電力の確保と医療機関の確保、供給があります。それに関しては、荻窪駅周辺まちづくりアイデアコンペの「DCP 構想」に詳細に提案しています。</p>
<p>助成金および特典を増やす必要性を感じます</p>
<p>わかりやすかったです。脱原発！</p>
<p>数回、太陽光（熱）発電見積もりを出してもらいましたが、初期費用がかかりすぎてできませんでした。節電や省エネは心がけや手間を惜しまない、我慢するなどでできますが、エネルギー創出する事は費用が一番の問題です。その辺の助成に対してより具体的な内容を求めます。</p>
<p>節電の意識を高めるためには PPS の多様性を身近に感じさせて選択出来るようにすることだと考えます。各家庭で来たる地震へ備える意味ではエネファームと電気自動車の普及を促進する政策が大事だと思う</p>
<p>目的、計画の周知徹底</p>
<p>このようなビジョンが早々に出来る事を心より期待しております。私が一番感じましたのは、今後災害時に少なくとも夜間の道路のある一定の建物等は絶対に太陽光電池なり他の方法で電気が配電される事を節に願っています。なぜなら、私は日頃消防団副団長として区民の皆様の防災、災害等に何時も杉並消防署と連携して考えている次第です。何卒区の方の方によるしくお願い申し上げます。</p>
<p>市民拠出型の事業に特に期待したい。個々の小事業所が単独で設備を導入しても現状では過不足分の地域とのやりとりが出来ず、また蓄電池価格が高止まりしていて、おいそれと導入できないため安定供給も難しい。機</p>



<p>器の日常保守や故障時対応も含め、事業体がある程度面倒を見るかたちで各戸に設置する方がいかも知れない。</p>
<p>水道の余水、および雨水（下水の）排水を利用した小水力発電を提案</p>
<p>大変参考、勉強になりました。脱原発に進んでいって、安全な街作りになっていくことを願っています。杉並区の先進的などりくみに、期待するとともに自分にできることがあれば協力したいと思っています</p>
<p>・わかりやすいイメージの資料である。ただ基本的に、すべての対策が環境省の御用学者や省エネ業者の思惑通りになっている。太陽熱や風力は24時間持続可能なエネルギーではないのに、素晴らしい対策になっている。高価なコジユネや蓄電池の設置者は利益を享受するが、設置できない低所得者は逆にデメリットとなる不公平な対策だ。・区が取り組むのは地産地消だと思う。清掃工場をさらに活用し自己発電のさらなる充実を目指すべきだ。個人家庭のエネルギーについても供給サイドからの視点ではなく、個々でできる対策として考え、地中熱（一年中使い低ランニングコスト）を活用する家庭や事業所には金銭的な補助をすべきだ。また、ビルの屋上緑化や地面をアスファルトから芝生や土に戻す事業や、今以上の植木（亜熱帯の東南アジアの各国では町の中に大木があり涼しい）を進めてほしい。</p>
<p>いつか来る大震災に備えは必須です。来てからは遅いのです。エネルギーについては、我が家（自宅）でも太陽光発電の導入を考えましたが、価格がかなり高めの為、助成金ができるようになれば検討したいと思います。</p>
<p>区の取り組み（ビジョン）に大いに賛同するもので、当電算事務センターにおいても今後の更なるエネルギーの使用削減を目指すものである。</p>
<p>個別の方法として、長期採算性計算（メンテも含め）を公表して、その実績（例）をあげないと、個々人は大きな投資はできないのではないかと。</p>
<p>公共施設や学校などで太陽光パネル設置をいっそう進めてほしい。私的施設への補助金の増額も検討して。</p>
<p>病院のことが何カ所か記載ありますが、全ての病院が災害時に受け入れる訳ではなく、設備投資についても予算的に厳しいのが現状です。</p>
<p>どこに行ってもコンビニが24時間営業をしている。新宿のデパートは休みの日はなし。デパートが週1回ずつ休めば大量のエネルギーが余ります。杉並もタウンセブン、ルミネなどの商業ビルの休業日を設ける様に</p>
<p>エネルギーは生命に負担をかけない方向に拡大してほしいが、基本的なインフラですので、できるだけ安くすべきと考えます。多くを税金でまかなって、必要な人達に行き渡るようにしてほしいです。その為には、使用することの勉強会が欠かせないと思います。</p>
<p>杉並産エネルギーの創出</p>
<p>何といっても平常時においては大きな問題はないと思うが、災害時における問題は何かエネルギー問題だけではなく、色々な問題が出てくると思います。各セクションにおいて、それぞれが対策を検討していると思いますが、一体的なビジョンの中で個々を考えなくてはバラバラな施策になってしまい、あまり効果が得られないと思います。</p>
<p>費用面の問題と大家との問題を解決しないと進まないのではないかと</p>
<p>スマートコミュニティを目指して欲しい</p>

## 4 区民意見交換会

実施日 平成 25 年 1 月 27 日(日)午後 1 時から 4 時まで  
会 場 杉並区役所 第四会議室

### (1) テーマについて

「(仮称)杉並区地域エネルギービジョン中間のまとめ」を作成した平成24年12月時点で区が考える「これからの区エネルギー施策の視点」と「取り組みのイメージ」は、同まとめに記載しましたが、区民意見交換会ではこの内容に必ずしも捕われることなく、「今後、区が行うべきエネルギー施策」をテーマに区民が5～6名の班に分かれて自由に討議し、班毎に意見をまとめて発表してもらいました。

### (2) 実施方法

#### 区民の参加方法

多様な区民意見を聴取するため、平成24年12月1日現在で満18歳以上80歳未満の区内在住者を、住民基本台帳から年代・性別・住所が偏らないよう無作為に300名抽出し、案内を送付しました。参加意向を示された23名のうち、当日は20名が参加されました。

また、傍聴は自由としたところ、当日は16名の傍聴者が来場されました。

#### テーマ等の提供方法

生活にエネルギーは欠かせない存在である反面、専門的なテーマでもあるため、「杉並区の地域特性」「区のエネルギー創出と省エネルギーの取組み」「再生可能エネルギーの種類や特色」などをまとめた資料を事前に参加者に送付するとともに、当日はパワーポイントを用いて更に詳細な情報提供を行いました。

#### 進め方

班毎に自己紹介の後、司会、書記、発表者を決め、テーマに関して自由討議を行います。また、各自の意見を付箋紙に記入し、同じような意見をまとめます(グループ化)。

更に討議を進め、班として3つの意見を模造紙の「まとめ1～3欄」に記入します。また、まとめには入らないが是非発表したい意見や、ユニークな意見等は「残したい意見欄」に記入します。

まとめた意見を、1班につき5分で発表します。



### (3) 当日のスケジュール

時間	内容
13:00	開会挨拶
13:03	意見交換会の主旨・進め方の説明
13:15	情報提供
13:40	情報提供に関する質疑
13:45	意見交換 自己紹介・役割分担（5分） 自由討議（40分） 発表シートの作成（10分） 提案意見の決定、まとめ（15分）
14:55	休憩
15:10	発表（1班につき5分）
15:30	閉会挨拶

#### < 意見交換について >

##### 自己紹介・役割分担

参加者は、年代・性別・住所が偏らないよう、予め区が5～6名ずつのメンバーで4班を編成し、意見交換はこの班単位で行いました。

各自が自己紹介をした後、司会・書記・発表者を決めてもらいました。役割については、以下のとおりです。

司 会：意見交換の進行役です。テーマに沿った意見交換が行われるよう、また、なるべく参加者全員から均等に意見が聴取できるよう配慮します。

書 記：発表する際の参考となるよう、要点をメモするとともに、発表シートに記入をします。

発表者：各班でまとめた意見を発表します。

##### 自由討議

意見交換は、班のメンバーが主体的に行うことを基本とし、区職員は質問に回答するだけで、班討議には参加しませんでした。

## 発表シートの作成

班討議の結果は、発表シート（模造紙）に記入しました。

A班	鈴木 佐藤 高橋 田中 渡辺
テーマ	について
(作業スペース)	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 40px; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 40px; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 40px; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 40px; margin-bottom: 5px;"></div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 40px; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 40px; margin-bottom: 5px;"></div> </div> <div style="margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 40px; margin-bottom: 5px;"></div> </div>
まとめ1	
まとめ2	
まとめ3	
残したい意見	

各自の意見を付箋に書いて貼りました。

付箋をまとめながら討議を進め、班の意見を3つに絞りました。

まとめに入らないが、残したい意見を記入しました。

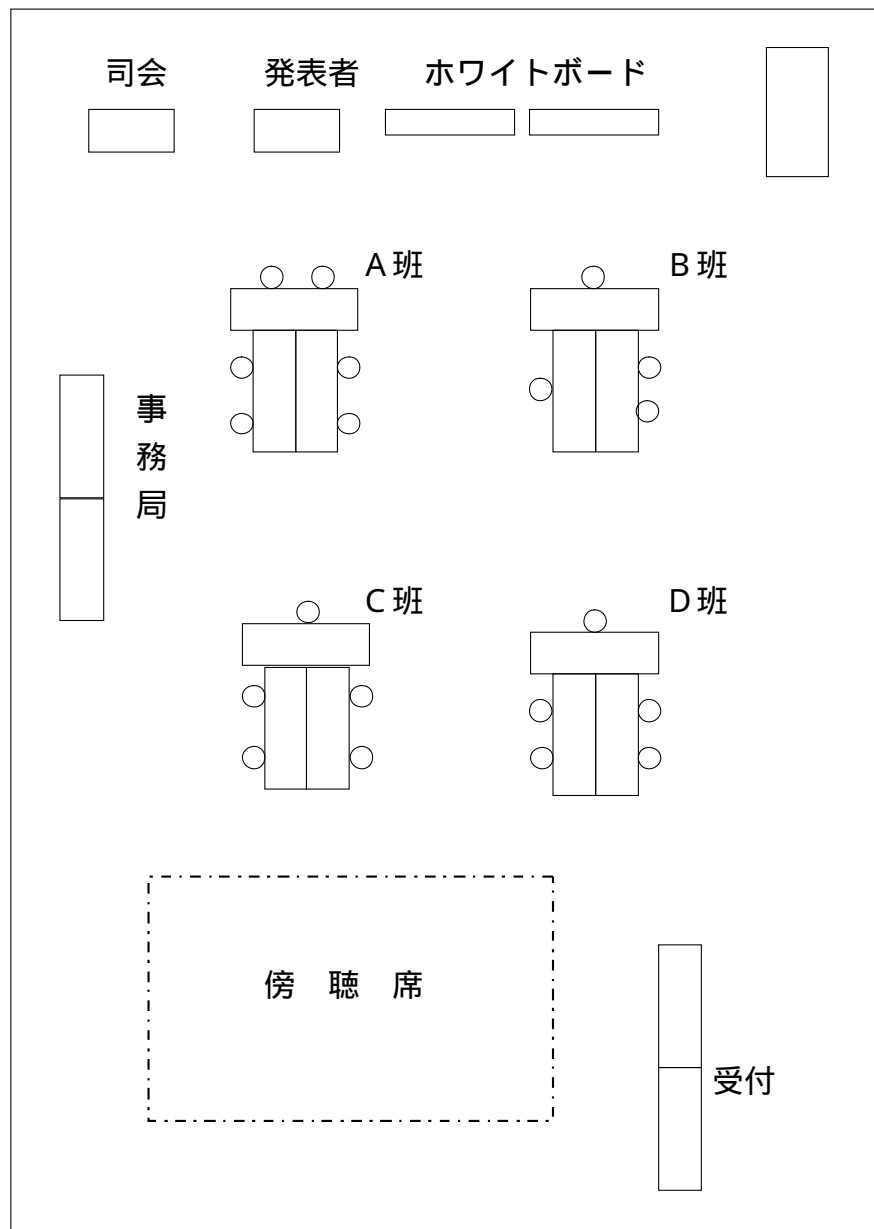
## 提案意見の決定、まとめ

発表シートを作成しながら、提案意見を決定し、発表内容をまとめました。



#### (4) 会場レイアウト

会場: 杉並区役所第四会議室



## 区民意見交換会の進め方に関する説明（区環境課）

### < 発言内容(要旨) >

本日は区役所まで足をお運びいただきまして、誠にありがとうございます。これから、区民意見交換会の進め方についてご説明させていただきます。

これまで、区のエネルギー施策は主に地球温暖化防止に貢献する観点から、省エネルギーを推進してまいりました。しかし、平成23年3月11日に発生した東日本大震災に伴うエネルギー危機、とりわけ電力危機は私達の生活を脅かすこととなりました。計画停電のスケジュールが組まれ、一部地域では実際に大規模な停電が行われました。東北の被災地では、津波から逃れた方の避難場所となった学校等に全く電気が通じず、情報を取ろうにもテレビが見られない、助けを呼ぼうにも携帯電話が通じない、充電もできない、夜間に全く照明が点かずトイレに行くこともままならないといった、まさに「陸の孤島」が出現し、被災者は大変心細い思いをすることになりました。このことは、我々地方自治体の職員にも大きな教訓となっています。

今は、老朽化した火力発電所も稼働させながら、とりあえず電気は安定的に供給されております。国では原子力発電をどうするのか、発電に占める原発の構成比を30%にするのか、15%にするのか、0%にするかといった議論がされています。今後、原発が推進されるのか、廃止されるのか分かりませんが、はっきりしていることは、明日、首都直下型地震が発生すれば、3.11と同様のエネルギー危機・電力危機が起きるだろうということです。

エネルギー政策は国の仕事ではありますが、3.11の教訓を得た杉並区が、地方自治体として出来ることには限りがあるにしても、いざという時の備えが何か出来ないものか。区民が安全安心に暮らせるような備えすることは区の責務であると考えました。

そこで、今後の区のエネルギー政策の方向性を示すべく、「(仮称)杉並区地域エネルギービジョン」策定の為の検討を昨年夏から始め、これまでの検討内容を踏まえた「中間のまとめ」を24年12月に作成しました。防災だけでなく、まちづくり、経済振興や教育といった観点も含んでおります。具体的に何をやるのかは、今後、区の各計画とすり合わせてまいります。

エネルギーは区民生活に直結するものですので、是非、区民の皆様からも率直なご意見を伺い、ビジョンにも反映したく、この区民意見交換会のほか、区民・事業者向けアンケート、アイデア募集などを並行して実施いたします。エネルギーは難しいテーマですが、専門知識が無くても、例えば生活者の視点から「こんなことが不安だ」「もっとこんな風になったらいいの」といった素朴なご意見を出していただいても結構ですので、お聞かせください。

今後、中間のまとめに区民意見を反映させながらボリュームを膨らませて、4月にパブリックコメント(区民意見提出手続き)を行い、5月に策定をする予定です。

今日、お集まりの皆様には、この区民意見交換会とパブリックコメントの2回、ご意見を頂く機会がございます。

ご検討いただくにあたり、参考資料を事前に送付させていただきましたが、この後、25分ほどを頂きまして、国や都の動向、杉並区の特長、最近のエネルギー関連設備のメリットとデメリット等を詳しくご説明し、その後、班討議を行っていただきます。

「まとめ」に原発のことを書いていただきましても、区のビジョンに反映させることはできませんので、その点はご了承願います。

A班 6名(構成:70代男性、60代男性×2、50代女性、40代男女各1)

### <発表内容(要旨)>

今日の区民意見交換会には、全区民から無作為に抽出された300名の中の20名が参加した。参加したくてもできなかった人もいるだろう。そして、今日参加した人は、全員が杉並区を良くしたいと思っているはずだ。

今般のエネルギービジョンの作成は、東日本大震災がきっかけとなった。危機を想定し、「その時のために何をするか」を色々とディスカッションした。まず平時には何をしたらよいのか。そして災害時にどうするのか。長期ビジョンをどうしていくのか。区役所に何をしてほしいのかというだけでなく、自分たちは何をしていけばよいのか等を考える必要がある。

「杉並区地域エネルギービジョン中間のまとめ」には、主に電力のことが書かれているが、大事なのは「杉並区をどのようにしたいのか」だ。日本で一番住みたい町にするためには、エネルギーであっても、生活レベルであっても、いいまちづくりが基本にあるのではないかとということになった。

「一番住みたい町・杉並」になるために肝心なのは、何よりも災害時に安全であることだろう。東京で大きい地震があっても杉並区から逃げられない。「この町にいれば、災害時にも安全で安心だ。」と思える町になることである。

平時には、ごみ焼却場建て替えにより発電できるようになるが、杉並区の電力需要量の半分程度が賄えるほどの大きなものにしたらどうか。ドイツが良いお手本になるのではないか。そうなれば、誰でも住みたくなるだろうと思う。会社も集まってくると思う。平時から自前の大きな電力を持ってほしい。

水力発電も「杉並では無理」と諦めるのではなく、どんなことにも挑戦し幅広くやってみる。そうすることで、どのような災害が起きても、被災者を助けられる手段を持てる。有事の備えについて努力してほしい。

区民が平時にできる努力としては、電気使用量を少なくする省エネルギーがあげられる。そのため、広報活動をもっとしてほしい。また、スマートメーターなども普及させ、データを公表してほしい。平時には細かい電力をチョイス(選択)することだ。

災害時に必要なものとして発電機がある。各戸が持ち、集会所に集まらなくても確実に自助ができることになるので、実現してもらいたい。

「これだけ安全なので是非住みたい」と、誰もが思う町になってほしい。エネルギー問題だけではなく、様々な課題に対応する色々な部署が区役所にはあるので、横断的・総合的に対策を考えてほしい。

< A班の発表シート >

テーマ：区のエネルギー施策

平時

平時ピーク時電力コントロール	発電はできるだけ広く プラス セイソウ	省エネ 節電 HEMS、蓄電の徹底 資源、研修	エネルギー節約の実践 現在消費量比10%減	屋根、トヨ排水の利用
ペットボトル(湯たんぼ)電気は不要	スポーツセンターの自転車こぎ、エネルギーの再生に	車窓(特に夏場)アミ戸設置(車社会の問題があるが)?	区内インフラの整備(災害時対応) 道路 緑地	家庭におけるエアコン設置の台数の限度
自宅で太陽光発電を申し込んだ時、面積が足りず実現できなかった 個人で実現が難しい場合でも杉並区なら「どこかできる」「やっている」というシステムができるといい		街路樹に対するイルミネーション 樹が弱ると空気の問題	省エネ(節電)による環境保護(CO2サクゲン)	塀に太陽光パネル設置(屋根は補修の場合等)費用の点

災害時

危機管理 いずれの場合も放射能被害を抜きには考えられない 屋根職人の問題	災害時への対応 避難場所での設備増強(電気、水、食料) 避難所 そのものの数をふやす	太陽光パネル 発電機	災害に対してどうする	災害時電力確保
--------------------------------------	--	---------------	------------	---------

長期ビジョン

平時、災害時双方に寄付するシステム	9年計画の目標値設定(Smart meter 8割設置等)	他の県・自治体の成功例から学ぶ 情報交換	都、他の23区との連携・相乗効果	スギナミすむならファーストチョイスの町づくり
創造 太陽光発電...助成 火力発電、ごみ処理、河川の利用 太陽光発電がのびない		短期、中期、長期		

【まとめ】平時...省エネ、節電、排水利用、スマートメーター、啓蒙活動、ソーラーパネル、ピーク時コントロール

【まとめ】災害時...避難所増帳、発電機、ソーラーパネル、危機管理

【まとめ】長期ビジョン...短期・中期・長期計画 目標数値設定 先例成功例から学ぶ 広報/周知徹底 区の提案/イニシアチブ

【残したい意見】1. 杉並区としてどのような区にしたいか(例: 全国で一番住みたい町、安全な町) 総合的な統一されたビジョンが必要  
2. 区の各課が総合的・有機的に連携・コラボすべき



B班 4名(構成:70代男性×2、50代女性、20代男性)

### <発表内容(要旨)>

「エネルギー」という風に大きく括ると議論がしにくい。エネルギーは、各地方自治体が考えるべき問題もあるが、本来は国が考える問題であると思う。

班討議の前に行われた情報提供に対する質疑応答で、参加者から「原子力発電についてどう考えるのか」と質問があり、区職員から「議論の過程で原発の話が出ることはあろうが、まともに原発廃止や推進等と書いても、区のビジョンに反映できないので、それは置いておく。」という主旨の回答があった。しかし、エネルギー問題を考えるときに原子力発電のことを検討しないことは、今の日本の現状を考えると難しいと思う。

原子力問題は政治的な部分が強いので置いておくことにするが、3.11以降エネルギーに対し、国民の意識が高まった。本来どうするべきか、なぜ区単位でエネルギー問題を考えるのかということを疑問に思っていた。今回の討議を経て、東京都の各区が取り組めば、区民がエネルギーに対し意識が高まり、解決がしやすくなるのではないかと感じた。

B班は、エネルギーを「公的エネルギー」と「民生的エネルギー」と分けて考えた。公的エネルギーについて言えば、区立・都立の公的施設は、太陽光発電や再生可能なツールをどんどん活用する。エネルギー不足は人命に関わる問題であるので、CO2問題等は置いておくということで良しとする。

民生的エネルギーについては、昔の生活を考えると練炭などを活用していた。民生的エネルギーをサポートするため、日頃から有事の備えとして区民に配布してはどうか。

電力など本当に必要なエネルギーは、公的エネルギーとして発電機や太陽光発電で賄ってはどうか。また、区内の土地を区画整理するときに、風の問題を考え区画整理しているのかどうか。例えば港区では、汐留地区で海からの風がビルに遮断されるため、風通しが悪くなり、温度が上がったという報告があった。それに倣って風通しを考えた区画整理を行い、そこに「昔の日本の住宅」=「通風のいい住宅」を造り、クーラーがほとんど必要ない省エネなまちを実現することを区に提案したい。

また、電気自動車を持っている人は、災害時に運転しないこととし、蓄電池として区に提供する。ごみ焼却場でアンモニア発電をする。沸点が低いので、普通の蒸気より活用しやすいのではないかというアイデアが出された。

テーマ：区としてのエネルギーのベストミックス

<p>使用エネルギーの使用別を考える                  公的エネルギー                  民生的エネルギー                  に関して行政が公的施設を中心に処理を考える                  に関して個別に家庭用代替ツールを考える</p>	<p>災害時に電気自動車を蓄電池として使用する為に動かさない(区との契約)補助等</p>	<p>エネルギーを考える時に原子力発電を除外しては何々むずかしいが、杉並区として国に対して原発対策にどうゆう態度でアピールしているか?</p>	
<p>公的エネルギー</p>		<p>民生的エネルギー</p>	
<p>ごみ処理についてはどうか</p>	<p>ごみ焼却場の多角的利用 (例) アンモニア発電など</p>	<p>エネルギー問題を検討する際に考慮順番を考える                  節電                  生活態度の検討                  地産池消の方法</p>	<p>省エネについて区報でもっと発信したらどうか?</p>
<p>太陽光発電以外にも、ごみ焼却場、バイオマスなどの発電を利用</p>	<p>バイオマス発電をもっと考える ごみは最高のしげんと考える</p>	<p>推進にあたりメリットなどの情報提供を積極的に行う</p>	<p>太陽光利用でビル屋上の緑化との調整は</p>
<p>安心・安全の面から、医療関係のエネルギーは確保するために、あとどの位の目標をもてばよいのか</p>	<p>屋上緑化も大切だが、できるだけ発電パネルを 広い公園で何かできないのか? バイオマス等ごみ処理場の有効利用</p>	<p>家庭は省エネに務めるべき 区としては災害時の命にかかわる エネルギーの確保を考えるべき(自家発電) 太陽光発電が有効で現実的(実現には補助?)</p>	<p>各家庭への発電機器の推進により、災害時への対応を高める</p>
<p>バイオマス発電は太陽光、風力に比べのびしろが多いので検討の余地があるが...</p>			<p>今後、太陽光発電などをデータ化して有効性を考える</p>
			<p>太陽光の利用で耐震化はどうか                  学校                  ビル屋上                  住宅</p>

【まとめ】 区民のエネルギーに関する考え方

【まとめ】 公的エネルギーとして、ごみ焼却場・バイオマスによる発電

【まとめ】 民生的エネルギー

【残したい意見】 区割計画に「風通し」を考えた地区計画を考え、昔の日本住民の風通しの良い建築を推進し省エネをゆるく大きく考える

C班 5名(構成:60代男性×2、50代男女各1、30代男性)

### <発表内容(要旨)>

まとめ1「太陽光の推進」について。

太陽光パネルの設置推進が現実的であると考え。杉並区は住宅都市であるので、各世帯が太陽光パネルを設置すれば、相当な発電量となる。では、なぜ設置が進まないのか。まず経済的な問題が考えられる。費用がない、太陽光発電には高価というイメージがある。区の助成金などのバックアップによる強力な推進が必要である。

しかし、財源の問題が発生する。杉並区は住みたいまちランキングでも上位に入ることが多く、20～30歳代の若い世代が大勢転入してくる。また、転出もしやすいまちである。そこで、財源を確保するアイデアとして、転入デポジット金制度をつくることを考えた。電子マネーと類似するが、転入の際にデポジットとして、例えば500円～2,000円くらいを不動産業者と契約する際に、趣旨を良く説明し、理解を求めたうえで(区では、エネルギー問題に対し積極的な取り組みをしており、太陽光パネルを設置する名目で「協力支援金」としてデポジットしていただく旨を説明)。転出をしたら返金する。

その効果としては、自分で支援金を拠出するため、エネルギー問題に関する意識が向上することがあげられるのではないかと。エネルギー関係の会議開催についても、今回は区民300人を抽出し、参加は20人で参加率は1割に満たなかったが、これが2割、3割になる可能性があるかもしれない。太陽光パネルを自宅に設置することで、「今日はどのくらい発電できたか」「今日はどのくらい節電できたか」などを意識することに繋がるだろう。

まとめ2「区立施設へのエネルギーの設置場所の工夫」について。

災害時避難所の認知度向上努力と同時に駅前などの交通インフラ拠点にもエネルギー(創出設備の)設置場所を設ける。災害時には、電車が使用できなくなり、帰宅難民が発生する。駅前に必ず区立の災害時に対応する救援施設があれば、自然と駅前に人が集まる。駅前から離れた区立施設よりも、駅前の方が便利が良いのではないかと。

まとめ3「エネルギー教育、啓蒙の充実」について。

冒頭に区職員が説明をしていたが、「杉並区民が東京で最もエネルギー問題に対し意識が高い」ということについて、驚いたと同時に住民としては誇りに思う。杉並が東京でエネルギー問題に関し意識が高いことを広報、PRしていても良いのではないかと。そのことが、住民の意識の底上げにつながるだろう。

< C班の発表シート >

テーマ：緊急時（災害時）におけるエネルギー確保

太陽光パネルの推進 区の助成金 財源( 転 入デジポット金、転出 税 )	太陽光パネルの普及 をすすめるため補助 金をつけてください	新築マンションにも 太陽光パネルをつけ させる 行政指導で	杉並の場合( 平常時 に )エネルギー教育の 推進
避難場所の情報の共 有化 定期的に知ら せる努力 光で誘導 する	場所は常時知らせる 努力をする( 選挙場 所、かん報等 )	緊急、災害時にはスマ ートシティは機能す るか疑問	スマートシティはスマ ートか メール情 報はきちんとうけと れるのか
店舗・公共建造物の照 明をもう少し節約で きないか	区民への啓蒙の促進	災害時のスピーカー の活用して太陽エネ ルギーの場所を知ら せる 有線放送、FM の活用	避難場所の伝え方の 問題点 情報弱者( 高 齢者、障害者 )にどう 伝えるのか アナロ グの活用
杉並区が2 3区内で 最もエネルギー問題 に関して意識がある ことを広報していく 住民意識の底上げ	太陽エネルギーの設 置場所は付けやすい ところではなく重要 なところにする( 多く の人が知っている場 所 )		

【まとめ】太陽光の推進  
そのために  
意識を高めるために教育、啓蒙  
支援の財源として転入デジポット金

【まとめ】区立施設へのエネルギーの設置場所の工夫  
避難場所の認知度向上努力と同時に駅前など交通インフラ拠点にも設置場所を設ける

【まとめ】エネルギー教育、啓蒙の充実  
区民集合や学校での教育にもっと力を入れる

【残したい意見】話し合いの中で避難所がどこかを知られていないことが改めて認識された  
杉並区が2 3区内で最もエネルギー問題の先駆者であることを広報してい  
くべき

D班 5名(構成:70代男性、50代男女各1、40代男女各1)

<発表内容(要旨)>

エネルギーというのは難しいテーマであったが、大上段に構えるのではなく、ざっくばらんに色々な話しが出来た。

そもそも今回の区民意見交換会とは、杉並区はどのようなことを期待し、我々はどのような意見を出したらよいか悩んだ部分もあったが、班の中では様々な意見が出されたので、少しでもいいから私たちの意見を取り入れてほしいという思いがある。

大きな括りとして2点をあげると、「節電」そして「発電(電力関係)」だ。事前に配布された資料や説明では、主に電力のことを取り上げていたので、電力に捕われてしまったという面がある。

まず節電について。3.11以降、各家庭で節電意識を持つようになった。LEDやスマートメーターを、公共施設や街路灯などにどんどん設置してもらい、併せてサマータイムなどの啓蒙も図る。節電に貢献した人にはポイントを与えるポイント制度を杉並区で始めても良いだろう。

発電についてだが、主に太陽光パネルの普及・促進を考えるべきだという意見もあったが、各施設で自家発電なども導入し、電力の安定供給を図ってはどうか。そのために、区が助成を行うといった誘導政策を行うと良いと思う。

また、下水処理場を活用するため、都から権利を買い取ってはどうかという意見が出た。風力や小水力なども工夫をすれば発電できるのではないか。余剰電力を持つ他地域から電気を購入するために、発送電の分離することを区からアピールしてもらいたい。

杉並区を「誰もが住みたいと思う町」にしたいことは当然の思いだが、我々区民にはそのために何が出来るか考える必要があると思う。この区民意見交換会の場で、改めてエネルギー問題を考えることが出来た。

< D班の発表シート >

テーマ：杉並区のねらい 私達の意見を受け入れてね

節電

LED	サマータイム	学校メーター 競争	エアコン使用 リミット	街路樹
省エネ住宅・製品 区のポイント	取り急ぎ 節電の意識を持つ (教育面・LED) スマートメーター			

発電

各施設での自家発電 (安定供給)	区立施設から区施設へ太陽光発電	廃熱 発電
---------------------	-----------------	-------

電力関係

発電・送電分離 分散型エネルギー資源	都、他の23区との連携・相乗効果	杉並区の立場(目標) 東京都<日本国 太陽熱以外(風力等)
-----------------------	------------------	-------------------------------------

**【まとめ】節電**

- ・各家庭で意識を持ち取り組む
- ・LED
- ・サマータイム
- ・学校メーター(子供達に競争してもらおう)
- ・スマートメーター
- ・街路樹
- ・区でポイント制(省エネ住宅製品)

**【まとめ】電力発電**

- ・各施設での自家発電(安定供給)
- ・(下水処理場)都から買い取る
- ・区立施設の太陽光発電

**【まとめ】電力関係**

- ・杉並区の立場(目標)
- ・余剰を持つ地域からの購入
- ・発電・送電分離(分散型エネルギー資源)

**【残したい意見】1500Wのリミッターを外して欲しい!**

充電池(設置面)

下水処理場 メタンガス生じる

< 参加者アンケートの結果 >

参加者20人中19人回答 (回答率95.0%)

割合の小数点第2位は四捨五入しています。

Q 1 今回の区民意見交換会に参加しようと思った理由は何ですか。(複数回答可)

- 区民意見交換会が面白そうだったから 52.6%
- エネルギーに関心があるから 63.2%
- 区民としての役割を果たそうと思ったから 21.1%
- 無作為抽出で選ばれたから 42.1%
- 「地域エネルギービジョン中間のまとめ」に興味・関心を持ったから 31.6%
- 謝礼金があったから 10.5%
- その他 10.5%

  - ・好奇心プラス出席可能な日時だったから
  - ・エネルギーマネジメントの会社に勤めているから

Q 2 区民意見交換会に参加する人を無作為抽出で選ぶ方法をどう思いますか。

- 良いと思う 63.2%
- 良いと思わない 15.8%
- どちらとも言えない 15.8%
- 無回答 5.3%

Q 3 区民意見交換会に参加して、どのように感じましたか。

- 面白かった 84.2%
- つまらなかった 0.0%
- どちらとも言えない 15.8%

Q 4 区民意見交換会に参加して、エネルギーに関する興味・関心は高まりましたか。

- 高まった 89.5%
- 高まらなかった 0.0%
- どちらとも言えない 10.5%

## < 自由意見 >

番号	感想・意見など
1	意見交換会に参加した人たちが皆、エネルギーへの関心が高いことに感銘を受けました。
2	区で最終ビジョンをまとめる時は、「期間と、それに対応した数値目標」を明確に設定して頂きたいと思えます。( 標語的な表現でなく、具体的な達成目標の設定とアクションプランの確立、定期的な実現過程の検証 )
3	参考資料が有益であった。
4	地域エネルギービジョンの策定を歓迎。他方、平時におけるエネルギー施策と緊急・災害時対応の施策とは、関係はあるも対応については区分して考えた方が良いと思う。 例えば、平時・長期的にスマートシティを目指すことは論を待たないが、緊急時・災害時にはスマートシティは機能マヒに陥るのではないか。
5	参加者は結果的に年齢層の偏重が生まれることは予想されたことであったので、20～30歳代の方々の抽出割合を高くすれば良かったと思えます。
6	杉並区のビジョンの骨組みは、既にある程度出来上がっていると見受けられました。その上で「素人の区民を抽出し意見書を提出」ということは、単なるパフォーマンスに過ぎないのではないのでしょうか？ 本気で区民の意見を取り入れてくださるご意向があるなら、ある程度の予備知識を持つ区民or「最低限これこれの書を読んできてください。」と案内すべきだったのではないのでしょうか？ かなりの外れの質問者もいましたし、グループ内でもテーマ逸脱の見解提示で平気な人もいました。 それから、区の方々のご説明も、すでに配布された資料の棒読み過ぎず、会場で考えるヒントとなる情報は何も頂けませんでした。説明時間は完璧なロスタイムでした。 また、各グループの代表者発表では、グループ全体の意見ではなく、個人のご意見を語る方やグループで出された色々な意見を上手く説明できない方など、代表発表はかなり低レベルのものでした。 いずれにせよ、発送電分離に基づく電力の自由化がスタートしないことには机上の空論。杉並区のみ問題ではないので、互換性を持った対策を進めて頂きたいです。
7	区民意見交換会に参加する人について、テーマによっては参加を希望したいと思っている人がいらっしゃると思うので、公募が良いのではと思いました。
8	参加された人たちの「杉並をより良くしたい」という気持ちが伝わってきた。住んでみたい町、人気の町と言われている杉並。区民、区職員さん達の努力があって、今日があるのだと感じました。私もずっとこの町に住んでいたいと思っていました。このような会を開いて頂き、ありがとうございました。
9	あまりに漠然としていて、子供の未来予想図と感じました。 中間のまとめを見て、会議ではもっと具体的な事をやるのではと思っていたが、そうではなく少し残念でした。 「エネルギー＝電気」という考え方でしたが、ライフラインを考えれば、ガス、水道、下水道も考慮し、循環型の総合イメージをつくるべきです。 発電に関しても意見がありましたが、原子力等も考慮しないと絵空事になってしまうと思います。参加者の方も、もっと意見があったと思いますが、それを出し切れなかったのが残念に思います。 エネルギーについての関心が高まった事だけは、良かったと思えます。
10	デポジット制による助成金の増加など、考えつかない面白い意見が聞けて良かったです。このような機会があれば是非また参加したいと思います。 ただ、300人中20数名の参加はとて最少なく、区民のエネルギーに対する関心を高めて、区と区民が一体となって取り組む必要があると感じました。
11	どなたかも発言していましたが、エネルギー問題を語るときに原発に触れずに語り合うのは不可能である。あそこまで意識的に避けていると、杉並は原発是認の方向としか思えない。 間違いなく放射能汚染は広がっている。水利用抜きでエネルギー問題は語れない。そのことを抜きには危機管理も語れない。 一度、原発問題について区民意見交換会を持つべきである。区長はどう考えているのか聞いてみたい。 とにかく、この会を破壊するような意見は出ていない。もう少し、区民を信用したらどうか。
12	原発について、国のエネルギー政策はどうなるのか明確でない中での検討であった。原発問題を抜きにしては語れないのではないかと意見があった。
13	1. 意見交換の時間がもう少しほしかった。 2. 年代毎に分けたグループが良いと思う。 3. 水分補給がほしかった。 意見交換会を選んで頂き有難うございました。
14	参加されている方それぞれ意識が高く、話し合いは面白かったです。が、もう少し具体的に区側からの提案も聞かせていただきたいかった。 「結果は広報をご覧ください。」というのには、やががっかりしました。わずか21人なのだから、最後まで報告していただきたいと思いました。
15	エネルギーの重要性を認識するには、よい企画と思う。グループ分討論の方法、意見の集約、発表の仕方の良否、時間の短さ等は今後の検討課題。



	<p>区単位の電力確保の難しさは良く分かったが、太陽光発電に過大な期待を区民は掛け過ぎだ。思い切った強力な発電施設を区で所有する事も考えないと災害時に対応できないのでは？</p> <p>例えば、中型火力発電で独自専用の送電システム（法的な問題はあるが）、発電資源はごみ資源からのバイオ発電等。長期的には通風を考えた都市計画に依るクーラーに頼らない建設設計と安全な原子力発電再稼働の国へのアピールも。</p>
16	グループ討議は大変面白いと思います。今後も続けてください。
17	<p>傍聴人の多さに驚いた。どこから情報を得ているのか、その方に関心がある（ここにもアンケートした方がいい）。</p> <p>一方、300人に案内して参加者20名強ということにも驚いている。さすが、来た人は前向きな人で、班内での話しは積極的に意見が出て、まとめるのが大変だった。</p>
18	エネルギー会議、非常に良い企画だったと思います。様々勉強になりました。エネルギーに対して職員の方々の熱意が伝わってくる会議でした。
19	また、選ばれたい。
20	このような区民参加型の企画は大変有意義。ただし、出席できるのは高齢者がほとんどというのが現実。
21	10年計画に目標数値設定は必要。数値が無いと達成したかしないか10年後に評価ができない。
22	<p>意見交換会自体は面白かった。見知らぬ同士で真面目に話し合うことは楽しい経験でした。ただ、無作為で選出しても来てる人は中高年の男性がほとんど。若い人は忙しいし、子供もいるし、参加は難しいでしょう。女性は家族がいれば、やはりお昼の支度をして来るとも、旦那のご機嫌伺いも面倒かな～。</p> <p>同じグループのメンバーが、震災の時は各小中学校で避難所になることを全くご存じなく、また、自宅そばの小中学校がどこにあるのかも分からないそうで、びっくりしました。だから、区が何故、小中学校にソーラーパネルを設置するのか分からなかったそうです。</p>

## 5 区民アイデア募集

### (1) テーマについて

これからの区のエネルギー政策を考えるうえで、災害時の安全・安心を確保する観点から、区内でのエネルギー創出を充実させることは必要となっています。住宅都市の特性を活かした再生可能エネルギーの普及・促進は欠かせません。

そこで、区民等の皆様から「再生可能エネルギーの普及・促進について、誰がどのように、何をするのか。」をテーマに、自由なアイデアを募集しました。

### (2) 実施方法

平成25年1月21日(月)から同年2月15日(金)まで、氏名(フリガナ)、住所、電話番号、提案するアイデアを書いて(書式自由)、区あて郵送、ファクス又は持参により提出していただきました。

#### < 提出されたアイデア > (要旨のみ掲載しています)

番号	アイデアの内容
1	携帯電話メーカーやケーブルテレビ会社などが、再生可能エネルギーを調達したり、携帯端末で自宅の消費電力が見える事業を始めている。 そこで、数百戸程度のスマートメーターの普及、更にはスマートシティの仮運用の企画を事業者から募集し、希望のある町会・自治会、マンション管理組合などへ仲介し、実施する。 また、太陽光パネルの設置にまで発展させ、スマートグリッド、スマートシティを実現する。その際、公立施設等大規模な再生エネルギー発電を核とすると電力が得やすい。 大手電機メーカーが、本年1月から横浜市で400戸を対象に、スマートシティの実証実験を行っており、他にも参加事業者は多くいると考える。
2	太陽光パネルの設置費用負担を軽減するため、「屋根貸し」が普及してきているが、この事業方法は1軒単位、又は公共避難所への電力提供が条件になっている。 学校、公園などの公共施設に太陽光パネルを設置し、ビルなどの循環水を使った水力発電、剪定枝などの木質チップによるバイオ(発電)、ごみ焼却の排熱発電など、屋根貸しにとどまらず広く地域を単位として事業展開を図り、この電力を利用してスマートシティを実現してはと考える。
3	コンビニ、スーパーには、多くの食料品が仕入れられ、販売されている。しかし、災害時には電力が無く、また、販売が秩序化されないことから、営業が中止される。 あるコンビニ会社では、蓄電池を設置して夜間電力を有効活用し、電力消費量を抑えたり、停電が続いても1日程度は営業できるようにしている。 これらの運用を再生可能エネルギーで実施してみてもどうか。区内には大手チェーンストア本部もあるので、協議してはどうか。災害時には町会等への販売を行政が協定化してはどうか。
4	停電時に夜、道路を通行する場合、大変危険と不安が生じる。主要な区道の街路灯に太陽電池を装備すれば、停電時でも安心して通行できる。この費用が膨大となることから、街路灯に企業広告をつけてはどうか。電柱などの他の所有者との調整、広告のセットできる街路灯の開発などが行政の役割となる。

5	中高層のマンションでは、電力供給が無ければ生活を継続することはできない。現在、耐震化は積極的に進められているが、電力確保についての議論は少ない。電力の節約、耐震化の促進と合わせて、マンションのEMS（HEMS）化を管理組合などに働きかけてはと考える。
6	電力関連事業を推進するにあたり、規制緩和や協力企業へのインセンティブ付与（税制優遇）を設けることが考えられる。そのために総合特区の申請をしてはどうか。想定する緩和策は以下のとおり。 ・地域連携支援組織への寄付促進に向けた寄付金控除の適用対象範囲の拡大 ・関係事業におけるベンチャーを対象としたエンジェル税制の拡充 ・街区内発電装置から、街区内蓄電池への送電、蓄電の許可 ・災害時に街区间電力融通を行うにあたり、特定供給の供給先に関する規制緩和
7	区役所が人も金も負担して施策を展開する方法もあるが、限りがあるので、主に企画調整の役割を担うべきである。 なお、今回の検討にあたって、平成24年に創設された特定地域再生制度を活用し、調査研究すれば、調査費用は10割補助される。
8	杉並区で発電する施設を造ろう。そして、売電しよう。 今、高井戸清掃工場を造りなおしているでしょう。単にごみを焼却して温水をプールに供給するだけにしないで、スチームタービンを併設する事で火力発電の原料としてごみを使うことが出来ます。素人でもこんなことは思いつきます。 他の自治体でもやっていますよ。上記のような発電や太陽光発電、小水力発電の全てをやるべきです！！
9	区と区民で「太陽の銀行」を設立する。 再生可能エネルギーを利用したスマートな地域づくりを行うため、銀行資金で屋根スペースを利権・資産として賃貸する。固定価格買取制度を活用し、売電利益を利権者と銀行に還元する。そのことで、エコを意識した生活に貢献したくても何らかの事情でできない区民の協力を得ることが出来る。将来的には、この事業を区の創電、蓄電事業へ発展させる。
10	再生可能エネルギーの中では、杉並区での普及・促進には太陽光発電に勝るものはありません。しかし、国、都、区が補助金等の優遇策をとっているにも関わらず、普及スピードは上がっていません。以下の2つの問題があると思いますし、この点が解決されれば普及促進に資するのではないかと思います。 (1) 屋根・屋上への設置工法 太陽光パネルは相当の重量があり、陸屋根の場合は相当数のアンカーボルトを打ち、指示設備を設置する。この工法が普及のネックとなっている。 そこで、アンカーボルトを使用せず支持設備を接着するとか、カーボンロープにより固定する。フィルム状太陽光発電材や塗料材の実用化を区として後押ししていく。 (2) 税制上の優遇措置 創った電気を自家消費するほか、一部でも売電できるならば事業として認め、設備の減価償却を認めれば、個人家庭への普及促進になります。自家消費量、売電量での按分償却でも良いでしょう。 その他、安価で高性能の蓄電池が必要なのは言うまでもありませんが、補助はこちらの面にもして頂きたいものです。
11	太陽光、太陽熱発電は、補助金が出るとはいえ、まだ高価であり、太陽光パネルの寿命が長くなっても、インバータ（直流を交流にする機器）の寿命が短いように思います。太陽光発電などをレンタルできれば、もっと普及するのではないかと思います。まだ、売電装置も高いようです。
12	排熱利用工場や清掃工場が出た排熱をコジェネレーション、スターリングエンジンなどで発電したりするのも一つの手であると考えます。
13	駅の屋根に太陽光パネルを設置する。ビルや学校の屋上をレンタルして太陽光パネルを設置する。
14	杉並区は人口が比較的多いから、汚泥発電なども推進してはどうか。
15	駅前には歩行者が多いので、振動力発電も一つの手ではないか。ただ、発電コストが高いのでお勧め品ではないが、歩行者や車の振動で発電できることは大きい。まだまだ、非常時に使える技術はある。善福寺川などの河川で発電を考えても面白いと思う。
16	まず、耐震免震を促進させ、それに合わせて太陽光発電システムを導入することで税金を安くする。その上で、東京都と歩調を合わせて、新電力への電力買い上げ契約を区として仲介することでマージンを区に入れます。一軒毎では所有者もうまみがありませんし、手続きが分かりにくく面倒です。そこを区が肩代わりして、積極的に促進させていくのです。耐震免震への補助と太陽光発電システムのパックを区が独自に作り、区内の物件所有者へ営業をかける。区内物件所有者も一本化されていれば質問をし易くなるのと安心感が持てます。
17	私は20数年前から米国（ボストン郊外）に設置した、廃棄物発電プロジェクトに参加している者です。 この技術は、日本で区分けされている一般廃棄物、産業廃棄物又は不燃物も混焼して、ボイラー内で分別する（空中浮揚焼式）方式です。 私の会社では、旧厚生省の技術認定を得て、現在は福島県の広域圏にて推進しています。安価な再生エネルギーを供給し、区民のために寄与できるものと考えています。

18	<p>昨年10月、太陽光発電設備(6.24kW)を設置し、約4ヶ月経過したなかで、年間を予測してみると、今までの電力消費量は太陽光により十分賄えるとみている。</p> <p>そこで、今後より一層の太陽光発電を促進する為に次の提言をしたい。</p> <p>(1) 屋根貸し 制度を現在の助成制度に明確に加えること。</p> <p>(2) 一歩進めて、区が借り上げるくらいの仕組みが望まれる。</p> <p>理由:太陽光発電システムには関心があるが、その採算性、パネルの技術進歩への期待から、なかなか踏み出せない層が多くいると思われる。また、特に高齢者には、今更金額の投資は出来ないと思っている層が存在するだろう。これら潜在需要を掘り起こすことが必要だろう。高齢者には手続事務を代行する仕組みも必要だろう。</p>
19	<p>下記の二つのアイデアをお知らせします。</p> <p>(1) 杉並区内の池で石油系オイルを生成する藻類を培養する。国内では、大手企業による培養試験が行われています。米国でも、石油系オイルを生成する藻類の養殖技術の開発が行われており、昨年2月、オバマ大統領はマイアミ大学での講演で「藻類燃料は米国が輸入している石油の17%を代替することができる。」と述べている。</p> <p>(2) 小型風力発電機の活用、地下鉄駅構内の強い風が吹いている所、杉並区役所庁舎や病院の屋上、防災公園などに小型風力発電機を設置することをお勧めします。</p>
20	<p>阿佐ヶ谷のパール商店街、高円寺パール商店街のアーケードに太陽光パネルを設置。</p> <p>JR中央線、西武新宿線、京王井の頭線の区内にある駅ホームに太陽光パネルを設置。</p>
21	<p>地震や台風による電柱の破壊、変圧器など重量物の落下、電線の切断や短絡等の影響は計り知れない。電線の地中埋設化を最優先で実施すべきだ。</p> <p>太陽光発電は効果的で更なる技術発展も期待できる。併せて、環境に負荷の少ない燃料電池を組み合わせたシステムが最適と考える。資源エネルギー庁は、家庭用燃料電池の助成を行い、普及を推進中だ。しかし、燃料電池に使用する水素を災害時の供給が信頼できない都市ガス、LPGや灯油から取り出すことは、安全性や安定供給の点で問題がある。</p> <p>一方、生活上必然的に生じる生ごみは、バイオガス(メタンが主成分のガス)を発生させるが、水素を取り出せる貴重な資源である。家庭用燃料電池に応用できる技術の確立が課題だが、その効果を勘案すれば十分に組み込む価値があると感じている。</p>
22	<p>区内の農地、借地可能場所、区有の未利用地を再生可能エネルギー機器設置拠点とし、太陽光パネルを取り付けた建物の内部に野菜工場と保育園、介護・養護施設、産地直売所を設置する。また、野菜工場の栽培施設内部に災害時の備蓄倉庫、避難場所、雨水貯水、簡易風呂、トイレ、炊き出しを行う場所を備える。</p> <p>このことで、農業、販売、保育、介護、養護等で健常者、身障者の雇用が発生する。また、建物の建設には区内業者が関わり、その点でも雇用の増大が見込まれる。</p> <p>区内での再生可能エネルギー利用には限りがある。そこで近県に機器設置場所を借地することも考えられる。一都六県と山梨県北杜市、長野県原町、軽井沢等の畑又は休耕地、休眠地の利用である。</p>
23	<p>1 C C F L (冷陰極蛍光灯)</p> <p>LED照明をやめて、C C F Lに切り替える。電力消費量・電球代ともにLEDより安価。</p> <p>街路灯、河川照明、公共建築物、私企業、病院、学校その他あらゆる分野で膨大な電力節約になる。</p> <p>2 太陽光発電</p> <p>家庭のソーラーパネルの普及のほか、近未来のエネルギーは全て太陽光の自然エネルギーが取って代わる。</p> <p>パネルの小型化、可塑化、低価格化などの進歩はめざましい。</p> <p>3 風力発電</p> <p>プロペラ型の大型発電機でなく、縦型の小型風力発電機。低周波音の影響もなく小型で、街路灯やビルなどにも設置できる。</p> <p>4 パッシブハウス</p> <p>温暖化の時代には高温対策が緊急の課題になる。その対策として建築にも配慮が必要。</p> <p>屋根の一部を二重にして通風を良くする。(例:沖縄、リビア)</p> <p>一部大型邸宅で実現しているが、もっと一般的に普及を図りたい。</p> <p>5 ごみ発電</p> <p>焼却場での発電は、知識がないので分かりません。</p> <p>6 節電</p> <p>区役所、図書館その他、公共施設での夏期の冷房をもっと配慮できないか。</p> <p>7 ハイブリッド</p> <p>太陽光と風力を併用するハイブリッドシステム。電力の安定、建設コスト、付帯設備、維持管理などなど、併設によるメリットは計り知れない。</p> <p>8 緑化</p> <p>市街地の緑化を、夏の高温対策として有効に活用したい。</p> <p>9 研究中</p> <p>黒鉛(グラファイト)の円盤を磁石の上で回転させて、発電させる。安価で環境負荷が少ない。都内の大学で発電に成功した研究がある。</p>

	<p>将来は円盤を大きくして、太陽光や工場排熱を利用した発電に発展させるべく研究を進めているという。</p>
24	<p>ペルチェ発電を利用した小型有機物熱分解装置は、家庭から排出されるごみを熱源とし、煙を出さず臭いも出ず、一度着火スタートすると一年中連続投入は勿論ですが、数日間投入を中止しても余熱(遠赤外線効果)に依り、再投入すると自然に熱分解を続行しますので手間が要りません。</p> <p>熱源：家庭ごみ(生ごみ、ゴム、新聞、雑誌、プラスチック、絨毯、畳、おむつ等) 材料：鉄製ドラム缶2本(ドラム缶1は本体無煙ボイラー用、2は排熱処理と木酢回収用)</p> <p>ペルチェ素子はドラム缶の周囲に貼り付け、廃熱を利用して発電します。いわば80の温泉熱で100Wの発電ができます。ペルチェ素子を増やすと発電量も増えます。高温であれば更に発電量が増えるというものです。 この無酸素で無灰の炭焼きに近い熱分解方式は操作が簡単で、バーナーも無いが、有機物は全て灰になり元の容積の100~200分の1に減容されます。 各家庭で1台持つと杉並区の焼却炉が必要となりますが、生活ごみを廃熱にかえ、その排熱から1kW近い電気を家庭で製造するというものです。</p>
25	<p>杉並区発・太陽光発電モデル住宅地区構想</p> <p>ひとつの小学校区域の全家庭(戸建て・アパート・マンション)に太陽光パネルを設置し、「太陽光発電モデル地区」を作る。これを杉並区が大きく広報・アピールすることにより、昔からある住宅街が先進的でエコなまちになる姿を杉並区内及び全国に示す。</p> <p>更にその中で採算の見込める事業を「杉並発スマート住宅地モデル」として地元企業が区内外へ展開し、事業を軌道に乗せて地元に収益を還元しながら区内の再生可能エネルギー導入促進を図る。</p>
26	<p>エネルギー対策にもいろいろありますが、その中でも、日々莫大なエネルギーを消費しているにもかかわらず、僅かな工夫で大きな効果が期待できると思われる自動車関係について提案させていただきます。</p> <p>再生可能エネルギーといえば、食用穀物との競合で一時騒がれたバイオエタノールがありますが、その後、日本では思ったほど普及しておりません。その理由のひとつとして、日本ではガソリンへのエタノール混合許容値は10%(以前は3%)を上限としているという事があります。これは既存のガソリンエンジンの腐食を抑える意味がありますが、枯渇する可能性のある化石燃料が大半を占めたままとなっております。しかし、電気自動車(EV)に置き換わろうとしている現在の日本では、エタノールそのものが自動車用燃料として不要なものになりつつあると感じるかもしれません。</p> <p>ところが、そのEVには「充電インフラの未整備」「充電時間」「車両価格」「航続距離」のように普及を妨げるポイントがあり、予測されていたほど浸透しておりません。そこで、ガソリン車とEVの間にあった「ハイブリッドカー」に注目すると、いくつかの条件が揃えば再生可能エネルギーを自然な形で普及させることができると考えました。</p> <p>具体的には「エタノール100%で使用可能な小型軽量高効率の発電専用エンジンを搭載したシリーズ方式プラグインハイブリッドカー」を提案したいと思います。</p> <p>このエンジンには高濃度のエタノールを使用できるということが重要なので、もし極端な小型化が可能ならば、それに特化したもので他の燃料については使用不可だとしても構わないと思っています。幸いにも、技術的には新しい物ではないので新規開発はほぼ発電用エンジン部分のみで、それも自動車用エンジン開発ほどの困難さはないと思います。既存技術とほとんど変わらない、ただこれだけのことで多くの利点が生まれます。但し、そのためには他にも条件が必要になります。</p>
27	<p>ほんとの意味での「省エネ」住宅、太陽熱や風や雨などを活用した住宅が普及するような取組みをしてください。</p> <p>「メガワットソーラー」ではなく、「ネガワット(節約して浮いた電力)ソーラー」一キャンペーンをしてはいかがでしょうか。</p> <p>杉並区には50万人もの住人がいますから、みんなが10%、20%の省エネやアンペアダウンをしたら、「ものすごい量の電力を使わずに済んだ」=「新たな電力を生み出した」ことと同じです。「お洒落に楽しく、エコライフしましょ」って、たまにはキャンドルナイトしたり、電気オーブントースターや炊飯器でなく、コンロや鍋で料理しよう、とか。</p>
28	<p>区内領域での再生可能エネルギー普及について、先ず次のとおり前提条件を設定します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 区民生活の安全・安定の為にエネルギー創出であること。</li> <li>2 エネルギーの地産地消に因る地域振興及び災害・非常時対応の計画であること。</li> <li>3 営利目的・資産運用ではない事業であること。</li> <li>4 他のエネルギーとの関連は、本件では考慮せず再生可能エネルギーに限定した計画(マイクログリッド、スマートコミュニティは対象外)であること。</li> <li>5 マンションを除く個人宅規模の計画は対象外(固定価格買取制度活用が有利の為、協力を得ることが難しい。但し、本件コンセプトに協力頂ける区民の自宅は対象とする)</li> </ol> <p>(1)太陽光発電 設置場所は、高層ビル、学校、ガソリンスタンド、公園、駐車場、営団車両基地。システムは</p>

	<p>原則、蓄電池との組合せで発電した電力を消費する。用途は、照明、空調機器、昇降機、電気自動車急速充電器、災害時関連装置。</p> <p>(2) 風力発電 設置場所は、高層ビル、公共施設。システムは原則、太陽光と同一。用途は、固定式大型蓄電池をネットワーク化し、公共施設・信号機等の負荷に使用する。また、移動式大型蓄電池による、災害時・停電時の緊急対応施設・設備機器に使用する。</p> <p>(3) バイオマス熱利用 対象燃料は、剪定材、建築廃材、雑草、枯草等で、事業所や家庭から発生するごみは確保可能な量が小規模の為、除外する。 バイオマス燃料をボイラーで燃焼し、蒸気又は温水で熱回収する。用途は、蒸気の場合は小規模発電、温水の場合は小規模地域冷暖房、トランスヒートコンテナシステムを活用しての公共施設での熱供給。</p> <p>(4) 小水力発電 区内河川は落差が取れず、水量も低い為対象機種は限定されるが、数か所に設置することにより小規模なれどもまとまった発電量が期待できる。但し、発電した電力は蓄電池に貯める必要があり、使用方法・用途は風力と同様。</p> <p>(5) 地中熱 新築ビルが対象で、基礎杭を活用し地中の熱を熱源にした空調システムがある。このシステムは電気式空調機より消費電力が低く省エネである。</p>
29	<p>地中熱利用のメリット</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 日本中どこでも、いつでも利用できる。大都会東京の杉並区でも利用できる。</li> <li>2 節電、省エネとCO2排出量抑制ができる。環境にやさしい。</li> <li>3 冷暖房に熱を屋外に放出しないため、東京のような大都市では、ヒートアイランド現象の緩和に寄与する。</li> <li>4 地中熱交換器は密閉式なので、環境汚染の心配がない。</li> <li>5 通常のアエアコン(空気熱源ヒートポンプ)が利用できない外気温マイナス15以下の環境でも利用できる。</li> <li>6 足元にある地産地消の自然エネルギーとして、区民の再生可能エネルギー熱利用の実感があり、教育効果も大きい。</li> </ol> <p>杉並区では、広く地中熱利用を区民の皆さんに知ってもらうため、太陽熱と地中熱を利用した再生可能エネルギーハウスを提案する。 杉並区立郷土博物館は、地質・地下水の資料も多いので、導入に有望な建造物である。最も来訪者の多い集会室などを選び、地中熱利用冷暖房を導入する。館内には再生可能エネルギーを学習できるコーナーをいくつか設ける。子供でも年配者でも見てわかる再生可能エネルギー施設を目指す。建物の横に100m程度の地中熱交換井を一本掘削し、これに採放熱管を挿入して埋め戻す。この地下部分は見えなくなるので、館内にモデルを置いて、水の循環も見えるようなモデルを作る。 室内には小型のヒートポンプを置いて、アクリルケースで覆い、外から見えるようにする。地下に入る流体の温度や地下から戻る流体の温度をデジタル表示する。外気温と冷暖房温度も同様に表示し、どれだけのエネルギーが地中とやり取りされているかもわかりやすく表示する。 また、善福寺川に沿う公園の一角にモデルハウスを建設し太陽熱利用を併設することをお勧めする。</p>
30	<p>日本のエネルギーは原発事故を受けて安全なものを希望しています。 小水力利用の発電は、杉並区の川を使ってできるのではないのでしょうか。メリットは、昼夜・年間を通して発電できる。太陽光より発電力が高く、設置面積が小さいこと。河川利用は区役所の手続きが必要と思うが、今回は区がやるのでデメリットにならない。</p>
31	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 公共機関(役所、各種のイベントホール)などには、設置に適当なスペースがあるところからソーラーを設置し、順次拡大していく。また、阿佐ヶ谷住宅などの大規模団地にはソーラー装置だけでなく、熱供給システムを組み合わせたコジェネ、ソーラー、既存の都市ガスをバックアップ源とした総合的な地域エネルギーシステムを導入したい。その近隣地域に広げてスマートグリッドの実験地域にしてもよい。</li> <li>2 神田川・善福寺川沿いの緑地・公園のスペースを利用して、地域のごみを集めたメタンガス発酵によるガスコンバインド発電並びに熱供給、ソーラー装置、都市ガスバックアップシステムの総合的なエネルギーシステムを工夫したい。地域住民の積極的な関わりを期待したい。</li> <li>3 分散型エネルギー源に基づく地域社会の実現をより見えやすくする工夫として、例えば区の鉄道公園の仕様を整備して、ソーラーなどの電力による電車、乗り物を子供たちに(大人にも)提供して、娯楽だけでなく実用面でも分散型エネルギーが実際に有用であることを見てもらう。その公園内には同時に、住宅や地域に利用可能なシステムのモデルやミニチュアを公開するスペースをつくる。</li> </ol>

	<p>要するに分散型エネルギーに転換した場合の、地域社会の具体的な姿が理解されるよう工夫をする。</p> <p>4 原発立地の住民や提携する地方の住民に、小規模電力や中間山地の休耕田、山林や畑などを使用して電力を産出してもらおう。その投資資金面で都市部の自治体(杉並区など)がネットワークを組む。区民が電力の買い取りに参加できるように自治体が保証等で間に入り、また区民への参加を促進する。そうした保証システムは地方の金融機関がネットワークを組み、参加・協力する。</p>
3 2	<p>1 太陽光発電  設置場所： 区所有施設の屋根  国・都所有施設  企業・個人からの無償貸与  資金：ファンド(区民、区内企業、大口不動産保有者が出資)  参加方法： 出資に参加  システムの据付、維持の労務に参加  ポイント： お金をなるべくかけない  資材は共通して区が一括購入し、初期投資費用を抑える。維持管理に係る労務費は極力ゼロに近づける。売電利益とCO2排出権はファンド運営する。  再生・持続可能労働力  維持管理や修繕がしやすい仕組みをつくる。専門技術者による一般市民への教示により、市民が自ら設置する。簡易な維持労働は市民が行う。  地域のつながり、連帯、共助  情報、目的、危機意識の共有。地域団体、商店街、企業等団体ごとにアプローチする。</p> <p>2 小水力発電  設置場所：区内河川の環状七号線地下調節池取水施設3箇所  概要： 電力消費のピークに合わせて放流発電し、夜間電力を利用し(河川水を)ポンプアップする。  放流発電により水素の製造・貯蔵・燃料利用を行う。夜間電力を利用しポンプアップする。  超低落差発電ならば広い流域で24時間稼働の可能性がある。</p>
3 3	<p>木材が再生可能エネルギーかつエコロジカルであることはよく知られています。そして、日本国土は森林が大部分を占めるが、十分活用されているかという疑問です。</p> <p>そこで、区が荒地、山を賃借し、効率よく熱として使える材木を生産するための材木センター(主業務は山林のメンテナンスと燃料加工・製造)を設置・稼働させる。ここで巨大投資が必要です。次に、加工済み製品(固形燃料)を消費サイトに配送し、廃棄物(燃えかす)を回収する必要があります。ここで既存の配送業者を使うことは良策ではありません。この仕事は65歳以上及び若い人のボランティアをまとめたNPO法人に任せることです。</p> <p>この法人にはもうひとつのミッションを持たせます。消費サイトが独り住まい或いは高齢者の場合、安心を与えるためのコミュニケーションを保つことです。消費者にとって、燃料を届けてもらうために、少し会話をするという多少義務感を持つが、かと言って必要以上のプライバシーに触れられることもないので、スムーズに行くのでは?</p> <p>固形燃料の開発ですが、燃えることによる煙が、NOx、SOx、PM2.5を含むのであれば実現は不可能です。その点で、材木は樹皮を含めて燃えた時の有害元素を含まないものにする必要があります。</p> <p>もうひとつ大切な点は、安全そのものですが、みんなが原理・利益・不利益を知っていることです。2年前の3.11を契機に、人々が原子力に対し「高効率、大規模、安いエネルギー技術」と宣伝させて、税金がちゃっかり流用されていたことを知って懐疑的思考になっていることは確かです。この点で、この提案がみんなが原理を理解でき、機会があればプロセスのどこかに参加でき、更には安全性が高く、トータルとしては低コストを備えていると主張できます。提案の成功の鍵を握るのは、ボランティアと燃料開発にあると思われます。</p>
3 4	<p>1 エネルギー特区(杉並版スマートコミュニティ)を作る  ・区がある地域をエネルギー特区に指定する。  ・区、事業者、NPOが「エネルギーまちづくり協議会」を立ち上げ、区民に呼び掛ける。  ・区、事業者、NPO、区民が協議会でまちの全体図・目標をつくる。  ・NPOは、協議会の運営、目標達成のプログラムづくり、プログラムの進行管理を行う。</p> <p>2 特区での再生可能エネルギー普及の取組み  エネルギーまちづくり協議会が、以下の取組みを行う。  ・再生可能エネルギーの相談窓口を開設し、設置希望者を募る。  ・出資相談窓口を開設し、出資希望者を募る。  ・設置希望者と出資者の仲立ちをする。  ・出資金の運用を行う。  ・省エネ相談窓口を設置する。  ・地域内の公共施設にエネルギー使用量を表示する。  ・省エネ住宅の推進  ・環境整備(みどりの創設、風のみちをつくる、住民の集いの空間をつくる、自動車の使用規制、</p>

	<p>道路整備、CO<sub>2</sub>を排出しない交通網の整備)</p> <p>3 太陽光発電設置者のネットワークを作る 杉並区が助成した太陽光発電設置者(以下、「発電所長」という)を中心に呼びかけて、「(仮称)杉並・太陽光発電所長ネットワーク」をつくる。 構成員: 発電所長、行政、区内事業者、専門的NPOなど 基本事業: 発電所データ提供と発電カルテ(定期的な健康診断)の発行 事務局が発電所長と事業者の協力を得て啓発相談会を行う。他にパネル展、発電所自慢、発電所見学ツアーなど。 発電所が自ら省エネを進めることにより、杉並産自然エネルギーの有効利用を進めるとともに、地域の発電所長としての役割の自覚を図る。 他事業: 余剰電力などの販売額(収入)の一部をプールして市民共同発電所に投資する。 「災害時協力発電所」の看板をつけ、災害時・停電時には区民に電気を供給する。</p>
3 5	<p>本アイデアは、太陽光発電機を道路のガードレールに設置するものである。 太陽光パネルは屋根に設置するものがほとんどであるが、屋根という場所の欠点で設置にコストがかかりまた配線も困難である。 ガードレールの道路側は太陽光を遮るものが無く、かつ通常は上に電線が設置されているので配線も容易である。 通常のガードレールは、パイプを組み合わせたもので、それにひっかけるように配線すればコストも少なく済み、太陽光パネルの配線も容易である。 太陽光パネルの設置場所として適切であり、都市の美観を改善する。</p>
3 6	<p>1 区が所有する施設での太陽光発電とそれを利用することによる交通系エネルギーの削減</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>区所有又は借り受けている自転車駐車場等で太陽光発電を行い、発電した電力をレンタル電動自転車に活用する。</li> <li>市民団体(NPO等)が、区から用地を借りて、太陽光発電事業とその電力をその場で活用するレンタル・サイクル事業を行う。</li> </ul> <p>2 既存の住宅街での太陽光発電を取り入れたスマートコミュニティの実証</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>杉並区では、新築や大規模な新規開発を想定し、スマートシティ化する機会は少ない。むしろ、既存の住宅やコミュニティに対する改造型のスマートコミュニティ化の実証が望まれる。</li> <li>スマートコミュニティ化を目指す地域では、太陽光発電を取り入れた住宅に改装し、できる限り新築に近い形でHEMS機能を取り入れた住宅を増やしつつ実証を行う。</li> <li>新築に比べ、1棟1棟の効果は薄いものの、既存住宅は圧倒的に多くの戸数があるため、全体の量的効果は大きいと考えられるため、スマートコミュニティ化への横展開が可能になる。</li> </ul>
3 7	<p>1 自然エネルギー資源に恵まれた他地域との提携や連携による再生可能エネルギー発電</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>杉並区は主に防災対応の為に自治体スクラム構想を進めているが、単に防災だけの協定に留めては勿体ないのではないかと。自治体スクラムの提携先は再生可能エネルギー資源に恵まれた地域も少なくない。</li> <li>杉並区が防災協定の延長線上で、緊急時のエネルギー確保の目的により、他自治体の支援を行う。市民団体(NPO等)が、行政が直接できない部分を補完的に支援を行う。</li> </ul> <p>2 区が所有する施設(区外も含む)又は借り受けている施設における再生可能エネルギー発電の追求</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>区所有施設の屋根貸しや場所貸しを行う。その場合、一部の民間事業者の利益を供与するだけの形をとらないように、少なくとも一定枠は区民がお金を出し合う形の事業体(区民ファンド等)を与えるべきである。東京都もその方向で動いているようだ。</li> <li>世田谷区は三浦半島に所有する区外施設において、民間の力を使った太陽光発電事業を行うとの報道があった。杉並区も区外施設を有しているため、同様の事業を行うことが求められるのではないかと。</li> </ul> <p>3 熱エネルギーの地域利用策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>高井戸清掃工場の発電施設は、以前より大容量の効率の高い発電ユニットが導入される。熱利用は従来の高井戸地域区民センターだけでなく、浴風会等の老人施設、病院など近隣の公共施設への熱や電気の供給も考えられるのではないかと。防災対応にも役立つ。</li> </ul> <p>4 区内の水資源を利用する小水力発電</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>災害時はライフラインの復旧で水が最後となる。電気の供給が止まると水の供給も止まるため、浄水場での自家発電が必須だと考える。</li> <li>東京都水道局杉並浄水所での小水力発電も、東京都と連携できないだろうか。水利権の認可が必要ない下水処理場や浄水場での小水力発電は容易に導入し易いというメリットがある。</li> </ul> <p>5 交通における再生可能エネルギーの利用促進とその他の施策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>交通におけるエネルギー源として、再生可能エネルギーの利用促進が望まれる。バイオガスやBDF(バイオディーゼル)の利用が考えられるが、欧州の主要都市では自転車道の整備、カーシェアリングの普及促進、電気による公共交通の導入及び朝夕渋滞時の渋滞税の課金等による複合的な施策が行われており、杉並区でも検討の可能性は大きいと考える。</li> <li>区有車のEV(電気自動車)化を進める。災害時にも使えるよう太陽光で発電した電気をEVに蓄電する仕組みを整える。</li> </ul>



	杉並区から委託を受けた市民団体（NPO等）の事業者が、自転車駐車場でレンタル電動自転車を配備し、充電は太陽光発電が使えるようにする。
38	<p>先日、NHKで「神奈川県施設90%東電以外から電力へ」と題されたニュースを目に致しました。インターネットで元記事を探しましたが、日数が経過してしまった為に、既に削除されてしまっている様ですが、その内容は「神奈川県は県庁や県立学校など272ある県施設のうち、およそ90%にあたる244施設でPPS（特定規模電気事業者）との電力契約先の見直しを行い、年間約1億5千万円程の経費圧縮となる見込みだそうです、この浮いた経費を商店街の活性化を狙った商店街のスマートコミュニティ化資金に回して行ったら如何でしょうか。商店街の元気が杉並の宝だと思っています。</p> <p>これらの相乗効果により、広く杉並の向かう方向性を強くイメージ付けすることが期待でき、区民の多くも歓迎するのではないかと、又、区民意識も変わるものと感じております。</p>
39	<p>1 区が直接出来る事</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・区所有の建物の照明は全てLEDとする。</li> <li>・区所有の建物の屋上及び南側の壁の可能な所には、太陽光パネルを設置する。</li> <li>・区所有の可能な所には、小型風力発電機を設置する。</li> </ul> <p>2 電力友好都市</p> <p>杉並区で発電を行うことは難しいので、発電が可能な自治体の発電に出資し、その都市との交流を図る。出資者は杉並区と杉並区民とし、杉並区民分は杉並区が杉並電力債として集める。民間にも出資を募っている所がありますが、大丈夫かどうか分からないので出資できないという人がいます。出資金は1口1万円と小口なら、私も出資可能です。</p> <p>3 企業</p> <p>省エネ製品の開発。コンペを行い、補助金を出す。私の夢は、電動自転車の蓄電版を誰かに作ってほしい。「お父さん、今日の電気足りないよ」とお母さんに言われると、「じゃ1回り行ってくるか。」と自転車で30分走ると電灯の電気ぐらいにはなる。効率の良い充電器と効率の良い電子機器があっただけで実現可能になると思います。現在は不安定な発電を蓄電するのは大変なのだそうです。</p> <p>4 各家庭への省エネの啓蒙と太陽電池パネル補助金の説明</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校では子供だけではなく、父兄、祖父母にもPRを行う（運動会、学芸会等）。</li> <li>・図書館、区民会館、体育館など人が集まる所でのPRを行う。他に公開講座、お祭り、選挙、コンサート、パトロールの集まりなどの小さな自治会の集まりの時もPR活動を行う。</li> </ul>

## 6 パブリックコメント

(4月21日から5月20日まで実施予定)

## 7 地域エネルギービジョン懇談会

### (1) 委員名簿

役 職	氏 名	区 分	備 考
座 長	柏木 孝夫	学識経験者	
副座長	前川 耀男		
委 員	高口 洋人	区内事業者	
	小林 義雄		
	八方 淑夫		
	遠藤 雅晴		
	鈴木 廣美	区民代表	
	西田 穰	環境団体代表	
	鈴木 伸隆		
	浅岡 八枝子		
	石井 敏康	エネルギー事業者	
	柳井 薫		

### (2) 事務局

環境部環境課

### (3) 調査機関

日本環境技研株式会社



#### (4) 懇談会スケジュール

回数	日時	主な検討議題
第1回	平成24年9月11日 18:30~20:40	・地域エネルギービジョンの位置づけ、検討スケジュール ・国のエネルギー政策の現状と課題 ・区のエネルギー政策への期待
第2回	平成24年10月30日 18:30~20:30	・論点の整理について ・エネルギーに関連する区の行政計画 ・他自治体のエネルギー関連計画策定状況
第3回	平成25年1月8日 18:30~20:30	・「地域エネルギービジョン中間のまとめ」について ・区民意見反映手続きについて
第4回	平成25年3月27日 18:30~20:30	・「地域エネルギービジョン案」について ・パブリックコメントについて

#### (5) 設置要綱

##### < 杉並区地域エネルギービジョン懇談会設置要綱 >

平成24年8月1日

杉並第20026号

##### (設置)

第1条 杉並区における地域エネルギー政策に関する基本指針を定める杉並区地域エネルギービジョン(以下「エネルギービジョン」という。)の検討にあたり、専門的立場からの助言や意見等を聴取するため、杉並区地域エネルギービジョン懇談会(以下「懇談会」という。)を設置する。

##### (所掌事項)

第2条 懇談会の所掌事項は、次のとおりとする。

- (1) 区によるエネルギービジョンの検討過程において、意見を述べること。
- (2) その他、エネルギービジョンの策定にあたり必要な事項。

##### (組織)

第3条 懇談会は、次に掲げる者のうちから、区長が委嘱する委員14名程度を持って構成する。

- (1) 学識経験者
- (2) 区民の代表
- (3) 区内事業者の代表
- (4) エネルギー関連団体の代表者
- (5) エネルギー事業者

##### (任期)

第4条 委員の任期は、第2条の規定によるエネルギービジョンの策定が終了したときまでとする。

(座長)

第5条 懇談会に座長を置く。

- 2 座長は、委員の互選によりこれを定める。
- 3 座長は、懇談会を代表し、会務を総括する。
- 4 座長に事故があるときは、あらかじめ座長が指名する副座長がその職務を代理する。

(会議)

第6条 懇談会は、座長が招集し、会議を総括する。

- 2 座長は、必要があると認めるときは、委員以外の出席を求め、意見を聴き、又は説明を求めることができる。
- 3 会議は原則公開とする。ただし、座長が公開することが適当でないとする場合は非公開とすることができる。

(庶務)

第7条 懇談会の庶務は、環境部環境課において処理する。

(委任)

第8条 この要綱に定めるもののほか、懇談会の運営に関し必要な事項は、座長が定める。

附 則

- 1 この要綱は、平成24年8月1日から施行する。
- 2 この要綱は、エネルギービジョンの策定をもって廃止する。

## 8 地域エネルギービジョン検討委員会

### (1) 委員会スケジュール

回数	日時	主な検討議題
第1回	平成24年8月23日 9:30~10:30	・地域エネルギービジョンの位置づけ、検討スケジュール ・国のエネルギー政策の現状と課題 ・杉並区の地域特性について
第2回	平成24年10月18日 9:30~10:30	・論点の整理について ・エネルギーに関連する区の行政計画 ・他自治体のエネルギー関連計画策定状況
第3回	平成24年12月19日 15:15~16:15	・「地域エネルギービジョン中間のまとめ」について ・区民意見反映手続きについて
第4回	平成25年2月28日 14:00~15:00	・「地域エネルギービジョンたたき台」について ・区民意見反映手続き結果について
第5回	平成25年3月22日 9:30~10:30	・「地域エネルギービジョンたたき台」について

### (2) 設置要綱

#### < 杉並区地域エネルギービジョン検討委員会設置要綱 >

平成24年7月17日

杉並第19966号

#### (目的)

第1条 杉並区におけるエネルギー対策の基本指針となる、杉並区地域エネルギービジョン（以下「エネルギービジョン」という。）を検討するため、杉並区地域エネルギービジョン検討委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

#### (所掌事項)

第2条 委員会の所掌事項は、以下のとおりとする。

- (1) 区におけるエネルギー施策の研究、検討に関すること。
- (2) その他、エネルギービジョンの検討に必要な事項。

#### (組織)

第3条 委員会は、別表第1に掲げる職にある者をもって構成する。

#### (任期)

第4条 委員会の委員の任期は、エネルギービジョンが策定された日までとする。

#### (座長)

第5条 座長は、環境部長とし、委員会の事務を総括する。

- 2 座長に事故があるときは、環境部環境課長がその職務を代理する。

#### (会議)

第6条 座長は、必要に応じて会議を招集する。

2 座長は、必要があると認めるときは、委員会委員以外の職員の出席を求めることができる。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、環境部環境課において処理する。

(委任)

第8条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に必要な事項は、環境部長が定める。

附則

1 この要綱は、平成24年7月17日から施行する。

2 この要綱は、エネルギービジョンの策定をもって廃止する。

### < 別表第1(第3条関係) >

環境部長
政策経営部企画課長
政策経営部財政課長
政策経営部営繕課長
総務部経理課長
総務部危機管理室防災課長
保健福祉部管理課長
都市整備部都市計画課長
都市整備部都市再生担当課長
都市整備部建築課長
環境部環境課長
環境部地域エネルギー対策担当課長
環境部ごみ減量対策課長
教育委員会事務局庶務課長
教育委員会事務局学校整備課長